

山口市子ども・子育てに関する アンケート調査結果報告書

令和6年3月

山 口 市

山口市子ども・子育てに関する アンケート調査結果報告書

目 次

第1部 調査の概要	1
第2部 山口市子ども・子育てに関するアンケート調査の結果	3
第1章 就学前児童の保護者に対する調査	5
1. 家族の状況等について	5
2. 保護者の就労状況について	10
3. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	15
4. 土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の 利用希望について	25
5. 子育て支援事業の利用状況について	27
6. 子どもの病気等の際の対応について	30
7. 不定期の教育・保育事業や一時預かりなどの利用について	33
8. 育児休業制度など職場の両立支援制度について	37
9. 小学校就学後の放課後の過ごし方について	42
10. 子育て全般について	46
第2章 小学生の保護者に対する調査	55
1. 家族の状況等について	55
2. 保護者の就労状況について	60
3. 放課後の過ごし方について	64
4. 子育て支援事業の利用状況について	68
5. 子どもの病気等の際の対応について	70

6. 不定期の教育・保育事業や一時預かりなどの利用について	73
7. 子どもの遊びや地域活動について	77
8. 子育て全般について	81
第3章 小学4年生以上の児童に対する調査	89
1. 小学4年生以上のお子さんへの質問について	91
第3部 山口市子どもの貧困対策推進計画に係るアンケート調査の結果	95
第1章 回答者の基本属性.....	95
1. 子どもとの続柄	95
2. 同居している家族	96
3. 親の年齢	98
4. 単身赴任中の方の有無	98
5. 婚姻の状況	99
6. 家庭での使用言語	100
7. 親の学歴	100
第2章 保護者票の調査結果	102
1. 経済的な状況、暮らしの状況	102
(1)世帯の年間収入.....	102
(2)暮らしの状況.....	105
(3)食料が買えなかつた経験.....	107
(4)衣服が買えなかつた経験	109

(5) 公共料金における未払いの経験	111
2. 保護者の就労の状況	114
(1) 母親・父親の就労状況	114
(2) 働いていない理由	118
3. 保育の状況	122
(1) 子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等	122
(2) 子どもが3～5歳の時に通っていた教育・保育施設等	124
4. 子どもとの関わり方	126
(1) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール ..	126
(2) 本や新聞を読むことについて	128
(3) 絵本の読み聞かせについて	130
(4) 勉強や成績の話について	132
5. 学校との関わり・参加	134
(1) 学校行事への参加	134
(2) P T A活動への参加	136
6. 子どもに対する進学期待・展望	138
(1) 子どもの進学段階に関する希望・展望	138
(2) 進学段階に関する希望・展望についてそう考える理由	138
7. 頼れる人の有無・相手	143
(1) 子育てに関する相談	143
(2) 重要な事柄の相談	148
(3) いざというときのお金の援助	153

8. 保護者の心理的な状態	158
9. 保護者の生活満足度	161
10. 支援制度の利用状況	163
(1) 保護者の支援制度の利用状況	163
(2) 支援制度を利用していない理由	165
第3章 子ども票の調査結果	168
1. 子どもの生活状況	168
(1) ふだんの勉強の仕方	168
(2) 1日あたりの勉強時間	172
(3) クラスの中での成績	176
(4) 授業の理解度	178
(5) 授業が分からなくなった時期	180
2. 進学の希望	183
(1) 進学したいと思う教育段階	183
(2) 進学希望の教育段階についてそう考える理由	185
3. 部活動等への参加	188
(1) 部活動等への参加状況	188
(2) 部活動等に参加していない理由	190
4. 子どもの日常的な生活状況	193
(1) 食事の状況（朝食）	193
(2) 食事の状況（夕食）	195

(3) 食事の状況（夏期冬期休暇期間）	197
(4) 就寝時間.....	199
(5) 相談できると思う相手.....	201
(6) 生活満足度.....	204
(7) 学校生活の満足度.....	206
(8) 家庭生活の満足度.....	208
(9) 家族のことでの困りごとや悩みごと	210
5. 子どもの心理的な状況	212
(1) 情緒の問題.....	212
(2) 仲間関係の問題.....	214
(3) 向社会性.....	216
6. 支援制度の利用状況	218
(1) 子どもの支援制度・居場所の利用状況.....	218
(2) 子どもの支援制度・居場所を利用したことによる変化	227

第 1 部

調 査 の 概 要

1 調査の目的

子育て家庭の実態と子育て支援ニーズ等を把握することによって、今後の子ども・子育て支援施策の充実に活かすとともに、「第三期山口市子ども・子育て支援事業計画」策定に係る基礎資料とするため。

2 調査の対象

「山口市子ども・子育てに関するアンケート」

(1) 就学前児童の保護者

令和5年11月13日現在、山口市在住の就学前児童がいる世帯の中から無作為抽出した2,000人の保護者。

(2) 小学生の保護者

令和5年11月13日現在、山口市在住の小学生児童がいる世帯の中から無作為抽出した2,000人の保護者。

(3) 小学生（4年生以上）の児童

(2) のうち、1,000人の小学4年生以上の児童

「山口市子どもの貧困対策推進計画に係るアンケート」

(1) 小学校5年生の第1組（筆頭組）の児童及びその保護者

令和5年12月4日現在、山口市立小学校に通う児童とその保護者。

(2) 中学校2年生の第1組（筆頭組）の生徒及びその保護者

令和5年12月4日現在、山口市立中学校に通う児童とその保護者。

3 調査の方法

「山口市子ども・子育てに関するアンケート」

郵送による配布、郵送による回収またはWeb上でのインターネット回答。

「山口市子どもの貧困対策推進計画に係るアンケート」

対象とした小・中学校から対象組の児童生徒へ調査票を配布し、児童生徒、保護者が回答した調査票を各学校にて回収。

4 調査の期間

「山口市子ども・子育てに関するアンケート」

令和5年12月1日（金）から令和5年12月15日（金）まで。

ただし、いずれも令和6年1月17日（水）到着分までを集計に含めている。

「山口市子どもの貧困対策推進計画に係るアンケート」

令和5年12月4日（月）から令和5年12月18日（月）まで。

5 回収結果

「山口市子ども・子育てに関するアンケート」

	配布数	有効回収数			有効回収率
		紙	W e b	合計	
就学前児童の保護者	2,000 件	418 件	611 件	1,029 件	51.5%
小学生の保護者	2,000 件	419 件	599 件	1,018 件	50.9%
小学生(4年生以上)の児童	1,000 件	218 件	271 件	489 件	48.9%

「山口市子どもの貧困対策推進計画に係るアンケート」

	配布数	有効回収数	有効回収率
小学校5年生の第1組（筆頭組）の児童及びその保護者	621 件	587 件	94.5%
中学校2年生の第1組（筆頭組）の生徒及びその保護者	453 件	401 件	88.5%

6 報告書の見方

「山口市子ども・子育てに関するアンケート」

- (1) 回答割合は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 複数回答を可とした質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
- (3) 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、グラフには「0.0」と表記している。
- (4) グラフやコメントにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。
- (5) 区域については、次のとおりとする。

阿東区域：阿東

徳地区域：徳地

北東部区域：仁保、小鯖、大内、宮野

中央部区域：大殿、白石、湯田、吉敷、平川、大歳

小郡区域：小郡

川東区域：陶、鎧銭司、名田島、秋穂二島、秋穂

川西区域：嘉川、佐山、阿知須

「山口市子どもの貧困対策推進計画に係るアンケート」

(1) 回答割合は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。

(2) 複数回答を可とした質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。

(3) 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、グラフには「0.0」と表記している。

(4) グラフやコメントにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

(5) 世帯については保護者への質問5「婚姻状況」の回答を元に、

- ・ふたり親世帯・・・「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」
- ・ひとり親世帯・・・「離婚」、「死別」、「未婚」
- ・その他・・・「わからない」、「いない」、「不明・無回答」

と区分している。

また、その他の回答者数については、グラフの簡略化のため回答者数（n）から除いている。

(6) 「等価世帯収入」のクロス集計を行う際は、内閣府の「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」の下記の内容に従い、2つに分類している。

ただし、同居家族の人数、または世帯全体の年間収入の質問が無回答の場合、所得層の分類ができないため、等価世帯収入別の回答者数（n）から、除いている。

- ・年間収入に関する回答の各選択の中間値をその世帯の収入の値とする。

（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1000万円以上」は1050万円とする。）

- ・上記の値を、保護者票で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- ・上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中間値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで、「中央値の2分の1未満」「中央値の2分の1以上」の2つに分類している。

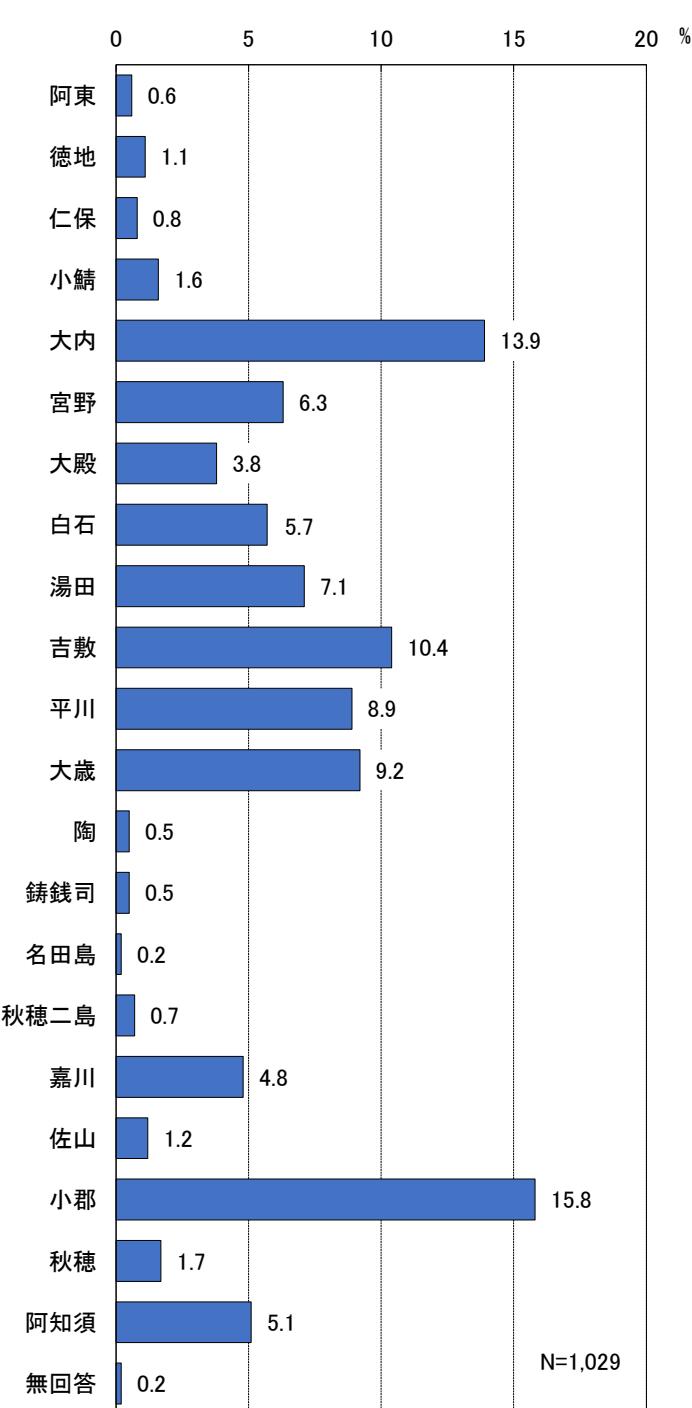
第 2 部

山口市子ども・子育てに関する
アンケート調査の結果

第1章 就学前児童の保護者に対する調査

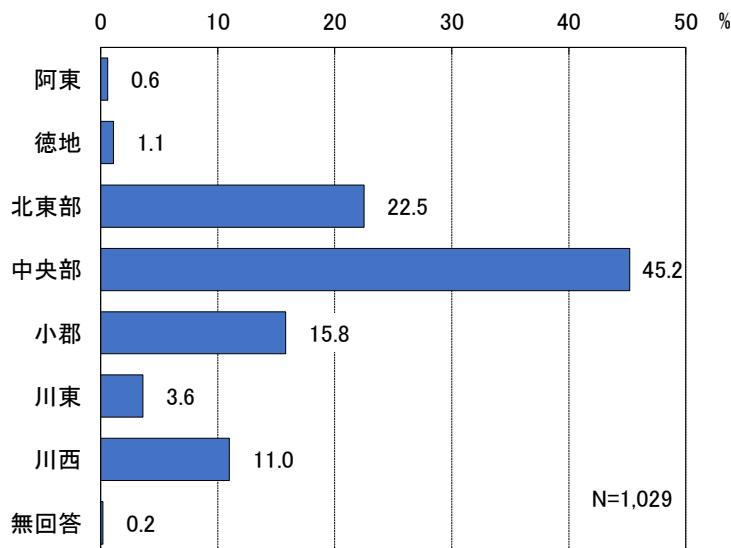
1. 家族の状況等について

問1 あなたのお住まいの地域は次のうちどちらですか。（1つだけ○）



- 居住地域については、「小郡」と回答した人の割合が15.8%と最も高く、ほぼ子どもの人口分布を反映した結果となっている。

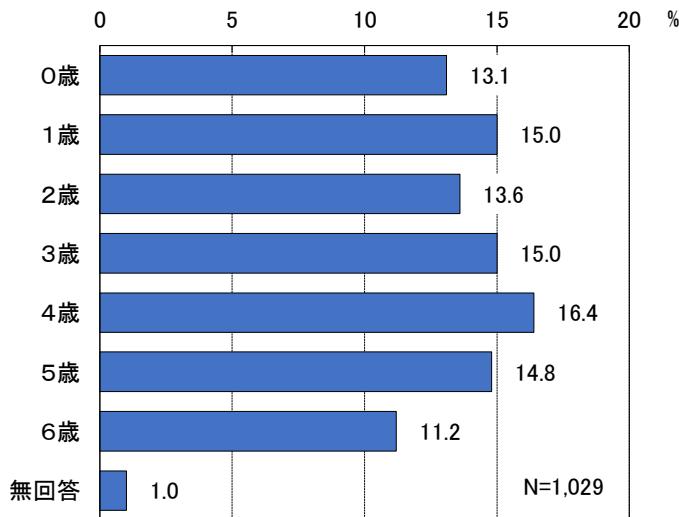
【教育・保育の提供区域別回答割合】



- 区域別の回答割合については、「中央部」が45.2%と最も多くなっている。

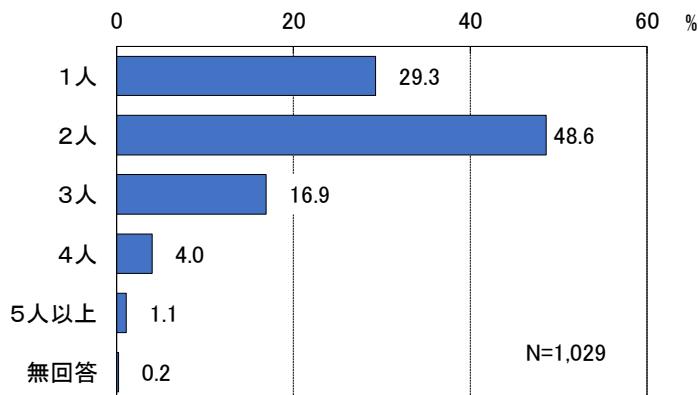
問2 宛名のお子さんの生年月をご記入ください。

【調査基準日（令和5年11月13日）現在の年齢】



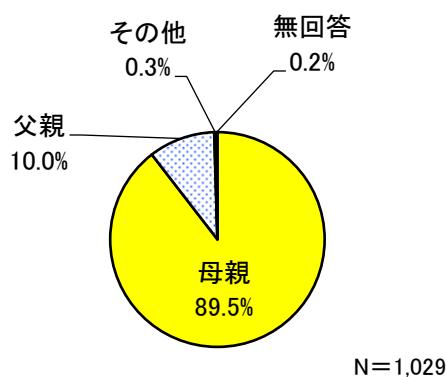
- 子どもの生年月から算出した調査基準日（令和5年11月13日）現在の年齢の分布は上のとおりで、全年齢ほぼまんべんなく回答が集まっている。

問3 宛名のお子さんは何人きょうだいですか。宛名のお子さんを含めた人数を（ ）内に数字でご記入ください。



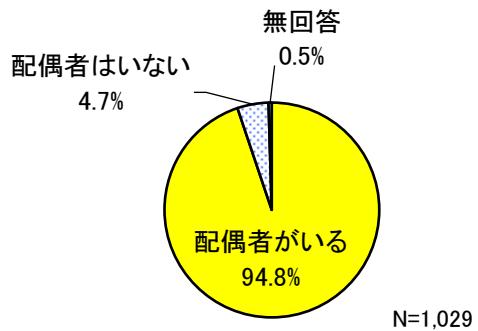
- 対象児童を含むきょうだいの人数では、「2人」という回答割合が48.6%と最も高く、次いで、「1人」が29.3%、「3人」が16.9%となっている。

問4 このアンケートにご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんから見た関係でお答えください。（1つだけ○）



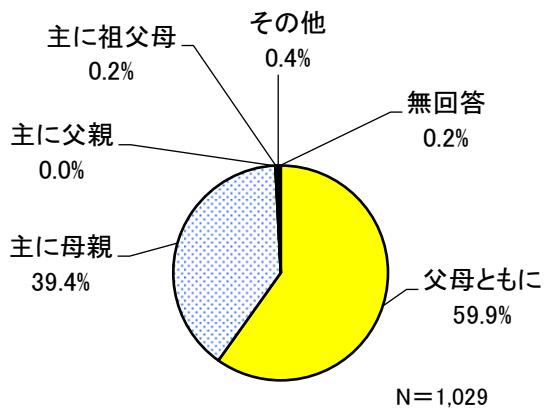
- 回答者は「母親」が89.5%と圧倒的に多く、「父親」は10.0%となっている。

問5 このアンケートにご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。



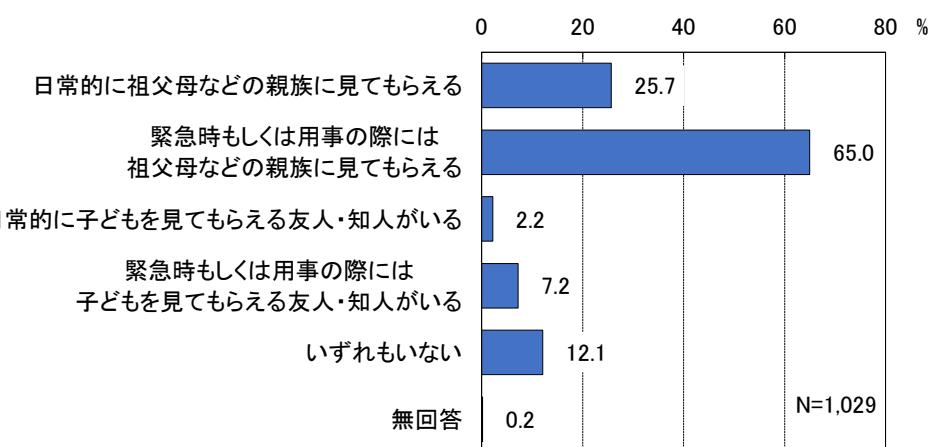
- 回答者の配偶関係を見ると、「配偶者はいない」と回答した人は4.7%となっている。

問6 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。宛名のお子さんから見た関係でお答えください。（1つだけ○）



- 子どもの子育てについては、「父母ともに」行っていると回答した割合が59.9%、「主に母親」が行っていると回答した割合が39.4%となっている。

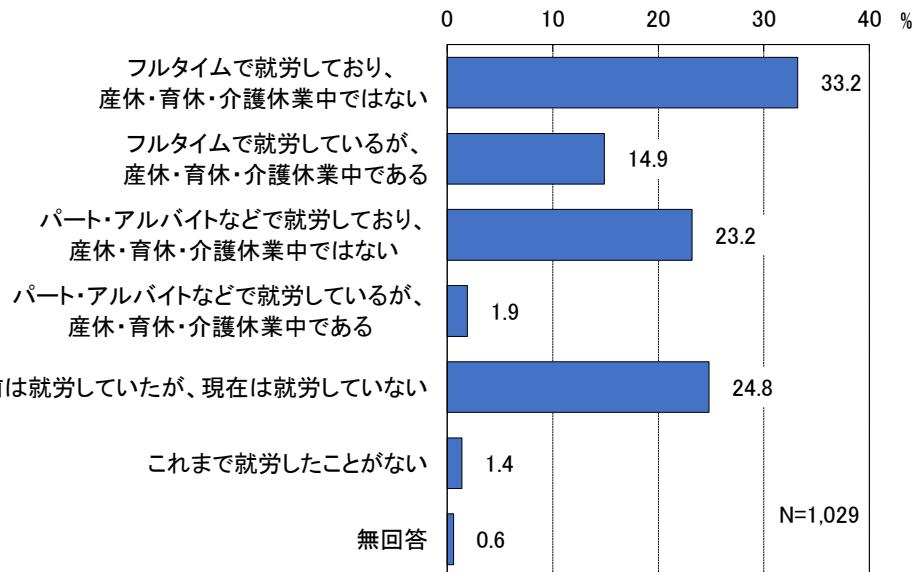
問7 日頃、宛名のお子さんを見てもらえる親族・知人はいますか。
(あてはまるものすべてに○)



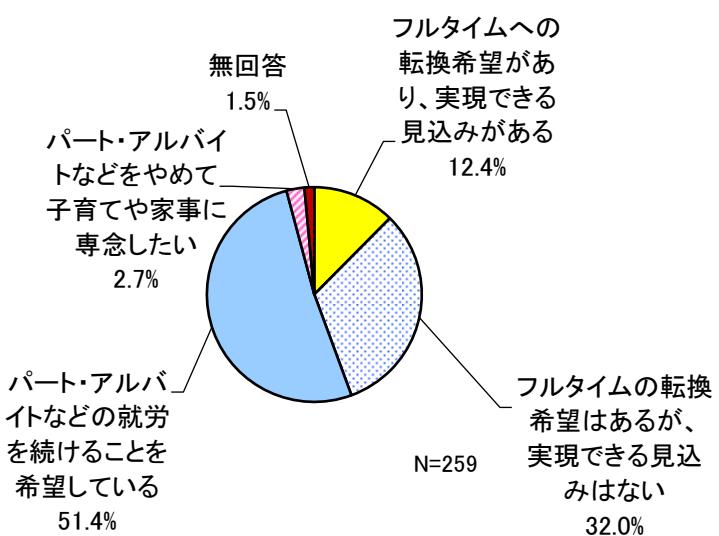
- 緊急時や用事の際にも子どもを預かってもらえる人がいない人の割合は12.1%となっている。

2. 保護者の就労状況について

問8 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)をうかがいます。
母親

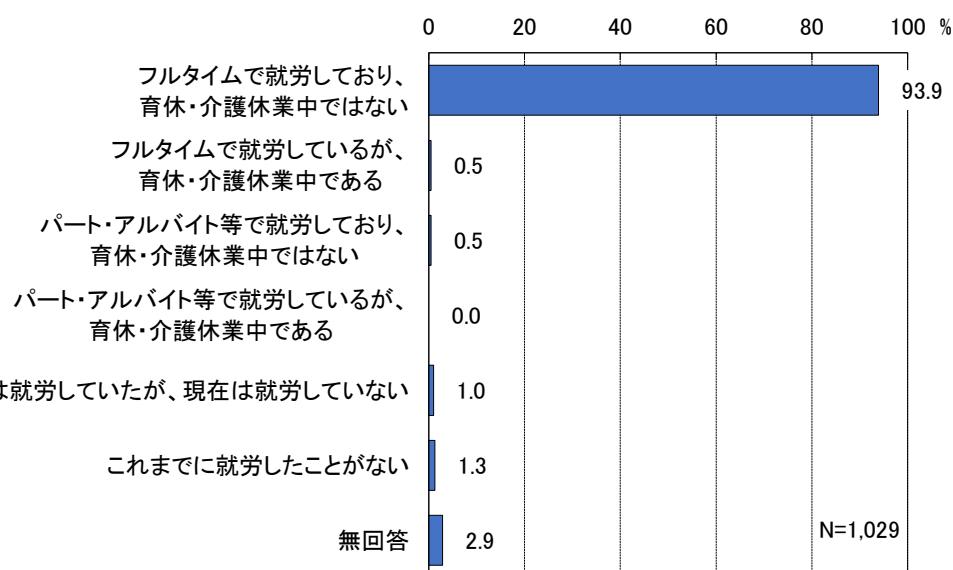


【パート・アルバイトなどの方のフルタイムへの転換希望】

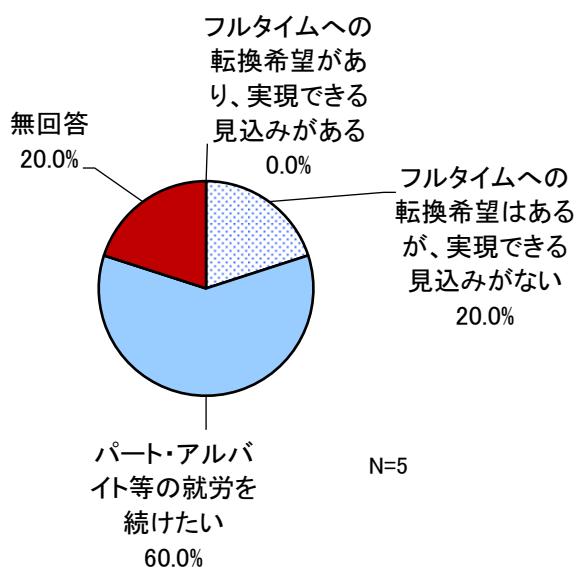


- 母親の就労状況については、フルタイムで就労していると回答した人が、産休・育休・介護休業中の人も含めて48.1%、同じくパート・アルバイトなどが25.1%となっている。
- パートタイム、アルバイトなどで就労していると回答した人のうち、フルタイムへの転換希望がある人は44.4%となっている。

父親



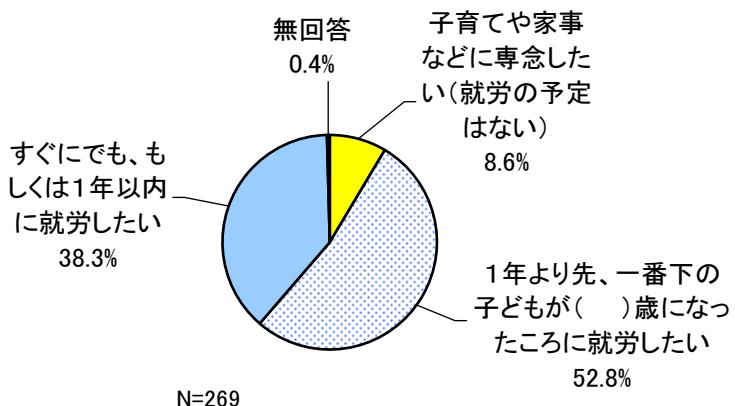
【パート・アルバイトなどの方のフルタイムへの転換希望】



- 父親の就労状況については、フルタイムで就労していると回答した人が、育休・介護休業中の人も含めて94.4%となっており、無回答を除く実際の回答者の大半を占めている。
- パート・アルバイトなどで就労中の父親5人のうちフルタイムへの転換希望がある人は1人(20.0%)となっている。

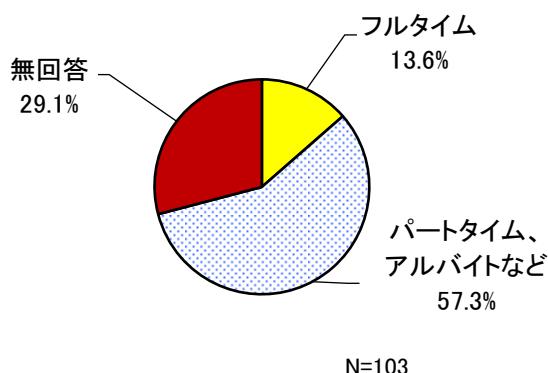
母親

【非就労者の就労意向】



※()内は任意の数字

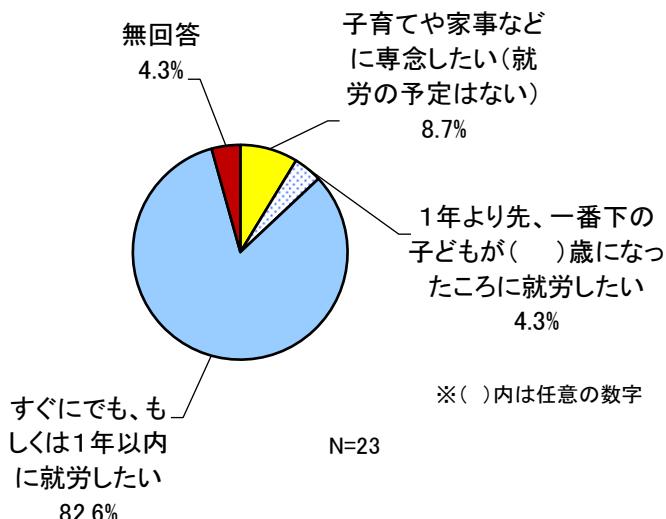
【希望する就労形態】



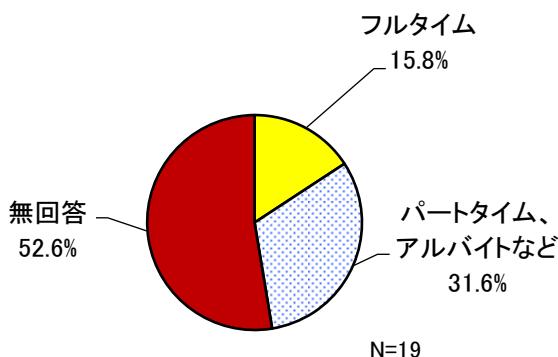
- 現在就労していない母親の就労希望を尋ねたところ、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人が 38.3%、一番下の子どもがある程度大きくなったら就労したいと回答した人は 52.8%となっており、就労していない母親の 91.1%に就労希望があることがわかる。
- 「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人に、希望の就労形態を尋ねたところ、「パートタイム、アルバイトなど」が 57.3%と高い割合を占めており、「フルタイム」を希望する人の割合は 13.6%となっている。

父親

【非就労者の就労意向】

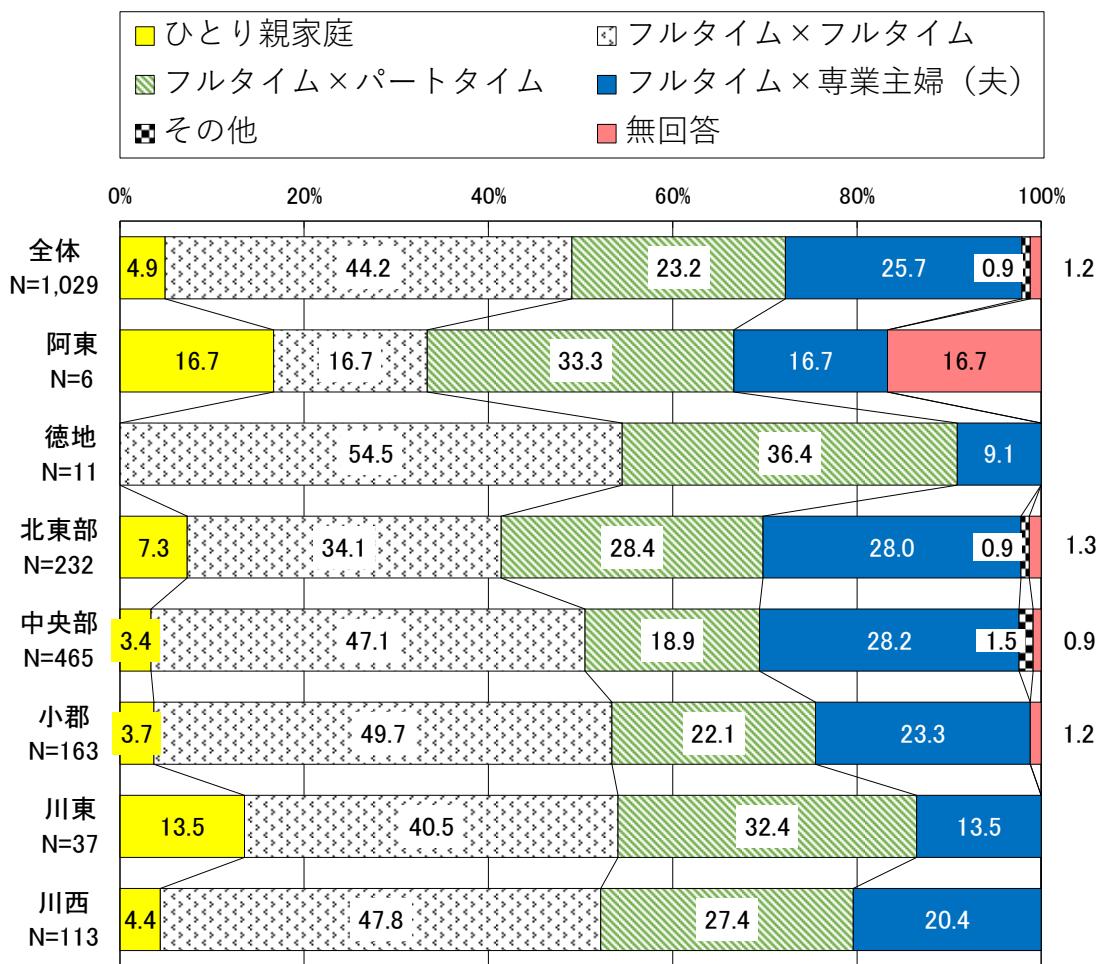


【希望する就労形態】



- 現在就労していない父親の就労希望を尋ねたところ、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人が 82.6%、一番下の子どもがある程度大きくなったら就労したいと回答した人は 4.3%となっており、就労していない父親の 86.9%に就労希望があることがわかる。
- 「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した 19 人に、希望の就労形態を尋ねたところ、「フルタイム」が 3 人、「パートタイム、アルバイトなど」が 6 人となっている。

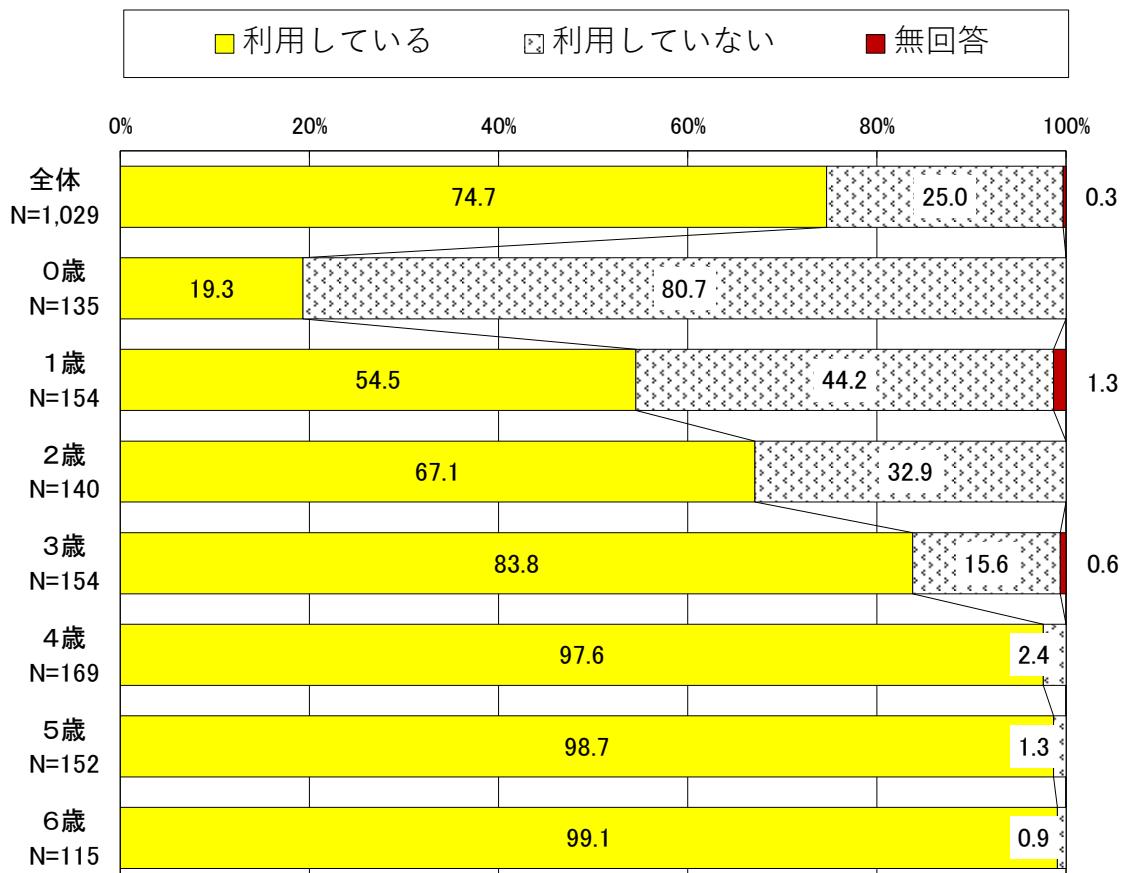
(3) 現在の家庭類型



- 両親の就労状況から、調査対象者の家庭類型（現状）を分類すると、「フルタイム×フルタイム」が44.2%と最も多く、以下、「フルタイム×専業主婦（夫）」が25.7%、「フルタイム×パートタイム」が23.2%と続いている。
- 区域別に現在の家庭類型を見ると、「北東部」と「中央部」は他の区域に比べ「フルタイム×専業主婦（夫）」の割合がやや高くなっている。

3. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

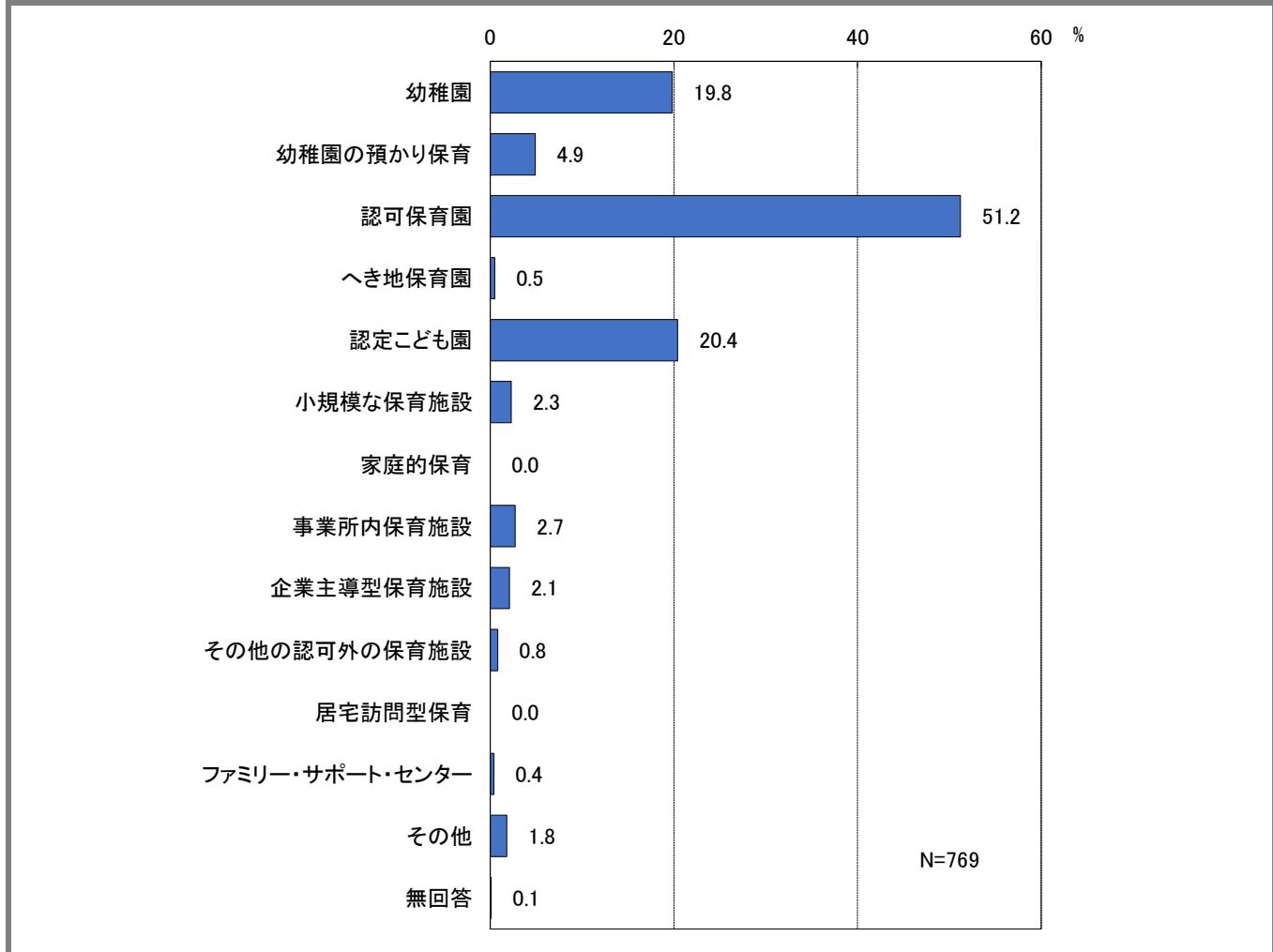
問9 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育園などを定期的に利用されていますか。



- 現在、幼稚園や保育園などを定期的に「利用している」と回答した人の割合は 74.7%で、子どもの年齢が高くなるにつれて、「利用している」という回答割合も高くなっている。

問9-1～問9-3は、問9で「1.利用している」に○をつけた方にうかがいます。

問9-1 宛名のお子さんは、平日どのような施設等を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している施設等をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

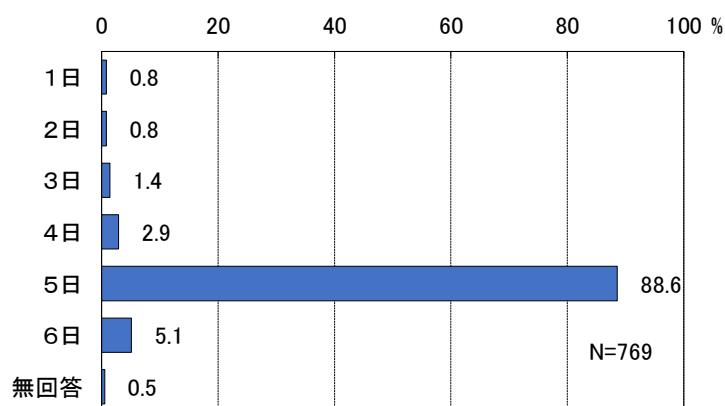


- 「定期的な教育・保育事業」利用者のうち 51.2%は「認可保育園」、20.4%は「認定こども園」、19.8%は「幼稚園」を利用していると回答している。

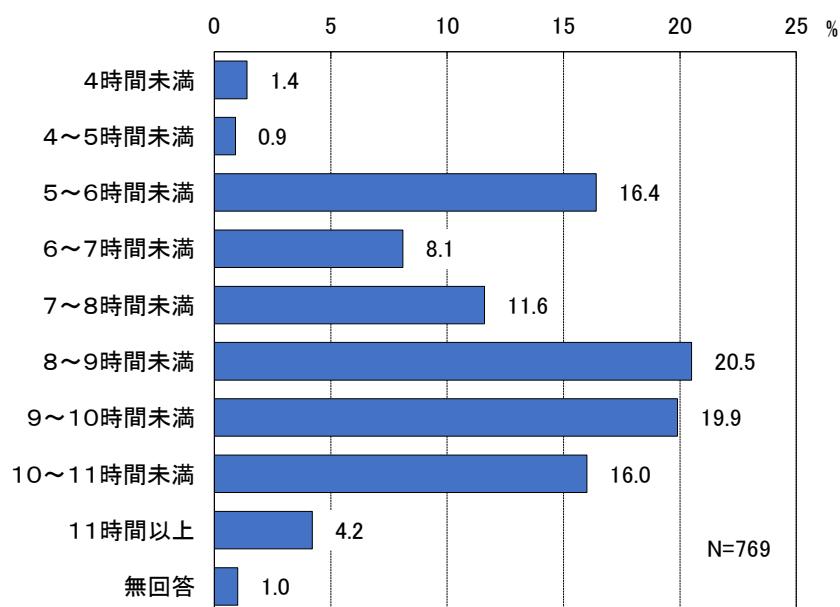
問9-2 平日に定期的に利用している施設等について、どのくらい利用していますか。
また、希望としてはどのくらい利用したいですか。

(1) 現在

【1週当たりの日数】



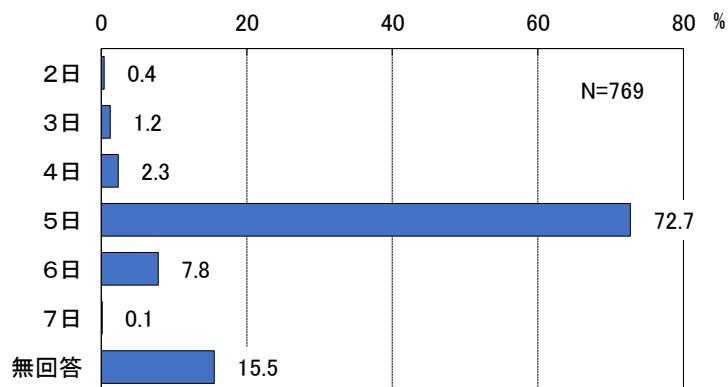
【1日当たりの時間数】



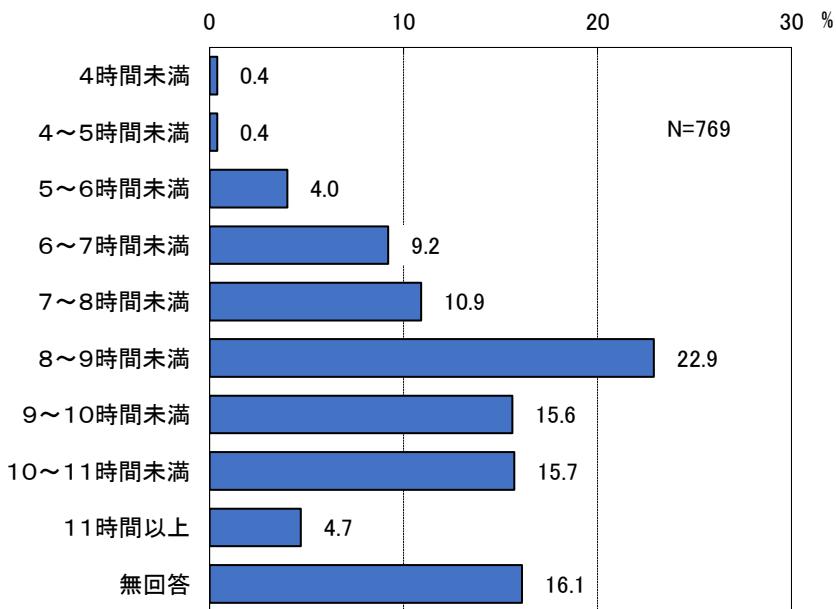
- 教育・保育事業の利用状況については、1週当たり5日、1日当たり9時間程度の利用が多くなっている。

(2) 希望

【1週当たりの日数】

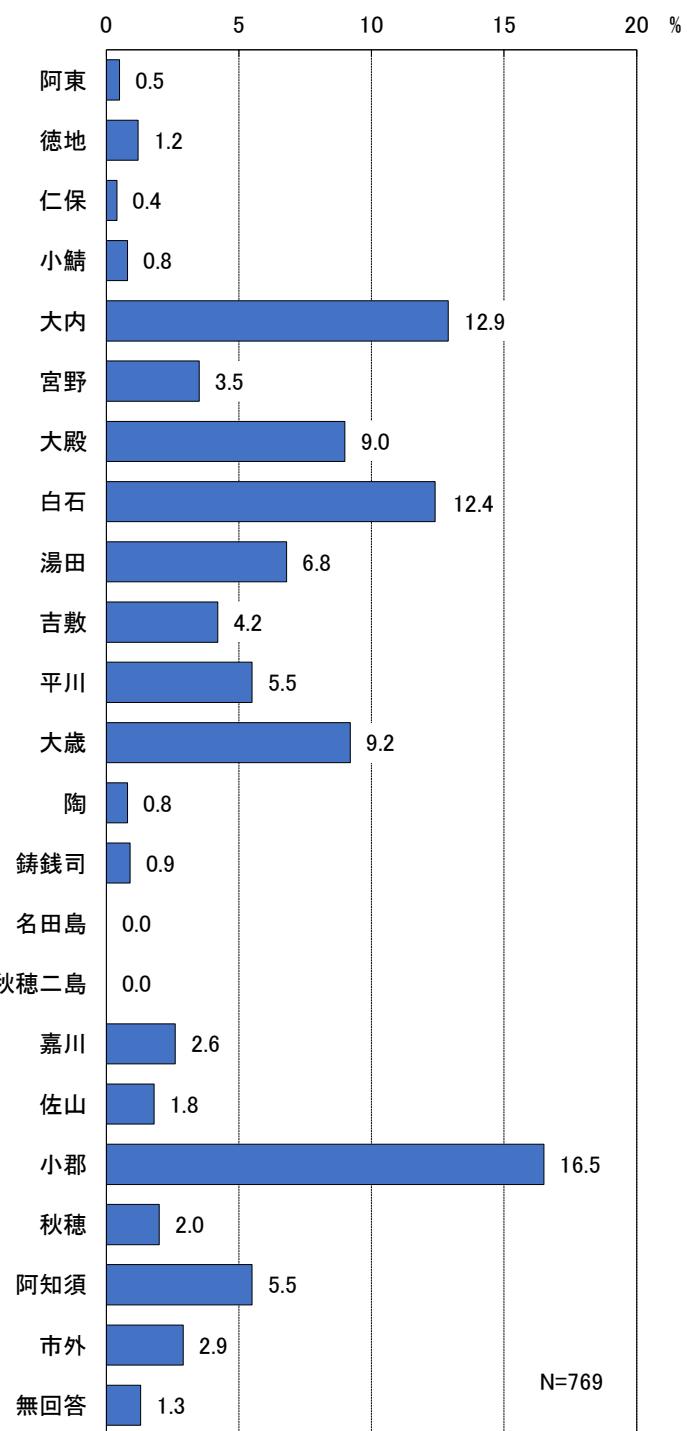


【1日当たりの時間数】



- 教育・保育事業の利用希望については無回答が多くなっているが、やはり現状と同様、1週当たり5日、1日当たり9時間程度が最も多くなっている。

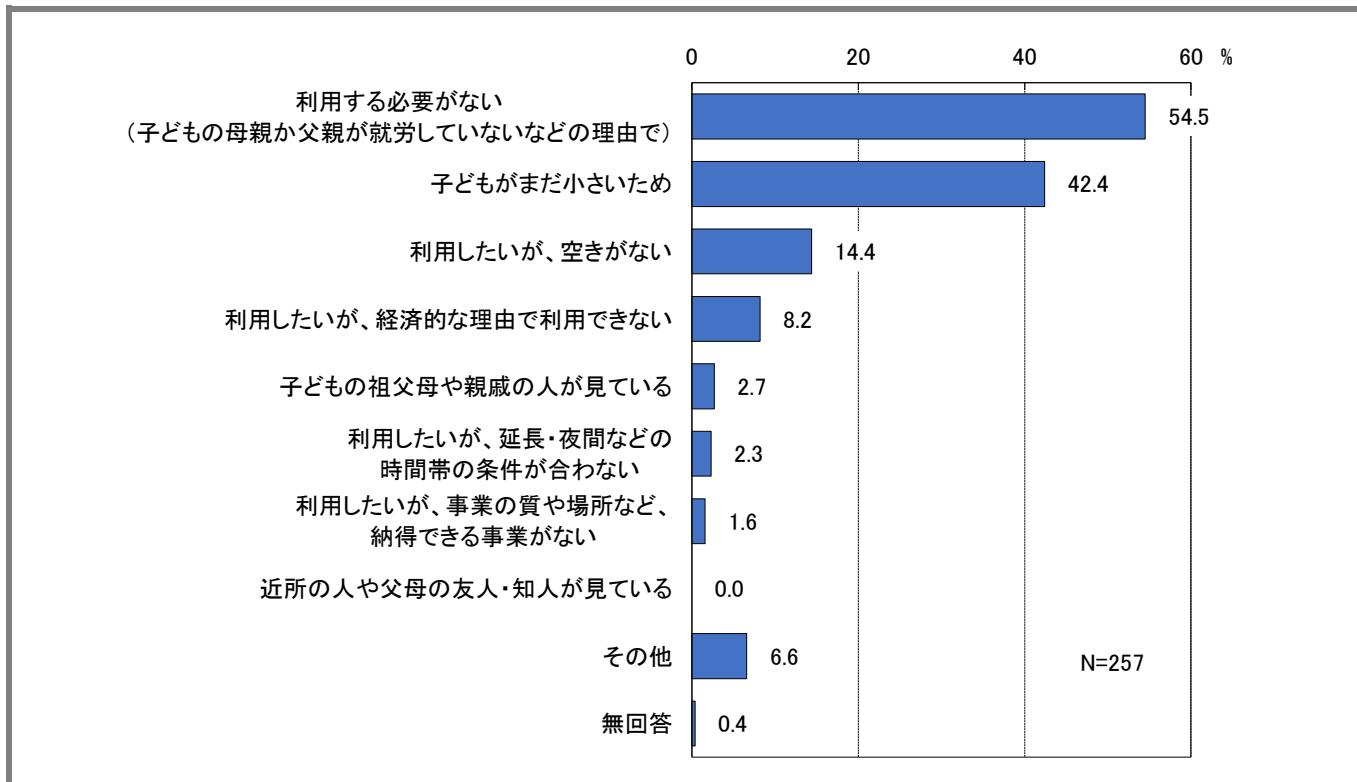
問9-3 現在、利用している施設等の地域はどちらですか。



- 現在、利用している施設等の地域については上のとおりで、「市外」と回答した人の割合は2.9%となっている。

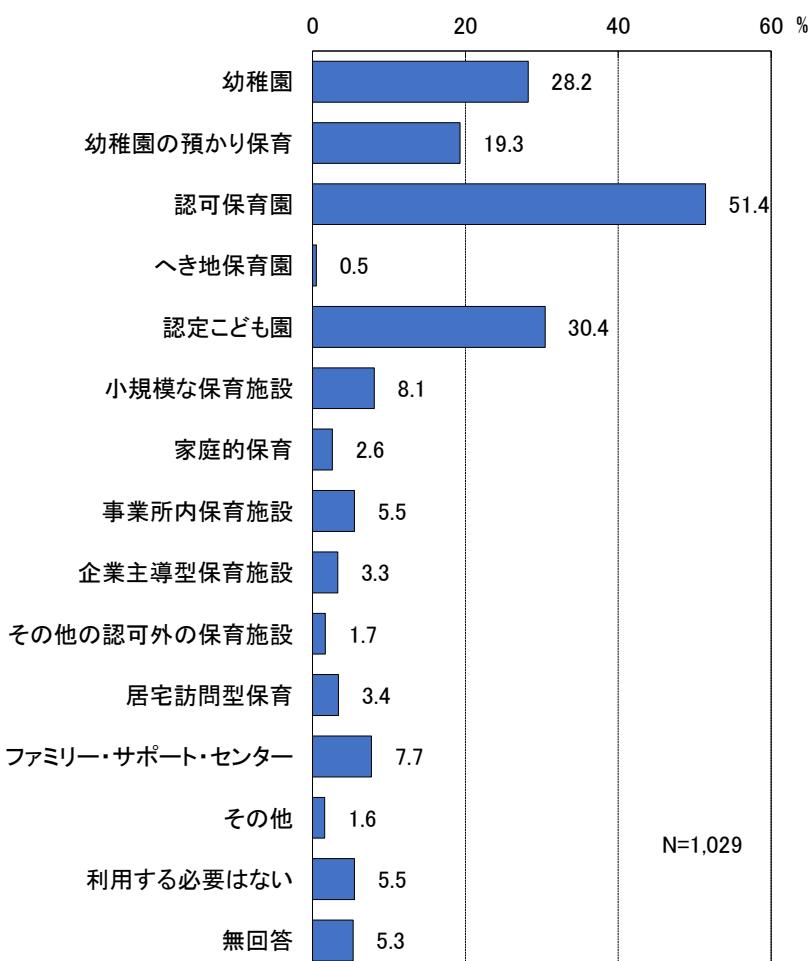
問9-4 問9で「2.利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

利用していない理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



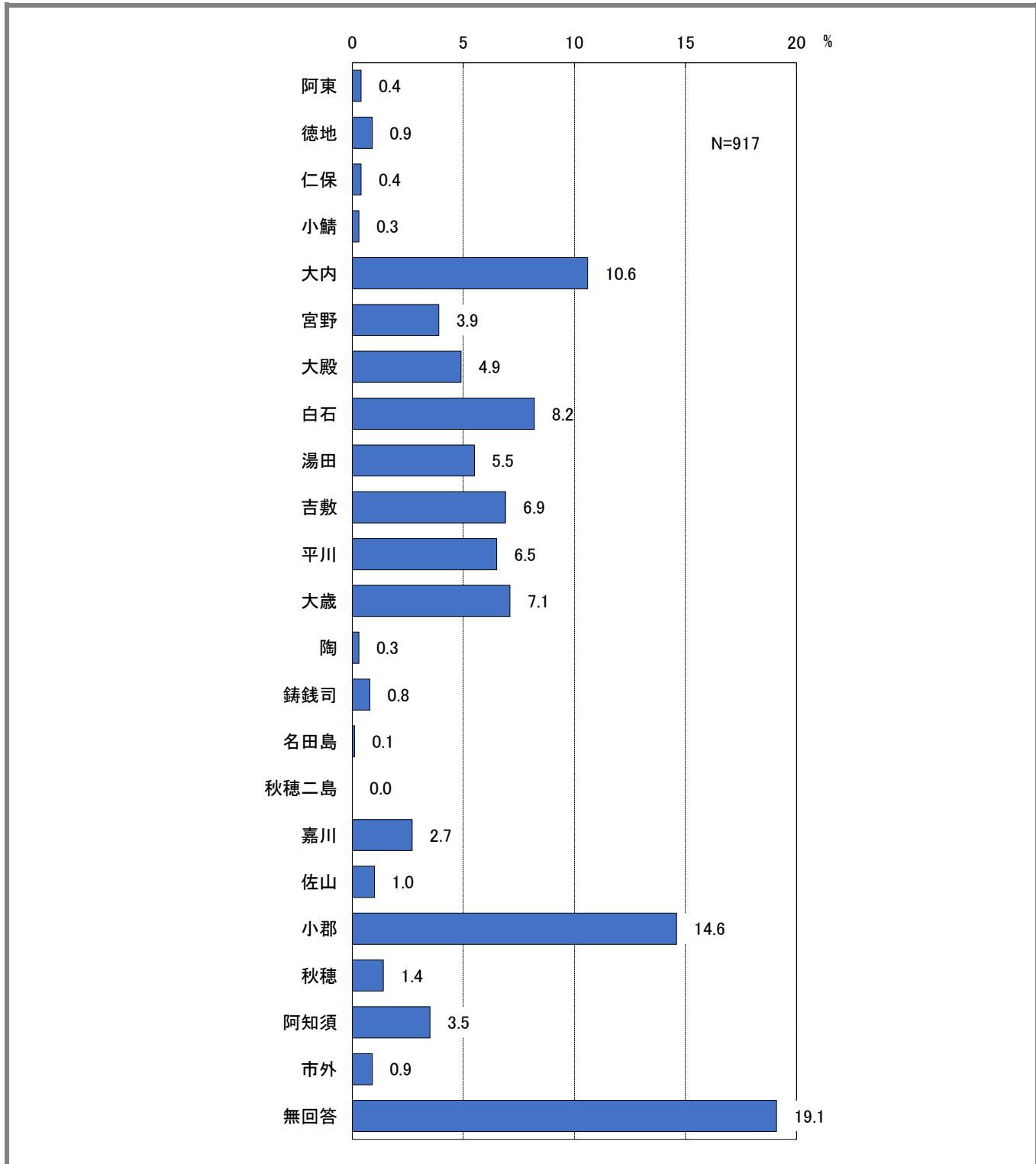
- 「定期的な教育・保育事業」を利用していない方に、その理由を尋ねたところ、「利用する必要がない」(54.5%) や「子どもがまだ小さいため」(42.4%) が上位を占めているが、「利用したいが、空きがない」という回答も 14.4%あり、潜在的な待機児童の存在を裏付ける結果となっている。
- 「その他」の内容については、「育休中だから」という回答が多くなっている。

問10 すべての方にうかがいます。現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の日中に「定期的に」利用したいと考える施設等をお答えください。（あてはまるものすべてに○）



- 現在の利用状況に関わらず、平日の日中の教育・保育事業として「定期的に」利用したいと考える事業を尋ねたところ、「認可保育園」が51.4%と最も多くなっており、「認定こども園」が30.4%、「幼稚園」が28.2%、「幼稚園の預かり保育」が19.3%と続いている。
- 「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」、「認定こども園」の利用意向は、現在の利用状況（問9-1）に比べかなり高くなっているが、これには0～2歳児の将来の利用意向が含まれていることも影響していると思われる。

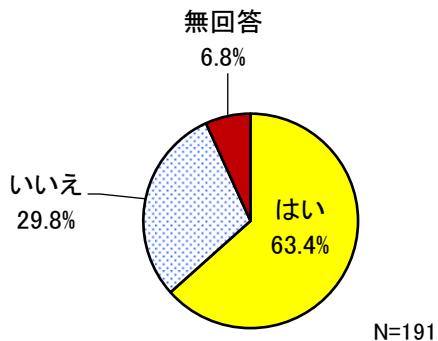
問10-1 施設等を利用したい地域はどちらですか。（1つだけ○）



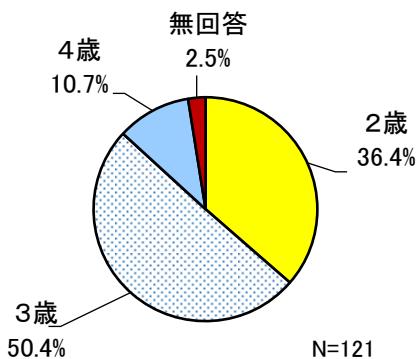
- 施設等を利用したい場所については上のとおりで、「市外」と回答した人の割合は 0.9%となっている。

問10-2 問10で「1. 幼稚園」または「2. 幼稚園の預かり保育」に○をつけ、かつ3～12にも○をつけた方にうかがいます。

特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。いずれか1つの番号に○をつけ、「1. はい」の場合、（ ）内の記号にも○をつけてください。

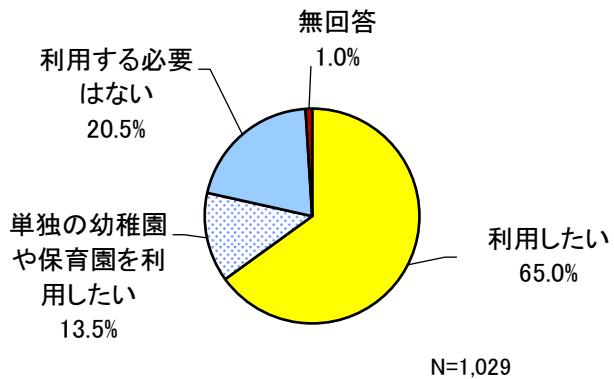


【入園希望年齢】



- 「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」と他の施設等を同時に選択した人のうち、特に幼稚園の利用を強く希望する人の割合は 63.4% となっており、入園希望年齢は「3歳」が 50.4% と最も多くなっている。

問 11 すべての方にうかがいます。近隣の幼稚園や保育園が認定こども園になった場合、その施設を利用したいですか。（1つだけ○）

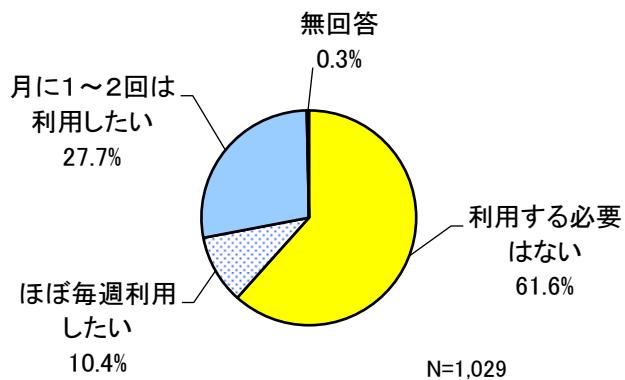


- 近隣の幼稚園や保育園が認定こども園になった場合、その施設を「利用したい」と回答した人の割合は 65.0% となっている。

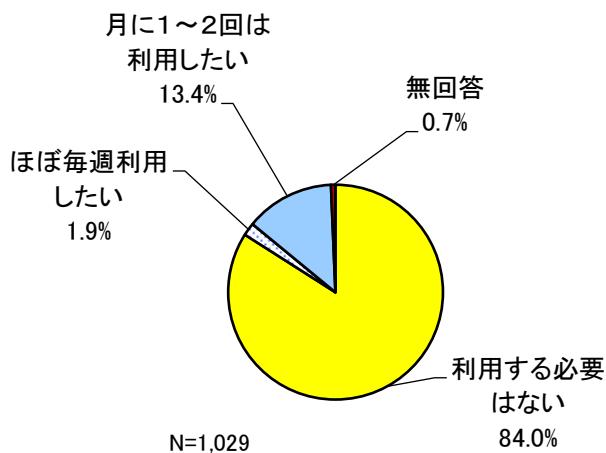
4. 土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望について

問12 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。

【土曜日】

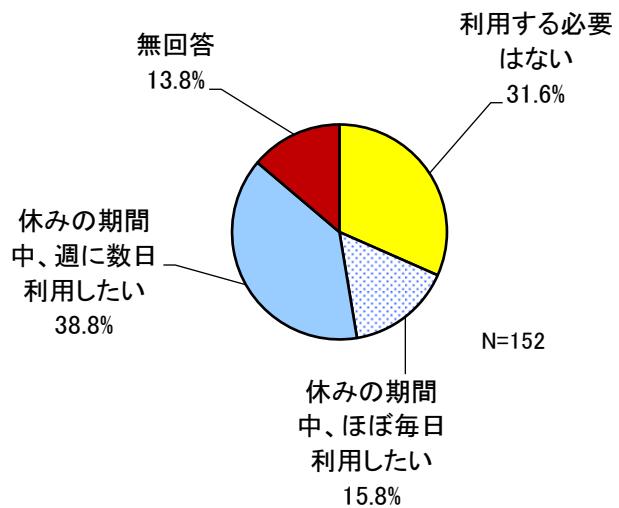


【日曜日・祝日】



- 土曜日の定期的な教育・保育事業については、10.4%の人が「ほぼ毎週利用したい」と回答しており、「月に1～2回は利用したい」(27.7%)と回答した人を合わせると、38.1%の人が利用したいと考えていることがわかる。
- 日曜日・祝日については、「ほぼ毎週利用したい」と回答した人は1.9%で、「月に1～2回は利用したい」と回答した人も13.4%となっており、土曜日に比べ利用希望は少なくなっている。

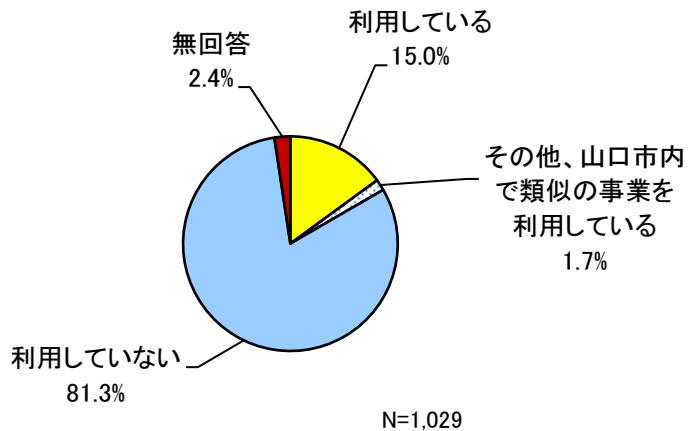
問13 「幼稚園」を利用されている方にうかがいます。宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用を希望しますか。



- 幼稚園利用者に長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望を尋ねたところ、15.8%の人が「ほぼ毎日利用したい」と回答しており、「週に数日利用したい」(38.8%)と回答した人を合わせると、54.6%の人が利用したいと考えていることがわかる。

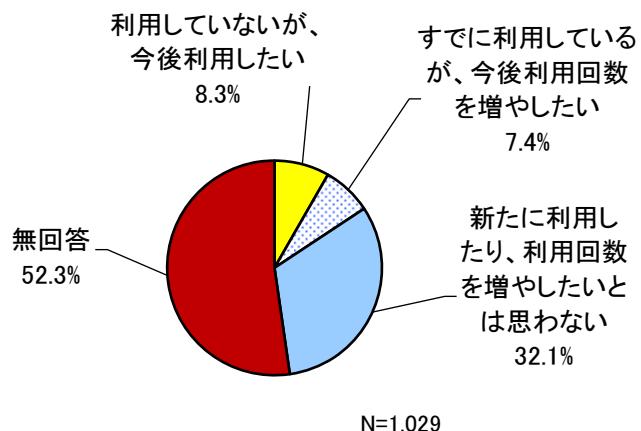
5. 子育て支援事業の利用状況について

問14 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業などを利用していますか。あてはまる番号に○をつけてください。



- 現在、地域子育て支援拠点事業を利用していると回答した人の割合は15.0%となっている。

問15 問14のような施設について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。

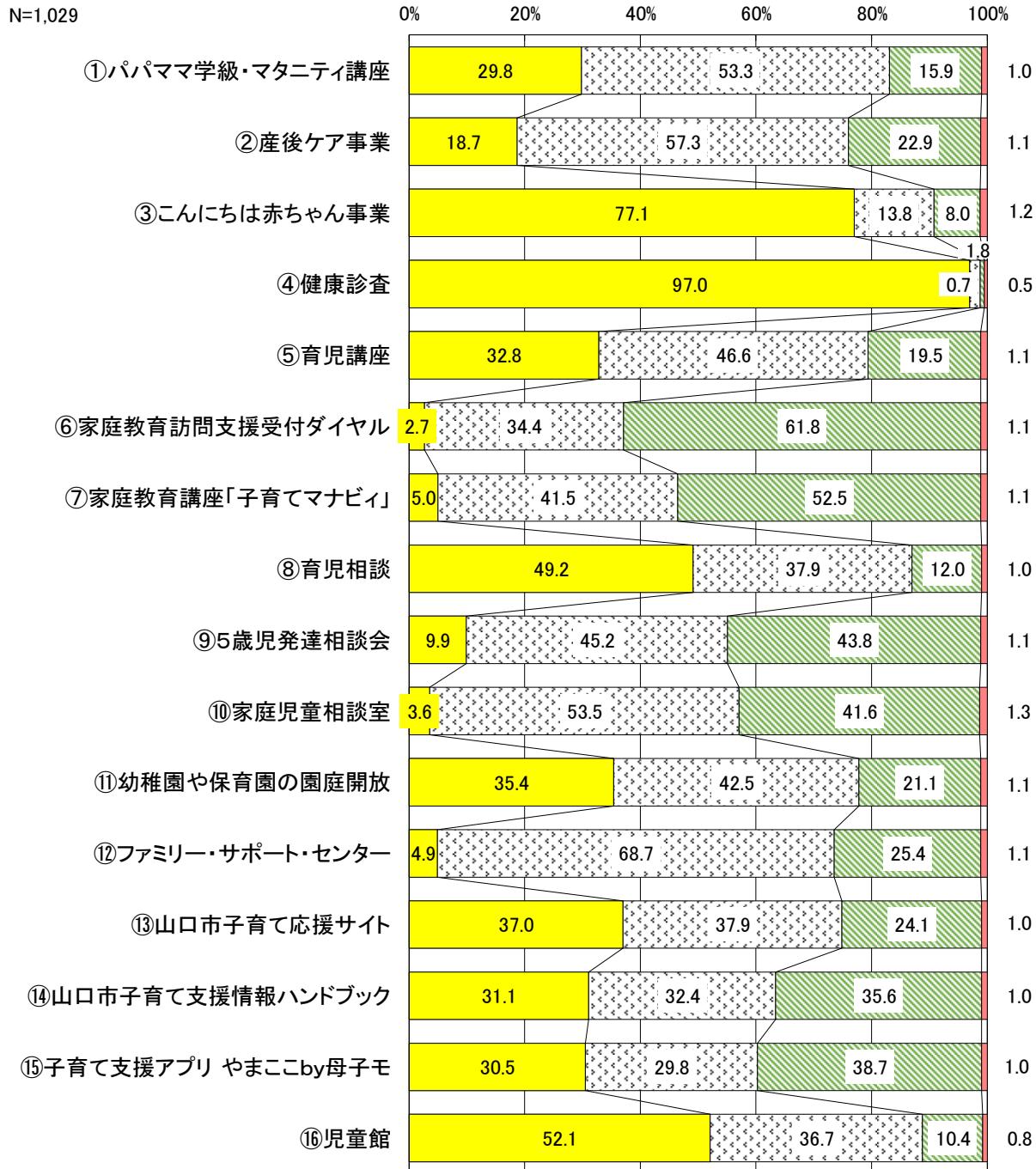


- 現在、地域子育て支援拠点事業を「利用していないが、今後利用したい」と回答した人の割合は8.3%、「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」と回答した人の割合は7.4%となっている。

問16 下記の事業をこれまでに利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いませんか。①～⑯の事業について、「認知度・利用状況」、「今後の利用意向」ごとにあてはまる番号に○をつけてください。

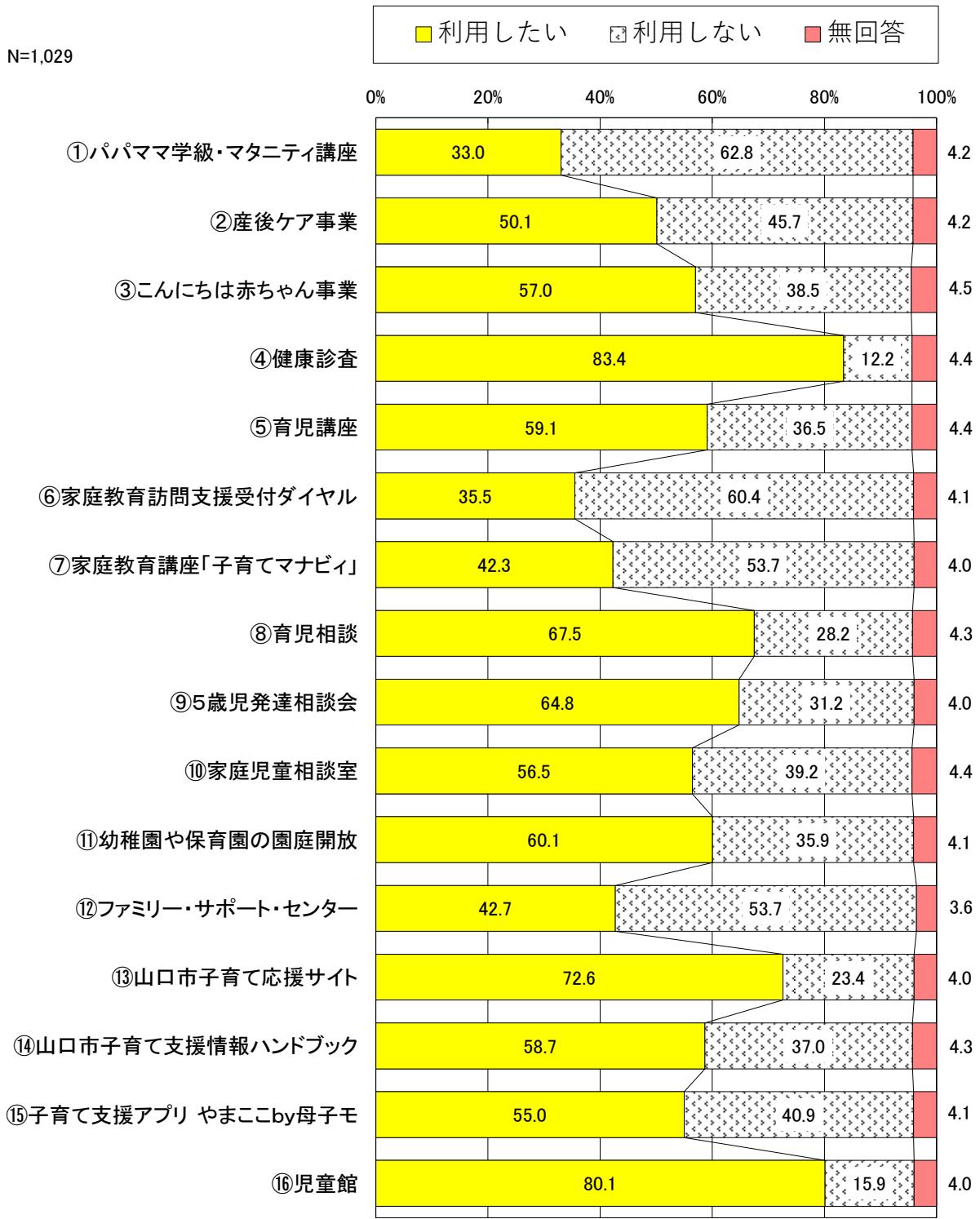
【認知度・利用状況】

■ 利用したことがある □ 知っているが、利用したことがない ■ 知らない ▨ 無回答



- 16の事業のうち、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も高かったのは、「健康診査」(97.0%) で、「こんにちは赤ちゃん事業」(77.1%) がそれに続いている。
- 認知度が最も低かったのは「家庭教育訪問支援受付ダイヤル」で、61.8%の人が「知らない」と回答している。

【今後の利用意向】

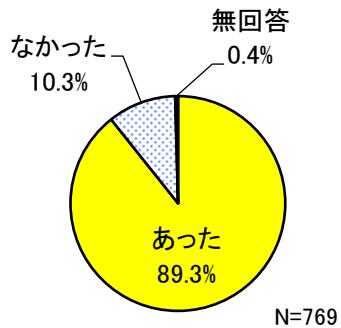


- 今後の利用意向が最も高かったのは「健康診査」(83.4%)で、以下、「児童館」(80.1%)、「山口市子育て応援サイト」(72.6%)、「育児相談」(67.5%)、「5歳児発達相談会」(64.8%)と続いている。

6. 子どもの病気等の際の対応について

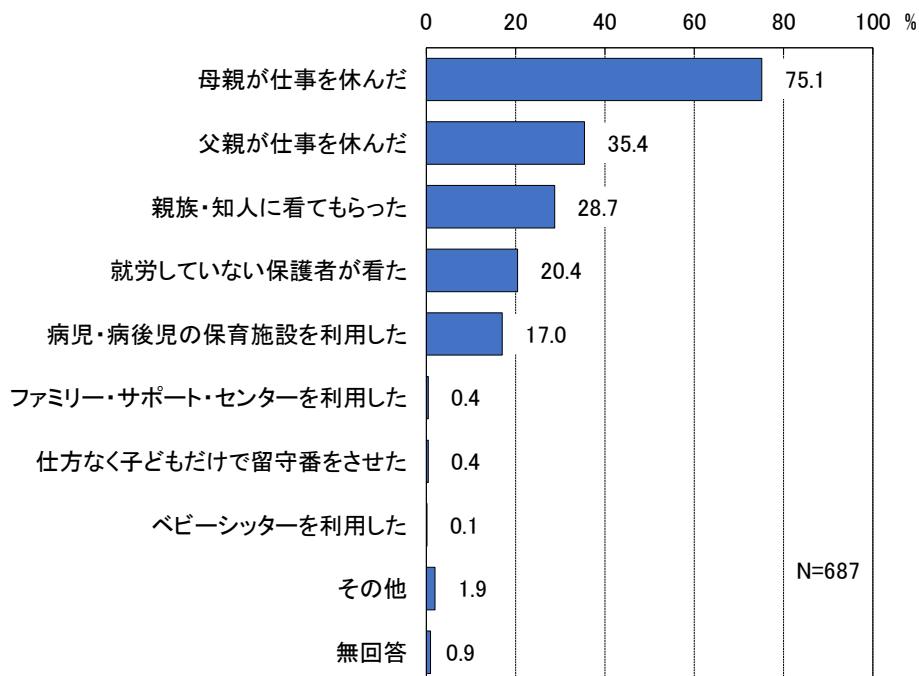
問17 問9で幼稚園や保育園などを定期的に利用している「1」に○をつけた方にうかがいます。

この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで幼稚園・保育園などを利用できなかつたことはありますか。



- 平日の定期的な教育・保育事業を利用している保護者のうち、この1年間に、対象の子どもが病気やケガで幼稚園・保育所などを利用できなかつたことが「あった」と回答した人は 89.3% となっている。

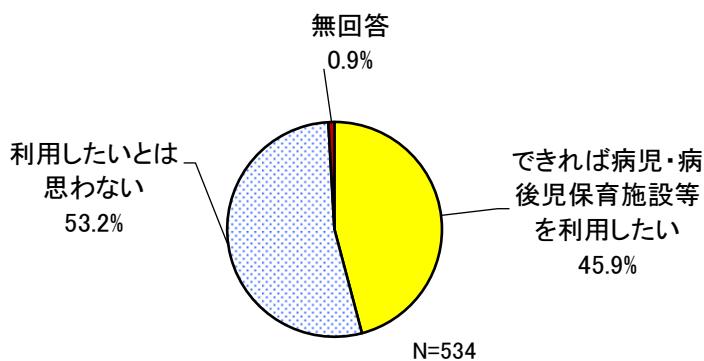
問17-1 宛名のお子さんが病気やケガで幼稚園・保育園などを利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。



- 子どもが病気やケガで幼稚園・保育所を利用できなかった場合の対処方法をたずねたところ、「母親が仕事を休んだ」という回答が 75.1% と最も多く、「父親が仕事を休んだ」が 35.4% で、それに続いている。

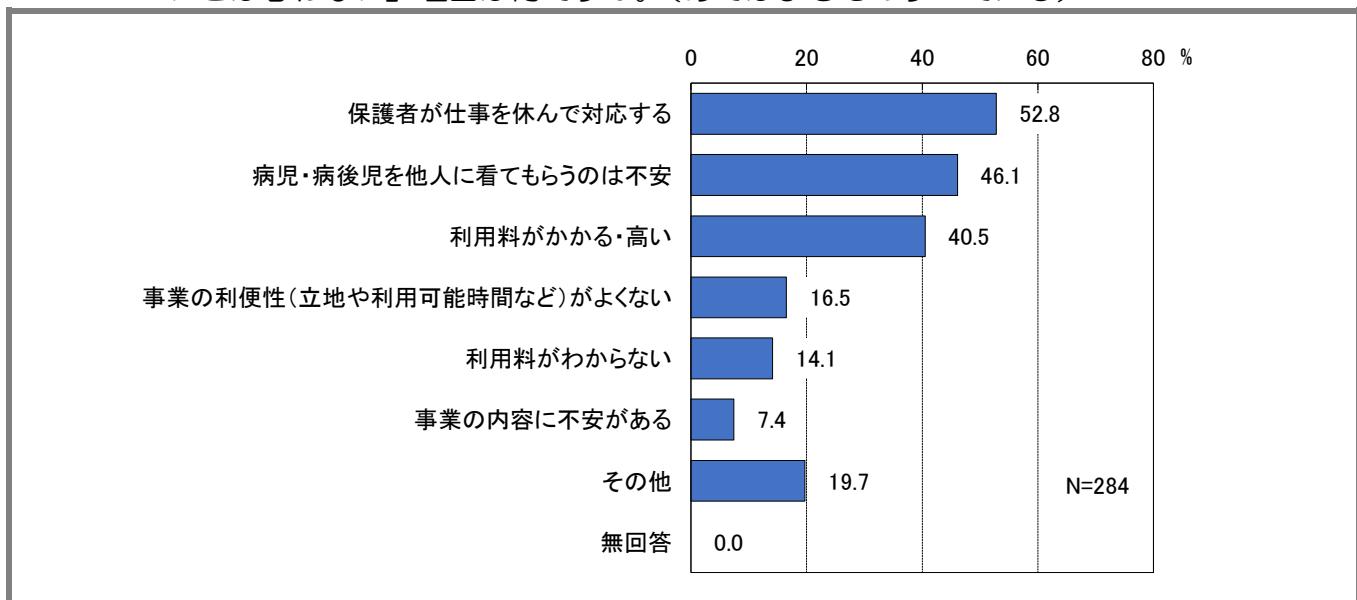
問17-2 問17-1で「1. 父親が休んだ」「2. 母親が休んだ」のいずれかに回答した方にうかがいます。

その際、「できれば病児・病後児のための保育施設などを利用したい」と思われましたか。あてはまる番号・記号それぞれ1つに○をつけてください。



- 両親のいずれかが仕事を休んだと回答した人のうち、「できれば病児・病後児保育施設などを利用したい」と思った人の割合は 45.9% となっている。

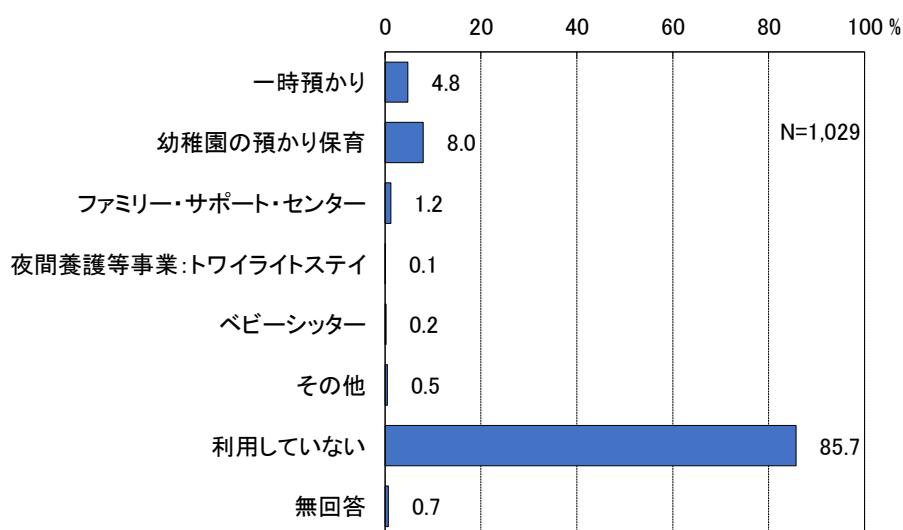
問17-3 問17-2で「利用したいとは思わない」に回答した方にうかがいます。「利用したいとは思わない」理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



- 病児・病後児のための保育施設などを「利用したいとは思わない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「保護者が仕事を休んで対応する」という回答が 52.8%と最も多く、以下、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 46.1%、「利用料がかかる・高い」が 40.5%と続いている。
- 「その他」の内容としては、「子どもがかわいそうだから」「そばにいてあげたいから」「他の病気の感染が心配だから」が多くあがっている。

7. 不定期の教育・保育事業や一時預かりなどの利用について

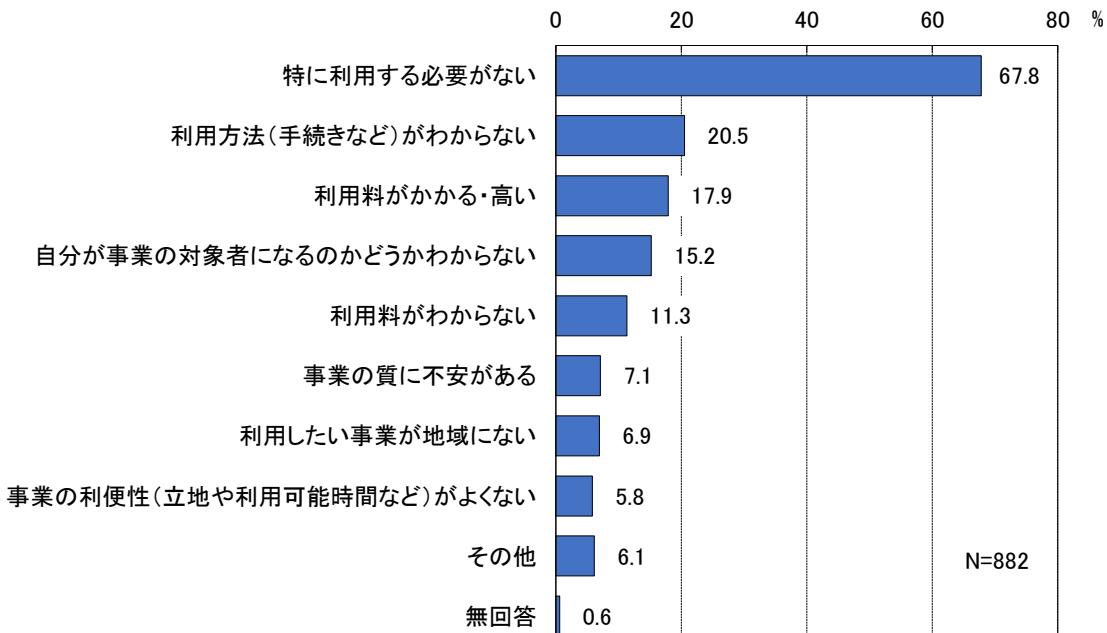
問 18 宛名のお子さんについて、現在、私用（冠婚葬祭、リフレッシュなど）、保護者の通院、不定期の就労などの目的で不定期に利用している事業はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



- 私用や保護者の通院、不定期の就労などのため、不定期に利用している事業があるか尋ねたところ、「利用していない」と回答した人は 85.7% で、何らかの事業を利用している人は 13.6% となっている。

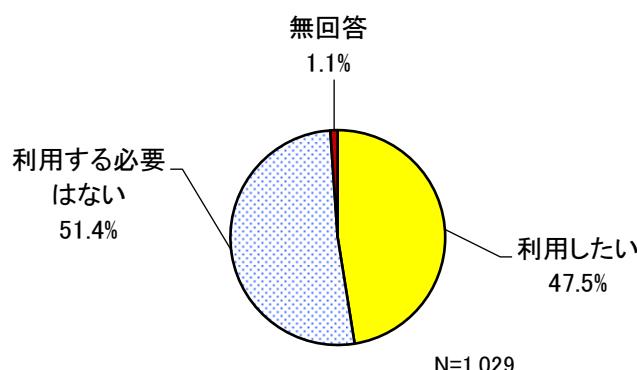
問18-1 問18で「7. 利用していない」と回答した方にうかがいます。

現在利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

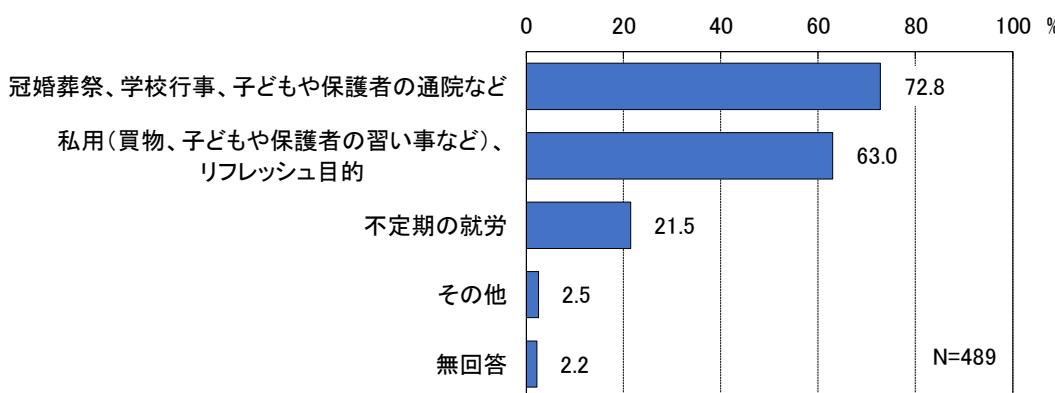


- 「利用していない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「特に利用する必要がない」と回答した人が 67.8%と大半を占めているが、それ以外の理由としては「利用方法（手続きなど）がわからない」（20.5%）や「利用料がかかる・高い」（17.9%）が上位にあがっている。

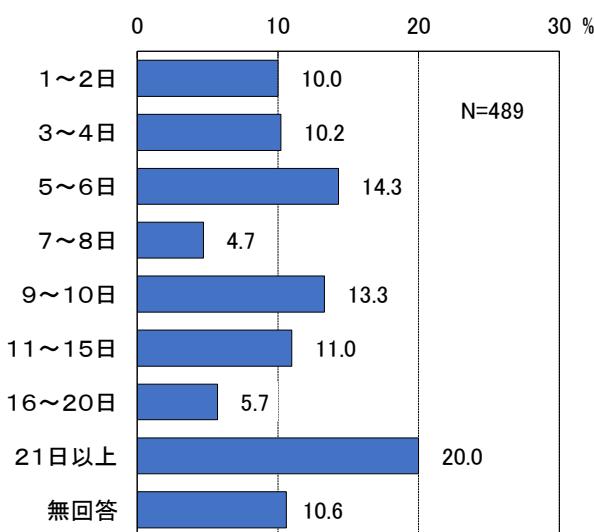
問 19 すべての方にうかがいます。今後、宛名のお子さんについて、私用（冠婚葬祭、リフレッシュなど）、保護者の通院、不定期の就労などの目的で、年間何日くらい事業を利用が必要があると思いますか。あてはまる番号・記号すべてに○をつけてください。



【目的の内訳】

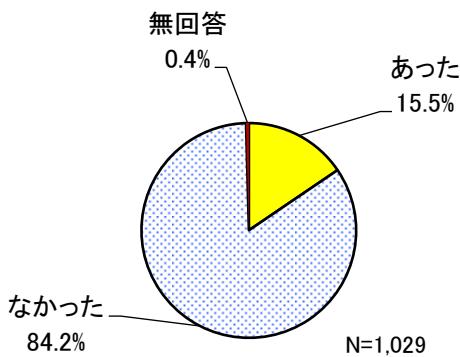


【年間必要日数】

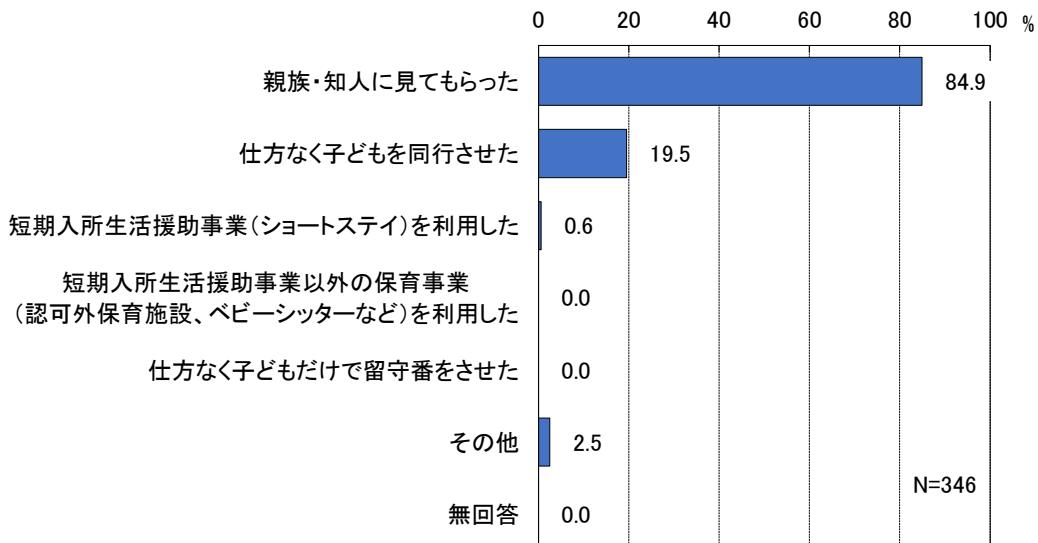


- 私用や保護者の通院、不定期の就労などのため、一時預かりなどの事業を「利用したい」と回答した人の割合は47.5%となっている。
- 目的としては、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや保護者の通院など」(72.8%) や「私用、リフレッシュ目的」(63.0%) が多く、年間必要日数は「21日以上」(20.0%) が多くなっている。

問 20 すべての方にうかがいます。この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外に見てもらわなければならぬことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。あった場合は、この1年間の対処方法としてあてはまる番号・記号すべてに○をつけてください。



【対処方法の内訳】

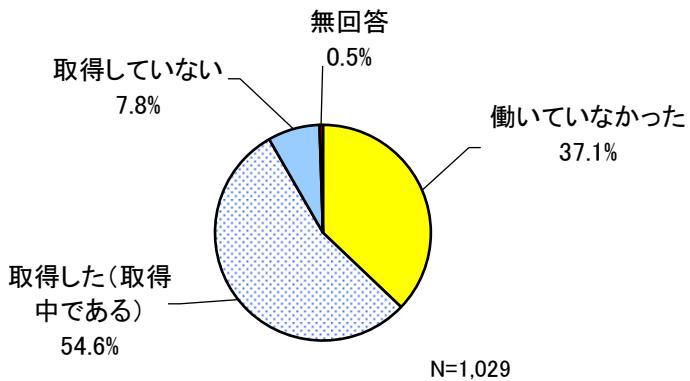


- この1年間に、保護者の用事などにより、就学前の子どもを泊まりがけで家族以外に見てもらわなければならないことが「あつた」と回答した人の割合は15.5%となっている。
- 対処方法の内訳としては、「親族・知人に見てもらった」が84.9%と大半を占めており、「仕方なく子どもを同行させた」が19.5%でそれに続いている。

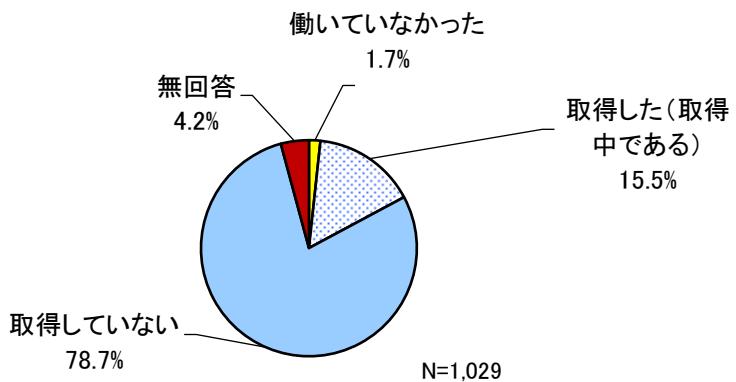
8. 育児休業制度など職場の両立支援制度について

問21 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。
母親、父親それぞれについて、お答えください。（1つだけ○）

【母親】



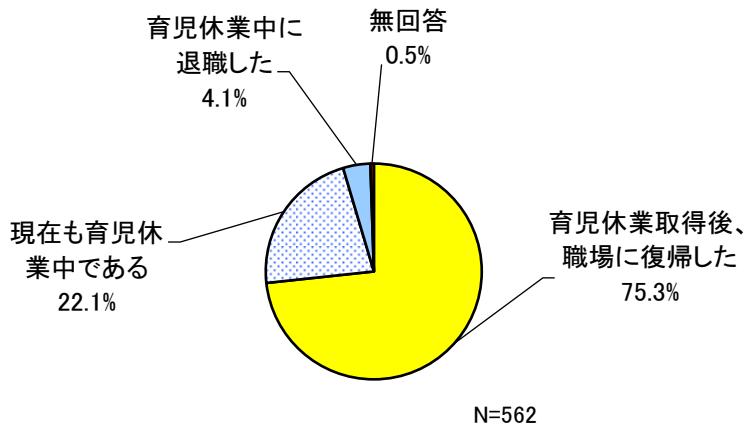
【父親】



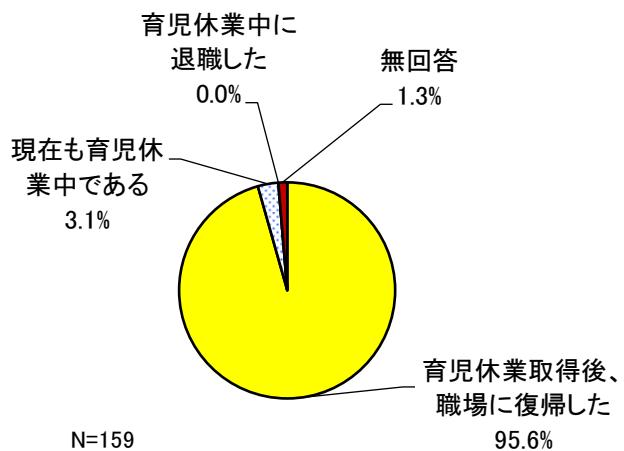
- 育児休業を「取得した（取得中である）」割合は、母親で54.6%、父親で15.5%となっているが、無回答と働いていなかった人を除くと、母親で87.5%、父親で16.4%となる。

問21-1 問21で「2.取得した（取得中である）」と回答した方にうかがいます。
育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（1つだけ○）

【母親】



【父親】

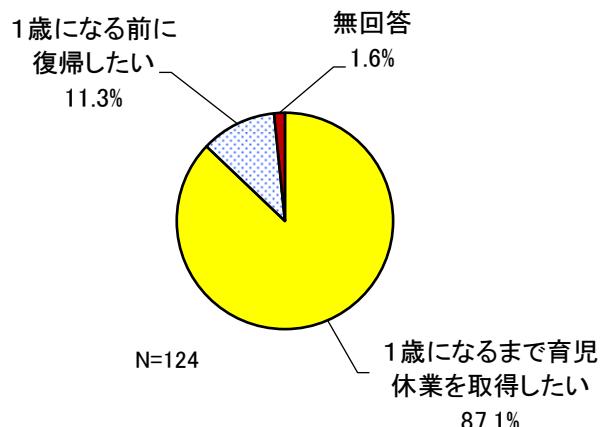


- 「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した人の割合は、母親で 75.3%、父親で 95.6%となっている。

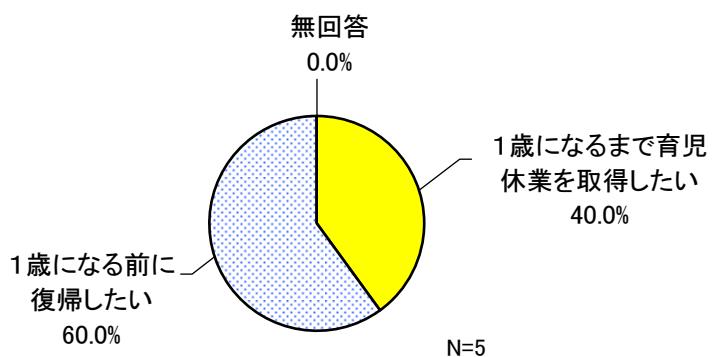
問21-2 問21-1で「2. 現在も育児休業中である」と回答した方にうかがいます。

宛名のお子さんが1歳になったときに必ず預けられる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。

【母親】



【父親】

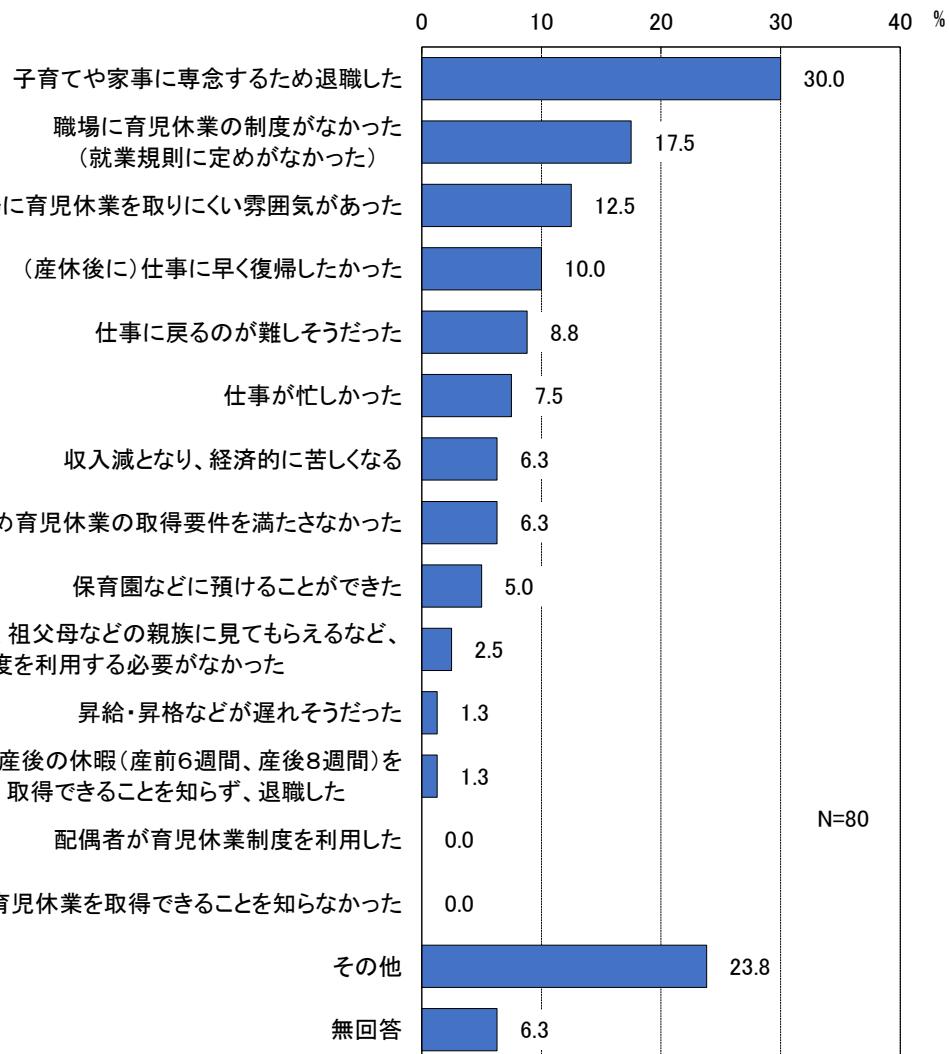


- 子どもが1歳になったときに必ず預けられる事業があれば、「1歳になるまで育児休業を取得したい」と回答した人の割合は、母親で87.1%、父親で40.0%となっている。

問21-3 問21で「3. 取得していない」と回答した方にうかがいます。

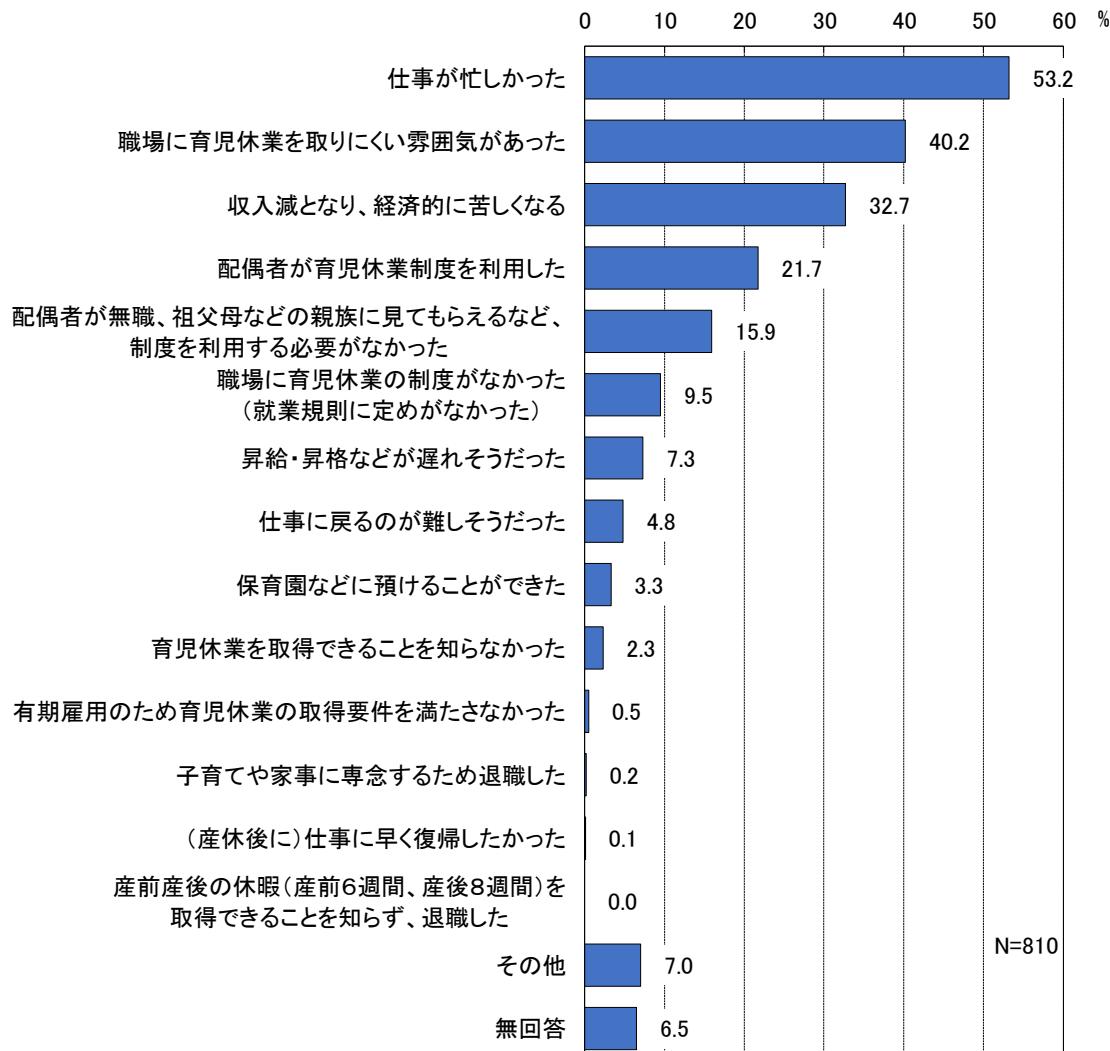
取得していない理由は何ですか。母親、父親それについて、あてはまるすべての番号を()内に数字でご記入ください。

【母親】



- 母親が育児休業を取得しなかった理由については、「子育てや家事に専念するため退職した」(30.0%)、「職場に育児休業の制度がなかった」(17.5%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(12.5%)が上位にあがっている。

【父親】



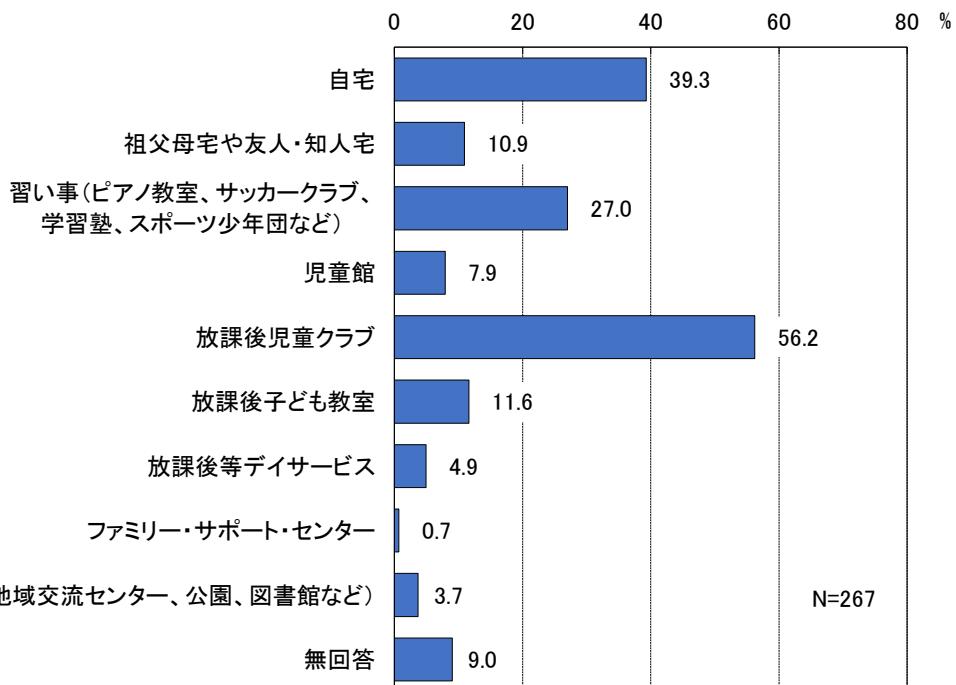
- 父親が育児休業を取得しなかった理由については、「仕事が忙しかった」(53.2%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(40.2%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(32.7%)、「配偶者が育児休業制度を利用した」(21.7%) が上位にあがっている。

9. 小学校就学後の放課後の過ごし方について

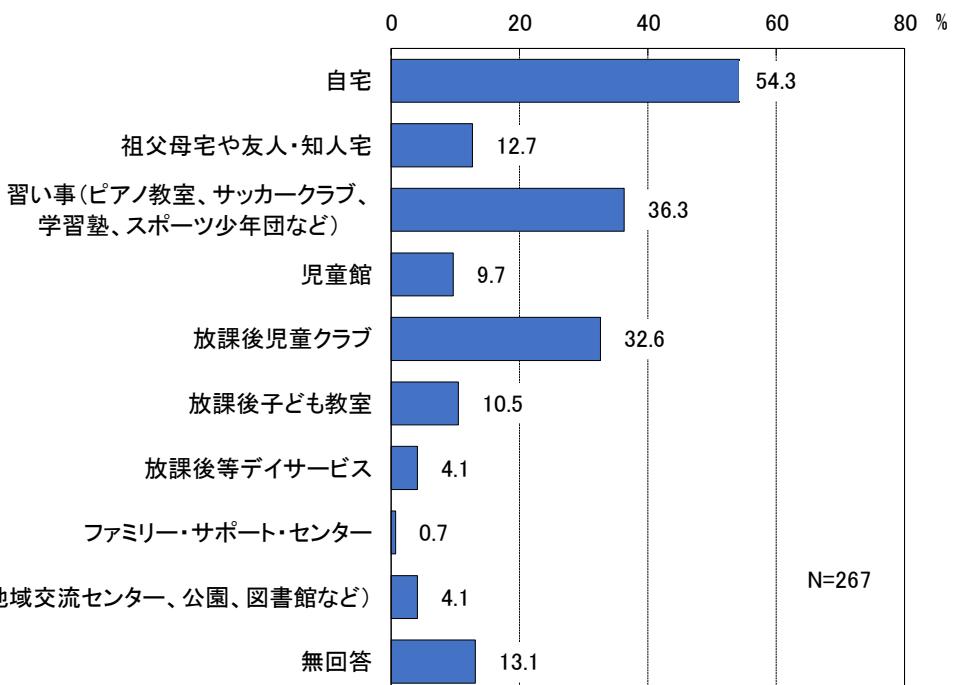
問22 宛名のお子さんが5歳以上ある方にうかがいます。

お子さんが小学生になられた時、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのように場所で過ごさせたいと思いますか。小学校低学年（1～3年生）、高学年（4～6年生）それぞれの欄であてはまる番号すべてに○をつけてください。

【低学年（1～3年生）】



【高学年（4～6年生）】

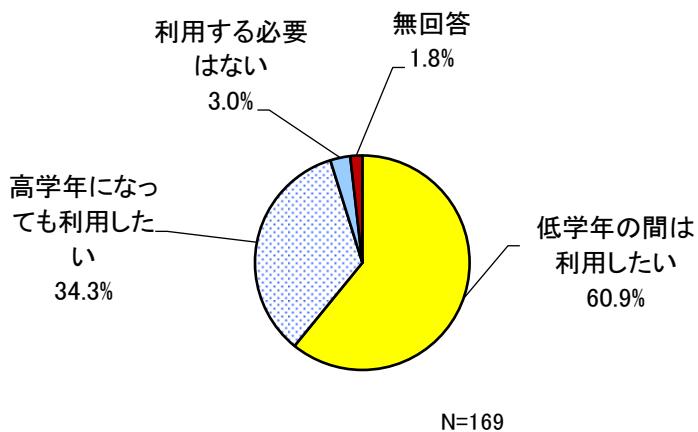


- 放課後の過ごし方について、「放課後児童クラブ」を希望する人の割合は、小学校低学年で 56.2%、高学年で 32.6% となっている。

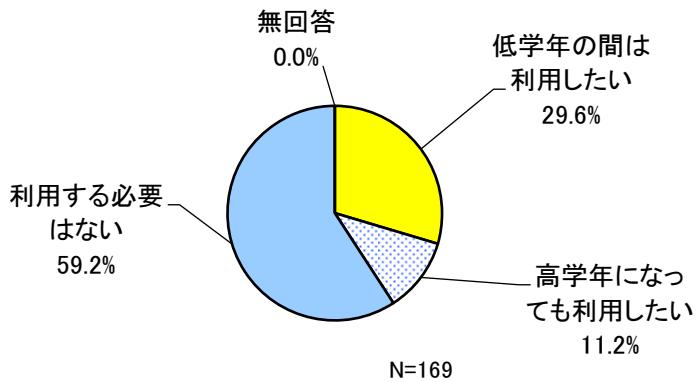
問23 問22で「5. 放課後児童クラブ」に○をつけた方にうかがいます。

宛名のお子さんについて、今後、放課後児童クラブを利用したいですか。平日、土曜日、日曜日・祝日及び夏休み・冬休みなどの長期休暇中のそれについて回答してください。

【平日】

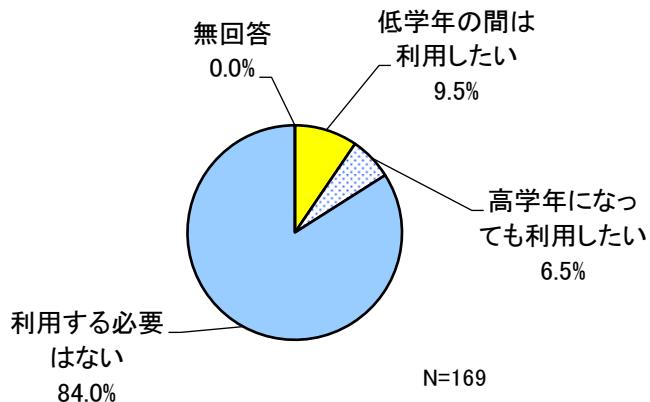


【土曜日】

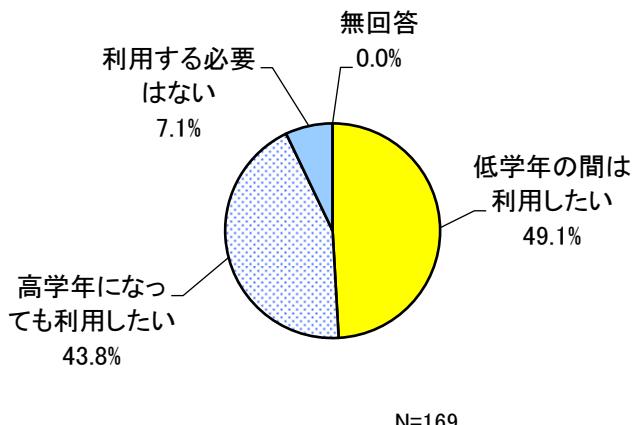


- 「放課後児童クラブ」と回答した人に、改めて平日の利用意向を尋ねたところ、「低学年の間は利用したい」は60.9%、「高学年になつても利用したい」は34.3%となっている。
- 土曜日については、「低学年の間は利用したい」は29.6%、「高学年になつても利用したい」は11.2%となっている。

【日曜日・祝日】



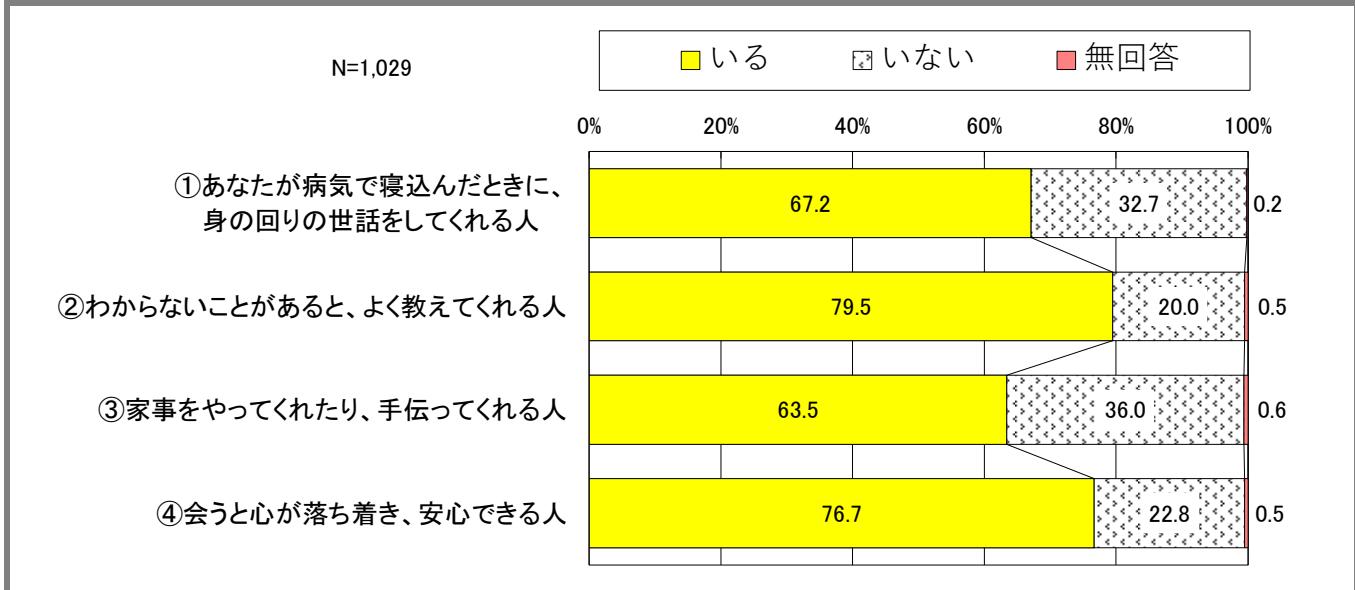
【長期休暇中】



- 日曜日・祝日については、「低学年の間は利用したい」は9.5%、「高学年になつても利用したい」は6.5%となっている。
- 夏休み・冬休みなどの長期休暇中については、「低学年の間は利用したい」は49.1%、「高学年になつても利用したい」は43.8%となっている。

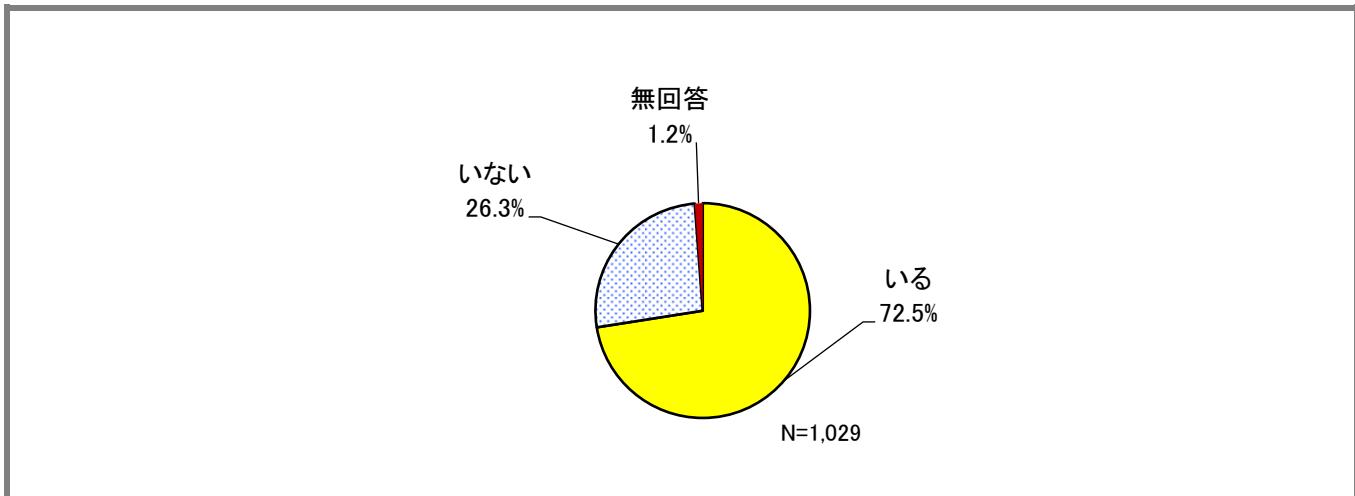
10. 子育て全般について

問24 あなたのお住まいの近く（おおむね30分以内）に、①～④に該当する人（親族、友人、同僚など）がいますか。（①～④のそれぞれについて1つだけ○）



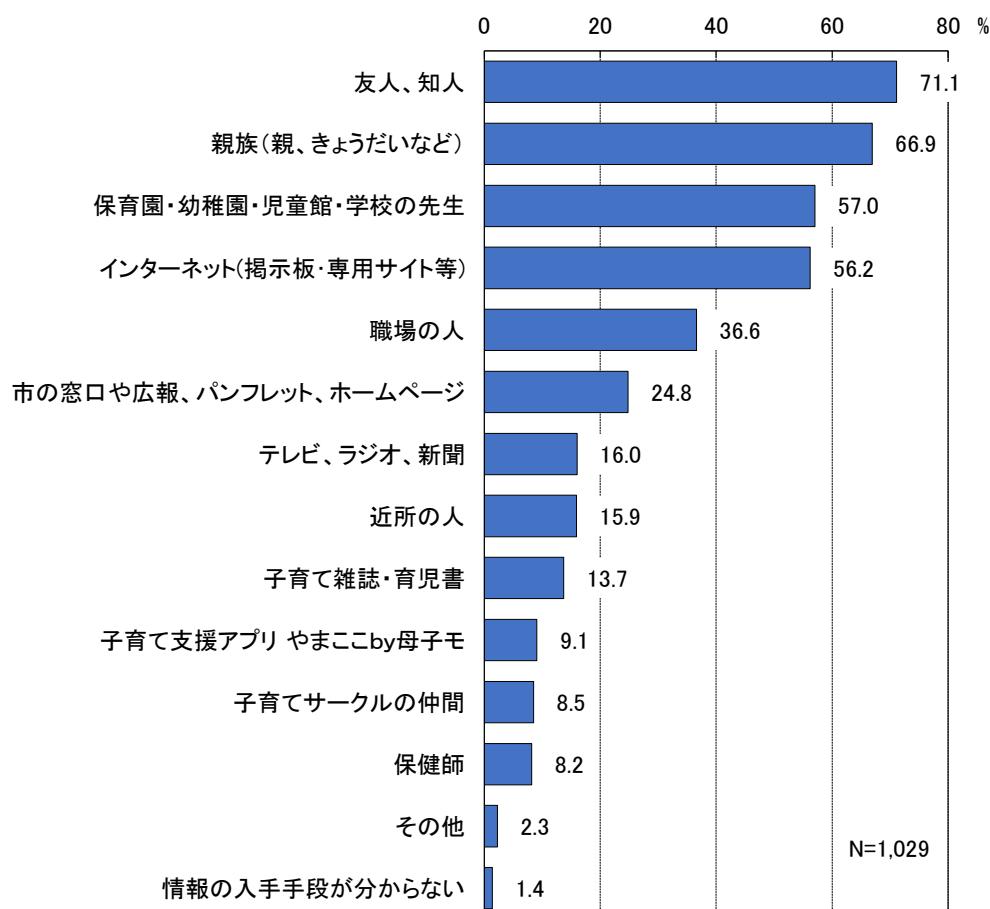
- 「あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる人」が「いる」と回答した人は67.2%、「わからないことがあると、よく教えてくれる人」が「いる」と回答した人は79.5%、「家事をやってくれたり、手伝ってくれる人」が「いる」と回答した人は63.5%、「会うと心が落ち着き、安心できる人」が「いる」と回答した人は76.7%となっている。

問25 あなたは子どもと一緒に遊ばせたり、助け合ったりする子育て仲間がいますか。



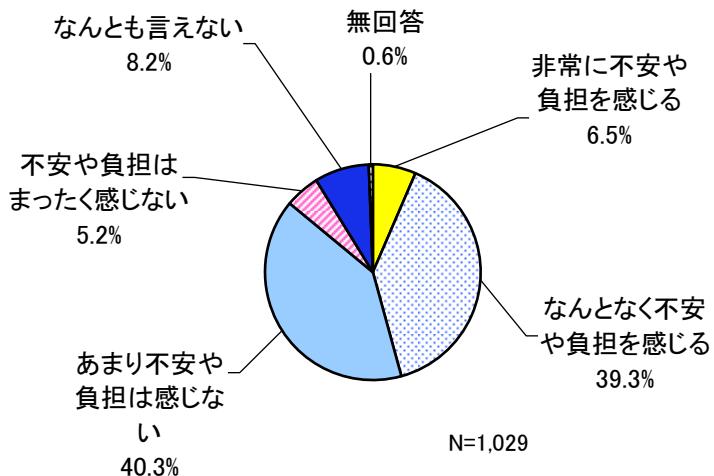
- 「子どもと一緒に遊ばせたり、助け合ったりする子育て仲間がいる」と回答した人の割合は72.5%、「いない」と回答した人の割合は26.3%となっている。

問26 子育てに関する情報をどのように入手されていますか。（あてはまるものすべてに○）



- 子育てに関する情報の入手先については、回答割合が高い順に「友人・知人」(71.1%)、「親族(親、きょうだいなど)」(66.9%)、「保育園・幼稚園・児童館・学校の先生」(57.0%)、「インターネット(掲示板・専用サイト等)」(56.2%)と続いている。

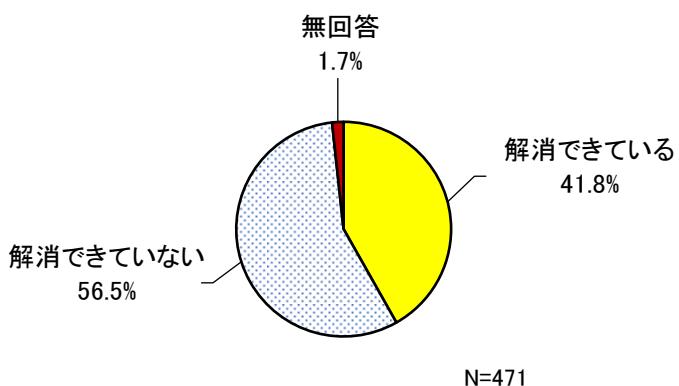
問27 子育てに関して不安や負担を感じますか。（1つだけ○）



- 子育てに「非常に不安や負担を感じる」と回答した人の割合は 6.5%で、「なんとなく不安や負担を感じる」(39.3%)と回答した人を合わせると 45.8%となっている。

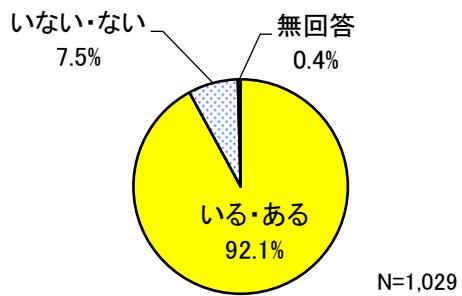
問27-1 問 27 で「1. 非常に不安や負担を感じる」「2. なんとなく不安や負担を感じる」に○をつけた方にうかがいます。

その不安や負担は解消できていますか。



- 「不安や負担を感じる」と回答した人のうち、その不安や負担が「解消できている」と回答した人の割合は 41.8%で、「解消できていない」と回答した人の割合 (56.5%) を 14.7 ポイント下回っている。

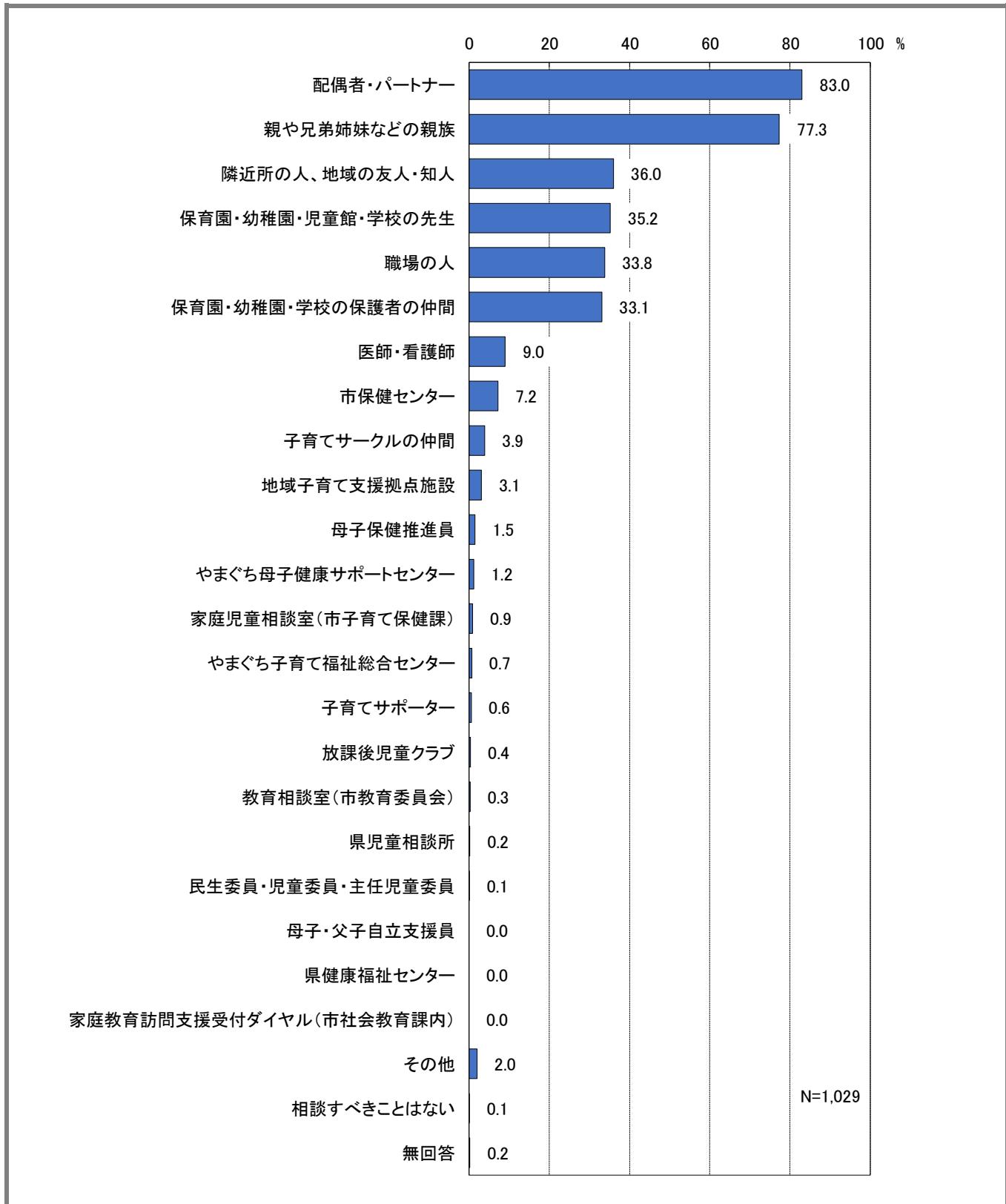
問28 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人や相談できる場所はありますか。



- 子育てについて気軽に相談できる人や場所が「いない・ない」と回答した人の割合は7.5%となっている。

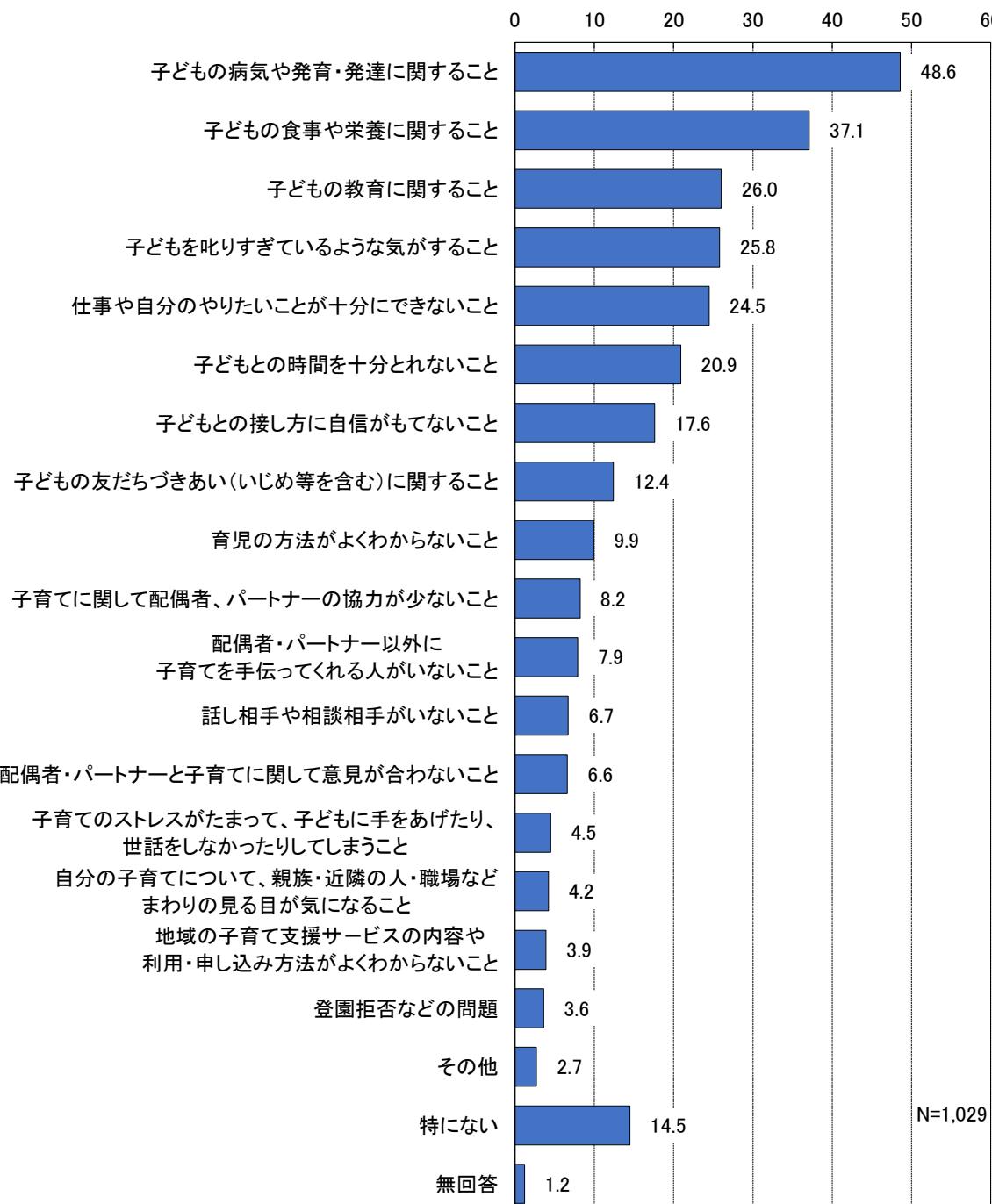
問28-1 問28で「1.いる・ある」に○をつけた方にうかがいます。

お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）



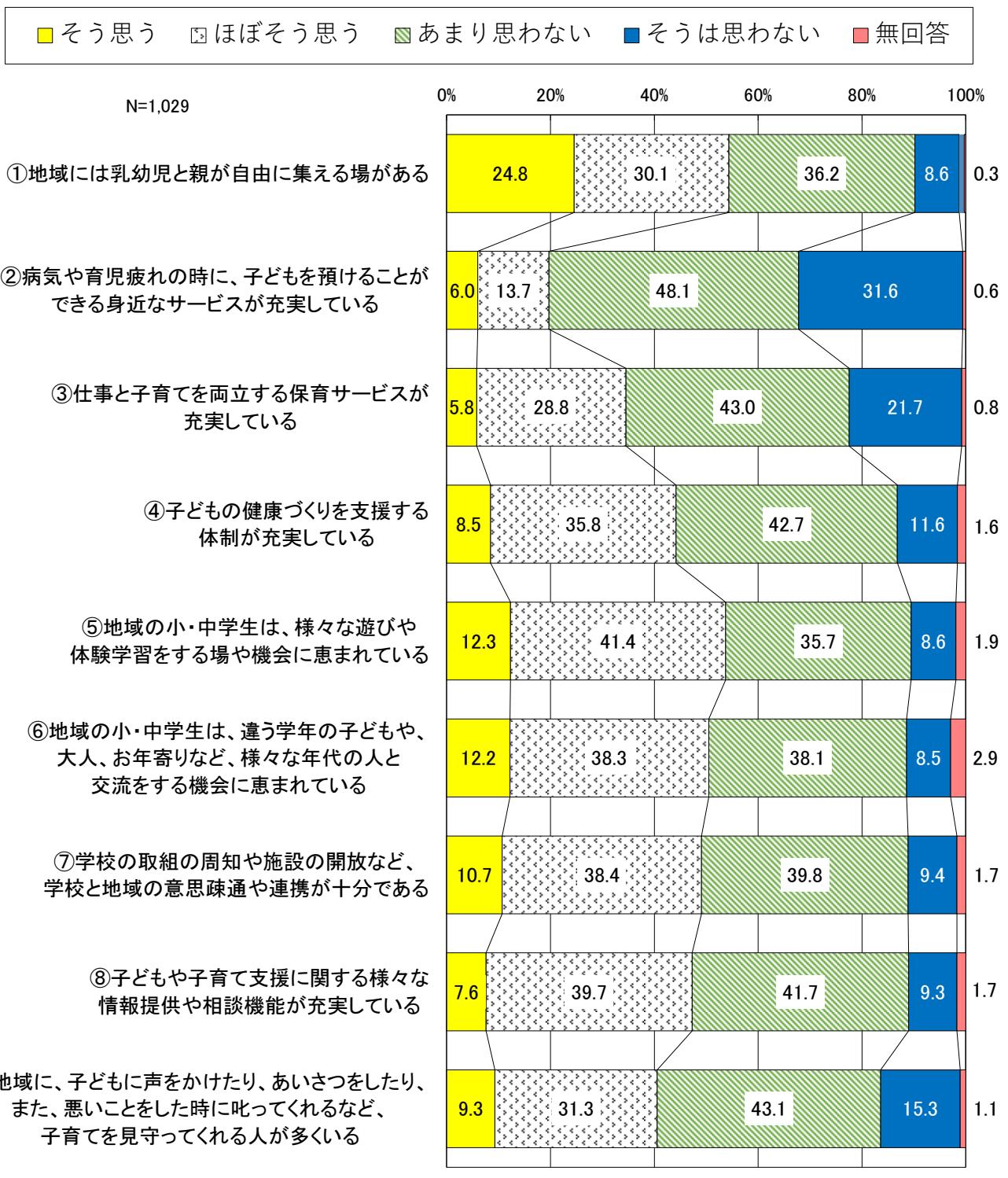
- 子育てに関する相談先については、「配偶者・パートナー」(83.0%)、「親や兄弟姉妹などの親族」(77.3%) が上位を占めている。

問29 子育てに関して、これまでに困ったことや、現在、悩んでいることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）



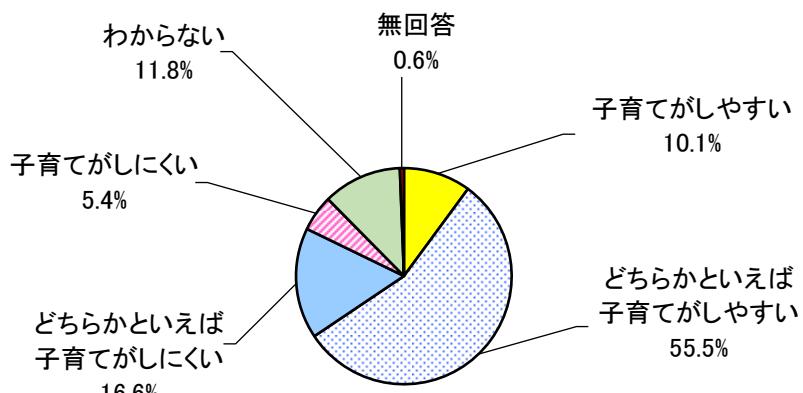
- 子育てに関して困ったり悩んだりしていることとしては、「子どもの病気や発育・発達に関すること」が48.6%と最も多く、以下、「子どもの食事や栄養に関すること」(37.1%)、「子どもの教育に関すること」(26.0%)、「子どもを叱りすぎているような気がすること」(25.8%)、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」(24.5%)と続いている。

問30 あなたが現在住んでいる地域の子育て環境について、あなたの意見を回答してください。
 (①～⑨のそれぞれについて1つだけ○)



- 地域の子育て環境についての意見は上のとおりで、「そう思う」「ほぼそう思う」という回答割合が高かったのは、「地域には乳幼児と親が自由に集える場がある」(54.9%)、「地域の小・中学生は、様々な遊びや体験学習をする場や機会に恵まれている」(53.7%)で、逆に回答割合が低かったのは、「病気や育児疲れの時に、子どもを預けることができる身近なサービスが充実している」(19.7%)となっている。

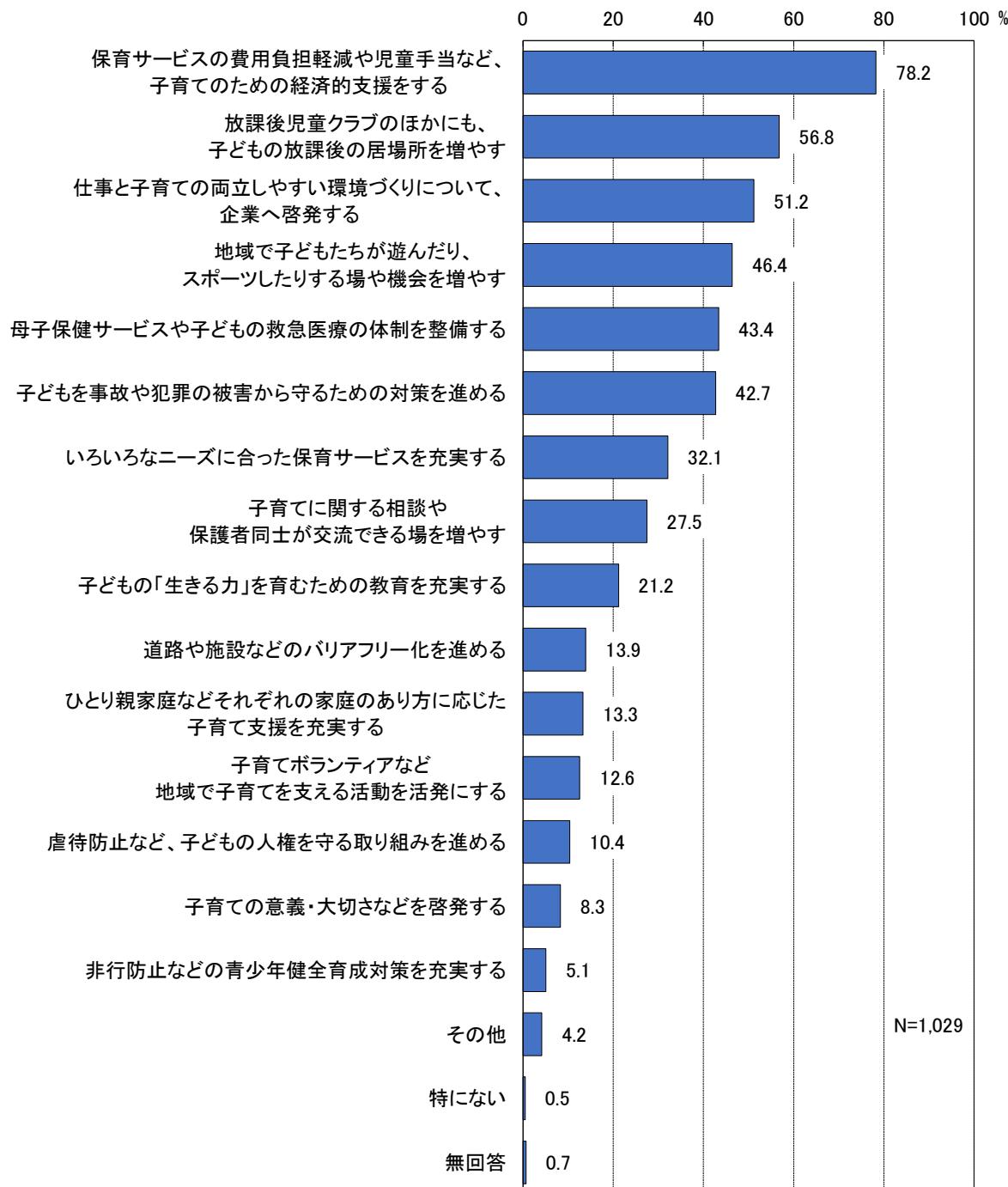
問31 いろいろなことを総合して、山口市は子育てがしやすいと思いますか。（1つだけ○）



N=1,029

- 総合的に見て、山口市は「子育てがしやすい」(10.1%)、「どちらかといえば子育てがしやすい」(55.5%)と回答した人の割合は65.6%で、「子育てがしにくい」(5.4%)、「どちらかといえば子育てがしにくい」(16.6%)と回答した人の割合(22.0%)を43.6ポイント上回っている。

問32 子どもを健やかに生み育てるために、市にどのようなことを期待しますか。
(重要なものの5つに○)

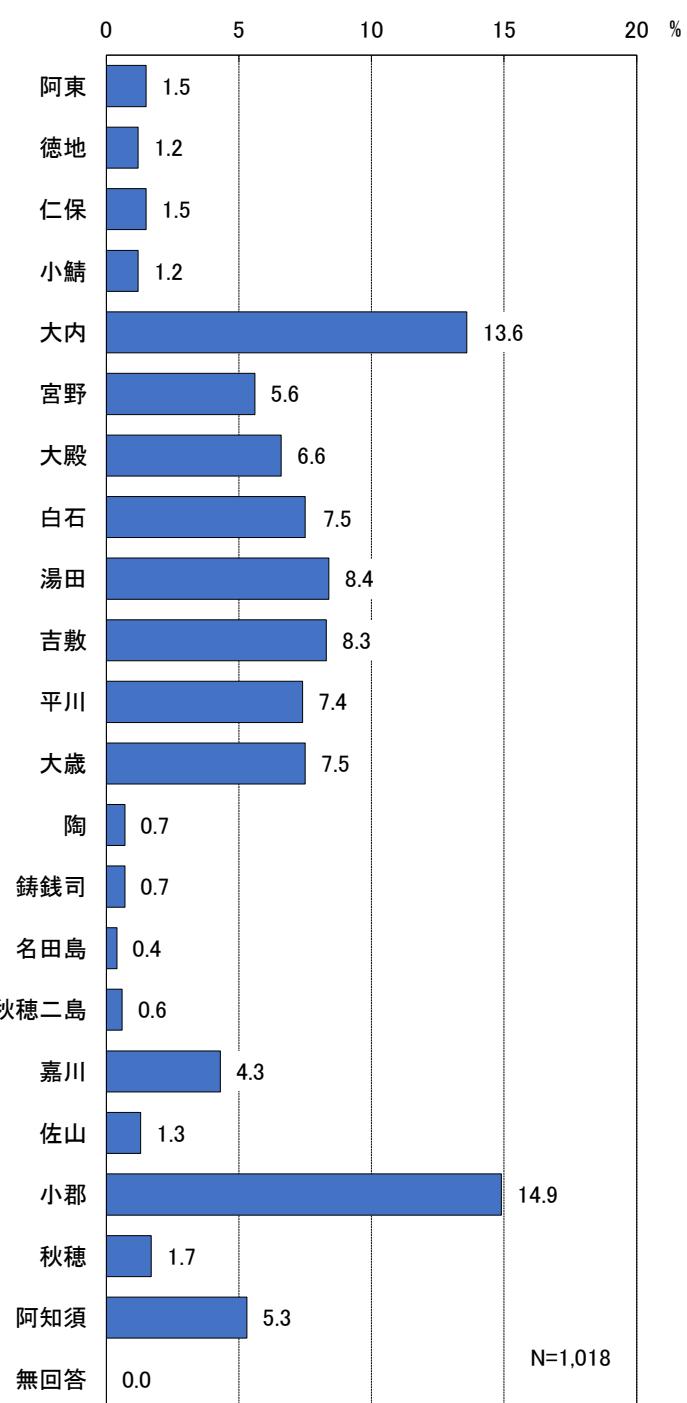


- 子どもを健やかに生み育てるために市に期待することとしては、「保育サービスの費用負担軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援をする」が78.2%と最も多く、以下、「放課後児童クラブのほかにも、子どもの放課後の居場所を増やす」(56.8%)、「仕事と子育ての両立しやすい環境づくりについて、企業へ啓発する」(51.2%)、「地域で子どもたちが遊んだり、スポーツしたりする場や機会を増やす」(46.4%)、「母子保健サービスや子どもの救急医療の体制を整備する」(43.4%)、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策を進める」(42.7%)と続いている。

第2章 小学生の保護者に対する調査

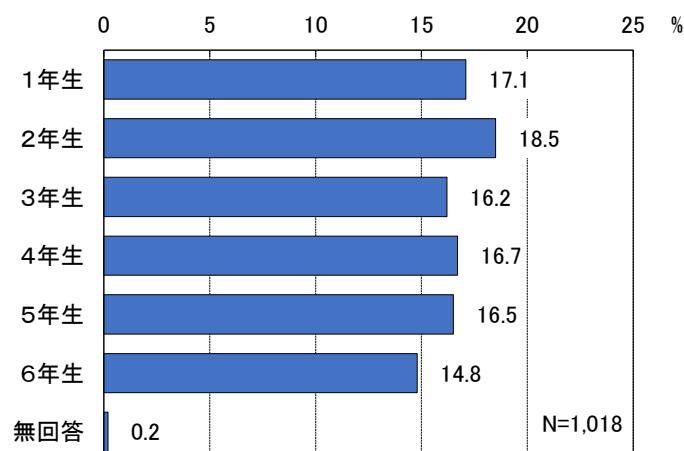
1. 家族の状況等について

問1 あなたのお住まいの地域は次のうちどちらですか。（1つだけ○）



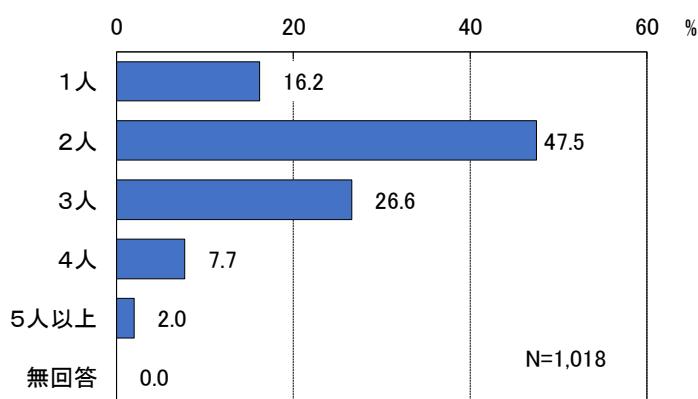
- 居住地域については、「小郡」と回答した人の割合が14.9%と最も高く、ほぼ子どもの人口分布を反映した結果となっている。

問2 宛名のお子さんの学年をご記入ください。



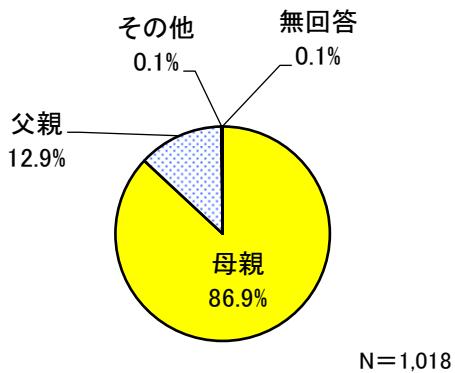
- 子どもの学年比率は上のとおりで、2年生の割合がやや高くなっている。

問3 宛名のお子さんは何人きょうだいですか。宛名のお子さんを含めた人数を()内に数字でご記入ください。



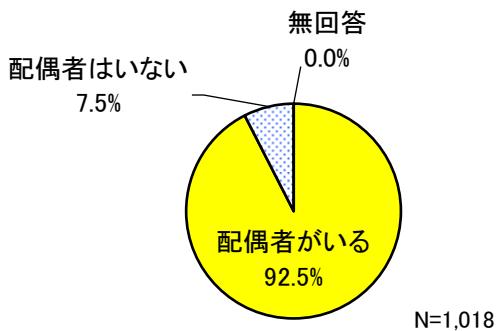
- 対象児童を含むきょうだいの人数では、「2人」という回答割合が47.5%と最も高く、次いで、「3人」が26.6%、「1人」が16.2%となっている。

問4 このアンケートにご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんから見た関係でお答えください。（1つだけ○）



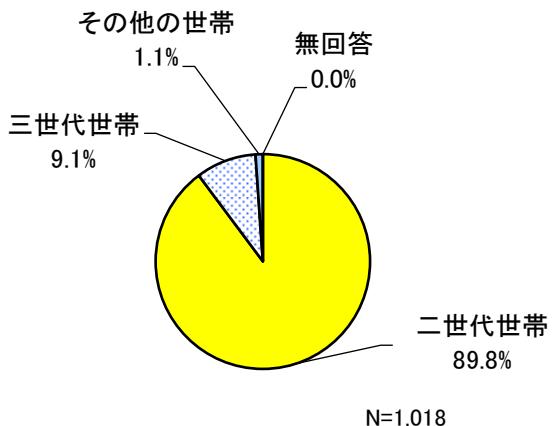
- 回答者は「母親」が86.9%と圧倒的に多く、「父親」は12.9%となっている。

問5 このアンケートにご回答いただいたいる方の配偶関係についてお答えください。



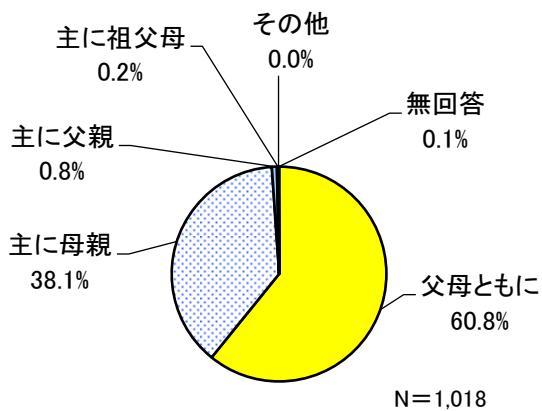
- 回答者の配偶関係を見ると、「配偶者はない」と回答した人は7.5%となっている。

問6 家族構成をお答えください。（1つだけ○）



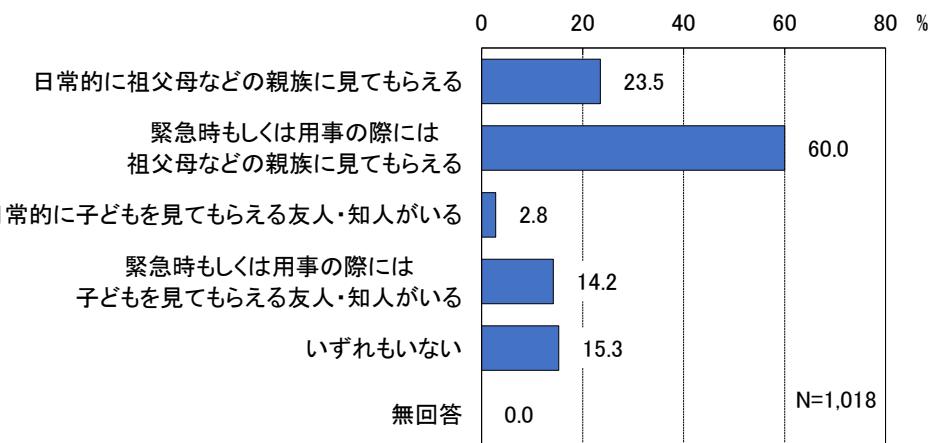
- 回答者の家族構成を見ると、「二世代世帯（子どもと親）」が89.8%と最も多く、「三世代世帯（子どもと親と祖父母）」は9.1%となっている。

問7 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。宛名のお子さんから見た関係でお答えください。（1つだけ○）



- 子どもの子育てについては、「父母ともに」行っていると回答した割合が60.8%、「主に母親」が行っていると回答した割合が38.1%となっている。

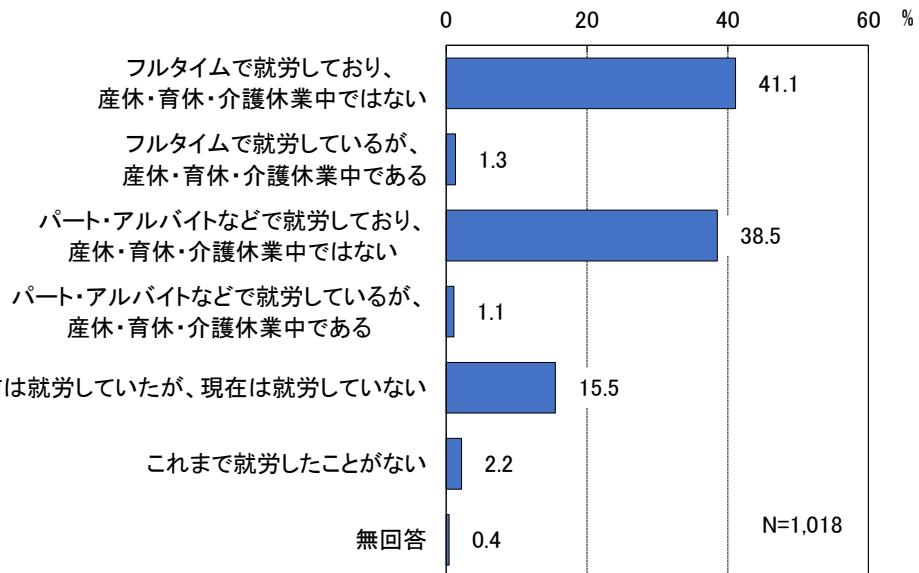
問8 日頃、宛名のお子さんを見てもらえる親族・知人はいますか。
(あてはまるものすべてに○)



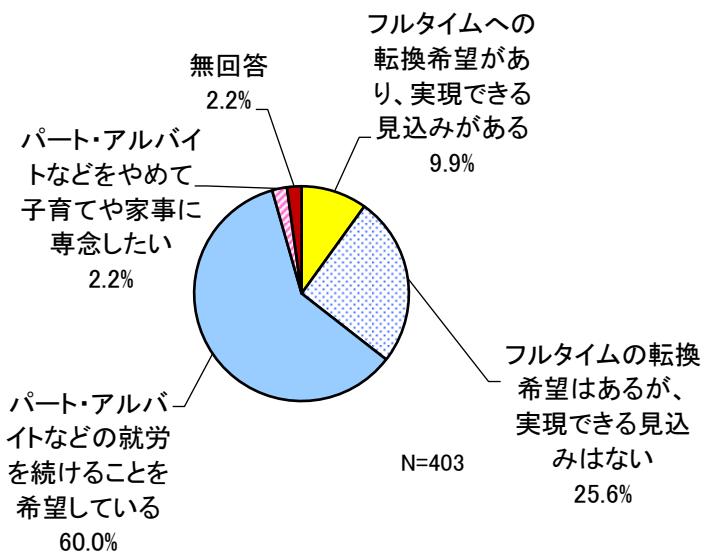
- 緊急時や用事の際にも子どもを預かってもらえる人がいない人の割合は15.3%となっている。

2. 保護者の就労状況について

問9 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)をうかがいます。
母親

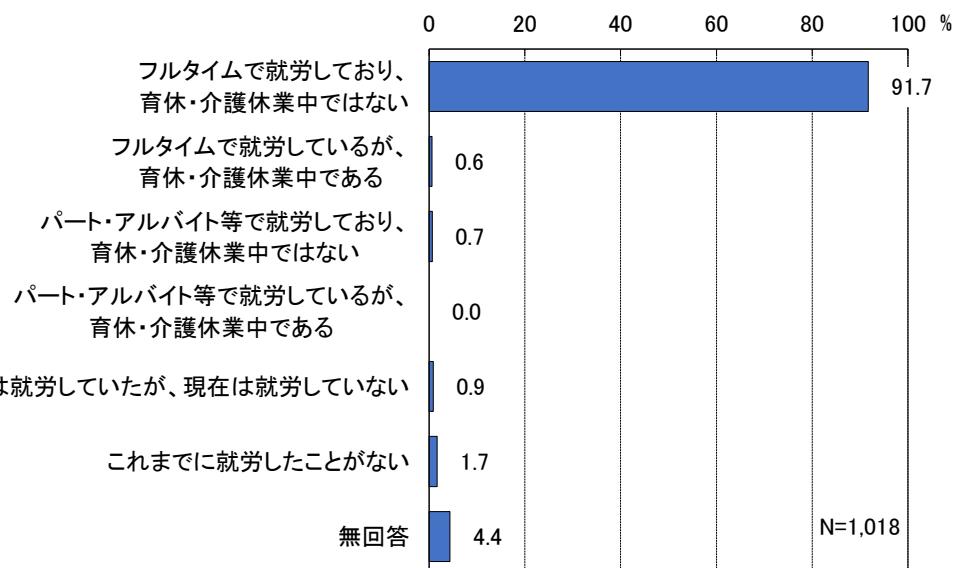


【パート・アルバイトなどの方のフルタイムへの転換希望】

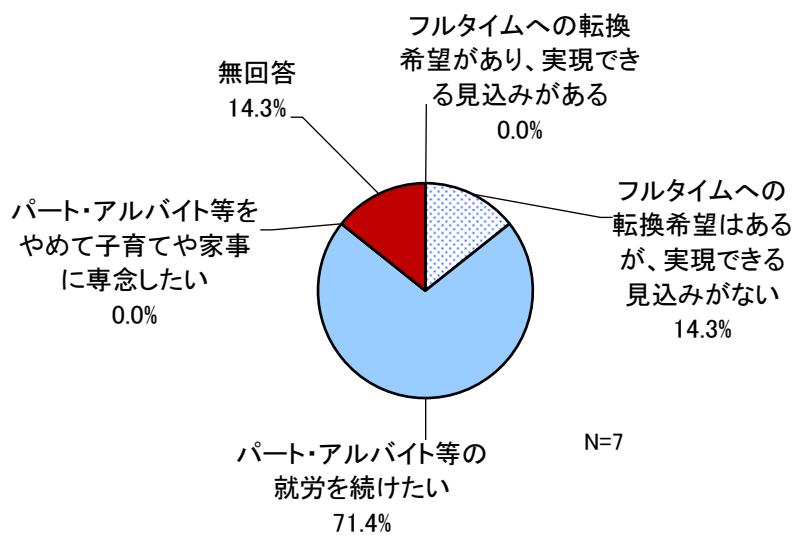


- 母親の就労状況については、フルタイムで就労していると回答した人が、産休・育休・介護休業中の人も含めて42.4%、パート・アルバイトなどが39.6%となっている。
- パートタイム、アルバイトなどで就労していると回答した人のうち、フルタイムへの転換希望がある人は35.5%となっている。

父親



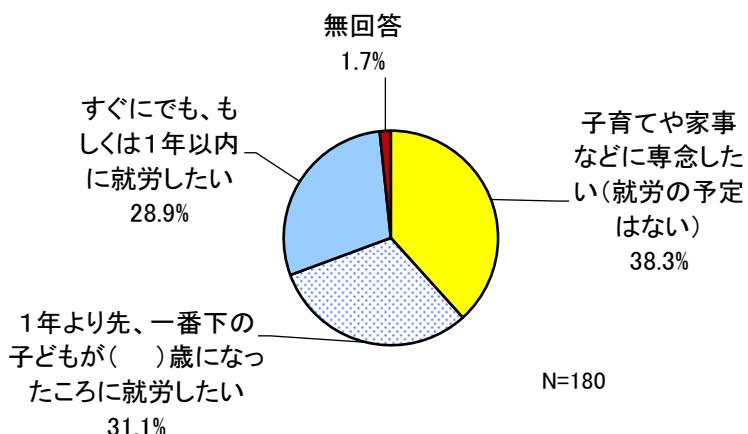
【パート・アルバイトなどの方のフルタイムへの転換希望】



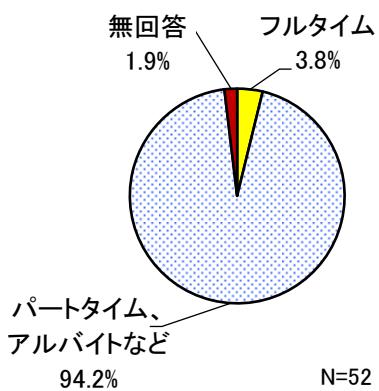
- 父親の就労状況については、フルタイムで就労していると回答した人が、育休・介護休業中の人も含めて92.3%となっており、無回答を除く実際の回答者の大半を占めている。
- パートタイム、アルバイトなどで就労していると回答した人（7人）のうち、フルタイムへの転換希望がある人は14.3%（1人）となっている。

母親

【非就労者の就労意向】



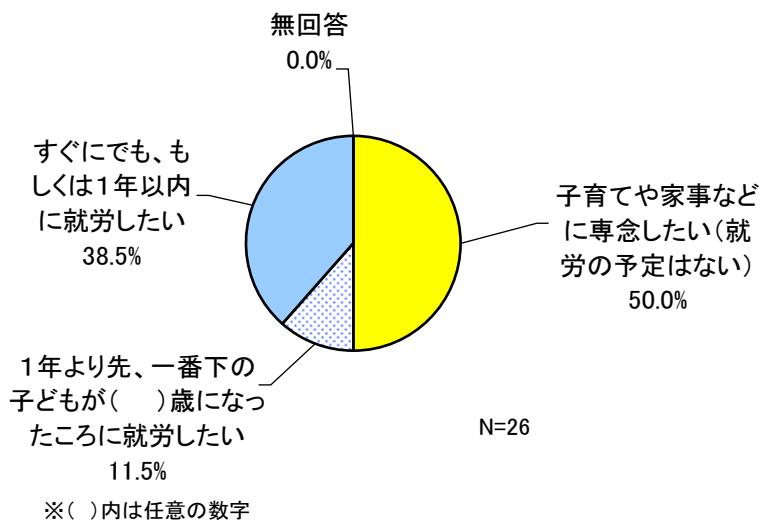
【希望する就労形態】



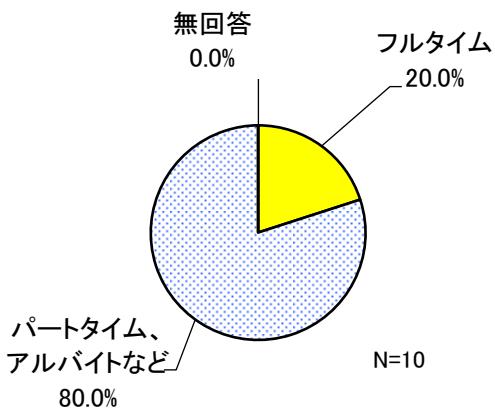
- 現在就労していない母親の就労希望を尋ねたところ、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人が 28.9%、一番下の子どもがある程度大きくなったら就労したいと回答した人は 31.1%となっており、就労していない母親の 60.0%に就労希望があることがわかる。
- 「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人に、希望の就労形態を尋ねたところ、「パートタイム、アルバイトなど」が 94.2%と高い割合を占めており、「フルタイム」を希望する人の割合は 3.8%となっている。

父親

【非就労者の就労意向】



【希望する就労形態】

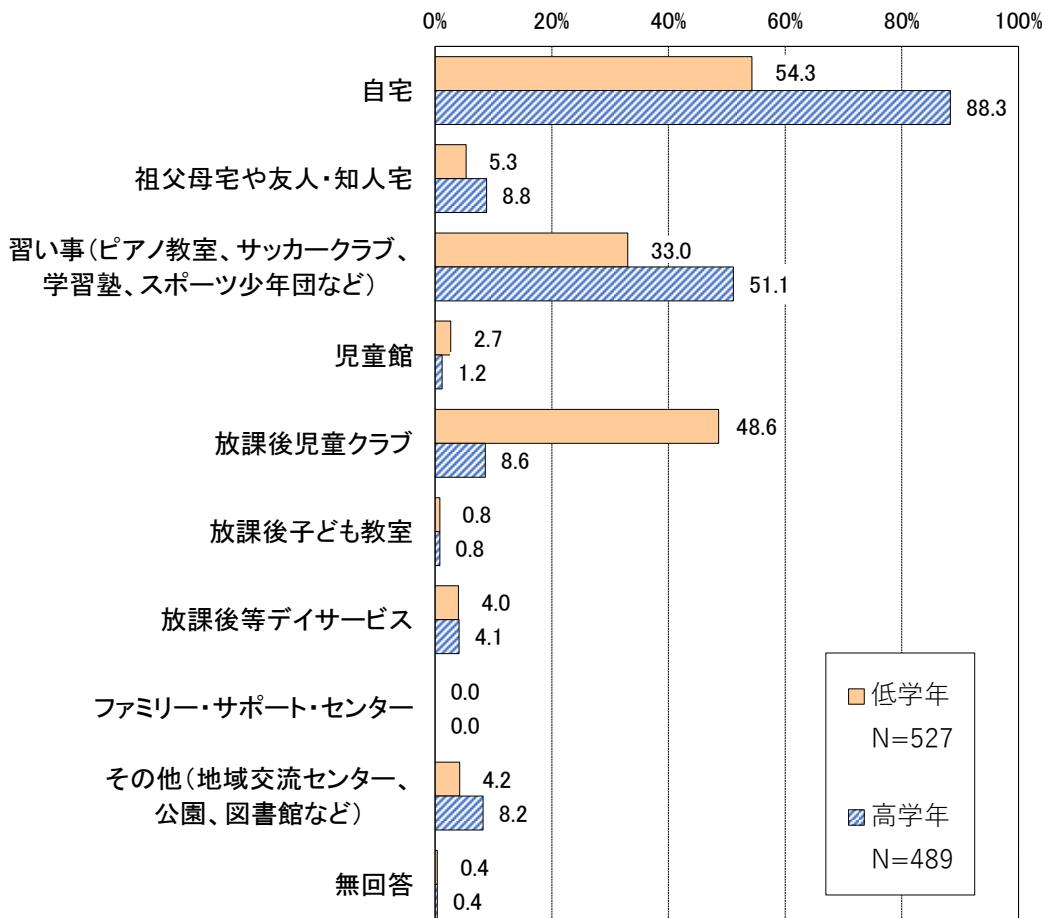


- 現在就労していない父親の就労希望を尋ねたところ、「すぐにでも、もしくは1年内に就労したい」と回答した人が 38.5%、一番下の子どもがある程度大きくなつたら就労したいと回答した人は 11.5%となつておらず、就労していない父親の 50.0%に就労希望があることがわかる。
- 「すぐにでも、もしくは1年内に就労したい」と回答した人（10 人）に、希望の就労形態を尋ねたところ、「パートタイム、アルバイトなど」が 80.0%（8 人）、「フルタイム」が 20.0%（2 人）となっている。

3. 放課後の過ごし方について

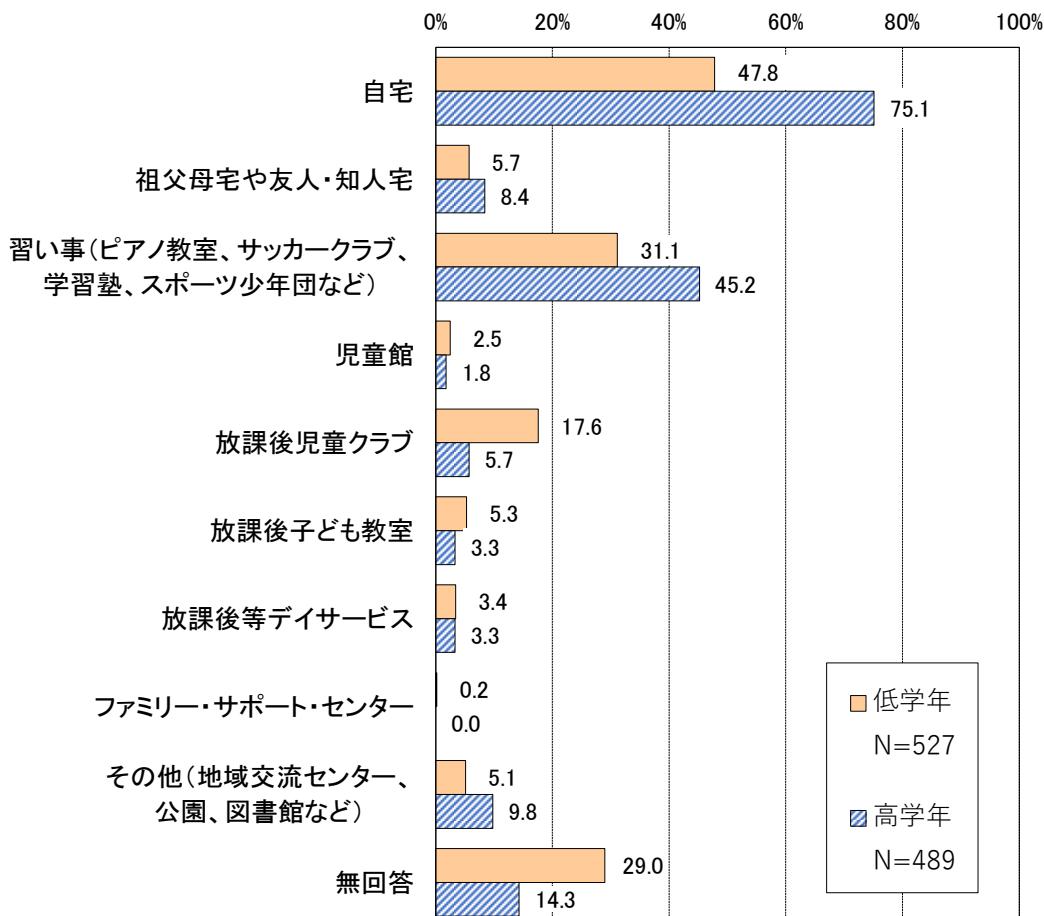
問10 宛名のお子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていますか（過ごさせたいと思いませんか）。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

【現状】



- 放課後の過ごし方について、現在「放課後児童クラブ」を利用している人の割合は、小学校低学年で48.6%、高学年で8.6%となっている。

【希望】

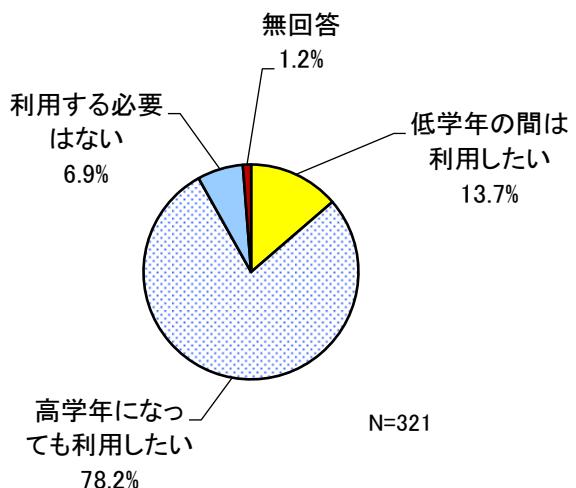


- 今後の「放課後児童クラブ」の希望については、小学校低学年で17.6%、高学年で5.7%となっている。
- ただし、現状に比べ「無回答」の割合が高くなっていることを踏まえると、現在、放課後児童クラブを利用している人の中には、希望の欄に回答しなかった人も一定数存在すると考えられる。そこで、現状と希望のいずれか、または両方で「放課後児童クラブ」に○を付けた人をカウントし、放課後児童クラブの最大ニーズ量を算出すると、小学校低学年で50.7%、高学年で10.6%となっている。

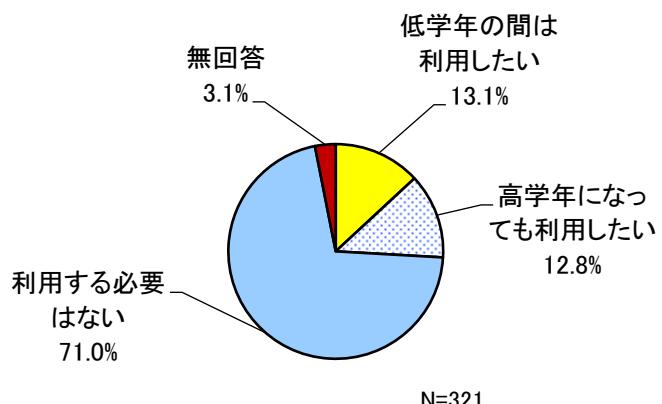
問11 問10で「5. 放課後児童クラブ」に○をつけた方にうかがいます。

宛名のお子さんについて、今後、放課後児童クラブを利用したいですか。平日、土曜日、日曜日・祝日及び夏休み・冬休みなどの長期休暇中のそれについて回答してください。

【平日】

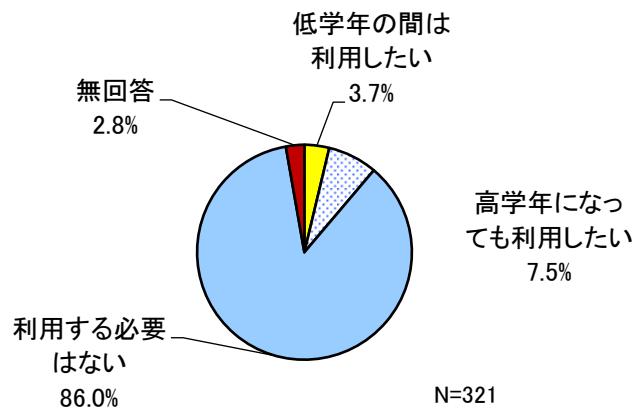


【土曜日】

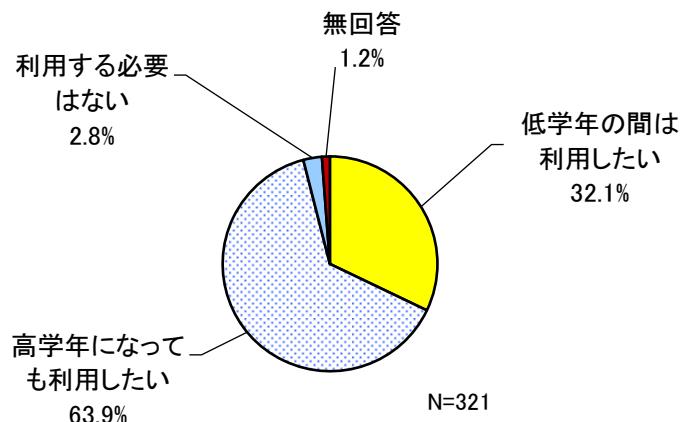


- 問10で「放課後児童クラブ」に○をつけた人に、改めて平日の利用意向を尋ねたところ、「低学年の間は利用したい」は13.7%、「高学年になっても利用したい」は78.2%となっている。
- 土曜日については、「低学年の間は利用したい」は13.1%、「高学年になっても利用したい」は12.8%となっている。

【日曜日・祝日】



【長期休暇中】



- 日曜日・祝日については、「低学年の間は利用したい」は3.7%、「高学年になっても利用したい」は7.5%となっている。
- 夏休み・冬休みなどの長期休暇中については、「低学年の間は利用したい」は32.1%、「高学年にあっても利用したい」は63.9%となっている。

4. 子育て支援事業の利用状況について

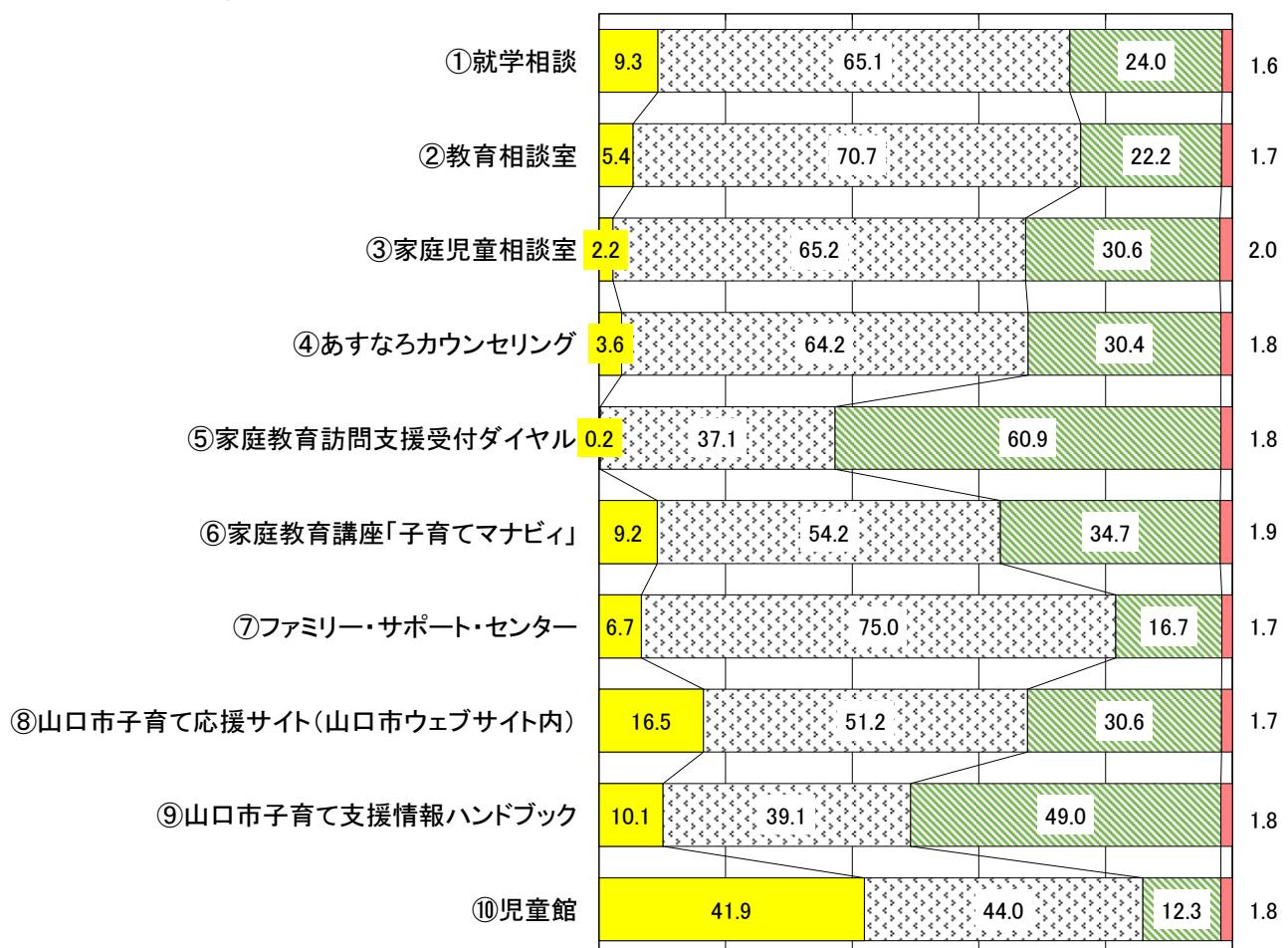
問 12 下記の事業をこれまでに利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いますか。①～⑩の事業について、「認知度・利用状況」、「今後の利用意向」ごとにあてはまる番号に○をつけてください。

【認知度・利用状況】

■ 利用したことがある □ 知っているが、利用したことがない ■ 知らない ■ 無回答

N=1,018

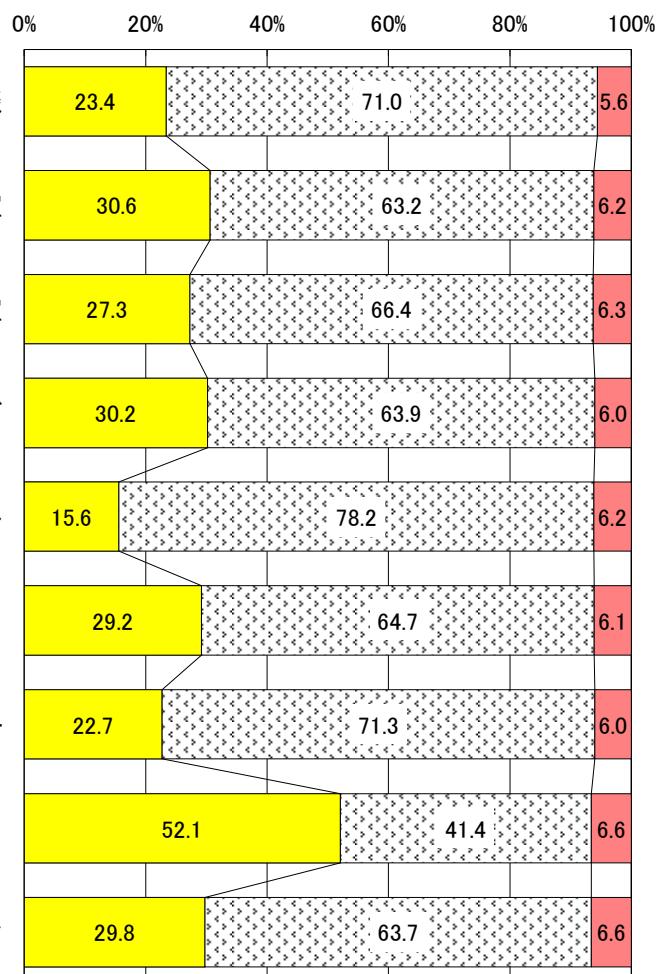
0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 10 事業のうち、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も高かったのは、「児童館」(41.9%) で、「山口市子育て応援サイト(山口市ウェブサイト内)」(16.5%) がそれに続いている。
- 「知らない」と回答した人の割合が最も高かったのは、「家庭教育訪問支援受付ダイヤル」(60.9%) で、「山口市子育て支援情報ハンドブック」(49.0%) がそれに続いている。

【今後の利用意向】

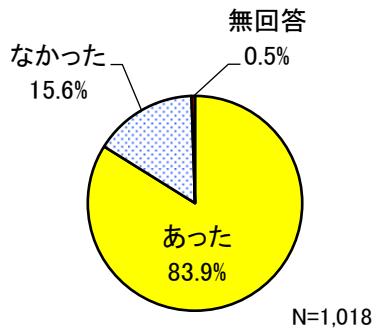
N=1,018



- 今後の利用意向が最も高かったのは「山口市子育て応援サイト（山口市ウェブサイト内）」（52.1%）で、「教育相談室」（30.6%）や「あすなろカウンセリング」（30.2%）がそれに続いている。

5. 子どもの病気等の際の対応について

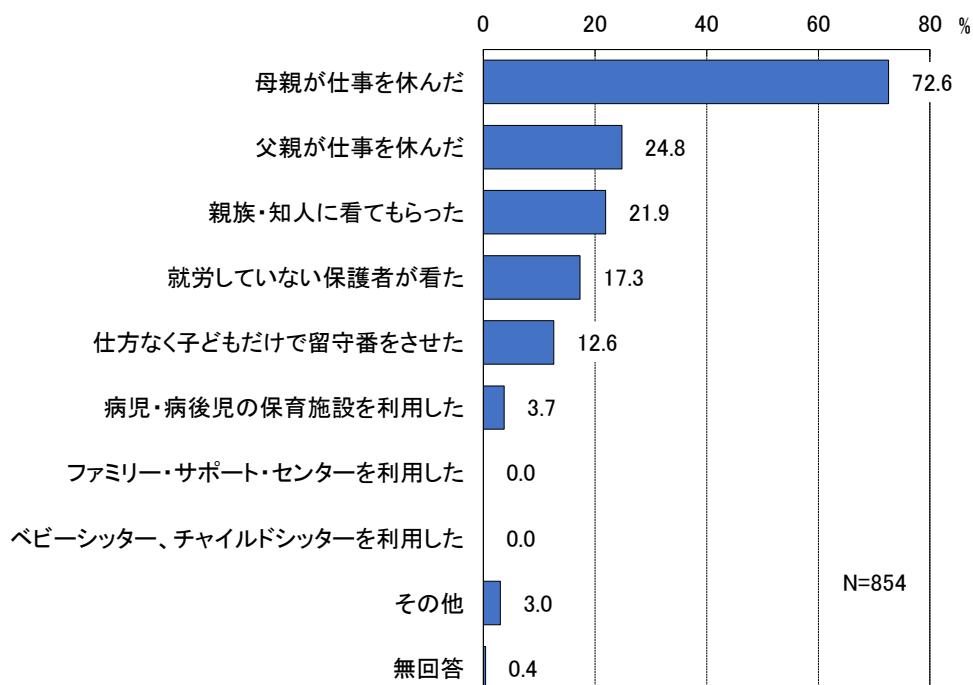
問13 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかつたことはありましたか。



- この1年間に、対象の子どもが病気やケガで学校を休まなければならなかつたことが「あった」と回答した人は83.9%となっている。

問13-1 問13で「1. あった」と回答した方にうかがいます。

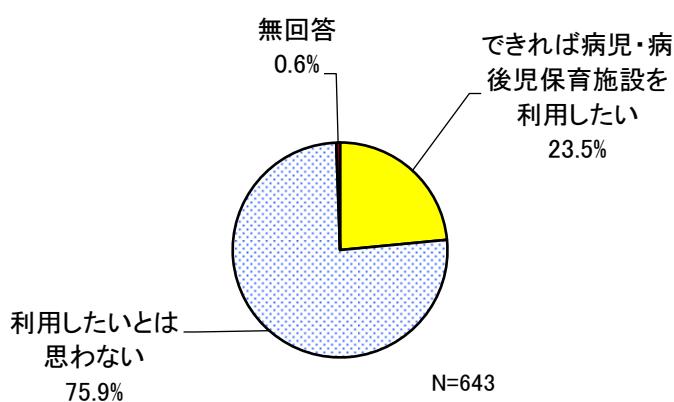
宛名のお子さんが病気やケガで学校を休んだ場合に、この1年間に行った対処方法としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。



- 子どもが病気やケガで学校を休んだ場合の対処方法をたずねたところ、「母親が仕事を休んだ」という回答が72.6%と最も多く、「父親が仕事を休んだ」が24.8%でそれに続いている。

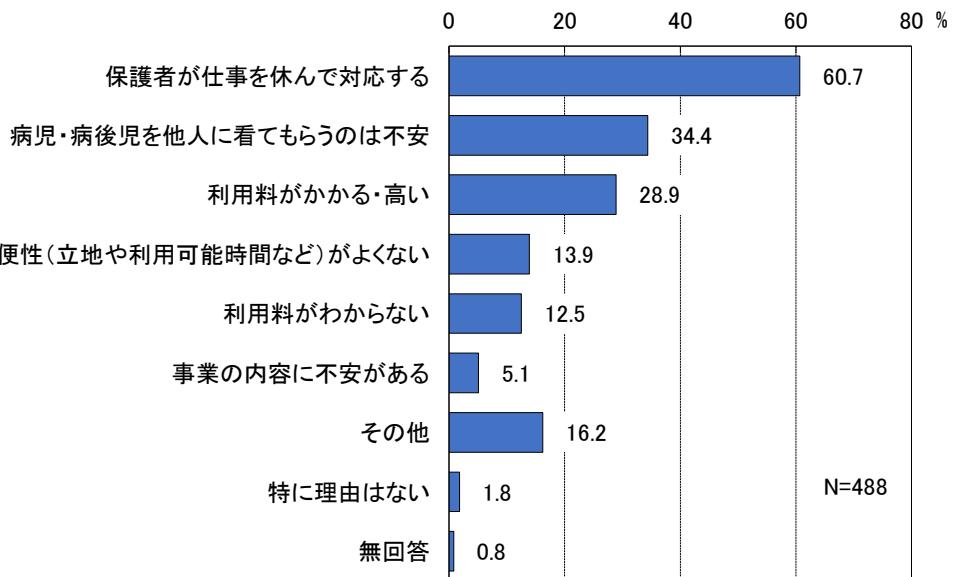
問13-2 問13-1で「1. 父親が休んだ」「2. 母親が休んだ」のいずれかに回答した方にうかがいます。

その際、「できれば病児・病後児のための保育施設などを利用したい」と思われましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。



- 両親のいずれかが仕事を休んだと回答した人のうち、「できれば病児・病後児保育施設などを利用したい」と思った人の割合は23.5%となっている。

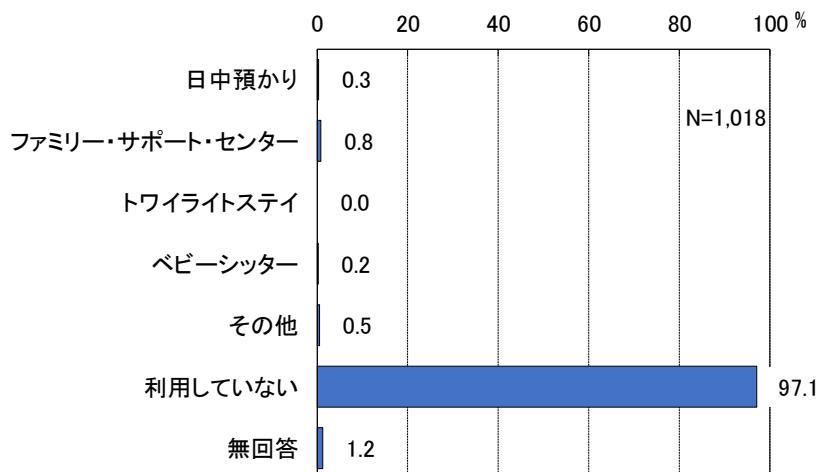
問13-3 問13-2で「利用したいとは思わない」に回答した方にうかがいます。
 「利用したいとは思わない」理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



- 病児・病後児のための保育施設などを「利用したいとは思わない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「保護者が仕事を休んで対応する」という回答が 60.7%と最も多く、以下、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 34.4%、「利用料がかかる・高い」が 28.9%と続いている。
- 「その他」の内容としては、「子どもが行きたがらない」「子どもがかわいそうだから」「他の病気がうつりそうだから」「すぐには見てもらえず手続に時間がかかるため」などがあがっている。

6. 不定期の教育・保育事業や一時預かりなどの利用について

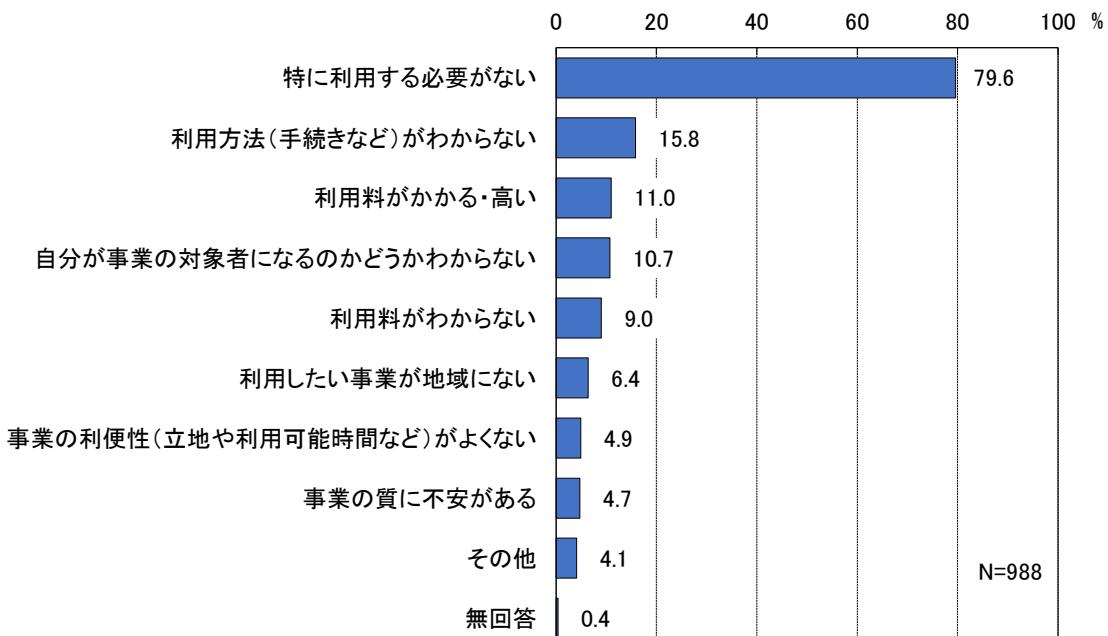
問 14 宛名のお子さんについて、現在、私用（冠婚葬祭、リフレッシュなど）、保護者の通院、不定期の就労などの目的で不定期に利用している事業はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



- 私用や保護者の通院、不定期の就労などのため、不定期に利用している事業があるか尋ねたところ、「利用していない」と回答した人は 97.1%で、何らかの事業を利用している人は 1.7%となっている。

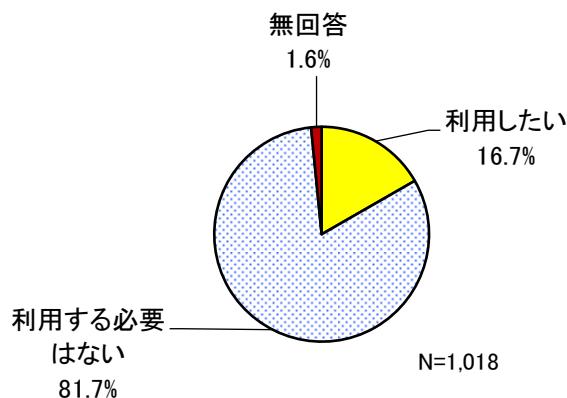
問14-1 問14で「6. 利用していない」と回答した方にうかがいます。

現在利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

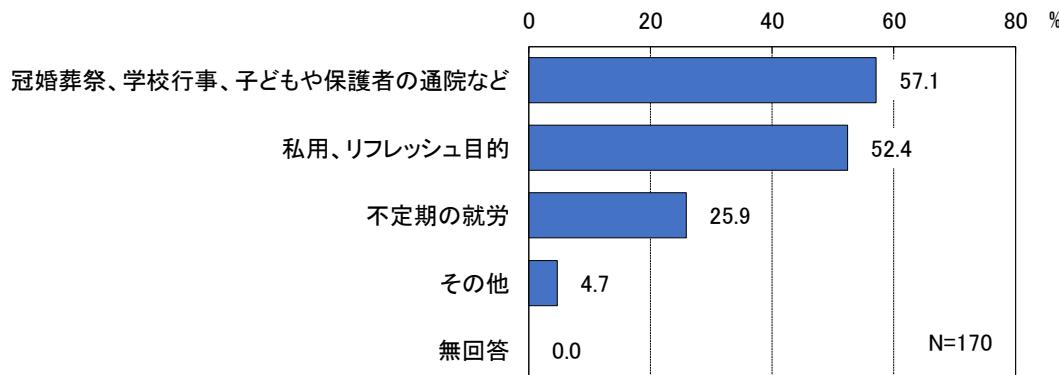


- 「利用していない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「特に利用する必要がない」と回答した人が 79.6%と大半を占めているが、それ以外の理由としては「利用方法（手続きなど）がわからない」（15.8%）や「利用料がかかる・高い」（11.0%）、「自分が事業の対象者になるのかどうかわからない」（10.7%）が上位にあがっている。

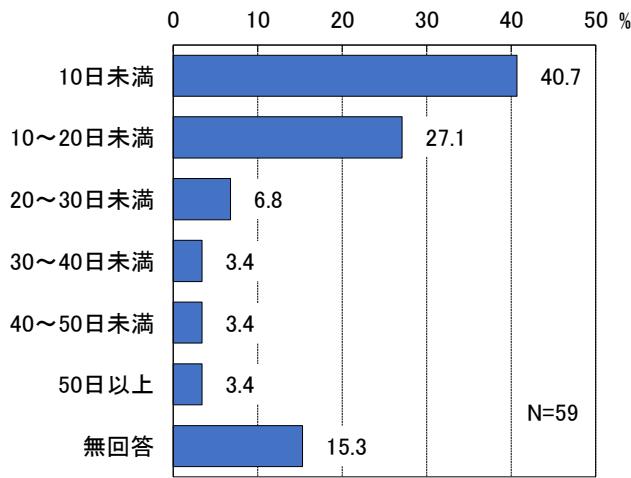
問 15 すべての方にうかがいます。今後、宛名のお子さんについて、私用（冠婚葬祭、リフレッシュなど）、保護者の通院、不定期の就労などの目的で、年間何日くらい事業を利用が必要があると思いますか。あてはまる番号・記号すべてに○をつけてください。



【目的の内訳】

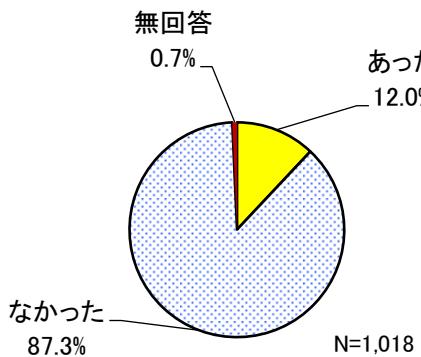


【年間必要日数】

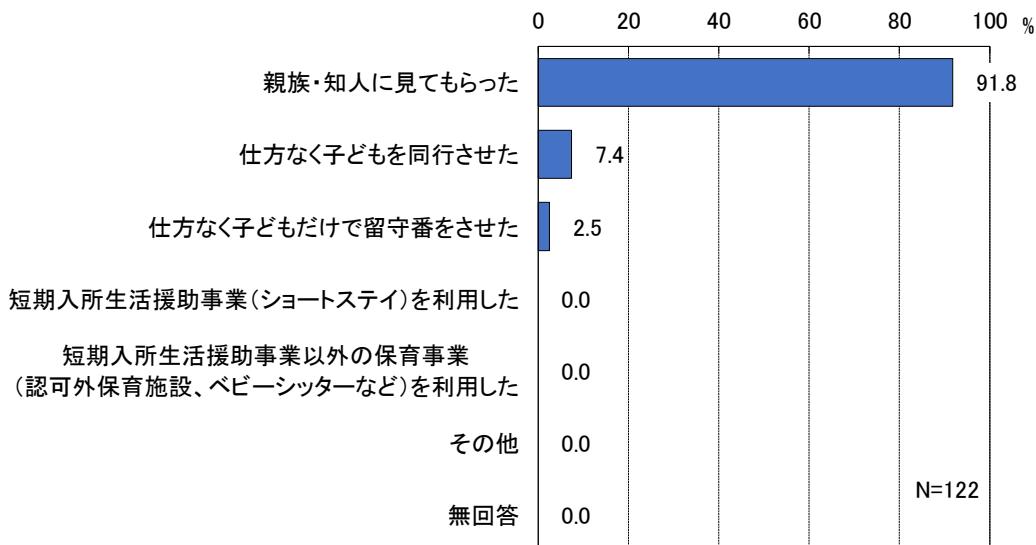


- 私用や保護者の通院、不定期の就労などのため、一時預かりなどの事業を「利用したい」と回答した人の割合は 16.7% となっている。
- 目的としては、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや保護者の通院など」(57.1%) や「私用、リフレッシュ目的」(52.4%) が多く、年間必要日数は「10 日未満」(40.7%) が多くなっている。

問 16 すべての方にうかがいます。この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、宛名のお子さんを泊りがけて家族以外に見てもらわなければならぬことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。あった場合は、この1年間の対処方法としてあてはまる番号・記号すべてに○をつけてください。



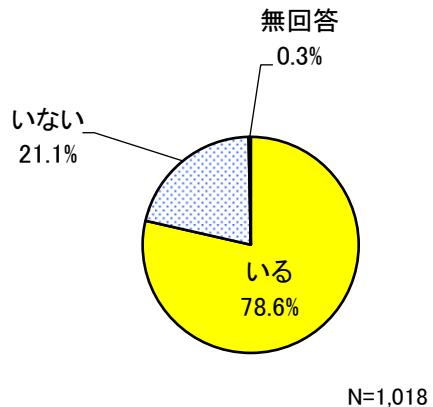
【対処方法の内訳】



- この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊りがけて家族以外に見てもらわなければならないことが「あった」と回答した人の割合は12.0%となっている。
- 対処方法の内訳としては、「親族・知人に見てもらった」が91.8%と大半を占めており、「仕方なく子どもを同行させた」が7.4%でそれに続いている

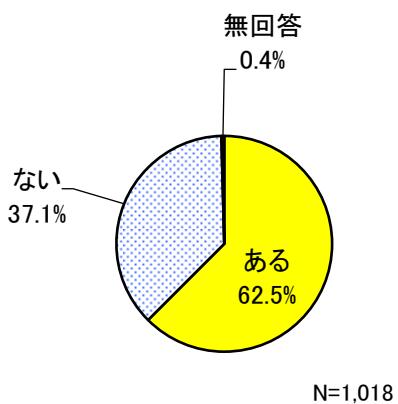
7. 子どもの遊びや地域活動について

問17 近所にお子さんの遊び相手がいますか。（1つだけ○）



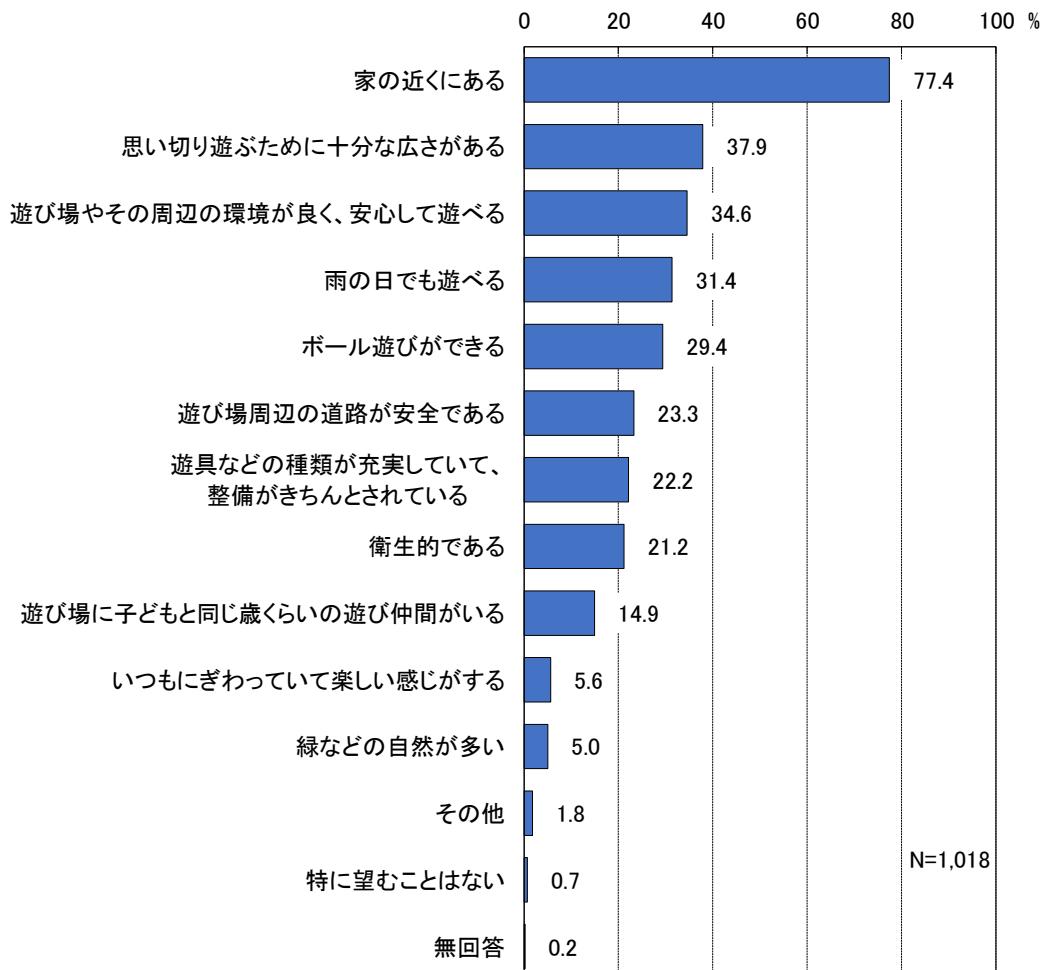
- 近所に対象児童の遊び相手が「いる」と回答した人の割合は78.6%、「いない」と回答した人の割合は21.1%となっている。

問18 近くに安心して遊べる場所がありますか。（1つだけ○）



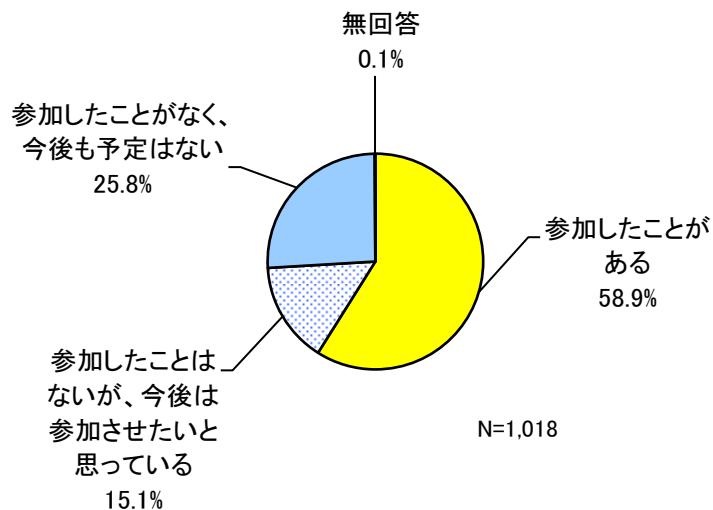
- 近くに安心して遊べる場所が「ある」と回答した人の割合は62.5%、「ない」と回答した人の割合は37.1%となっている。

問19 どのような遊び場を望みますか。（3つまで○）



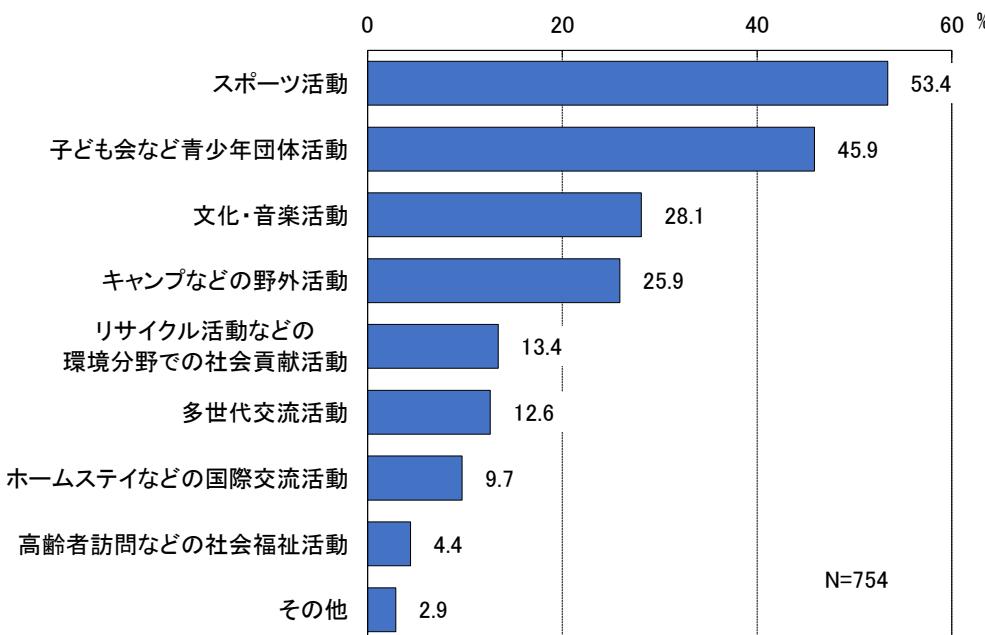
- どのような遊び場を望むか尋ねたところ、「家の近くにある」が 77.4%と最も多く、以下、「思い切り遊ぶために十分な広さがある」(37.9%)、「遊び場やその周辺の環境が良く、安心して遊べる」(34.6%)、「雨の日でも遊べる」(31.4%)、「ボール遊びができる」(29.4%)と続いている。

問20 あて名のお子さんは地域活動やグループ活動などに参加されたことがありますか。
(1つだけ○)



- 対象児童が地域活動やグループ活動などに「参加したことがある」と回答した人の割合は 58.9%、「参加したことではないが、今後は参加させたいと思っている」と回答した人の割合は 15.1%となっている。

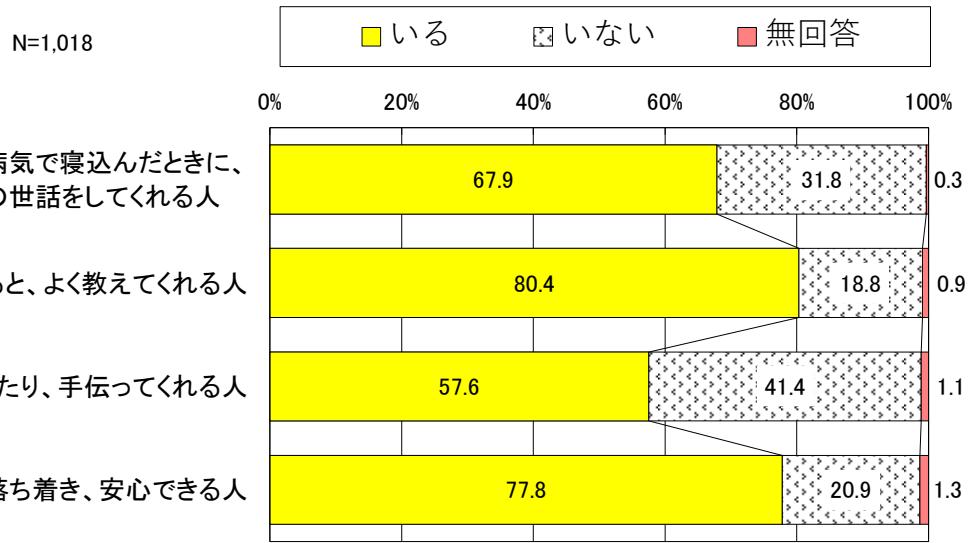
問21 問20で「1. 参加したことがある」または「2. 参加したことはないが、今後は参加させたいと思っている」に○をつけた方にうかがいます。お子さんが参加したことがある、または今後参加させたい地域活動やグループ活動の種類は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



- 対象児童が地域活動やグループ活動などに「参加したことがある」または「参加したことはないが、今後は参加させたいと思っている」と回答した人に、その種類を尋ねたところ、「スポーツ活動」を選択した人の割合が53.4%と最も多く、以下、「子ども会など青少年団体活動」が45.9%、「文化・音楽活動」が28.1%、「キャンプなどの野外活動」が25.9%と続いている。

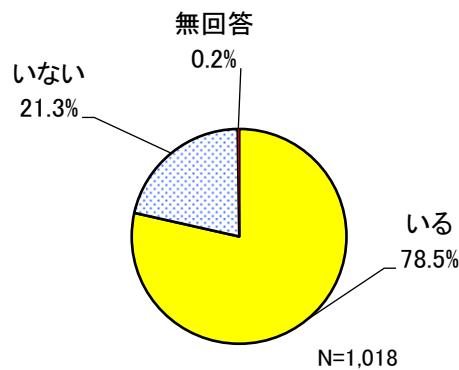
8. 子育て全般について

問22 あなたのお住まいの近く（おおむね30分以内）に、①～④に該当する人（親族、友人、同僚など）がいますか。（①～④のそれぞれについて1つだけ○）



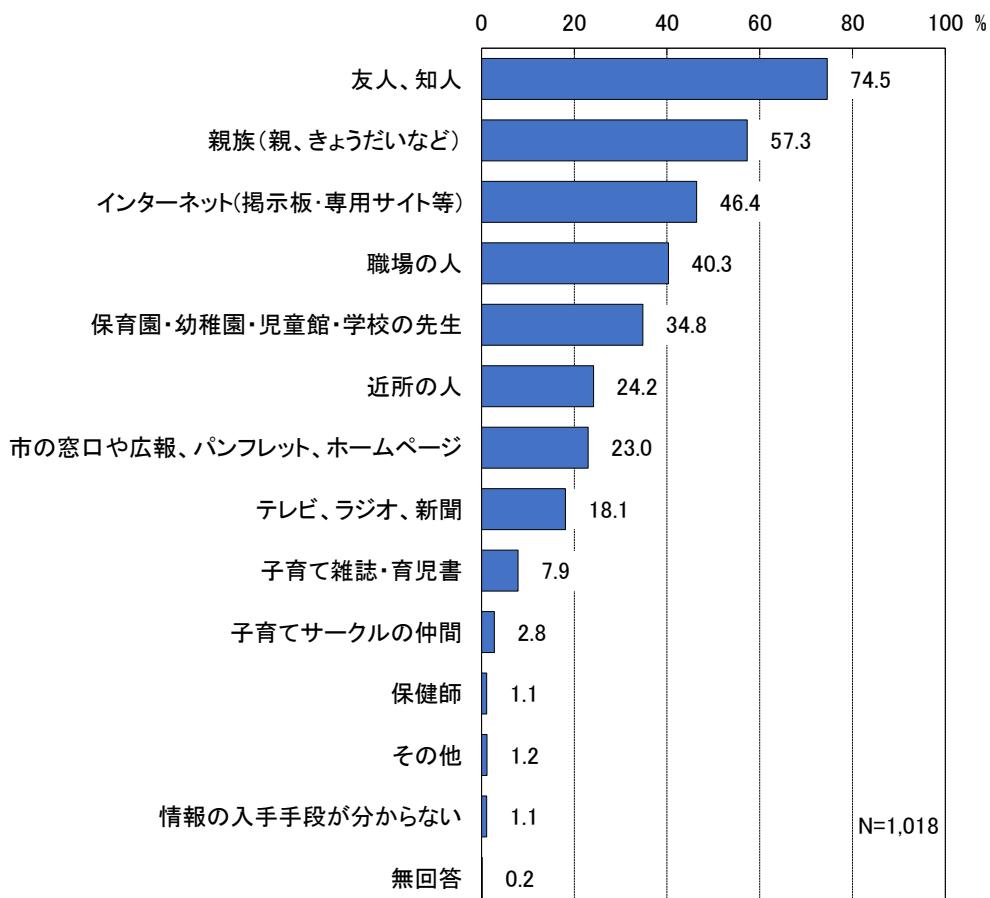
- 「あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる人」が「いる」と回答した人は67.9%、「わからないことがあると、よく教えてくれる人」が「いる」と回答した人は80.4%、「家事をやってくれたり、手伝ってくれる人」が「いる」と回答した人は57.6%、「会うと心が落ち着き、安心できる人」が「いる」と回答した人は77.8%となっている。

問23 あなたは子どもと一緒に遊ばせたり、助け合ったりする子育て仲間がいますか。



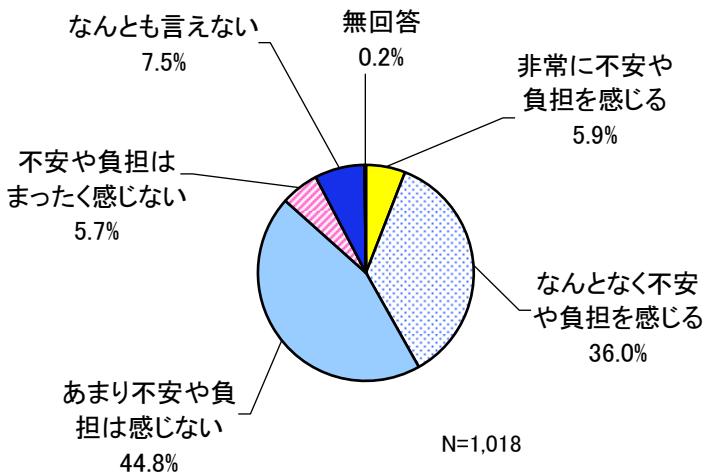
- 子どもと一緒に遊ばせたり、助け合ったりする子育て仲間が「いる」と回答した人の割合は78.5%、「いない」と回答した人の割合は21.3%となっている。

問24 子育てに関する情報をどのように入手されていますか。（あてはまるものすべてに○）



- 子育てに関する情報の入手先については、回答割合が高い順に「友人・知人」(74.5%)、「親族(親、きょうだいなど)」(57.3%)、「インターネット(掲示板・専用サイト等)」(46.4%)、「職場の人」(40.3%)、「保育園・幼稚園・児童館・学校の先生」(34.8%)と続いている。

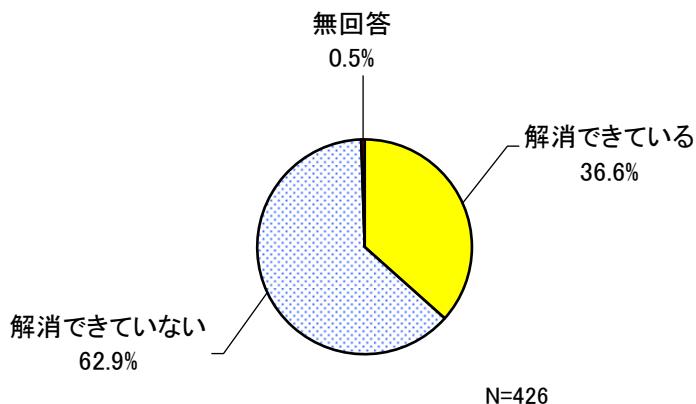
問25 子育てに関して不安や負担を感じますか。（1つだけ○）



- 子育てに「非常に不安や負担を感じる」と回答した人の割合は 5.9%で、「なんとなく不安や負担を感じる」(36.0%)と回答した人を合わせると 41.9%となっている。

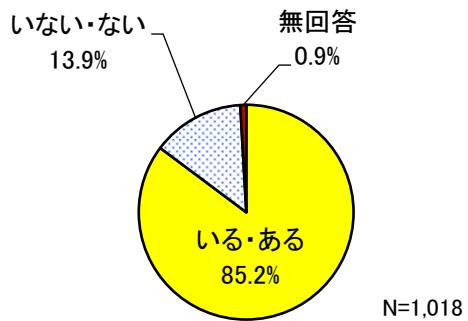
問25-1 問25で「1. 非常に不安や負担を感じる」「2. なんとなく不安や負担を感じる」に○をつけた方にうかがいます。

その不安や負担は解消できていますか。



- 「不安や負担を感じる」と回答した人のうち、その不安や負担が「解消できている」と回答した人の割合は 36.6%で、「解消できていない」と回答した人の割合 (62.9%) を 26.3 ポイント下回っている。

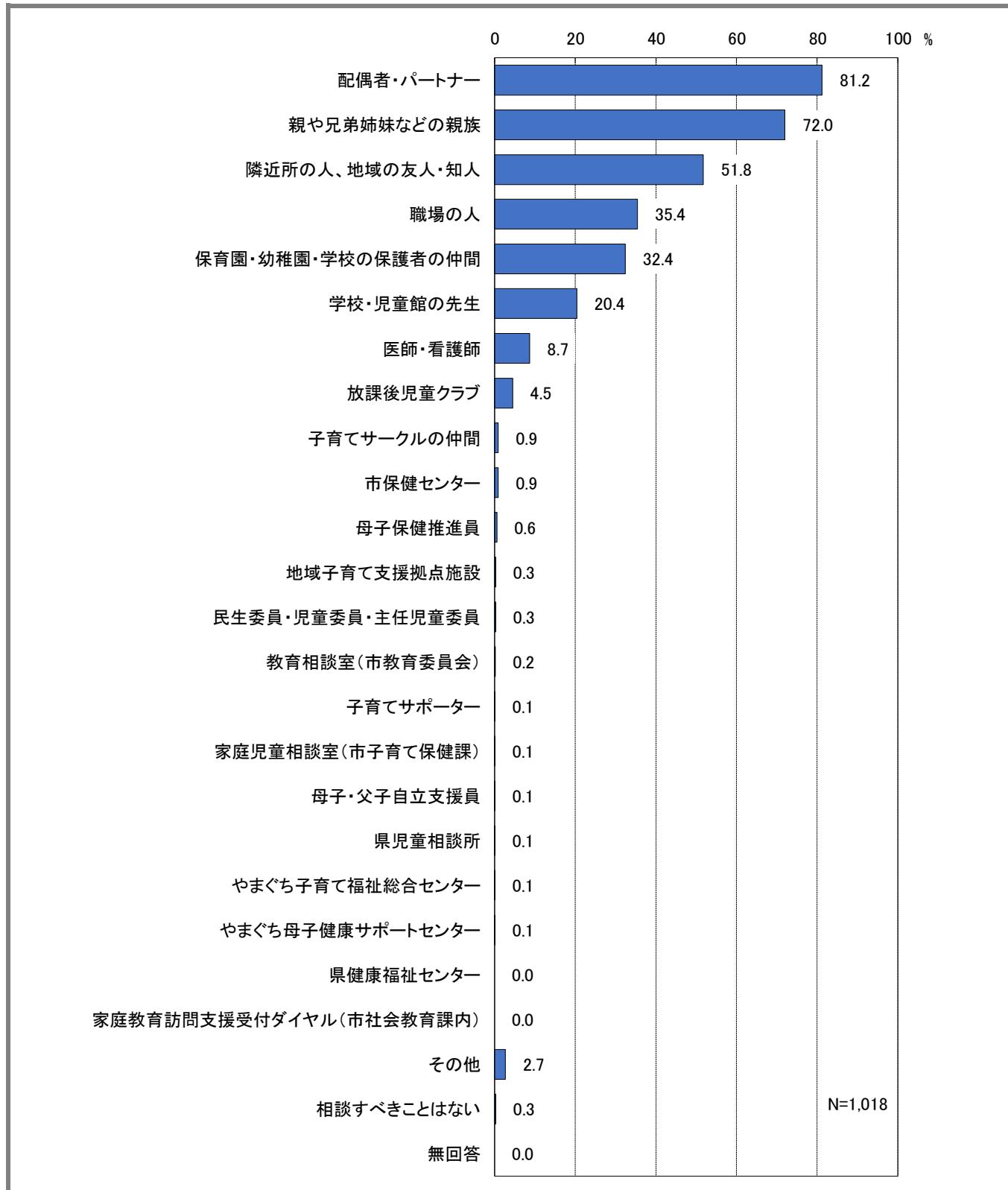
問26 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人や相談できる場所はありますか。



- 子育てについて気軽に相談できる人や場所が「いない・ない」と回答した人の割合は 13.9% となっている。

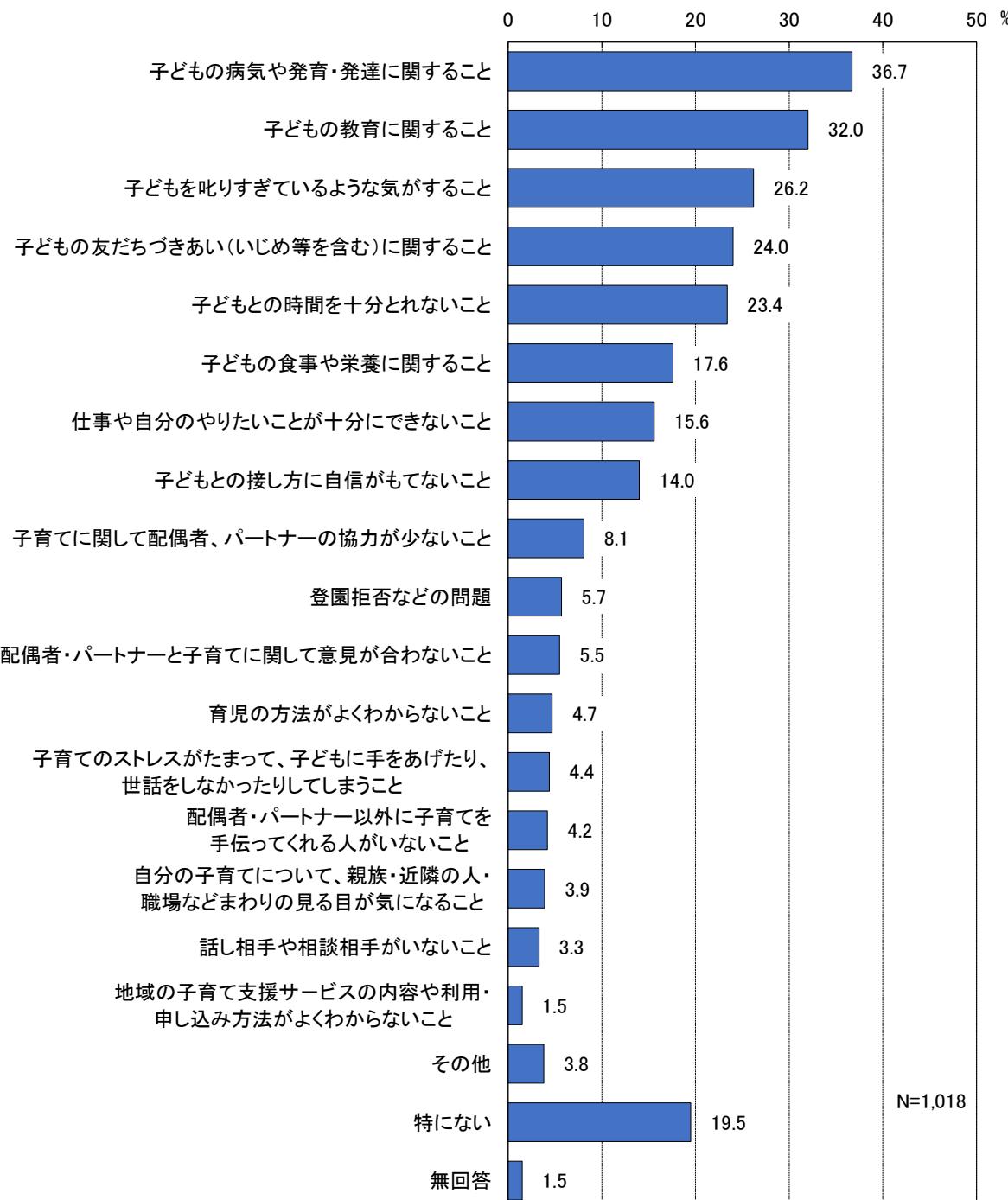
問26-1 問26で「1.いる・ある」に○をつけた方にうかがいます。

お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）



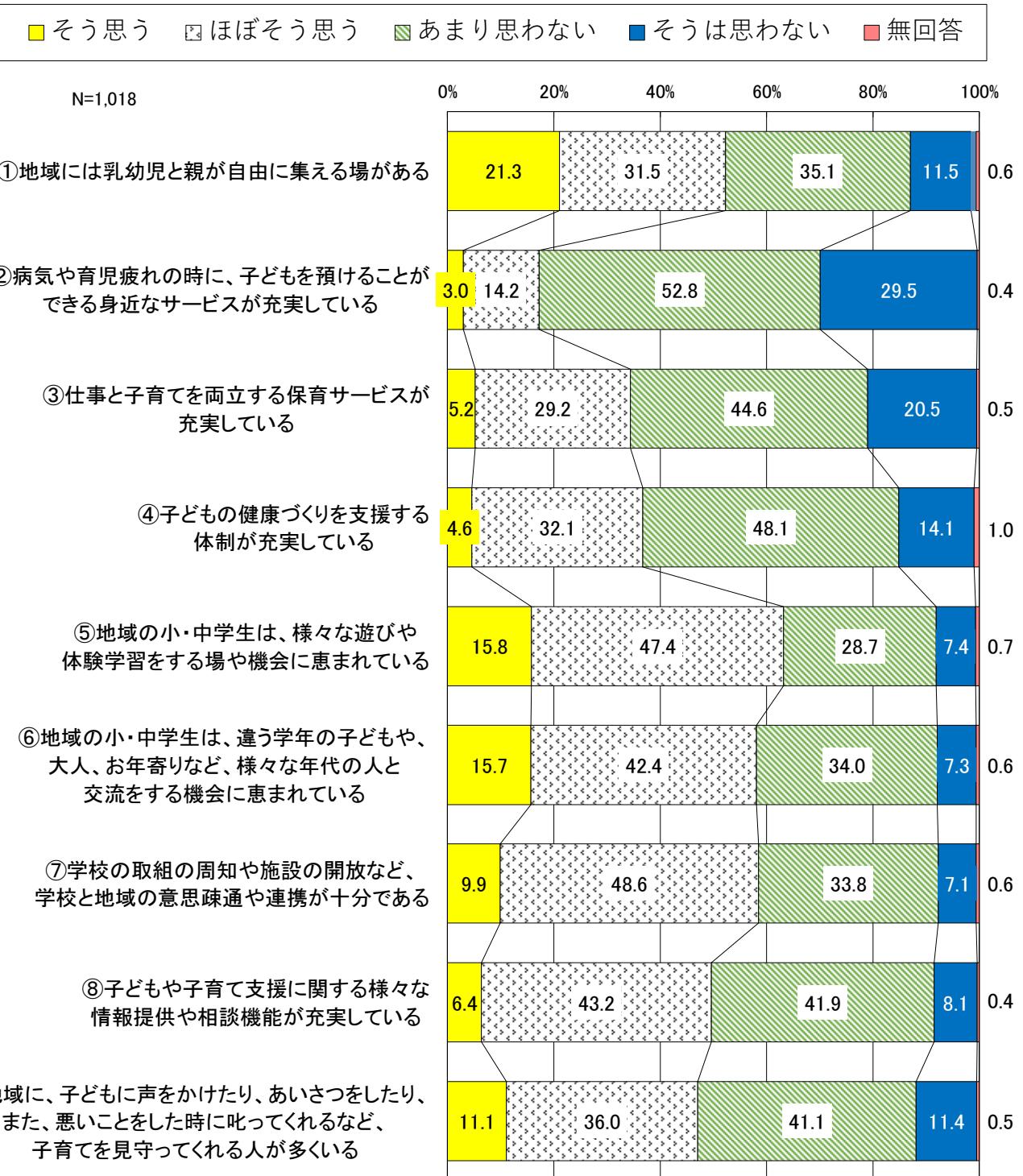
- 子育てに関する相談先については、「配偶者・パートナー」(81.2%)、「親や兄弟姉妹などの親族」(72.0%)、「隣近所の人、地域の友人・知人」(51.8%) が上位を占めている。

問27 子育てに関して、これまでに困ったことや、現在、悩んでいることはどのようなことで
すか。（あてはまるものすべてに○）



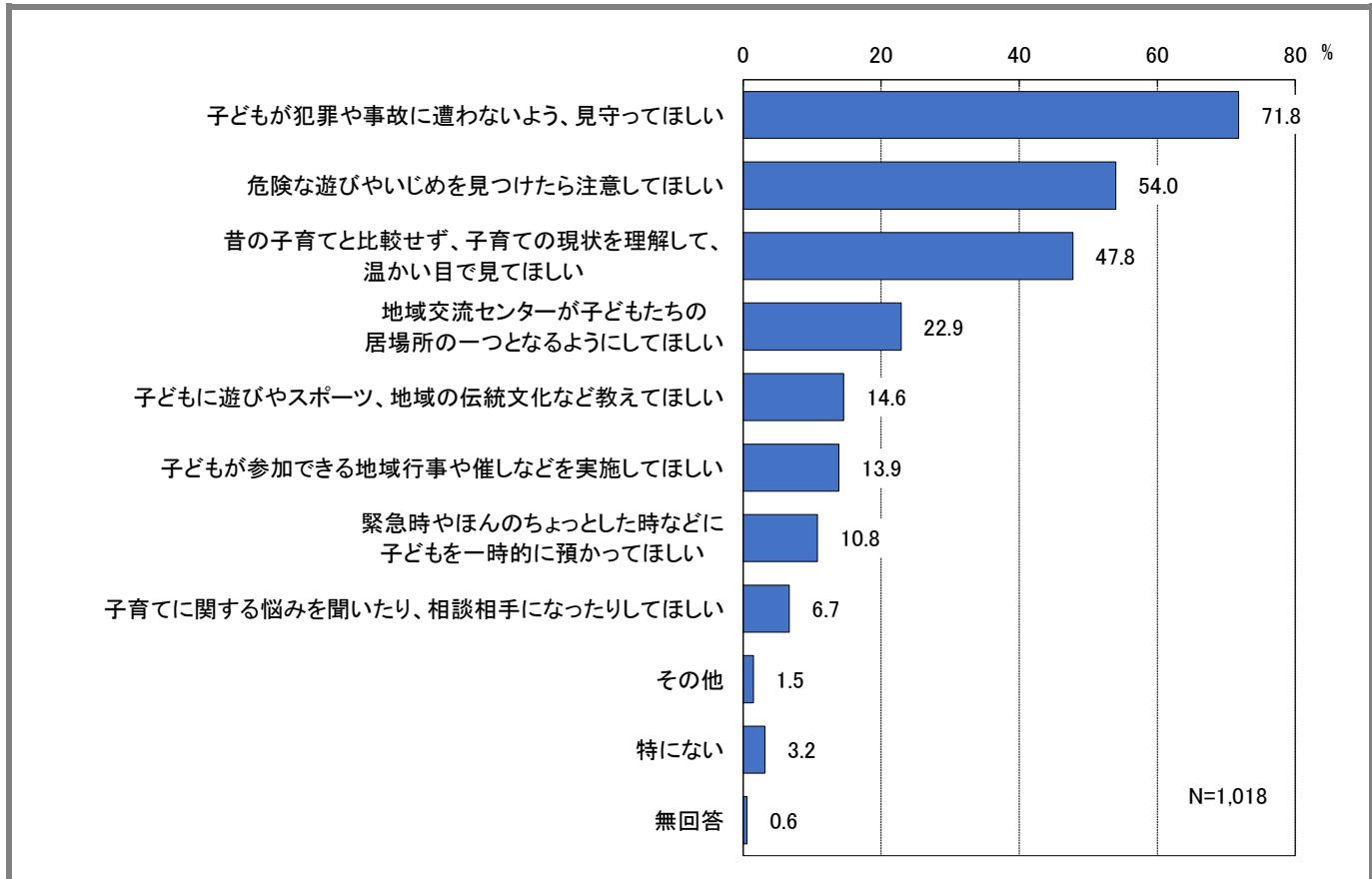
- 子育てに関して困ったり悩んだりしていることとしては、「子どもの病気や発育・発達に関するこ^ト」が36.7%と最も多く、次いで「子どもの教育に関するこ^ト」(32.0%)や「子どもを叱りすぎているような気がすること」(26.2%)、「子どもの友だちづきあい(いじめ等を含む)に関するこ^ト」(24.0%)、「子どもとの時間を十分とれないこと」(23.4%)が多くなっている。

問28 あなたが現在住んでいる地域の子育て環境について、あなたの意見を回答してください。（①～⑨のそれぞれについて1つだけ〇）



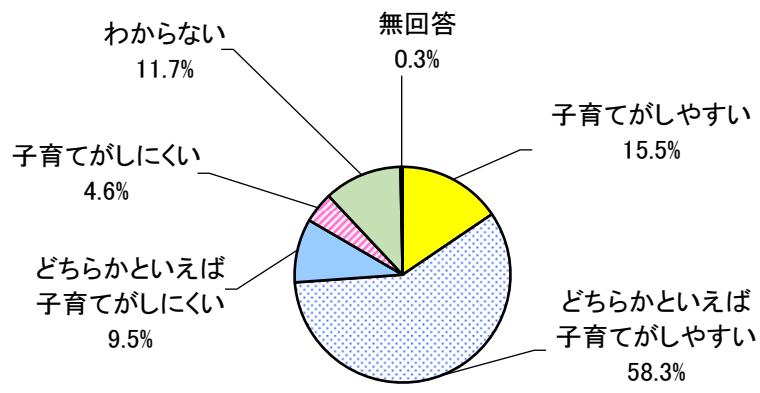
- 地域の子育て環境についての意見は上のとおりで、「そう思う」「ほぼそう思う」という回答割合が高かったのは、「地域の小・中学生は、様々な遊びや体験学習をする場や機会に恵まれている」(63.2%)で、逆に回答割合が低かったのは、「病気や育児疲れの時に、子どもを預けることができる身近なサービスが充実している」(17.2%)となっている。

問29 子育て支援として、身近な地域の人にどのようなことを期待しますか。（3つまで○）



- 身近な地域の人に期待する子育て支援としては、「子どもが犯罪や事故に遭わないよう、見守ってほしい」が 71.8%と最も多く、以下、「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」(54.0%)、「昔の子育てと比較せず、子育ての現状を理解して、温かい目で見てほしい」(47.8%)と続いている。

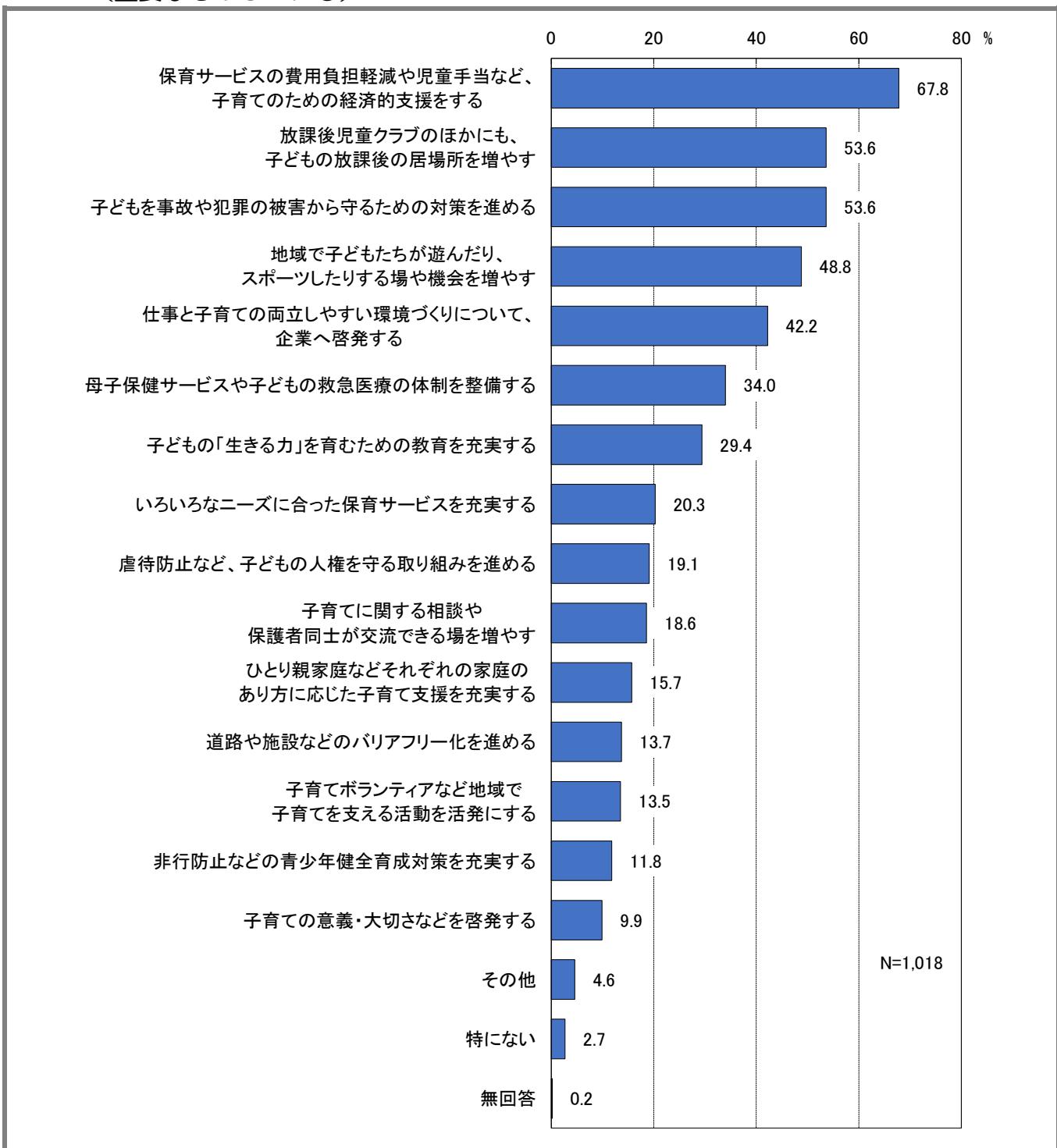
問30 いろいろなことを総合して、山口市は子育てがしやすいと思いますか。（1つだけ○）



N=1,018

- 総合的に見て、山口市は「子育てがしやすい」(15.5%)、「どちらかといえば子育てがしやすい」(58.3%)と回答した人の割合は73.8%で、「子育てがしにくい」(4.6%)、「どちらかといえば子育てがしにくい」(9.5%)と回答した人の割合(14.1%)を59.7ポイント上回っている。

問31 子どもを健やかに生み育てるために、市にどのようなことを期待しますか。
(重要なものの5つに○)

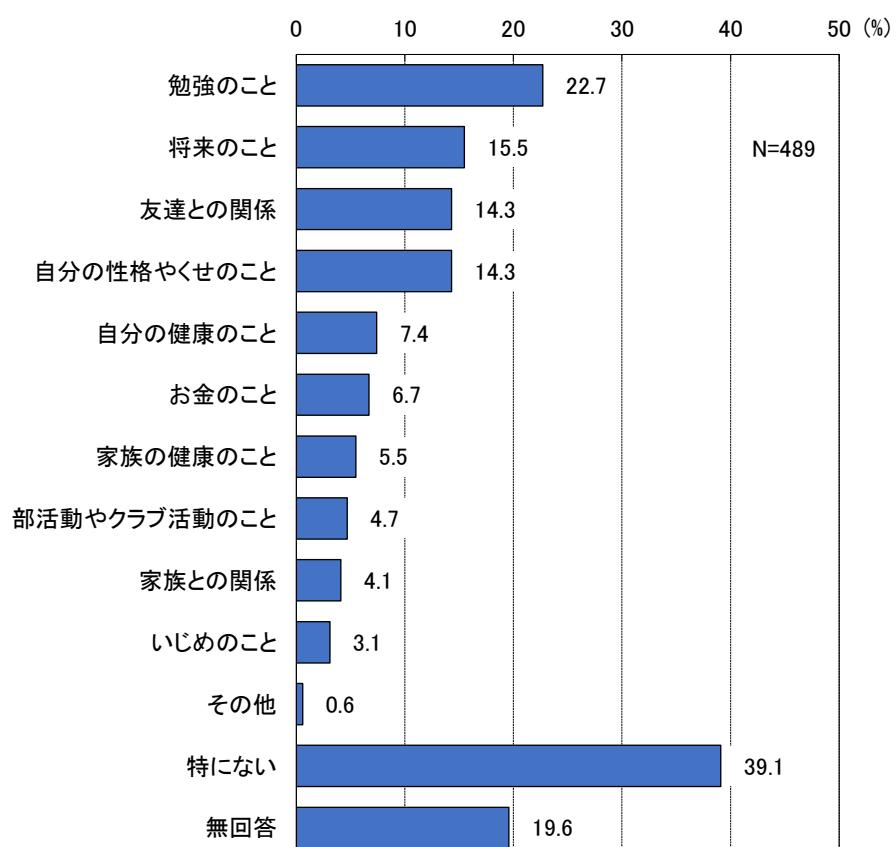


- 子どもを健やかに生み育てるために市に期待することとしては、「保育サービスの費用負担軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援をする」が67.8%と最も多く、以下、「放課後児童クラブのほかにも、子どもの放課後の居場所を増やす」「子どもを事故や犯罪の被害から守るために対策を進める」(ともに53.6%)、「地域で子どもたちが遊んだり、スポーツしたりする場や機会を増やす」(48.8%)、「仕事と子育ての両立しやすい環境づくりについて、企業へ啓発する」(42.2%)と続いている。

第3章 小学4年生以上の児童に対する調査

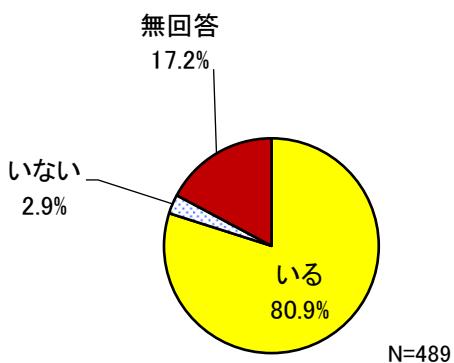
1. 小学4年生以上のお子さんへの質問について

問33 学校やふだんの生活の中で困っていること、心配なことはありますか。（あてはまるものすべてに○）



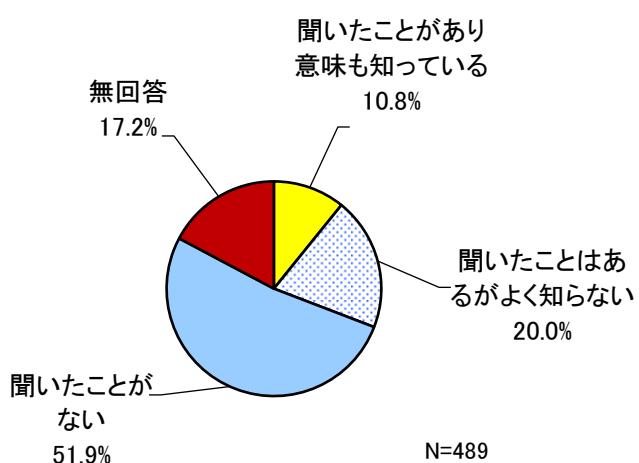
- 学校やふだんの生活の中で困っていること、心配なこととしては、「勉強のこと」と回答した人は 22.7% と最も多く、「将来のこと」が 15.5%、「友達との関係」「自分の性格やくせのこと」がともに 14.3% で、それに続いている。

問34 あなたが困ったり悩んだりしたときに、話を聞いてくれる人がいますか。



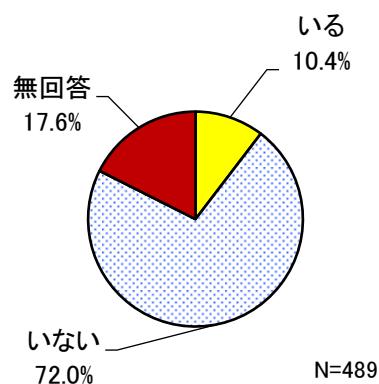
- 困ったり悩んだりしたときに、話を聞いてくれる人が「いない」と回答した人の割合は2.9%となっている。

問35 ヤングケアラーについて、知っていますか。



- ヤングケアラーについて「聞いたことがあります意味も知っている」と回答した人は10.8%、「聞いたことはあるがよく知らない」と回答した人は20.0%、「聞いたことがない」と回答した人は51.9%となっている。

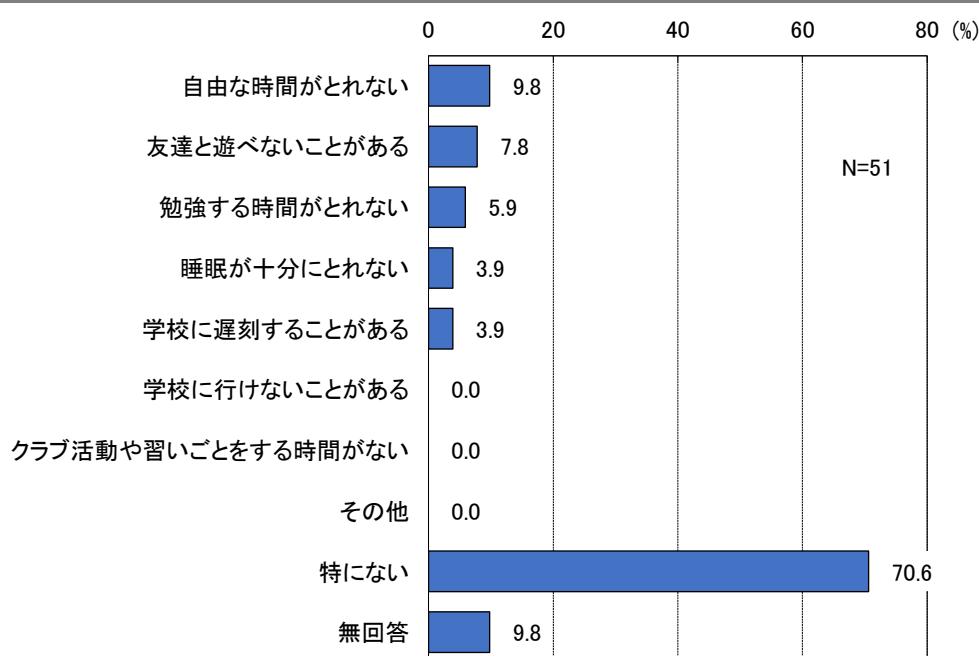
問36 病気や障がい、きょうだいがおさないなどの理由で、あなたが手助けしている家族がいますか。



- 病気や障がい、きょうだいがおさないなどの理由で、あなたが手助けしている家族が「いる」と回答した人の割合は 10.4% となっている。

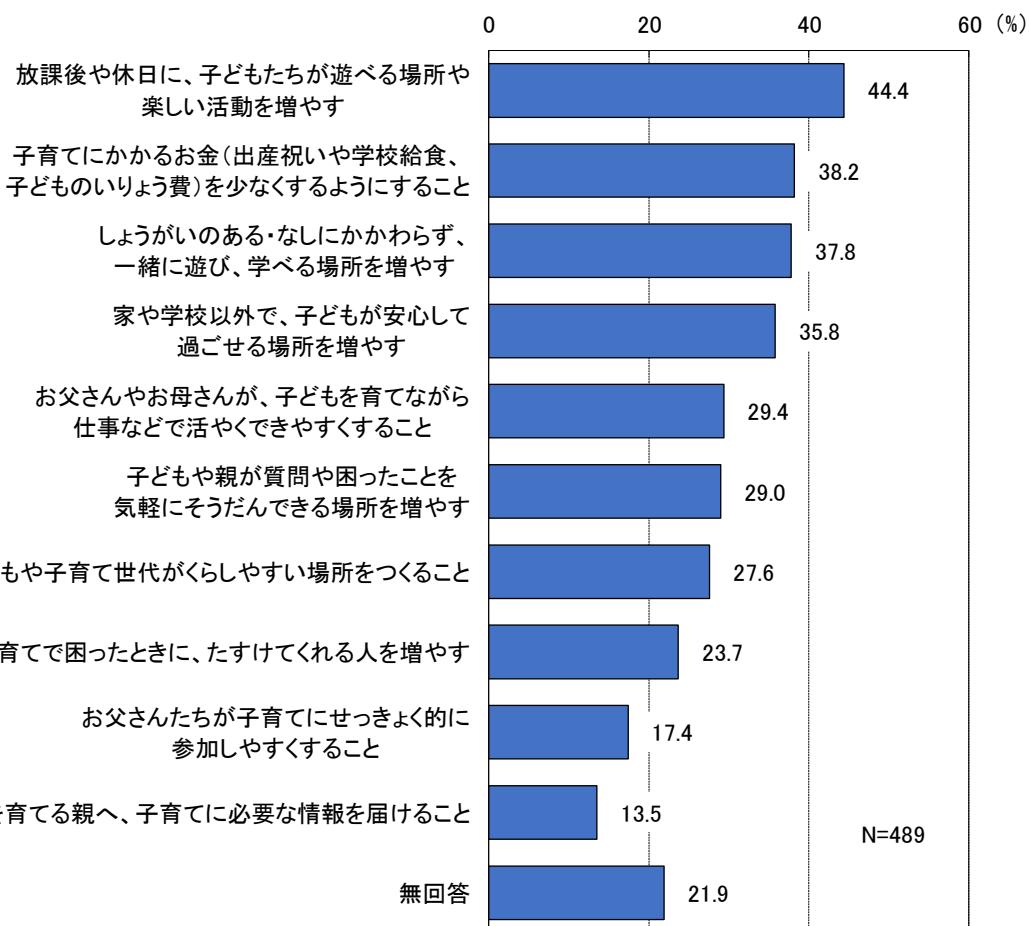
問36-1 問 36 で「1.いる」に○をつけた方にうかがいます。

家族の手助けをしていて、困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）



- 前問で、手助けしている家族が「いる」と回答した人に、家族の手助けをしていて、困っていることはあるか尋ねたところ、「特がない」と回答した人は 70.6% で、これと無回答を除く 19.6% の人は、何らかの困っていることがある結果となっている。
- 困っていることの内容としては、「自由な時間がとれない」(9.8%) や「友達と遊べないことがある」(7.8%) が上位にあがっている。

問37 あなたは、山口市で子どもたちが元気にいきいきと生活するためには、何が必要だと 思いますか。（あてはまるものすべてに○）



- 子どもたちが元気にいきいきと生活するために必要なこととしては、「放課後や休日に、子どもたちが遊べる場所や楽しい活動を増やす」と回答した人が44.4%と最も多く、以下、「子育てにかかるお金(出産祝いや学校給食、子どものいりょう費)を少なくするようにすること」(38.2%)、「しうがいのある・なしにかかわらず、一緒に遊び、学べる場所を増やす」(37.8%)、「家や学校以外で、子どもが安心して過ごせる場所を増やす」(35.8%)と続いている。

第 3 部

山口市子どもの貧困対策推進計画 に係るアンケート調査の結果

第1章 回答者の基本属性

1. 子どもとの続柄

問1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- 回答者は「母親」が92.0%、「父親」は6.4%となっている。

		上段:人(n)、下段:%				
	合計	母親	父親	祖父母	その他	無回答・不明
全体	988 100.0	909 92.0	63 6.4	7 0.7	4 0.4	5 0.5
小学5年生	587 100.0	544 92.7	36 6.1	3 0.5	2 0.3	2 0.3
中学2年生	401 100.0	365 91.0	27 6.7	4 1.0	2 0.5	3 0.7

2. 同居している家族

問2 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。(a~h それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

- 同居している家族の人数は、合計で「4人」が41.1%でもっとも高く、続いて「5人」の30.0%であった。また、「2人」と回答した人は2.0%であった。

h) 合計（回答者、対象の子どもを含む）

	合計	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	無回答・不明
全体	988 100.0	20 2.0	101 10.2	406 41.1	296 30.0	81 8.2	38 3.8	10 1.0	2 0.2	1 0.1	33 3.3
小学5年生	587 100.0	11 1.9	52 8.9	249 42.4	181 30.8	42 7.2	24 4.1	6 1.0	2 0.3	- -	20 3.4
中学2年生	401 100.0	9 2.2	49 12.2	157 39.2	115 28.7	39 9.7	14 3.5	4 1.0	- -	1 0.2	13 3.2

各続柄については、下記のとおり。

a) 祖母

	合計	いない	1人	2人	無回答・不明
全体	988 100.0	629 63.7	113 11.4	4 0.4	242 24.5
小学5年生	587 100.0	387 65.9	64 10.9	2 0.3	134 22.8
中学2年生	401 100.0	242 60.3	49 12.2	2 0.5	108 26.9

b) 祖父

	合計	0人	1人	2人	無回答・不明
全体	988 100.0	653 66.1	85 8.6	1 0.1	249 25.2
小学5年生	587 100.0	401 68.3	47 8.0	- -	139 23.7
中学2年生	401 100.0	252 62.8	38 9.5	1 0.2	110 27.4

c) 母親

上段:人(n)、下段:%

	合計	0人	1人 以上	無回答 ・不明
全体	988 100.0	13 1.3	949 96.1	26 2.6
小学5年生	587 100.0	6 1.0	568 96.8	13 2.2
中学2年生	401 100.0	7 1.7	381 95.0	13 3.2

d) 父親

上段:人(n)、下段:%

	合計	0人	1人 以上	無回答 ・不明
全体	988 100.0	80 8.1	870 88.1	38 3.8
小学5年生	587 100.0	45 7.7	525 89.4	17 2.9
中学2年生	401 100.0	35 8.7	345 86.0	21 5.2

e) 姉・兄

上段:人(n)、下段:%

	合計	0人	1人	2人	3人	4人以上	無回答 ・不明
全体	988 80.5	299 30.3	377 38.2	119 12.0	14 1.4	10 1.0	169 17.1
小学5年生	587 100.0	176 30.0	222 37.8	80 13.6	10 1.7	5 0.9	94 16.0
中学2年生	401 100.0	123 30.7	155 38.7	39 9.7	4 1.0	5 1.2	75 18.7

f) 妹・弟

上段:人(n)、下段:%

	合計	0人	1人	2人	3人	4人以上	無回答 ・不明
全体	988 80.3	307 31.1	353 35.7	133 13.5	15 1.5	1 0.1	179 18.1
小学5年生	587 100.0	195 33.2	202 34.4	81 13.8	8 1.4	1 0.2	100 17.0
中学2年生	401 100.0	112 27.9	151 37.7	52 13.0	7 1.7	- -	79 19.7

g) その他

上段:人(n)、下段:%

	合計	0人	1人	2人	3人	4人以上	無回答 ・不明
全体	988 58.4	561 56.8	14 1.4	2 0.2	1 0.1	2 0.2	408 41.3
小学5年生	587 100.0	345 58.8	10 1.7	1 0.2	- -	2 0.3	229 39.0
中学2年生	401 100.0	216 53.9	4 1.0	1 0.2	1 0.2	- -	179 44.6

3. 親の年齢

問3 お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。

- 子どもの親の年齢については、母親では、「40代」60.6%で最も多く、父親においても、「40代」が53.2%で最も多くなった。

【母親】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答 ・不明
全体	988 100.0	2 0.2	258 26.1	599 60.6	80 8.1	2 0.2	47 4.8
小学5年生	587 100.0	2 0.3	201 34.2	332 56.6	25 4.3	- -	27 4.6
中学2年生	401 100.0	- -	57 14.2	267 66.6	55 13.7	2 0.5	20 5.0

【父親】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答 ・不明
全体	988 100.0	- -	176 17.8	526 53.2	153 15.5	14 1.4	119 12.0
小学5年生	587 100.0	- -	143 24.4	302 51.4	68 11.6	7 1.2	67 11.4
中学2年生	401 100.0	- -	33 8.2	224 55.9	85 21.2	7 1.7	52 13.0

4. 単身赴任中の有無

問4 お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。（1～3については、あてはまるものすべてに○）

- 単身赴任中の状況については、「父親が単身赴任中」が5.3%、「母親が単身赴任中」が0%だった。

	合計	お子さんの母親 が単身赴任中	お子さんの父親 が単身赴任中	その他	単身赴任中の 者はいない	無回答 ・不明
全体	988 100.0	- -	52 5.3	14 1.4	899 91.0	23 2.3
小学5年生	587 100.0	- -	33 5.6	7 1.2	538 91.7	9 1.5
中学2年生	401 100.0	- -	19 4.7	7 1.7	361 90.0	14 3.5

5. 婚姻の状況

問5 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- 子どもの親の婚姻状況については、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が86.8%、「離婚」が8.3%、「死別」が1.3%、「未婚」が1.0%となっていた。
このうち、「離婚」、「死別」、「未婚」を合わせた「ひとり親世帯」は10.6%だった。
また、(1) 子どもとの続柄、(2) 同居している家族の c) 母親、d) 父親の回答結果から「ひとり親世帯」の「母子家庭」、「父子家庭」を判別すると、「ひとり親世帯」のうち、「母子家庭」が67.6%、「父子家庭」が7.6%だった。

	合計	結婚している (再婚や事実婚 を含む。)	離婚	死別	未婚	わからない	いない	上段:人(n)、下段:% 無回答 ・不明
全体	988 100.0	858 86.8	82 8.3	13 1.3	10 1.0	-	10 1.0	15 1.5
小学5年生	587 100.0	518 88.2	43 7.3	8 1.4	6 1.0	-	7 1.2	5 0.9
中学2年生	401 100.0	340 84.8	39 9.7	5 1.2	4 1.0	-	3 0.7	10 2.5

	合計	ふたり親世帯	ひとり親世帯	無回答 ・不明
全体	988 100.0	858 86.8	105 10.6	25 2.5
小学5年生	587 100.0	518 88.2	57 9.7	12 2.0
中学2年生	401 100.0	340 84.8	48 12.0	13 3.2

	合計	父子家庭	母子家庭	無回答 ・不明
ひとり親世帯	105 100.0	8 7.6	71 67.6	26 24.8

6. 家庭での使用言語

問6 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまるもの1つに○）

- 家庭での使用言語については、「日本語のみを使用している」が97.3%、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が1.7%、日本語以外の言語を使うことが多い」が0.1%となった。

上段:人(n)、下段:%					
	合計	日本語のみを使用している	日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	日本語以外の言語を使うことが多い	無回答・不明
全体	988 100.0	961 97.3	17 1.7	1 0.1	9 0.9
小学5年生	587 100.0	569 96.9	12 2.0	1 0.2	5 0.9
中学2年生	401 100.0	392 97.8	5 1.2	-	4 1.0

7. 親の学歴

問7 お子さんの親が卒業・修了した学校をお答えください。（a,b それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

- 子どもの親の最終学歴については、母親では「中学、高校」が26.8%、「中学、高校、専門学校」が21.4%、「中学、高校、短大」が22.2%となっており、「大学またはそれ以上」（「中学、高校（または5年制での高等専門学校）、大学」と「中学、高校（または5年制での高等専門学校）、大学、大学院」の合計）は、22.3%だった。

父親においては、「中学、高校」が27.8%、「中学、高校（または5年制での高等専門学校）、大学」が27.8%となった。

なお、母親と父親の最終学歴の組み合わせにおいては、「両親ともに大学以上」が15.7%、「両親のどちらかが大学以上」が28.1%だった。

【母親】

上段:人(n)、下段:%						
	合計	中学	中学、高校	中学、高校、専門学校	中学、5年制の高等専門学校	中学、高校、短大
全体	988 100.0	36 3.6	265 26.8	211 21.4	8 0.8	219 22.2
小学5年生	587 100.0	19 3.2	149 25.4	135 23.0	5 0.9	118 20.1
中学2年生	401 100.0	17 4.2	116 28.9	76 19.0	3 0.7	101 25.2

上段:人(n)、下段:%

	合計	中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学	中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院	その他	わからない	いない	無回答・不明
全体	988 100.0	166 16.8	54 5.5	6 0.6	3 0.3	2 0.2	18 1.8
小学5年生	587 100.0	110 18.7	36 6.1	4 0.7	2 0.3	- -	9 1.5
中学2年生	401 100.0	56 14.0	18 4.5	2 0.5	1 0.2	2 0.5	9 2.2

【父親】

上段:人(n)、下段:%

	合計	中学	中学、高校	中学、高校、専門学校	中学、5年制の高等専門学校	中学、高校、短大
全体	988 100.0	36 3.6	275 27.8	150 15.2	7 0.7	52 5.3
小学5年生	587 100.0	26 4.4	161 27.4	97 16.5	5 0.9	30 5.1
中学2年生	401 100.0	10 2.5	114 28.4	53 13.2	2 0.5	22 5.5

上段:人(n)、下段:%

	合計	中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学	中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院	その他	わからない	いない	無回答・不明
全体	988 100.0	275 27.8	98 9.9	4 0.4	5 0.5	20 2.0	66 6.7
小学5年生	587 100.0	156 26.6	61 10.4	4 0.7	2 0.3	13 2.2	32 5.5
中学2年生	401 100.0	119 29.7	37 9.2	- -	3 0.7	7 1.7	34 8.5

【母親と父親の最終学歴の組み合わせ】

上段:人(n)、下段:%

	合計	両親ともに大学以上	両親どちらかが大学以上	その他	無回答・不明
全体	988 100.0	155 15.7	278 28.1	481 48.7	74 7.5
小学5年生	587 100.0	104 17.7	152 25.9	292 49.7	39 6.6
中学2年生	401 100.0	51 12.7	126 31.4	189 47.1	35 8.7

第2章 保護者票の調査結果

1. 経済的な状況、暮らしの状況

(1) 世帯の年間収入

問 18 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つに○)

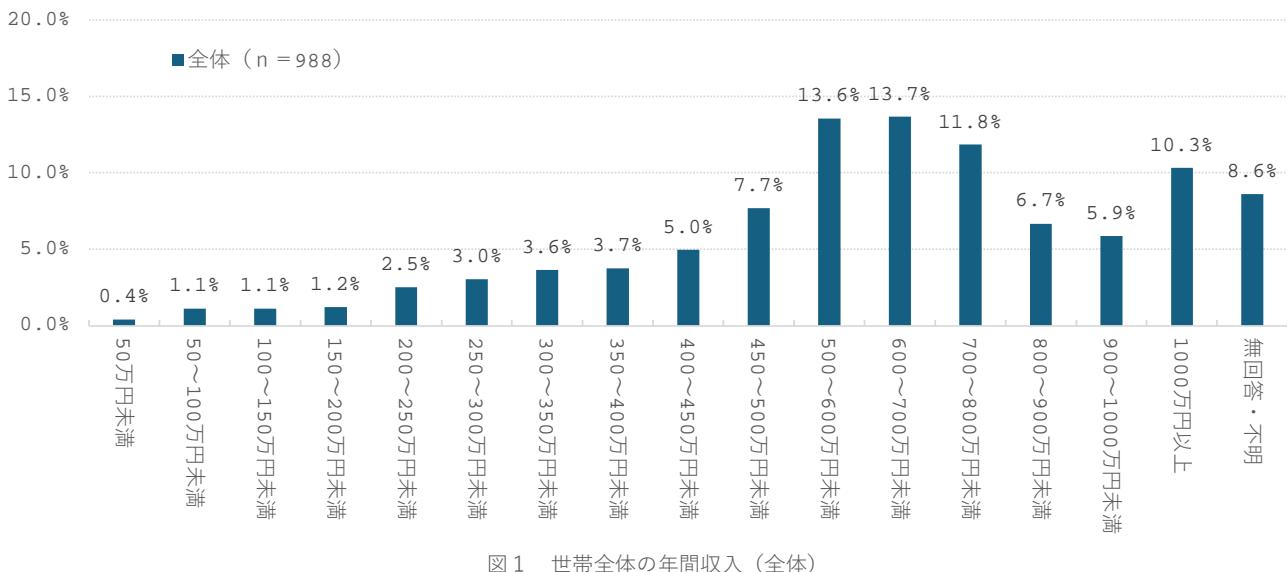


図1 世帯全体の年間収入（全体）

- 世帯全体の年間収入（税込）については、全体では、「600～700万円未満」が13.7%で最も割合が多く、続いて「500～600万円未満」(13.6%)、「700～800万円未満」(11.8%)となった。

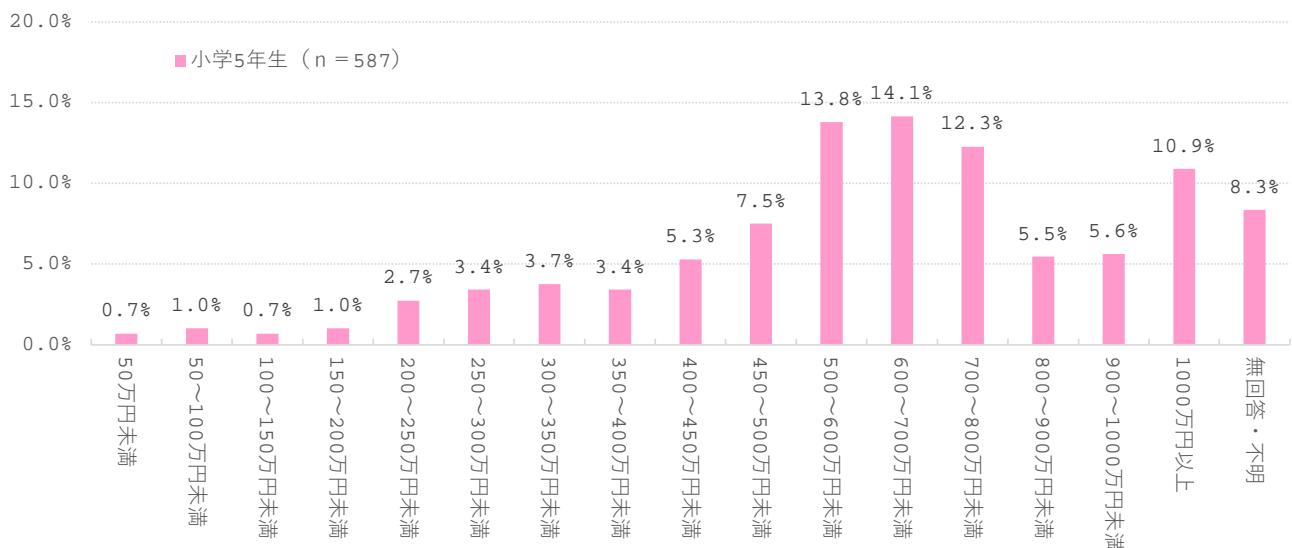


図2 世帯全体の年間収入（小学5年生）

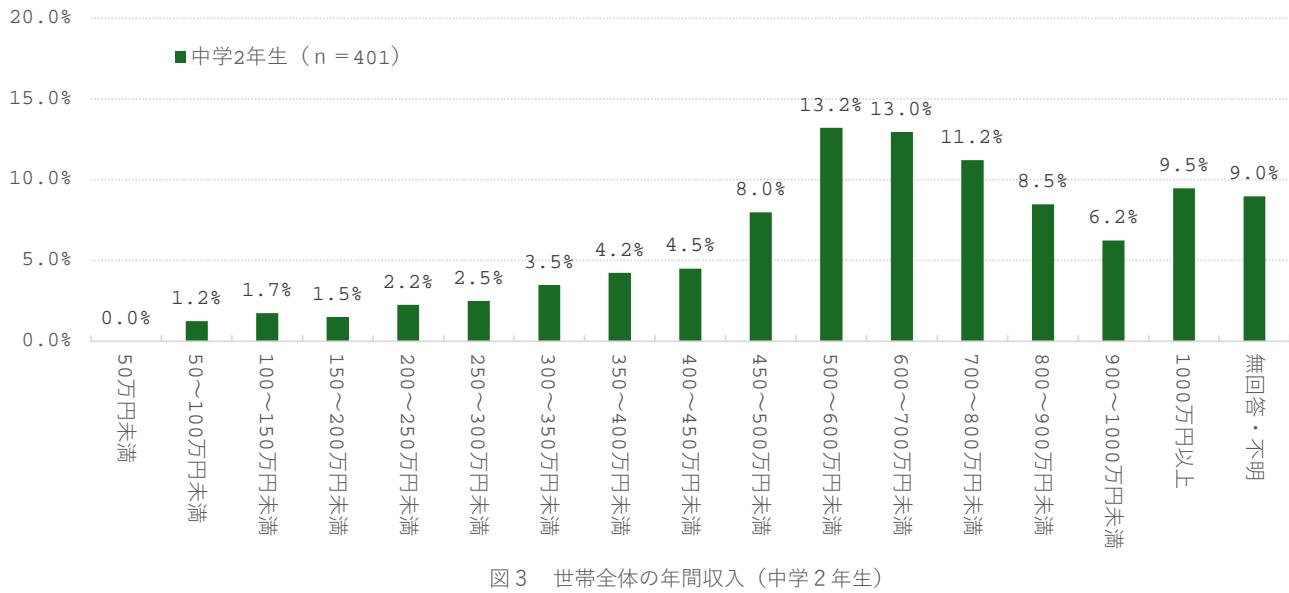
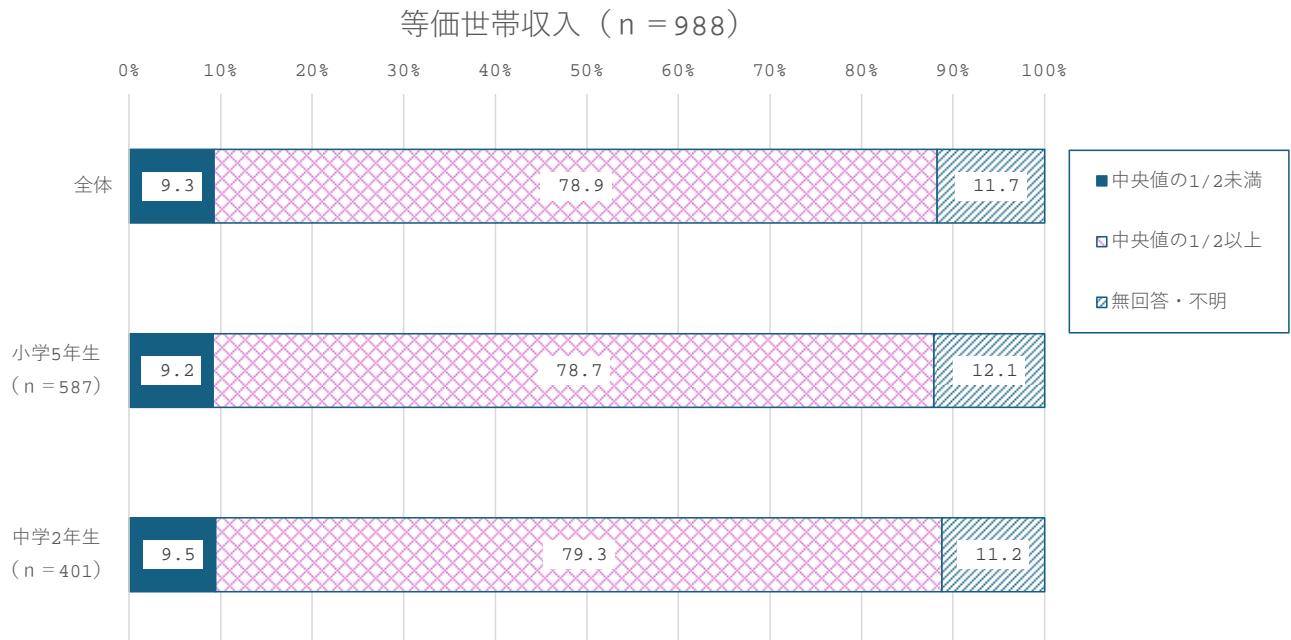


図3 世帯全体の年間収入（中学2年生）

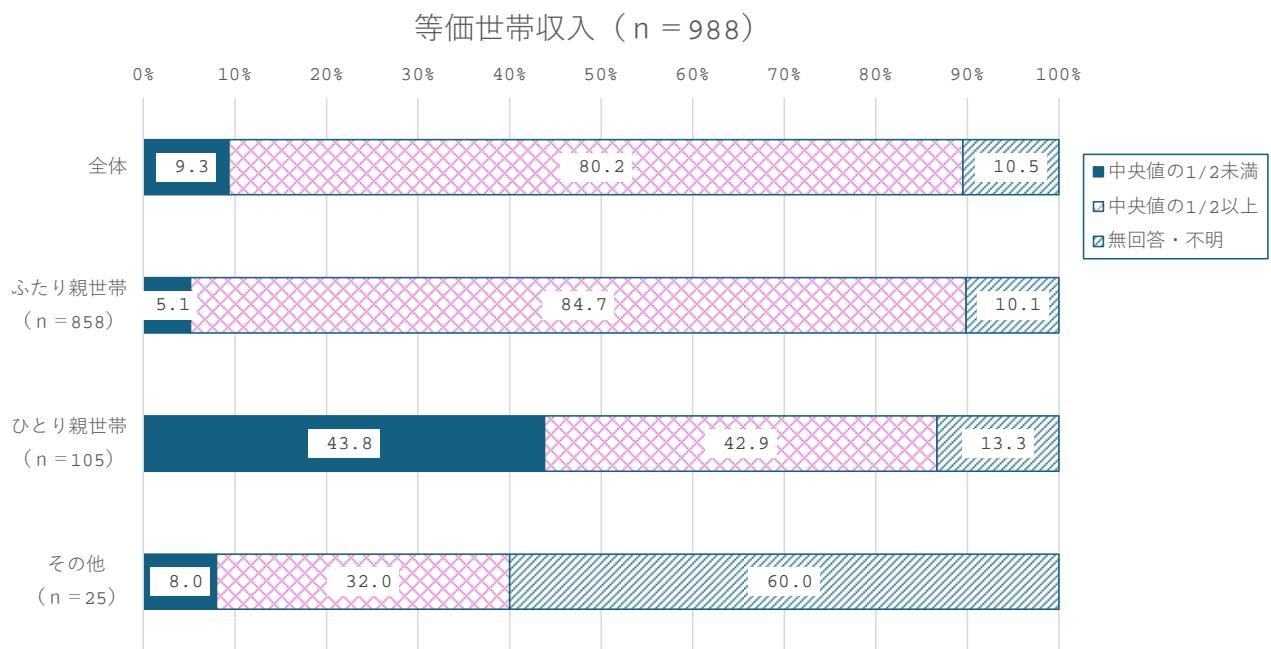
- また、得られた年間収入の結果を基に等価世帯収入による分類も行ったところ、等価世帯収入の中央値は2,907,000円、中央値の1/2の値は、1,453,500円となり、下記の結果となった。分類の結果、等価世帯収入の水準が貧困率の数字となる「中央値の1/2未満」は全体で9.3%、小学5年生で9.2%、中学2年生で9.5%だった。

【全体（学年別）】

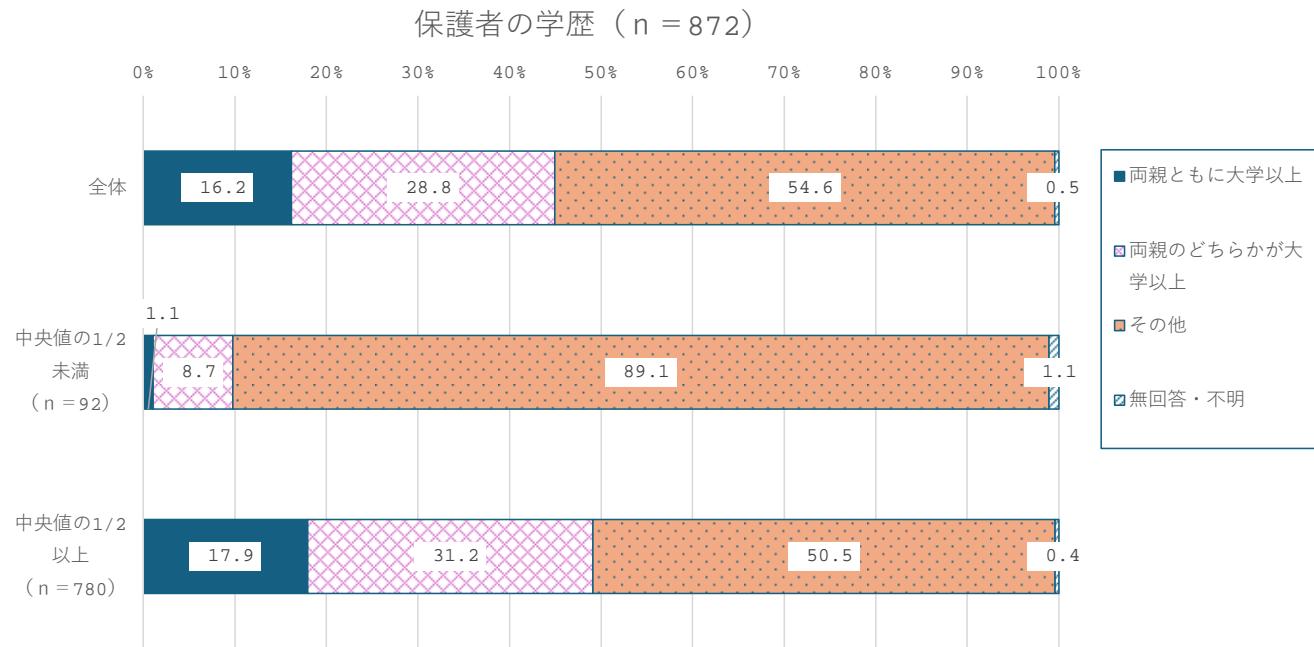


- 世帯の状況別に等価世帯収入の分類を行ったところ、下記の結果となった。「中央値の1/2未満」の割合は、「ひとり親世帯」で43.8%、「ふたり親世帯」で5.1%となつており、大きな差がみられた。

【世帯の状況別】



- 母親と父親の最終学歴の組み合わせによる等価世帯収入の分類を行ったところ、「両親ともに大学以上」、「両親のどちらかが大学以上」では、等価世帯年収が下がるに従い、割合も減少する傾向がみられた。

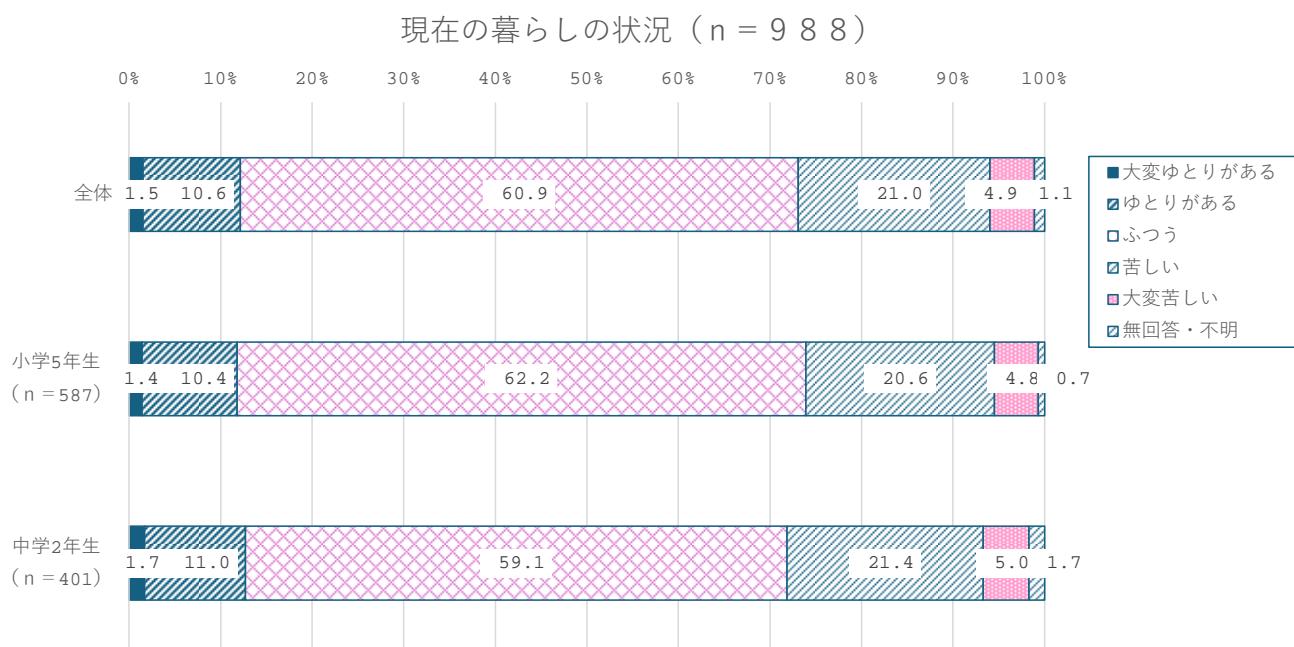


(2) 蓋らしの状況

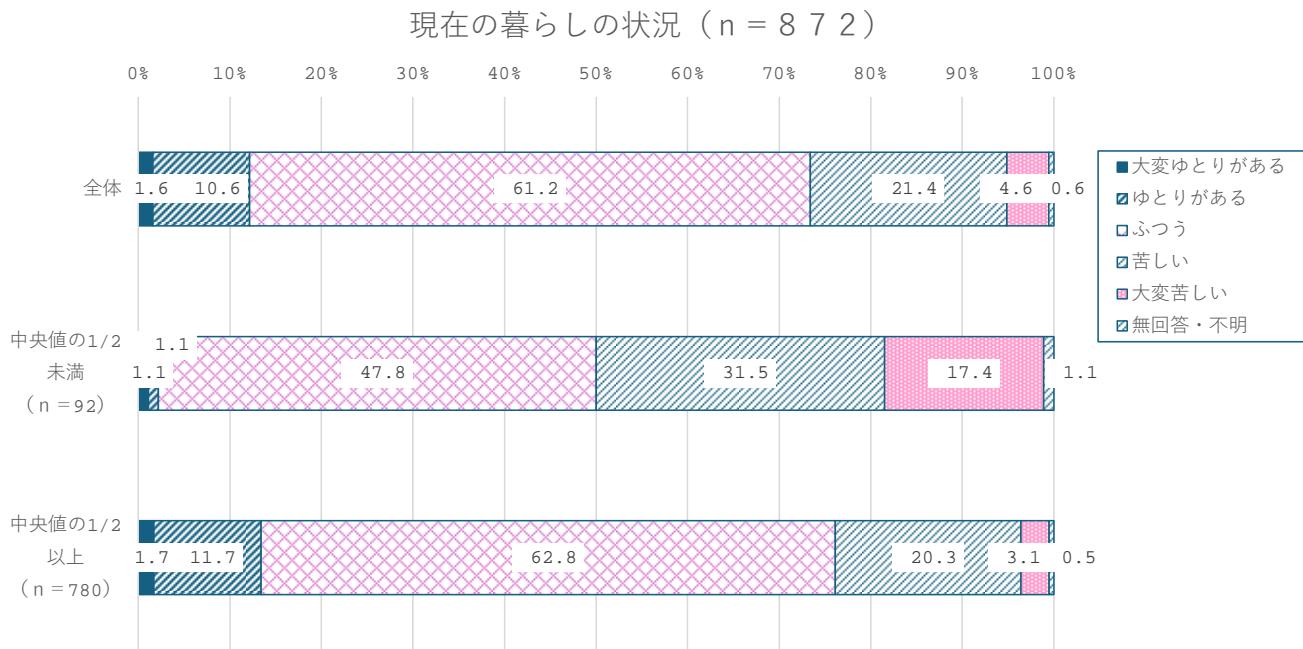
問17 あなたは現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。（あてはまるもの1つに○）

- 現在の暮らしの状況では、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が、全体では 25.9%、小学5年生では 25.4%、中学2年生では 26.4% とどの層も同じくらいの結果となった。また、等価世帯収入で分類した結果では、等価世帯収入が減少するに従い、「苦しい」と「大変苦しい」の割合は増加していく、「中央値の1/2以上」と「中央値の1/2未満」では約 2.1 倍の差となった。世帯の状況別の結果では、「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」で「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合に約 2.4 倍の差がみられた。

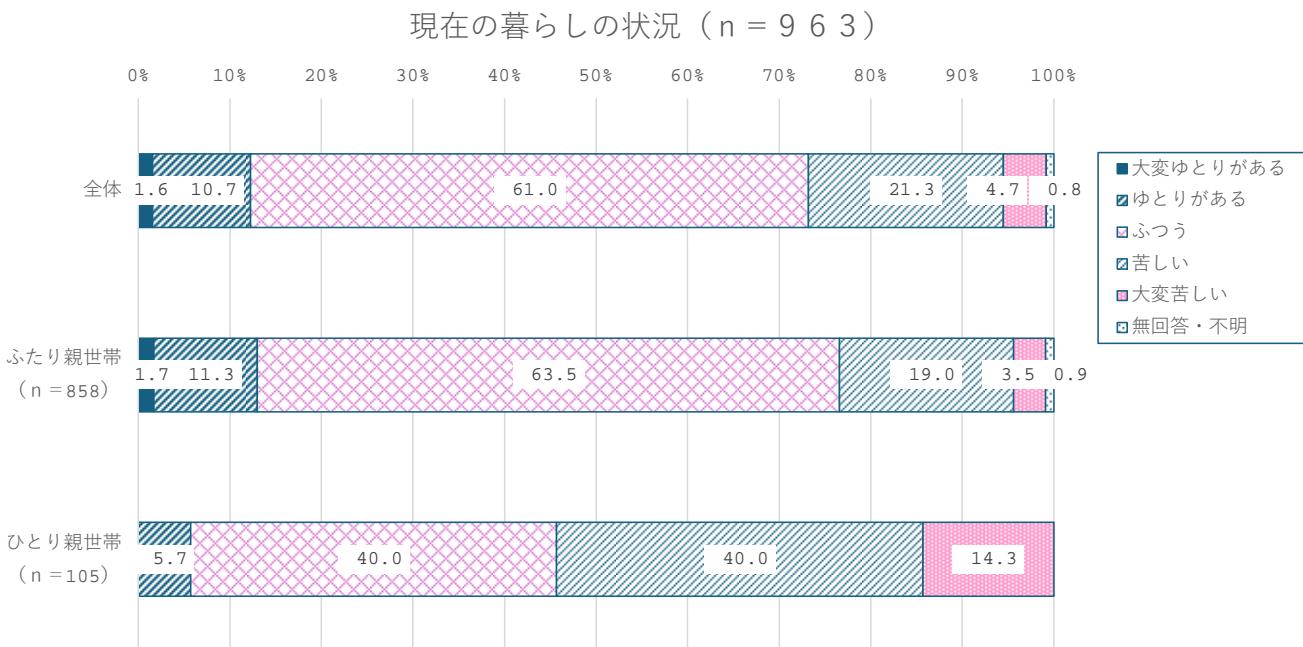
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】

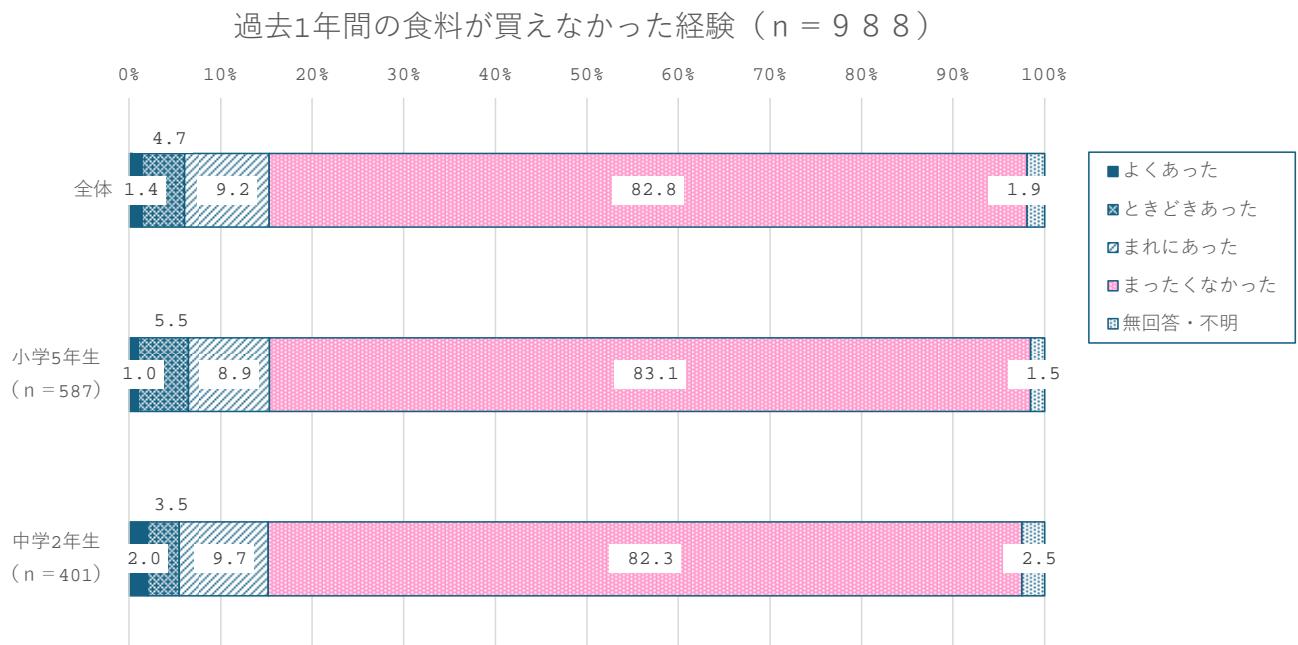


(3) 食料が買えなかった経験

問 19 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。（あてはまるもの1つに○）

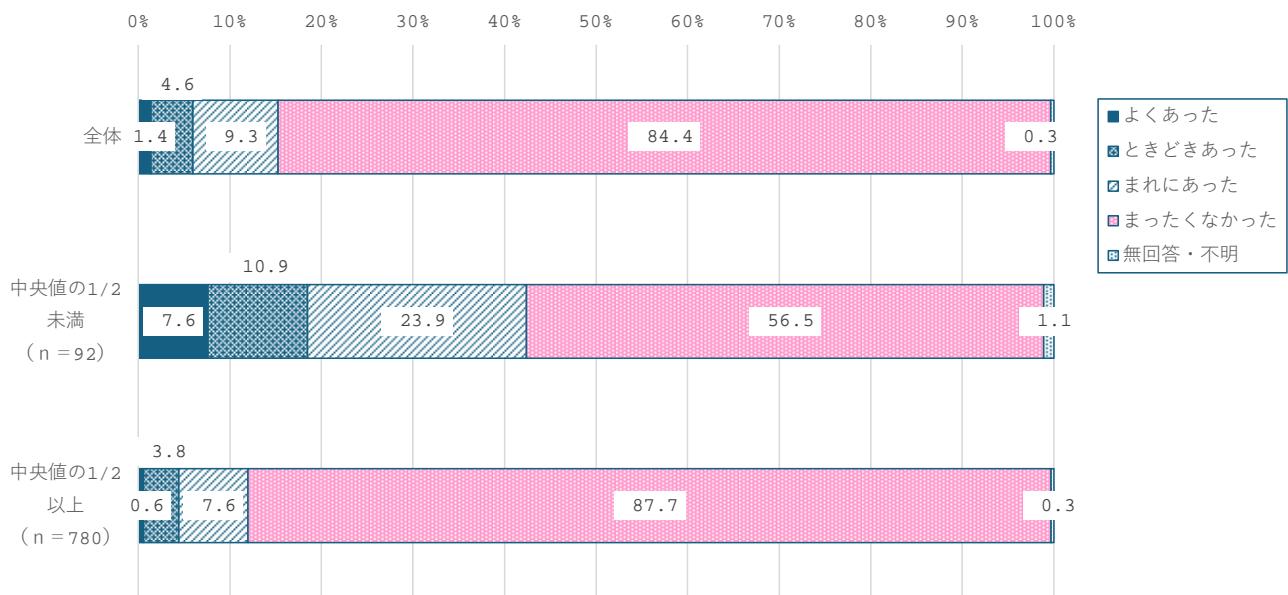
- 過去1年間に食料が買えなかった経験については、全体では「よくあった」が1.4%、「ときどきあった」が4.7%「まれにあった」が9.2%となっており、合わせた割合は15.3%だった。等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」では、「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合が42.4%となっていた。世帯の状況別では、「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合は、「ふたり親世帯」では12.8%、「ひとり親世帯」では38.1%だった。

【全体（学年別）】



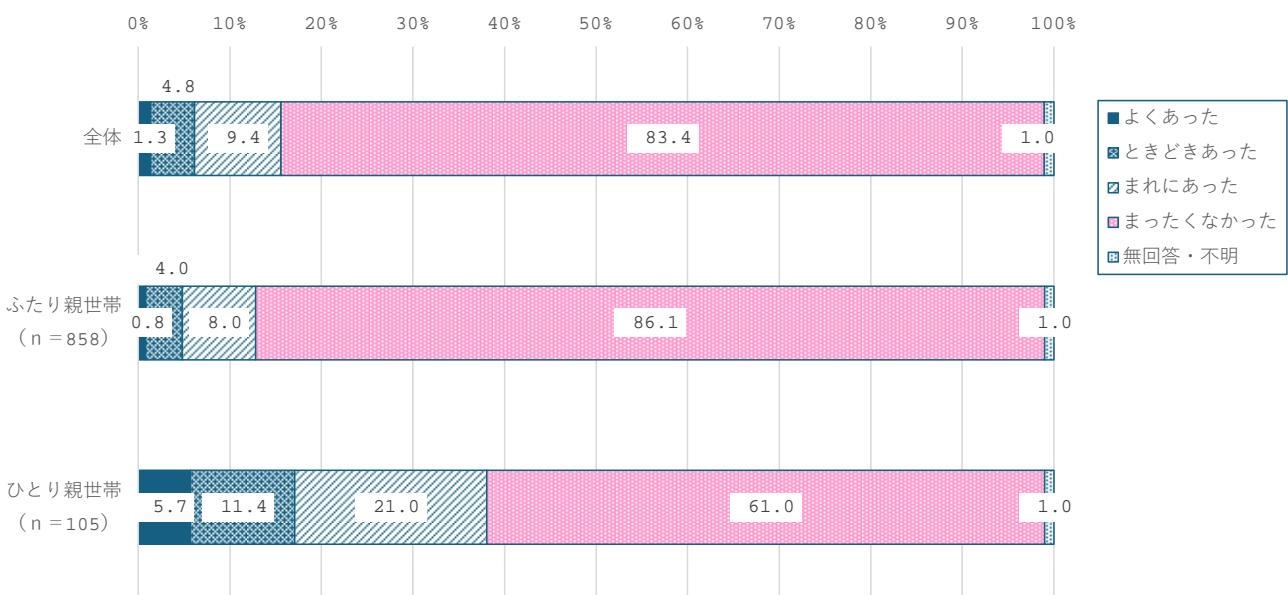
【等価世帯収入別】

過去1年間の食料が買えなかった経験 (n = 872)



【世帯の状況別】

過去1年間の食料が買えなかった経験 (n = 963)

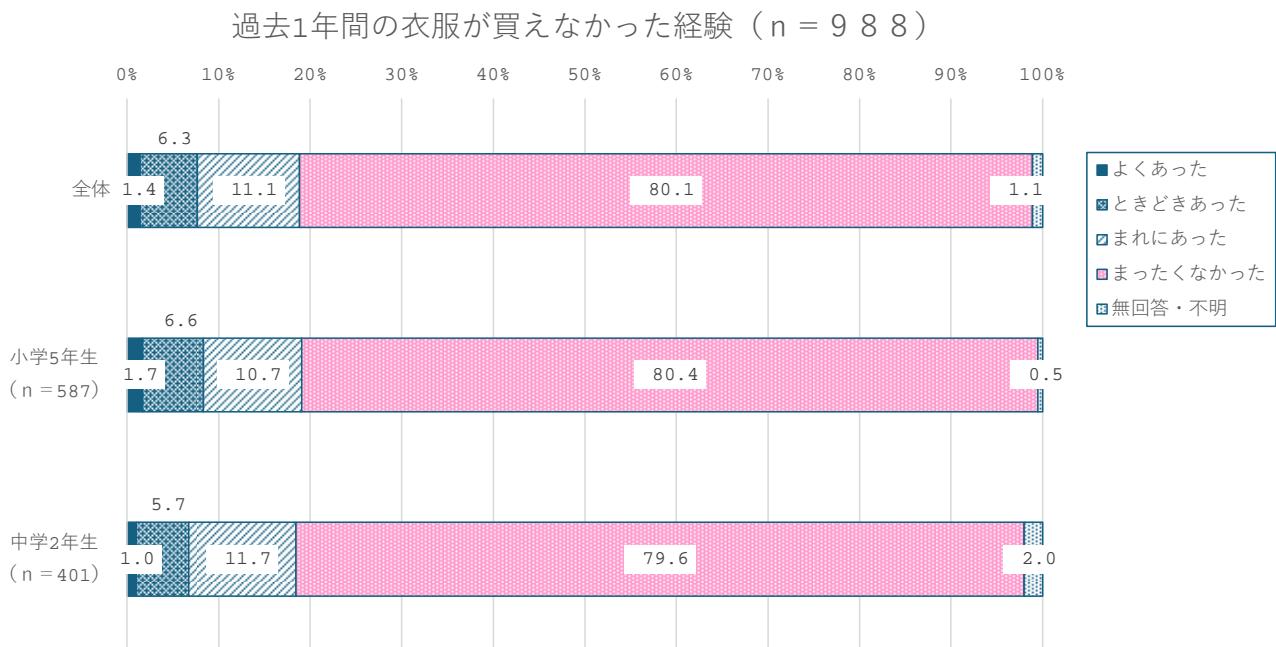


(4) 衣服が買えなかつた経験

問 20 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。
(あてはまるもの1つに○)

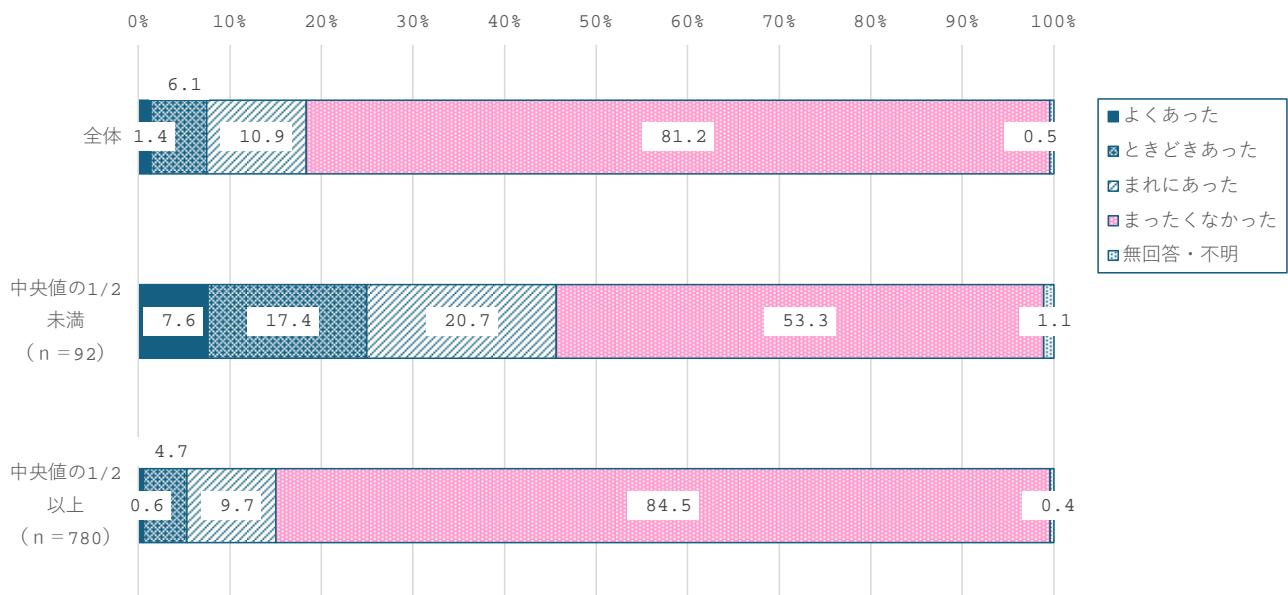
- 過去1年間に衣服が買えなかつた経験については、全体では「よくあった」が1.4%、「ときどきあった」が6.3%「まれにあった」が11.1%となっており、合わせた割合は18.8%だった。等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」では、「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合が45.7%となっていた。世帯の状況別では、「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合は、「ふたり親世帯」では16.3%、「ひとり親世帯」では38.1%だった。

【全体（学年別）】



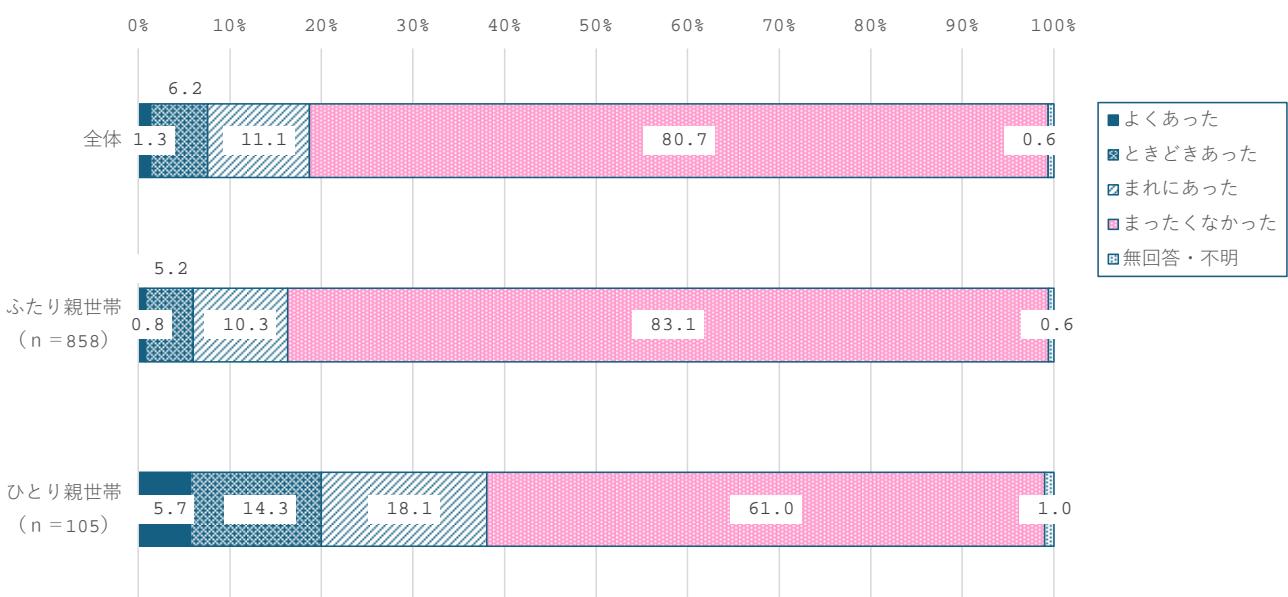
【等価世帯収入別】

過去1年間の衣服が買えなかった経験 (n = 872)



【世帯の状況別】

過去1年間の衣服が買えなかった経験 (n = 963)



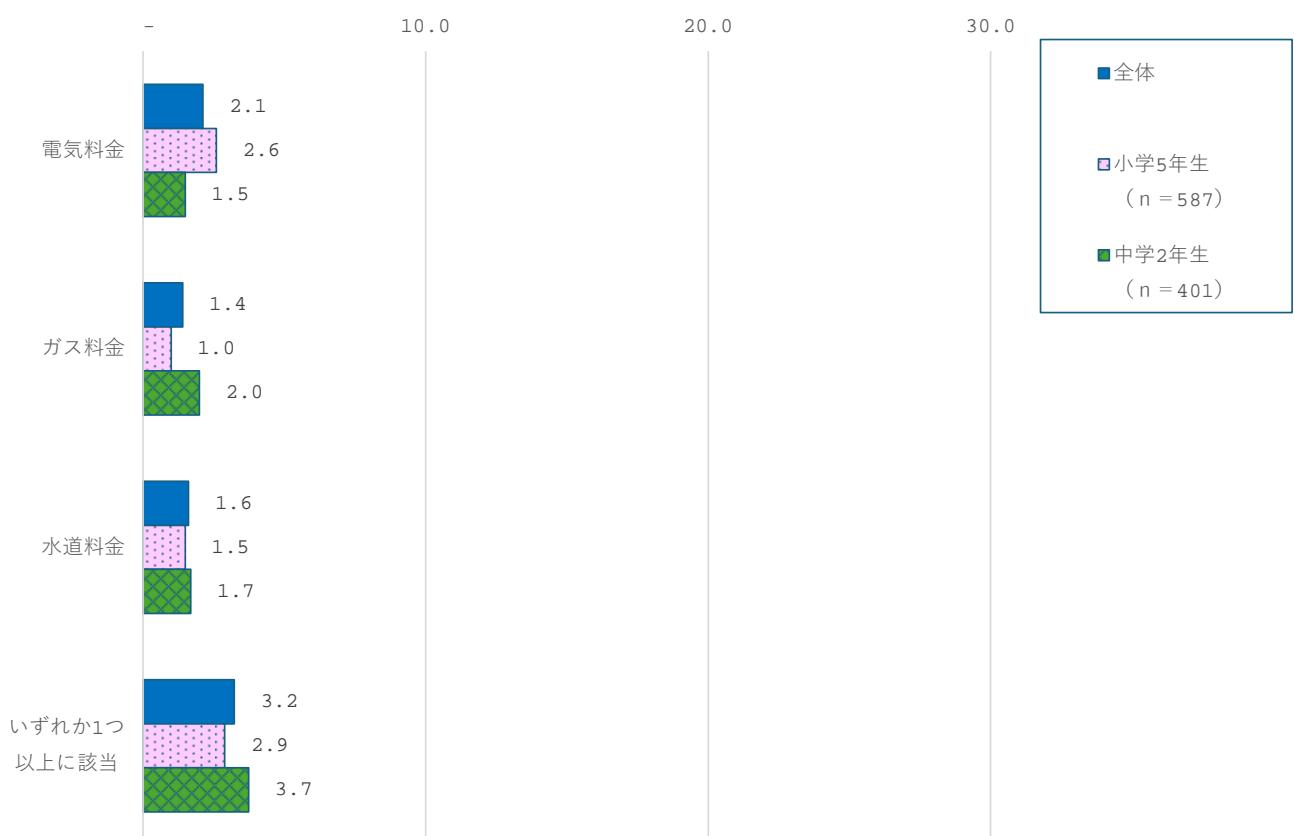
(5) 公共料金における未払いの経験

問 21 あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。(1~3について、あてはまるものすべてに○)

- 過去1年間に「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」を経済的な理由で払えなかった人の割合は、それぞれ、2.1%、1.4%、1.6%となった。
等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」でどの料金においても8%以上となり、「中央値の1/2以上」と比べて大きな差がみられた。
世帯の状況別では、「ひとり親世帯」で約4%以上となっており、「ふたり親世帯」と比べて大きな差がみられた。

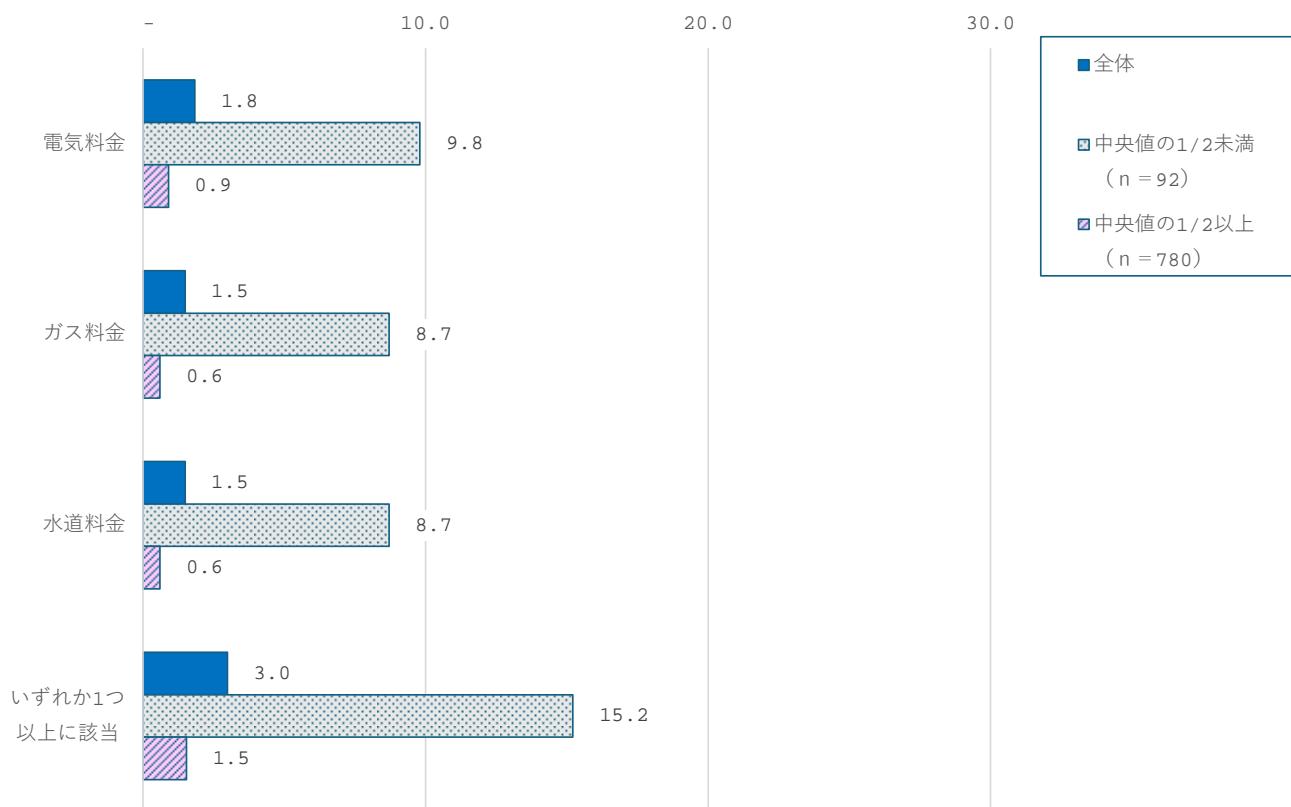
【全体（学年別）】

過去1年間の未払い経験 (n = 988)



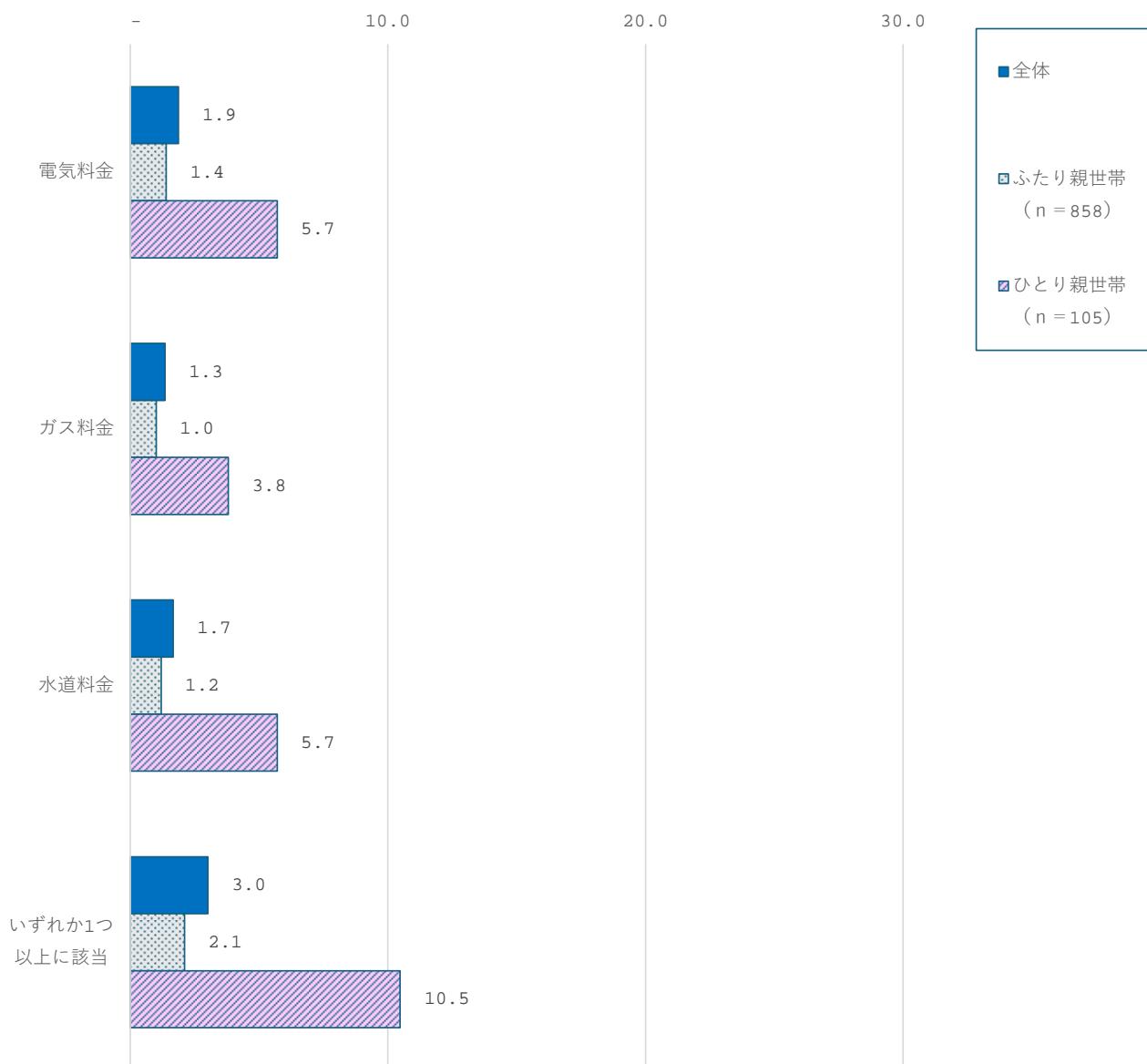
【等価世帯収入別】

過去1年間の未払い経験（n = 872）



【世帯の状況別】

過去1年間の未払い経験 (n = 963)



2. 保護者の就労の状況

(1) 母親・父親の就労状況

問8 お子さんの親の就労状況についてあてはまるものを回答してください。

(a,b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

【母親】

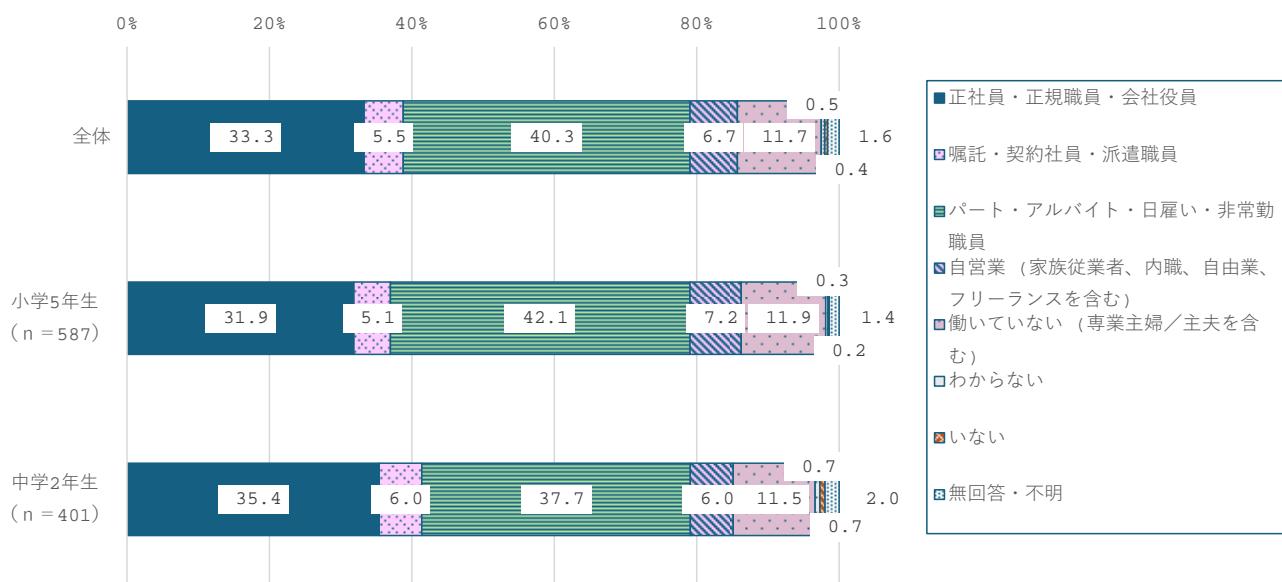
- 母親の就労状況について、全体では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が40.3%で最も高く、続いて「正社員・正規職員・会社役員」が33.3%となった。また、「働いていない」は11.7%だった。

等価世帯収入別において、「中央値の1/2未満」では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が54.3%と半数を超えており、「正社員・正規職員・会社役員」は18.5%と「中央値の1/2以上」と比べて大きな差がみられた。

世帯の状況別では、各層とも大きな差はみられなかった。

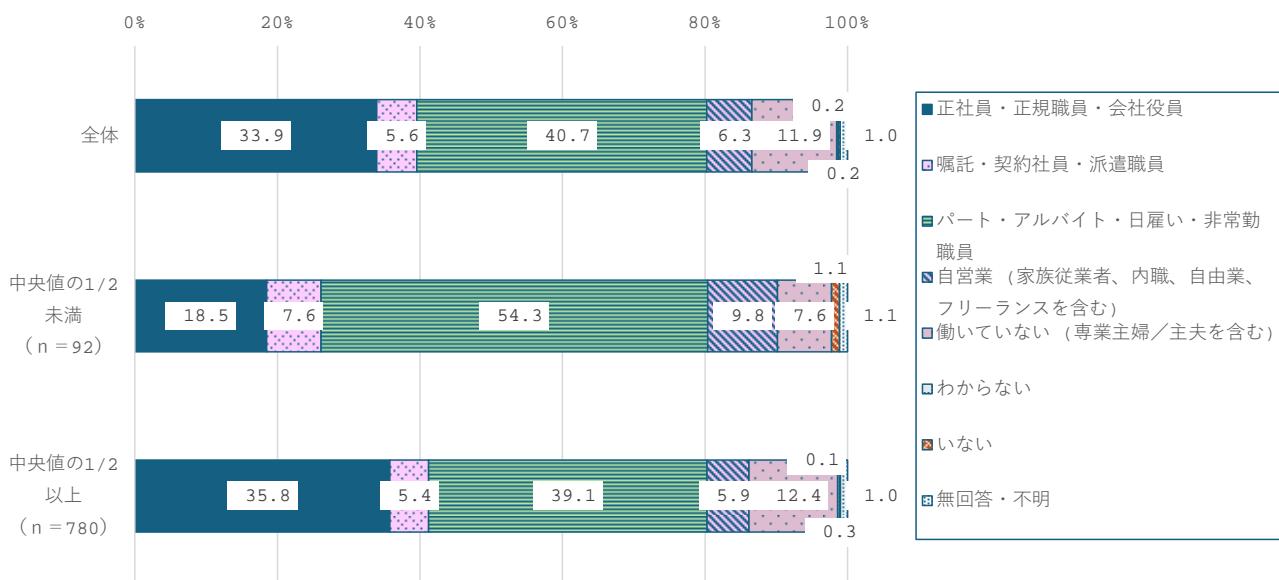
【全体（学年別）】

母親の就労状況 (n = 988)



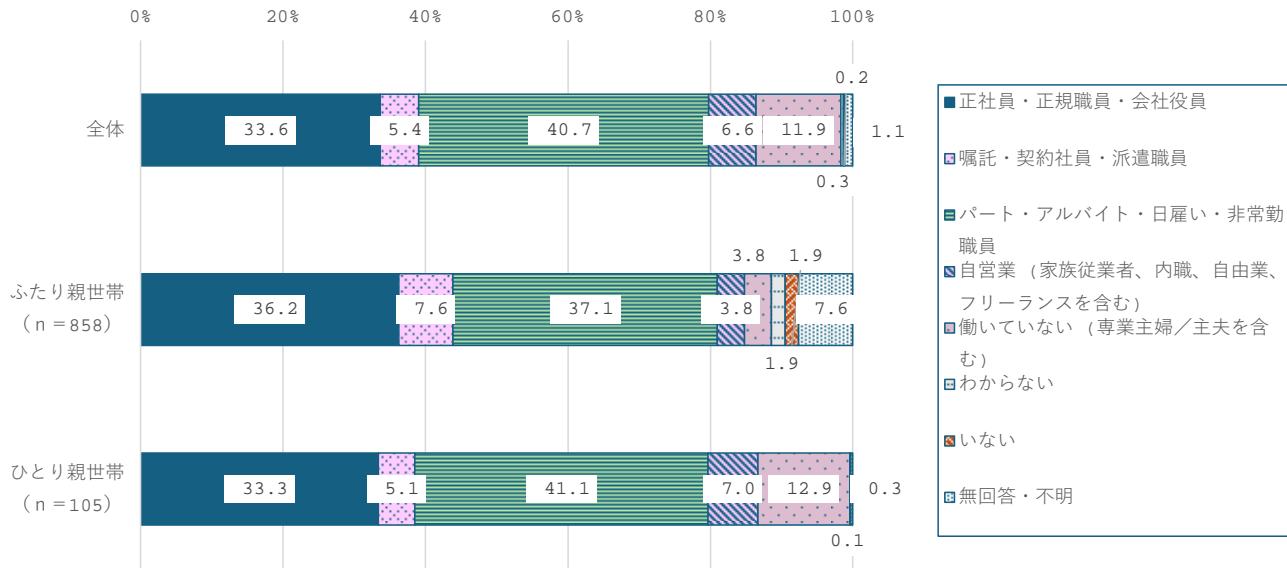
【等価世帯収入別】

母親の就労状況 (n = 872)



【世帯の状況別】

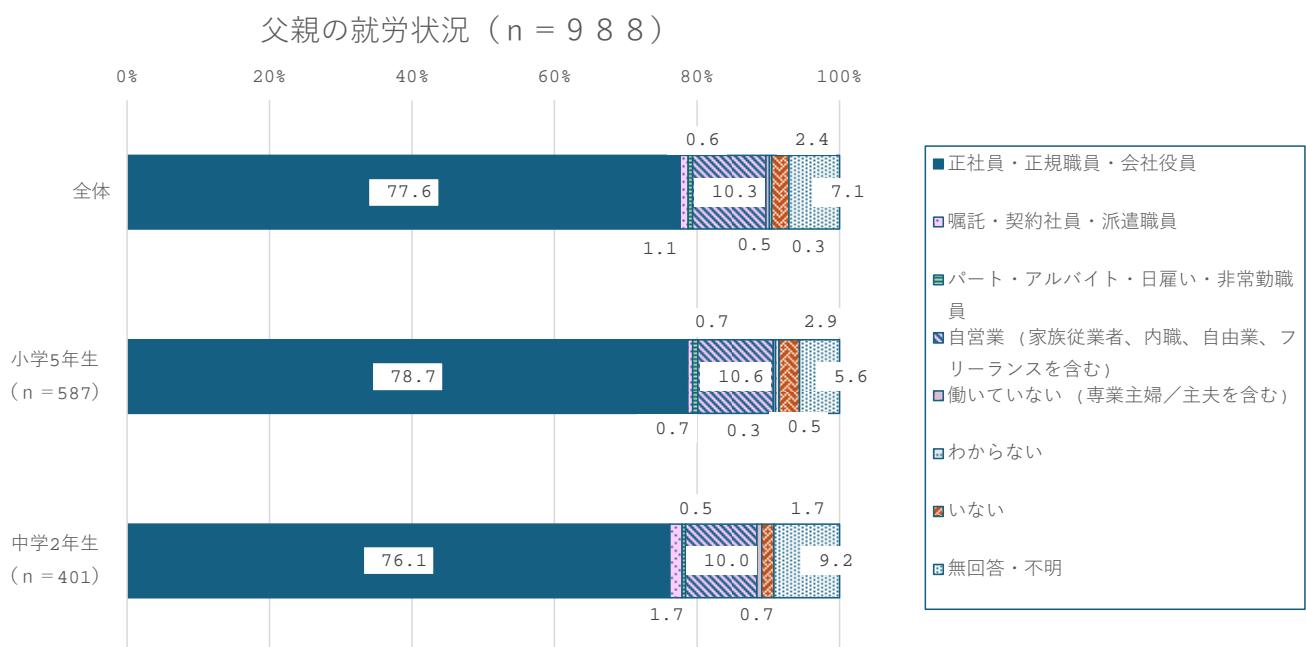
母親の就労状況 (n = 963)



【父親】

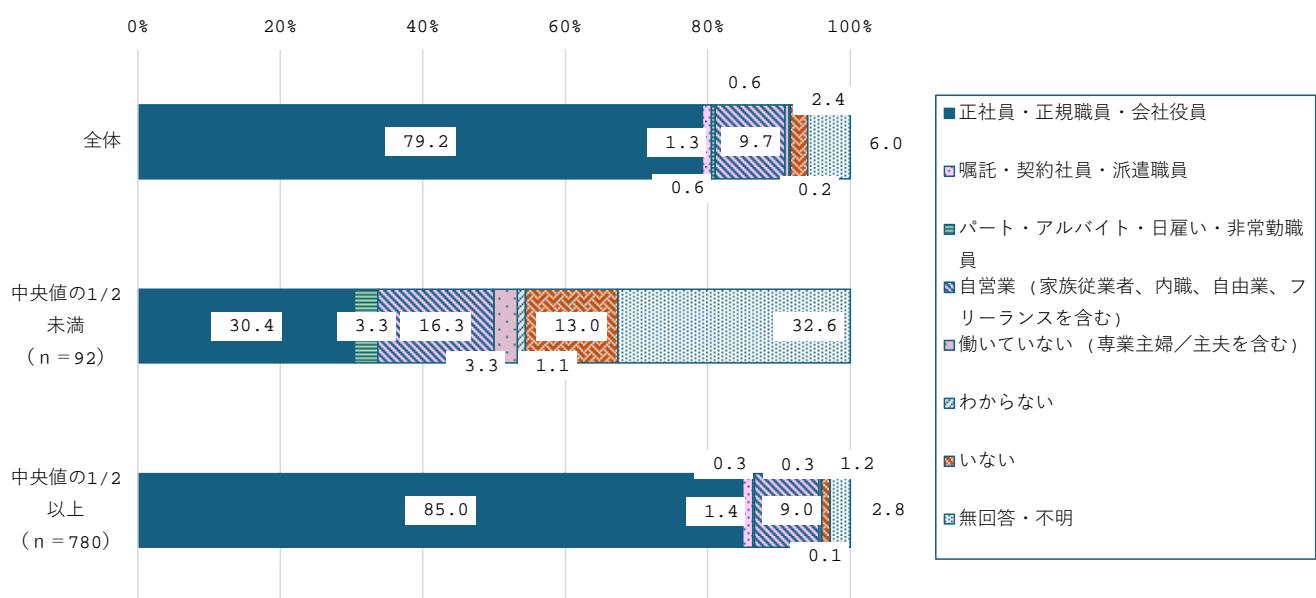
- 父親の就労状況について、全体では「正社員・正規職員・会社役員」の割合が最も高く 75% 以上だった。
等価世帯収入別では、「中央値の 1/2 未満」で「正社員・正規職員・会社役員」が 30.4% と 「中央値の 1/2 以上」の「正社員・正規職員・会社役員」(85.0%) と比べ、少ない結果となつた。
世帯の状況別では、「ひとり親世帯」で 50% 以上が「わからない」、「いない」、「無回答・不明」という結果となつた。

【全体（学年別）】



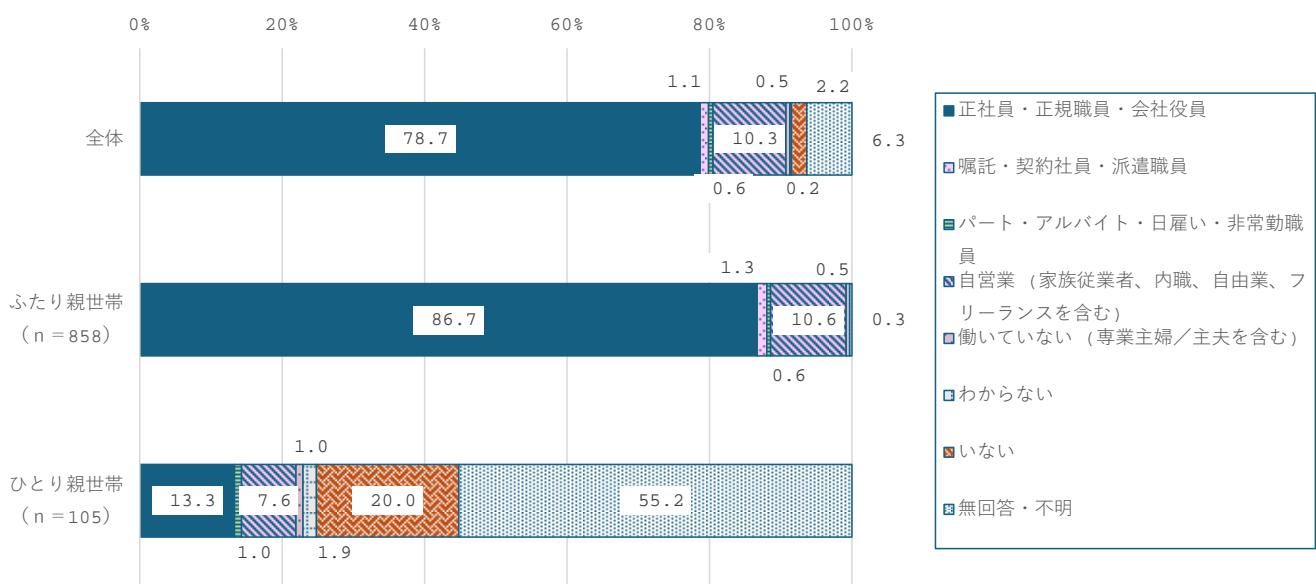
【等価世帯収入別】

父親の就労状況 (n = 872)



【世帯の状況別】

父親の就労状況 (n = 963)



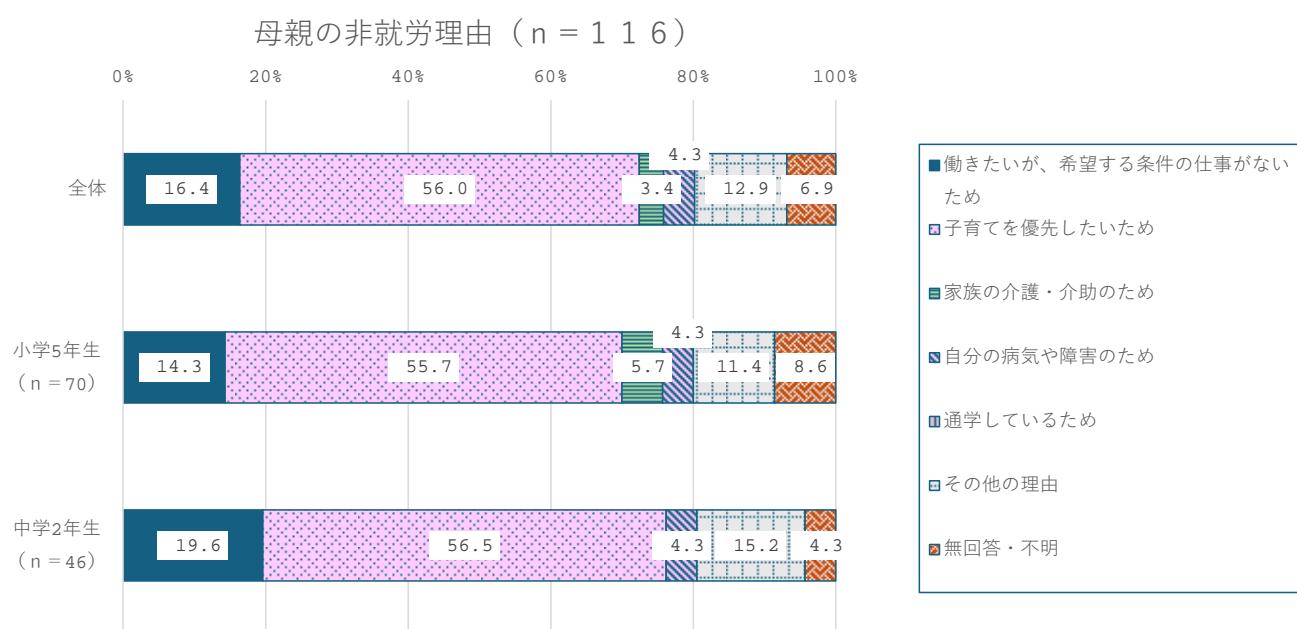
(2) 働いていない理由

問9 前の質問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。 (a, b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

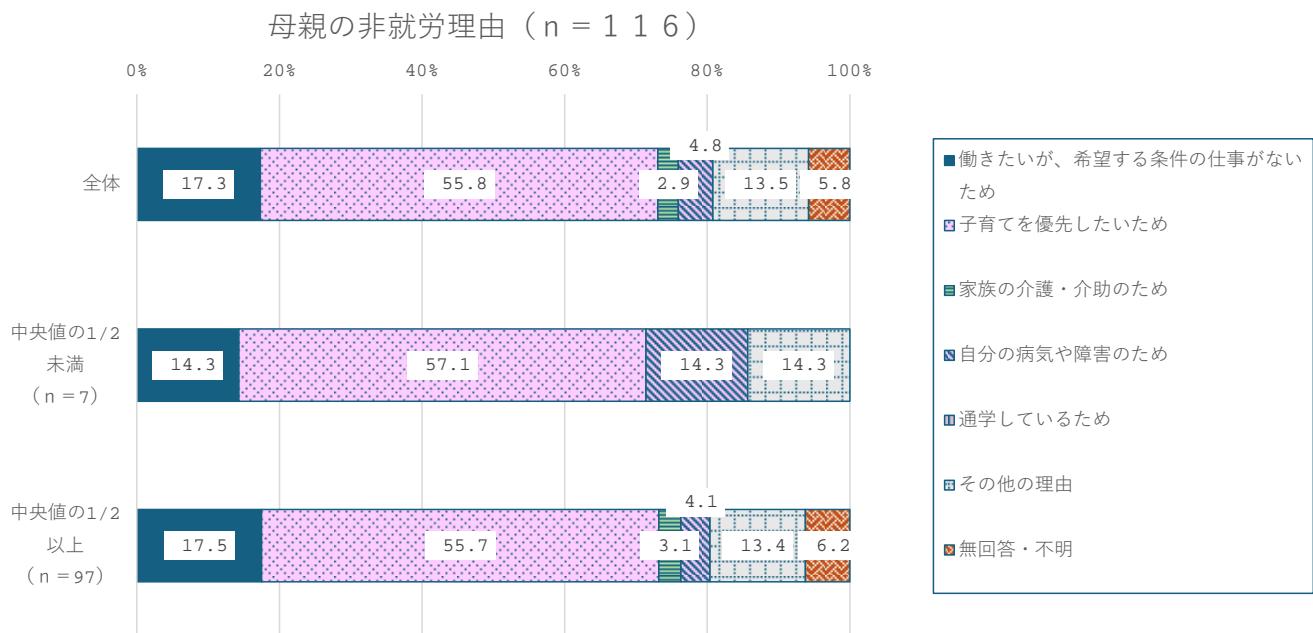
【母親】

- 母親の働いていない理由としては、全体では「子育てを優先したいため」が 56.0%で最も多い割合となった。
等価世帯収入別の「中央値の1/2未満」では、「子育てを優先したいため」の割合が 57.1%と最も多い結果となった。
世帯の状況別の「ひとり親世帯」では、「子育てを優先したいため」の理由のみだった。

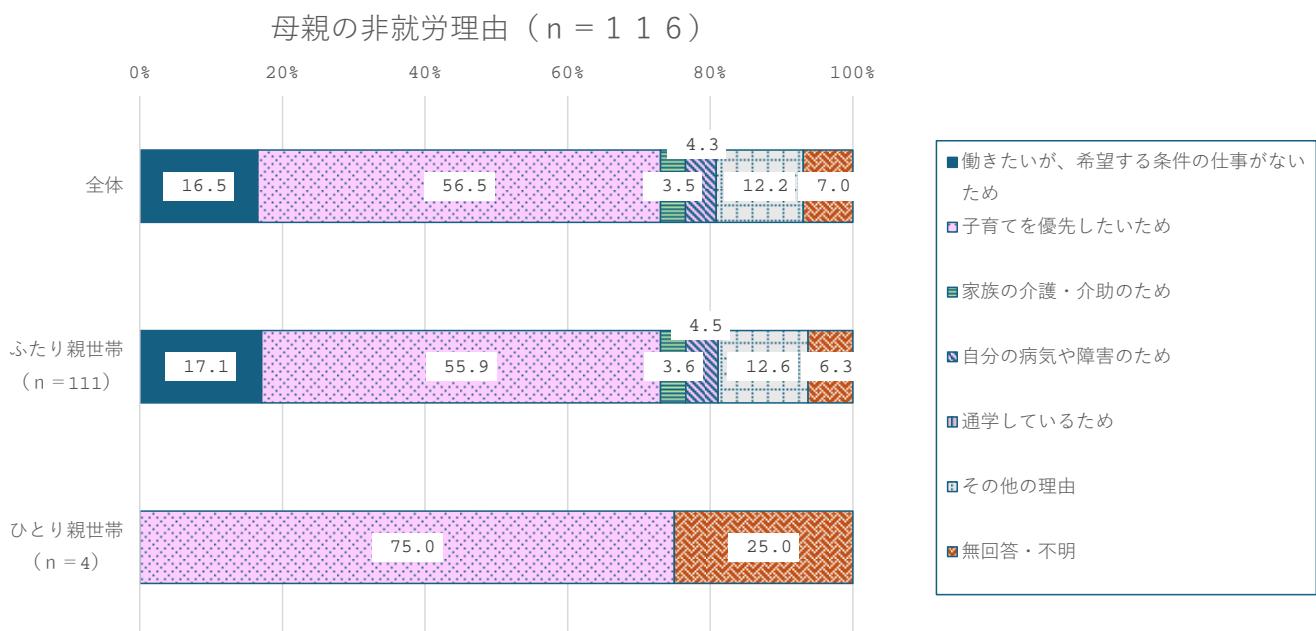
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



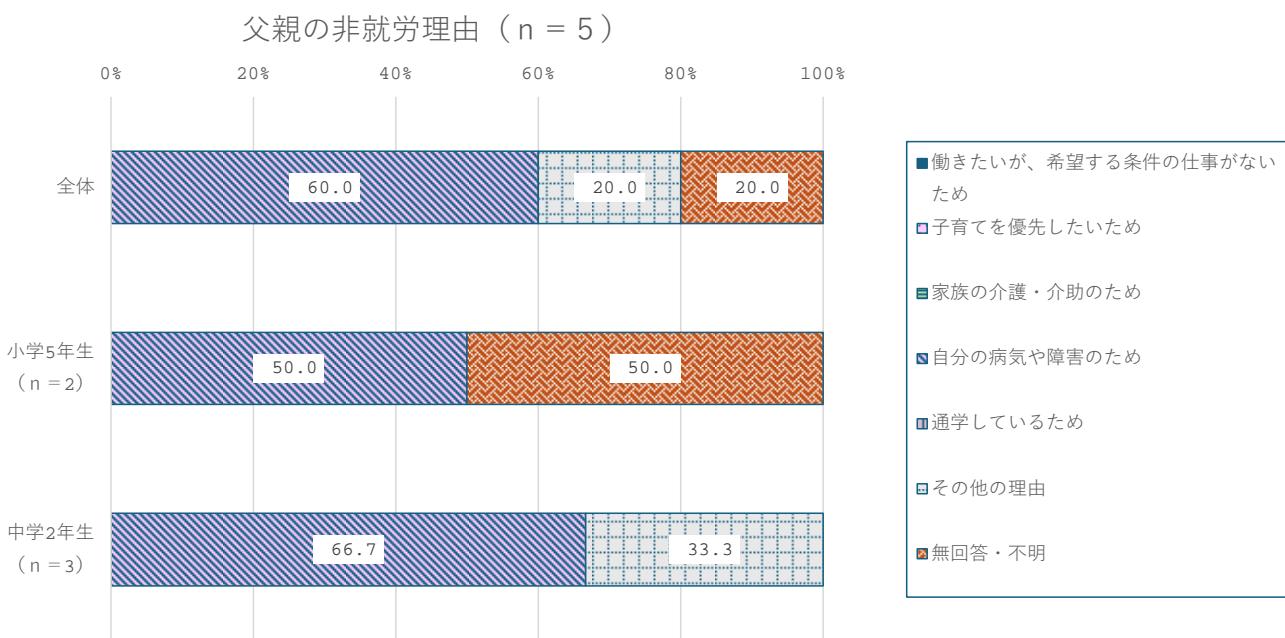
【世帯の状況別】



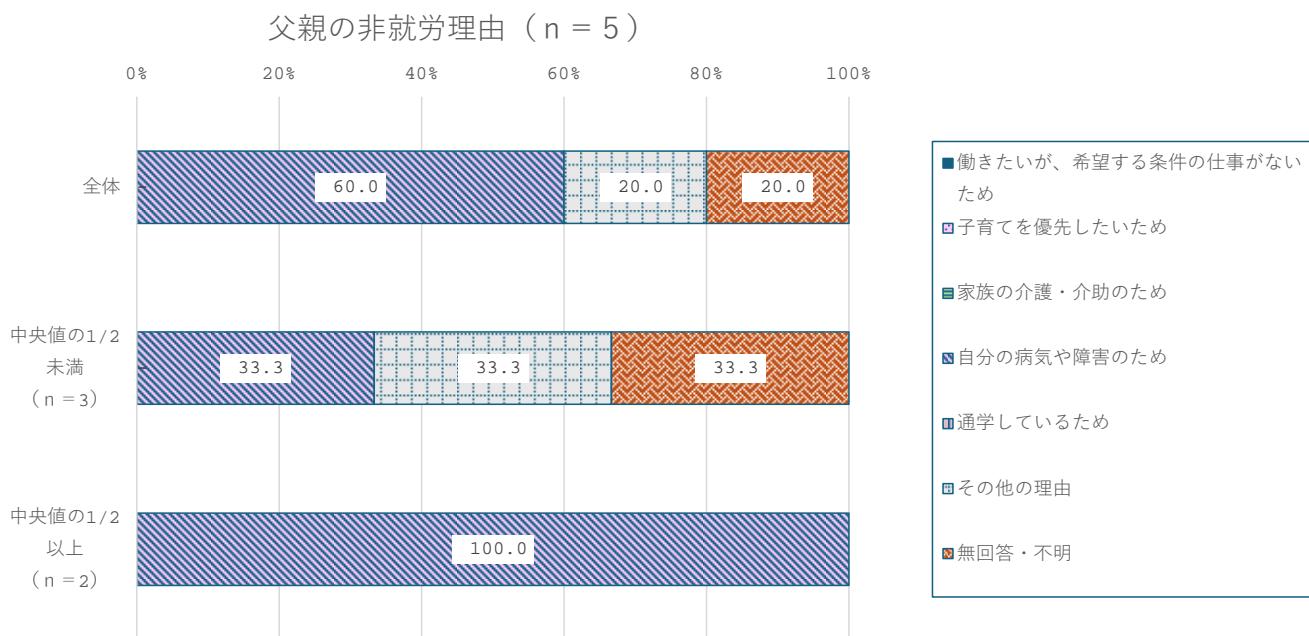
【父親】

- 父親の働いていない理由としては、全体では「自分の病気や障害のため」が 60.0%と最も多い割合となった。
等価世帯収入別、世帯の状況別とともに、「その他の理由」を除くと、「自分の病気や障害のため」の理由のみだった。

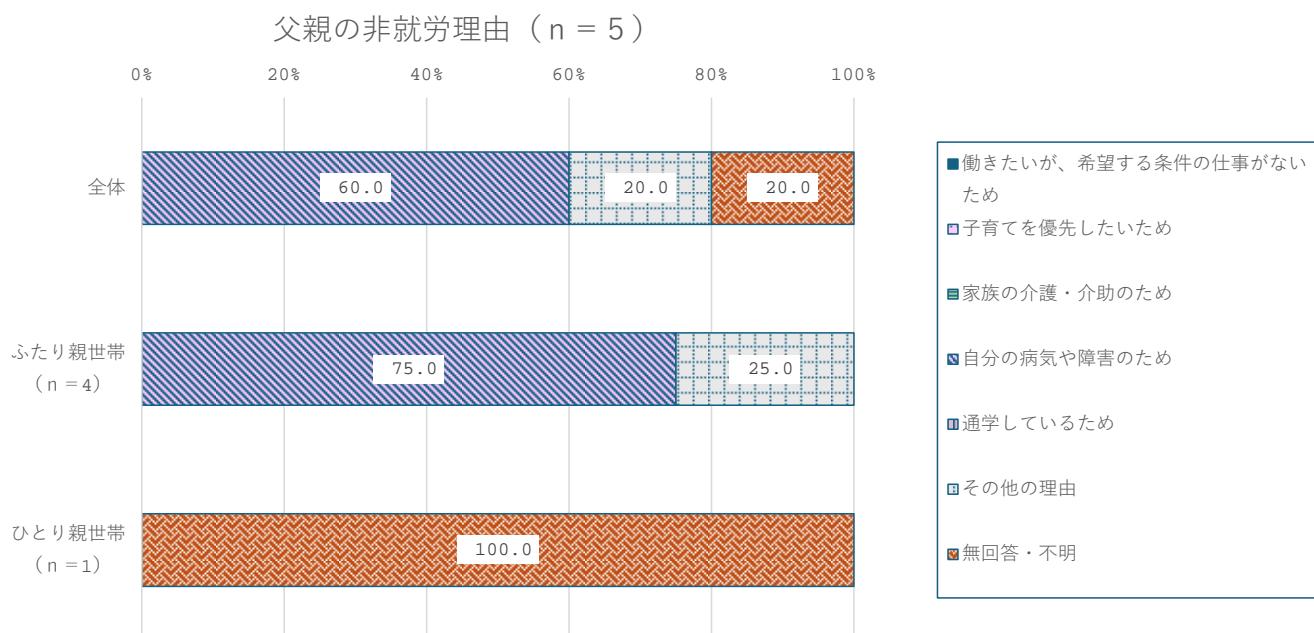
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



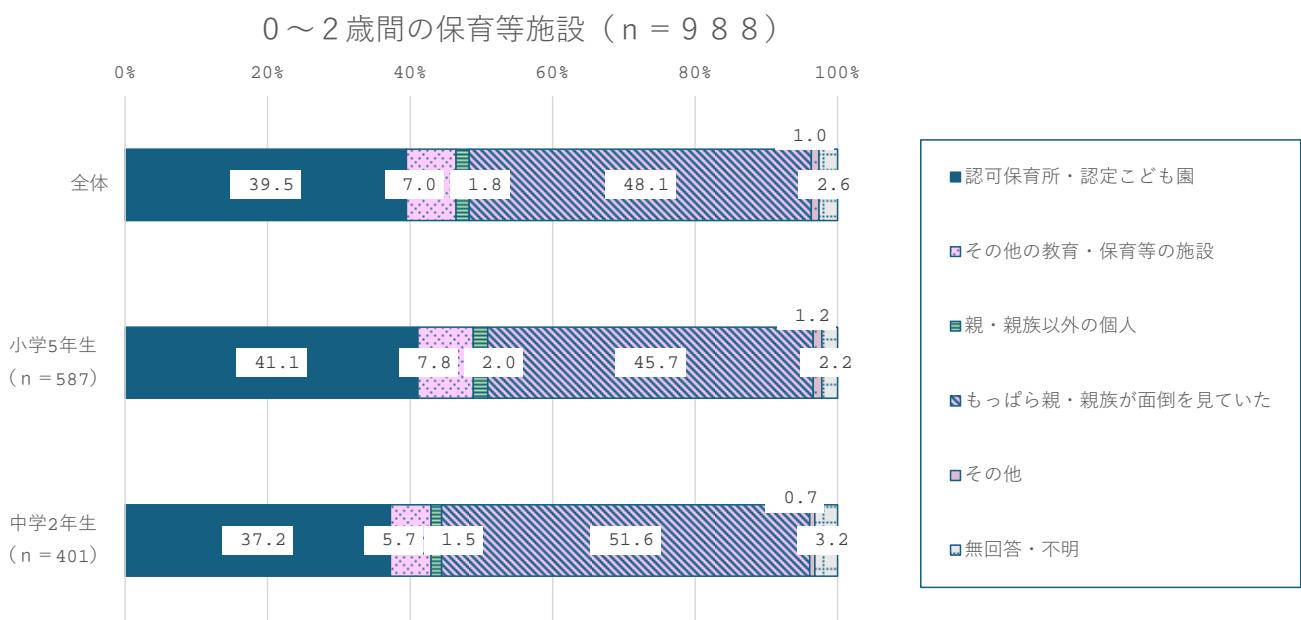
3. 保育の状況

(1) 子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等

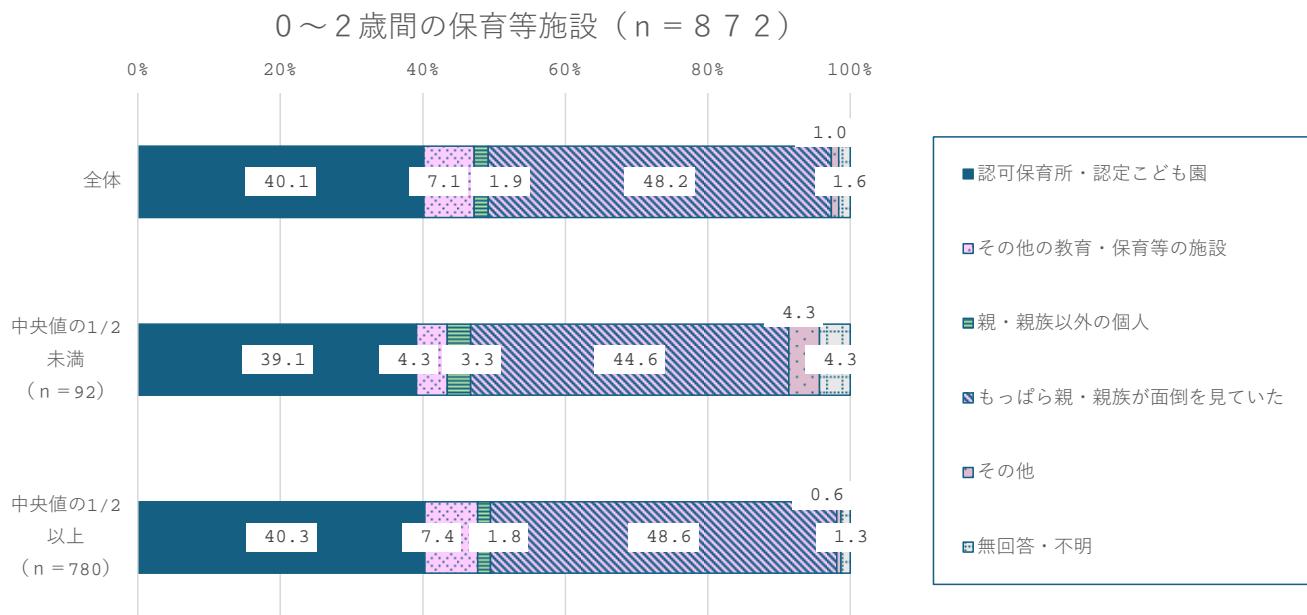
問 10 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- 子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等については、全体では、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が48.1%で最も多い、続いて「認可保育所・認定こども園」が39.5%となつた。
等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」で「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が44.6%、「認可保育所・認定こども園」の割合が39.1%となつてゐた。
世帯の状況別の「ひとり親世帯」では、「認可保育所・認定こども園」の割合が54.3%と最も多く、続いて「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が30.5%で多い結果となつた。
「ふたり親世帯」では、「認可保育所・認定こども園」が37.9%、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が50.8%となっており、「ひとり親世帯」と逆の結果となる傾向がみられた。

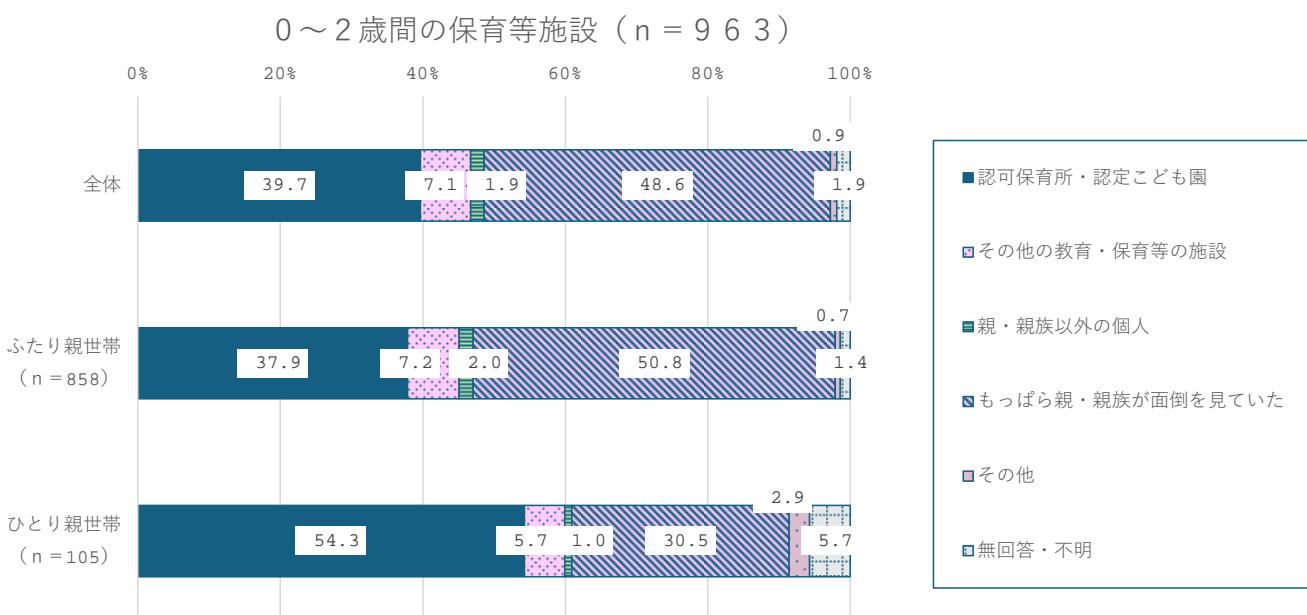
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】

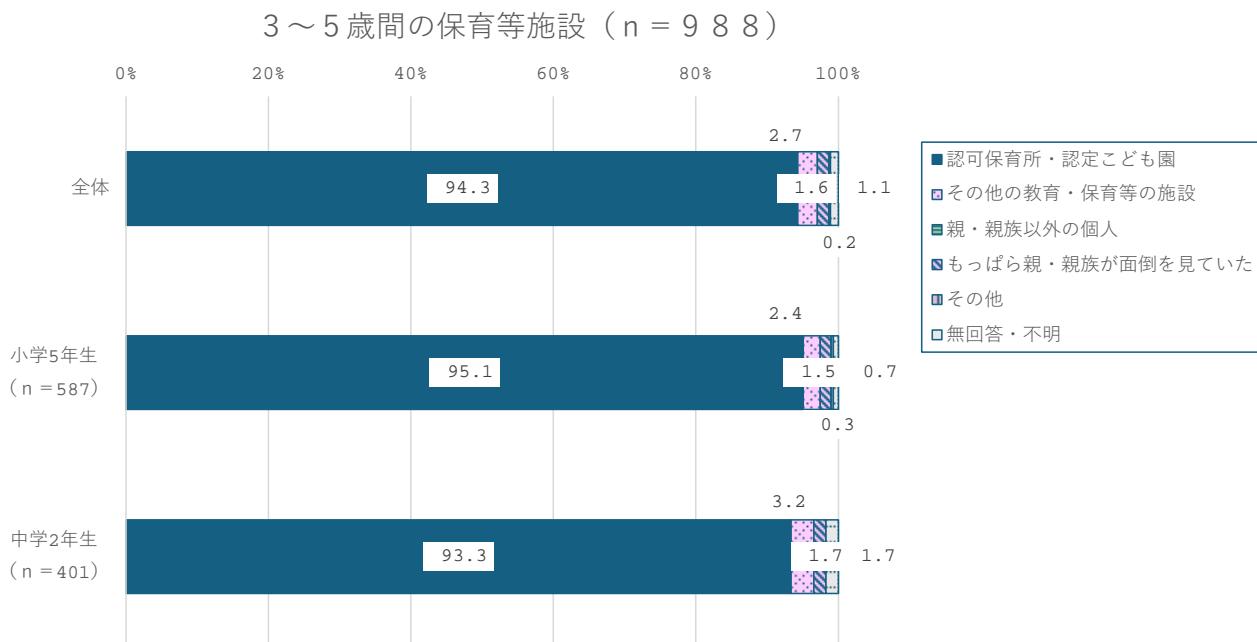


(2) 子どもが3～5歳の時に通っていた教育・保育施設等

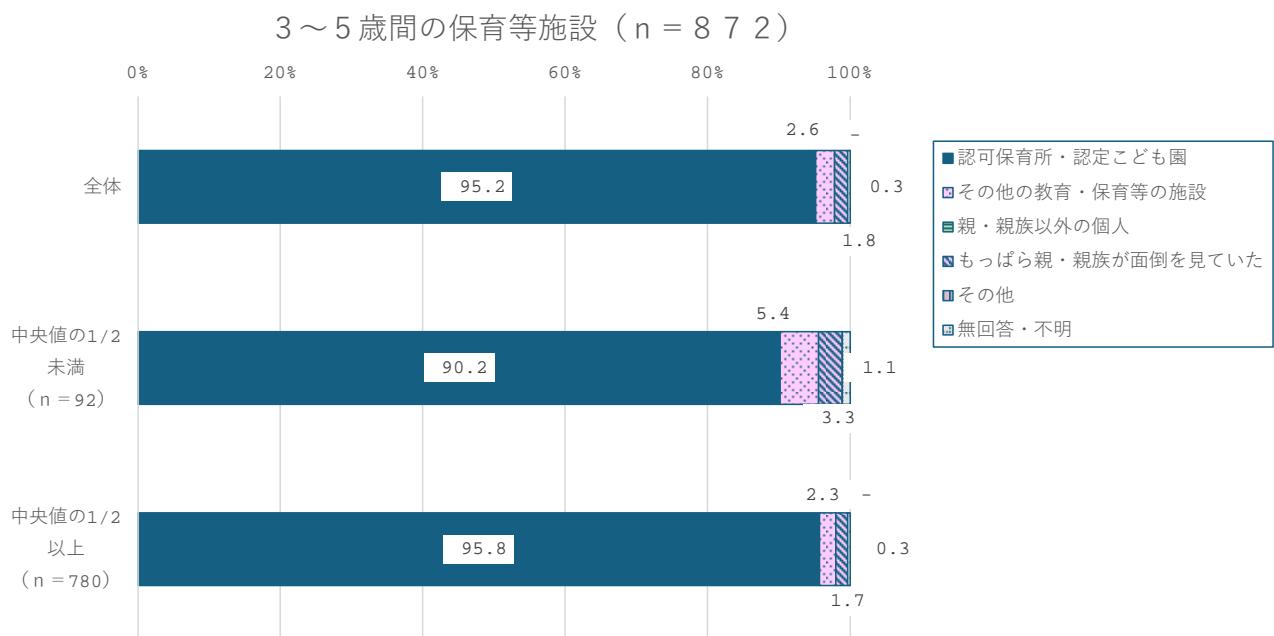
問 11 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- 子どもが3～5歳の時に通っていた教育・保育施設等では、「認可保育所・認定こども園」がどの層でも90%以上と多い結果となった。
等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」が90.2%と「中央値の1/2以上」よりも少し低い結果となった。
世帯の状況別では、「ひとり親世帯」において、「ふたり親世帯」よりも若干低い結果となった。

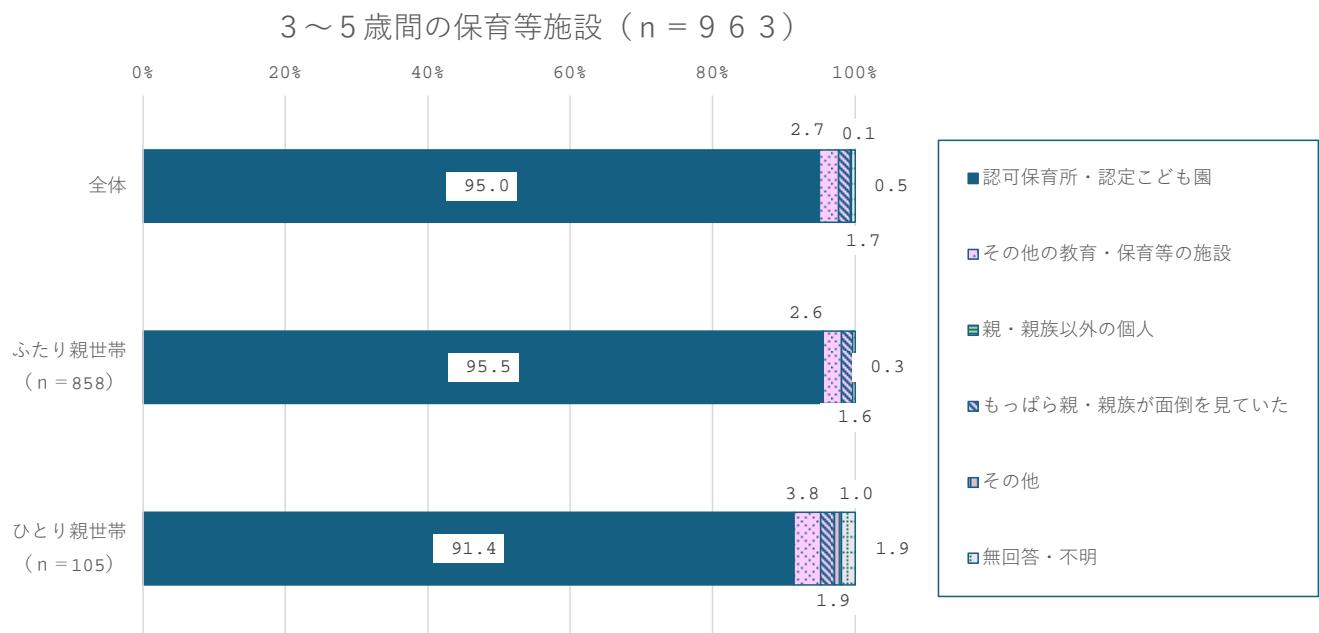
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



4. 子どもとの関わり方

(1) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール

問12 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a~d それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

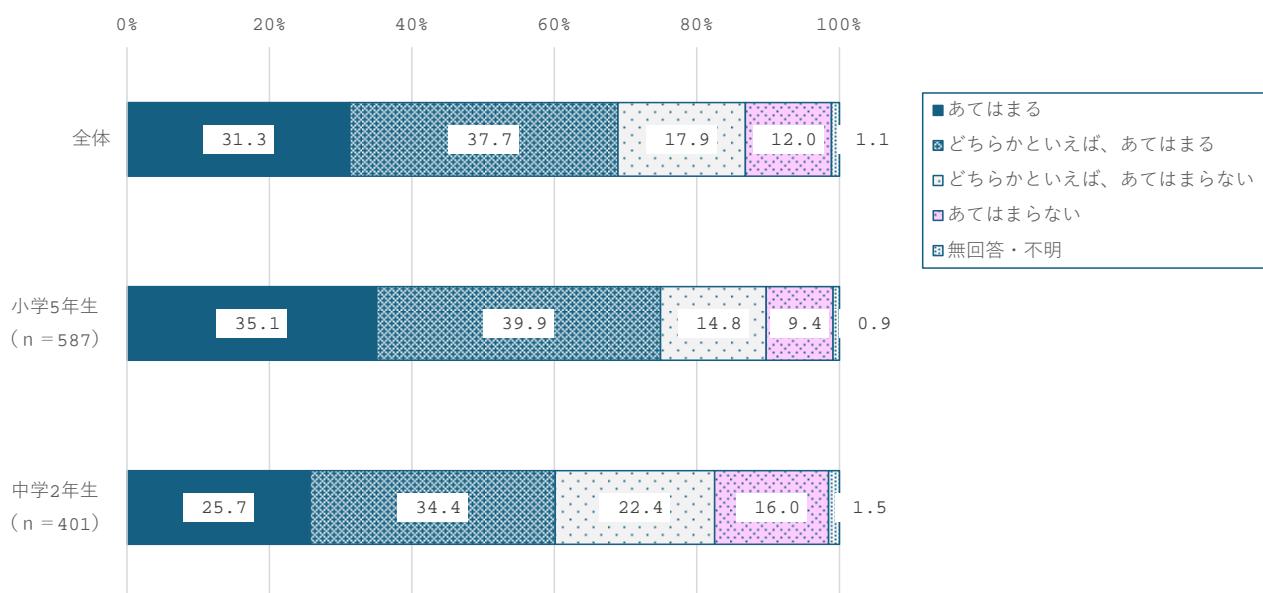
- テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールの設定については、小学5年生で「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は75.0%で、中学2年生の60.1%よりも高い結果となり、年齢が上がるに従い、自分でルールを決めて、視聴していることが想定される。

等価世帯収入別では、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「中央値の1/2未満」で55.5%、「中央値の1/2以上」で71.2%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

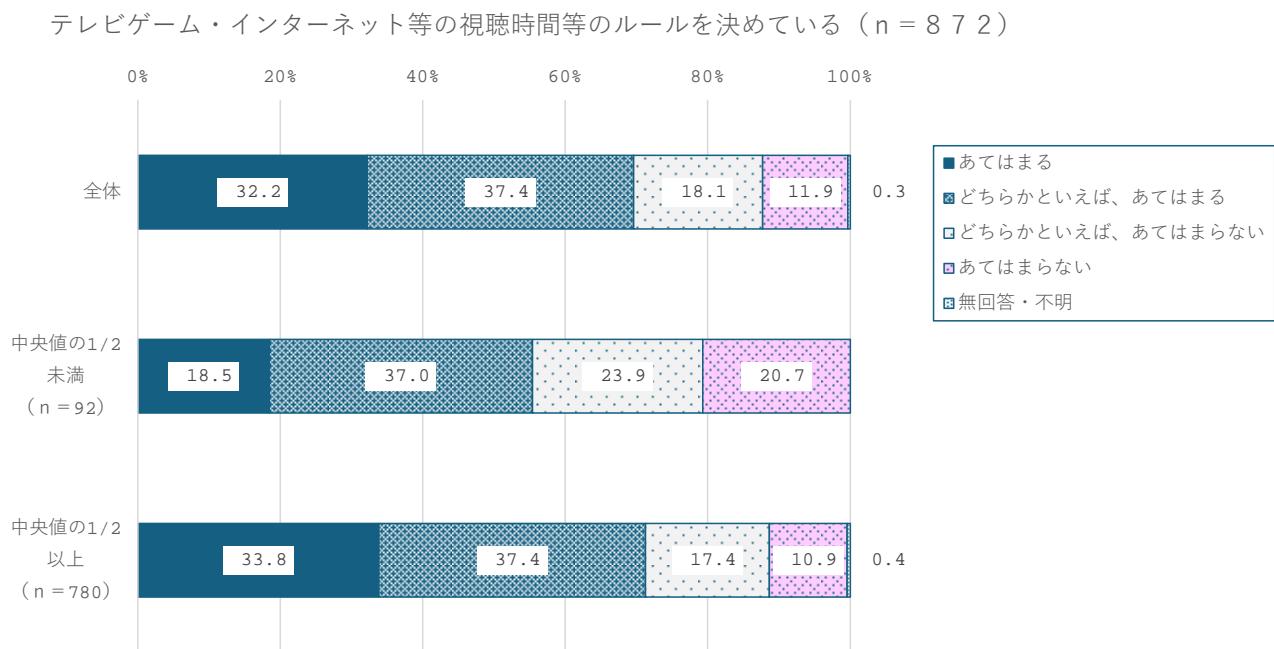
世帯の状況別では、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」で70.5%、「ひとり親世帯」で58.1%となつた。

【全体（学年別）】

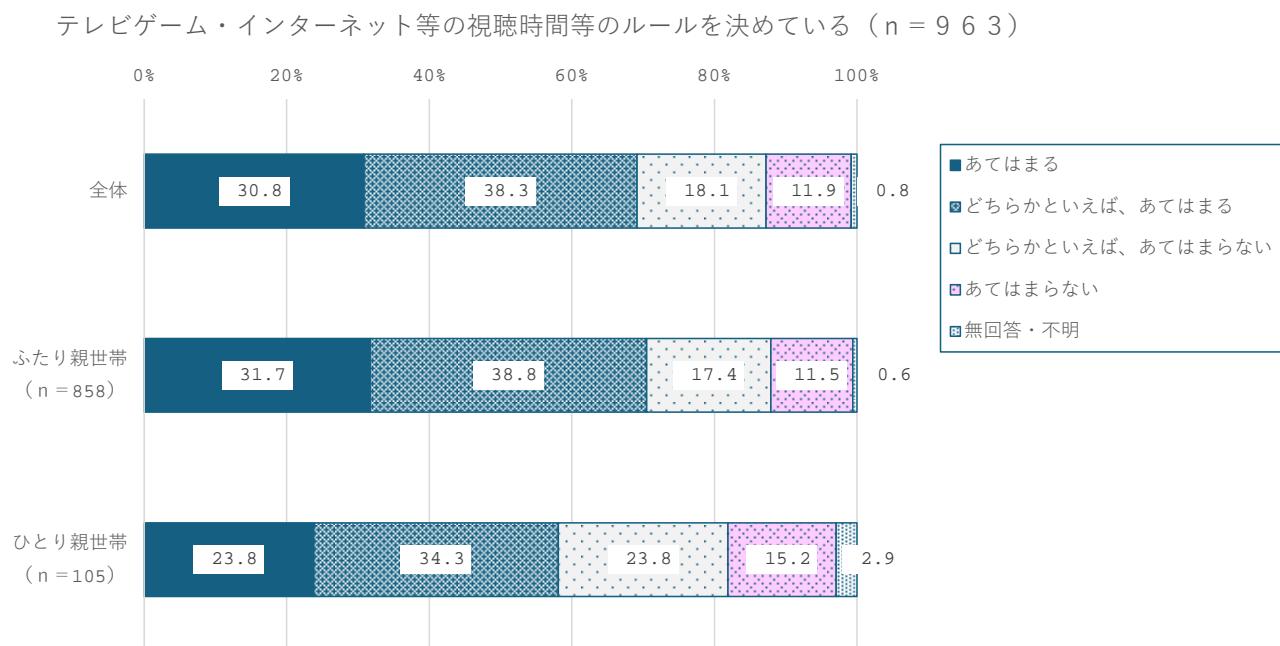
テレビゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている (n = 988)



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



(2) 本や新聞を読むことについて

問12 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a~d それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

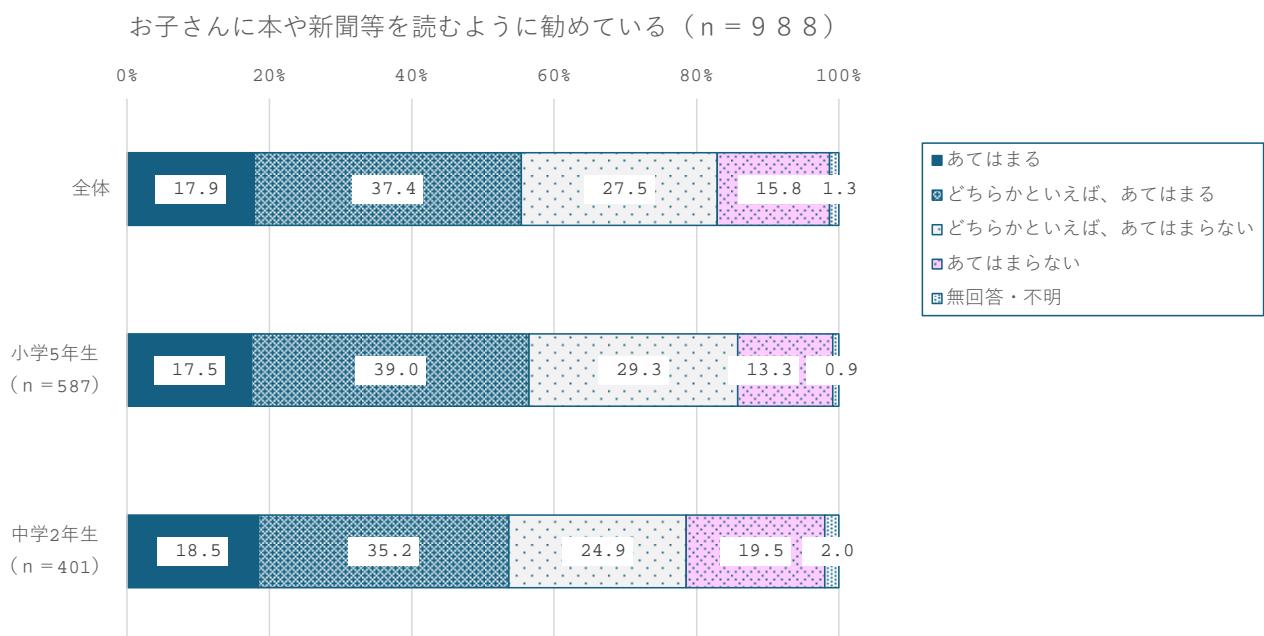
b) お子さんに本や新聞を読むように勧めている

- 子どもへの本や新聞を読むことの勧めについては、全体では、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は55.3%、「あてはまらない」、「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた割合が43.3%と、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が若干多い結果となった。

等価世帯収入別では、(1) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が「中央値の1/2未満」で33.7%、「中央値の1/2以上」で58.1%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

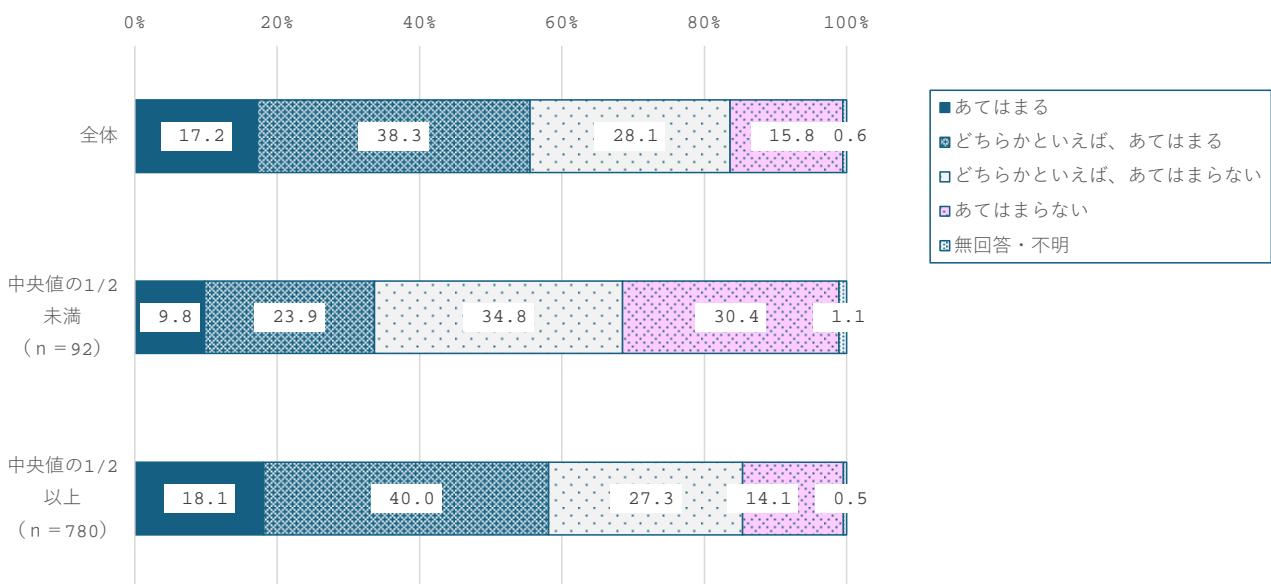
世帯の状況別でも、(1) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」で57.5%、「ひとり親世帯」で40.9%と、「ふたり親世帯」が「ひとり親世帯」に比べ多い結果となった。

【全体（学年別）】



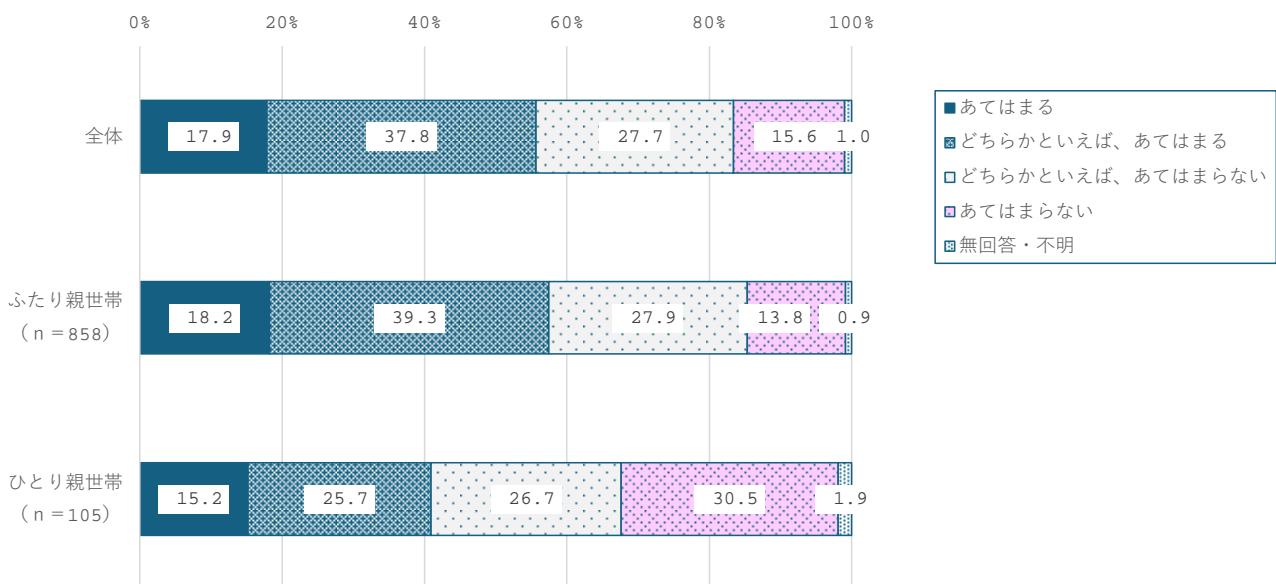
【等価世帯収入別】

お子さんに本や新聞等を読むように勧めている (n = 872)



【世帯の状況別】

お子さんに本や新聞等を読むように勧めている (n = 963)



(3) 絵本の読み聞かせについて

問12 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a~d それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

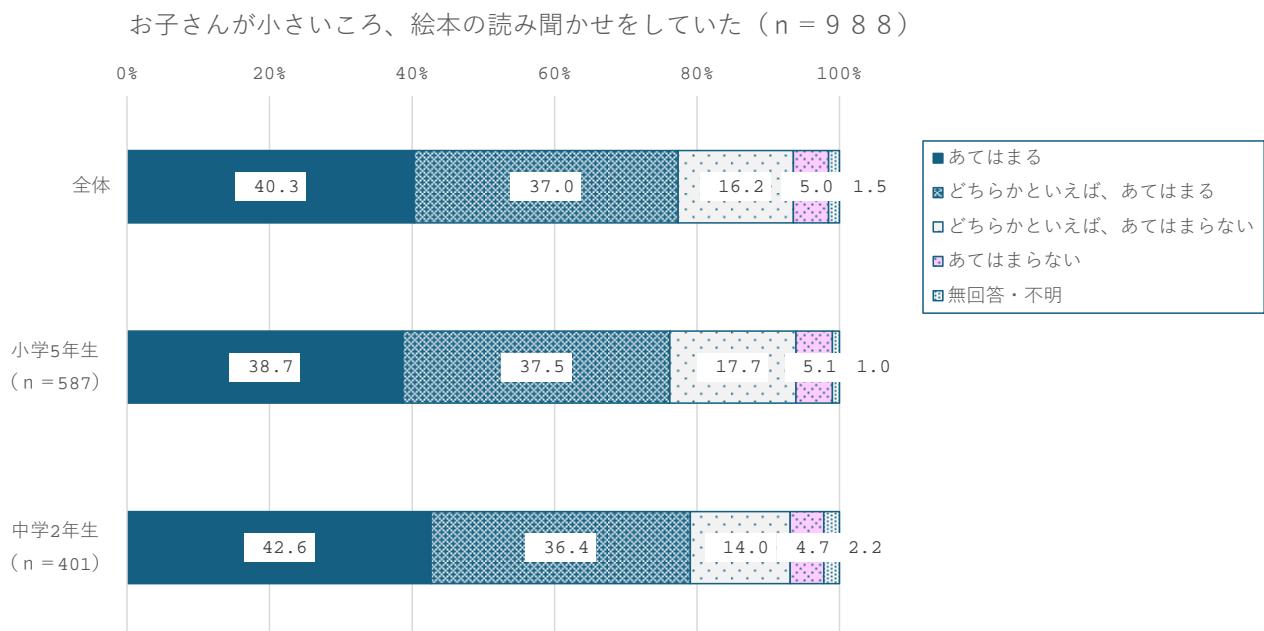
c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた。

- 子どもが小さいころの読み聞かせについては、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が、小学5年生で76.2%、中学2年生で79.0%とほぼ同じで、学年による差はみられなかった。

等価世帯収入別では、(1) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が「中央値の1/2未満」で66.3%、「中央値の1/2以上」で79.9%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

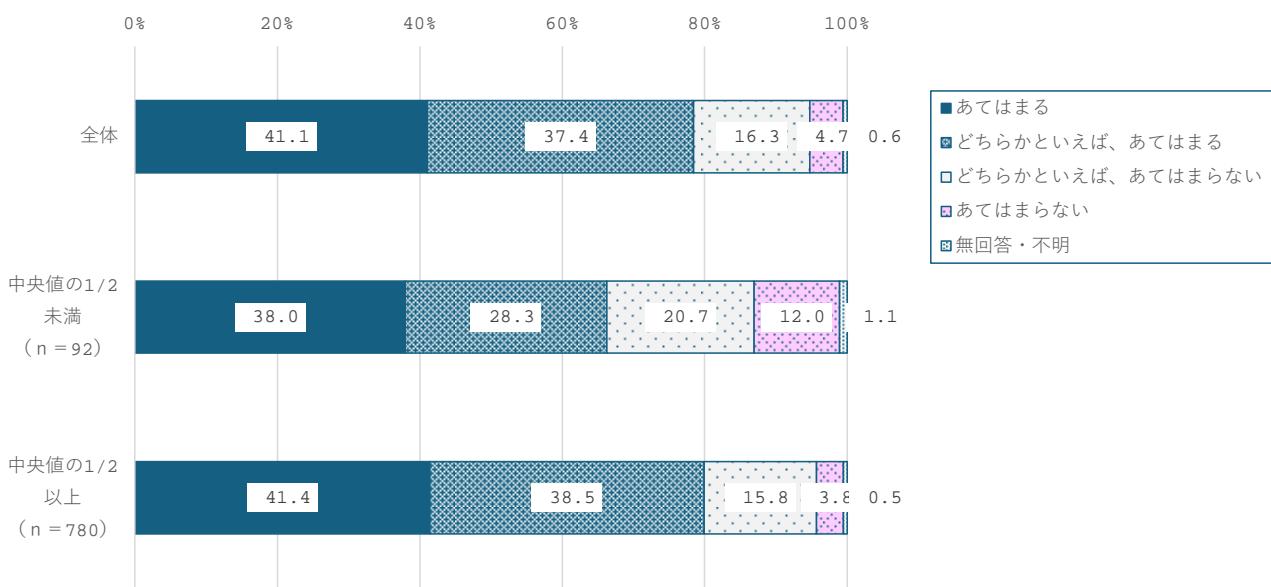
世帯の状況別でも、(1) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」で79.3%、「ひとり親世帯」で67.6%と、「ふたり親世帯」が「ひとり親世帯」に比べ多い結果となった。

【全体（学年別）】



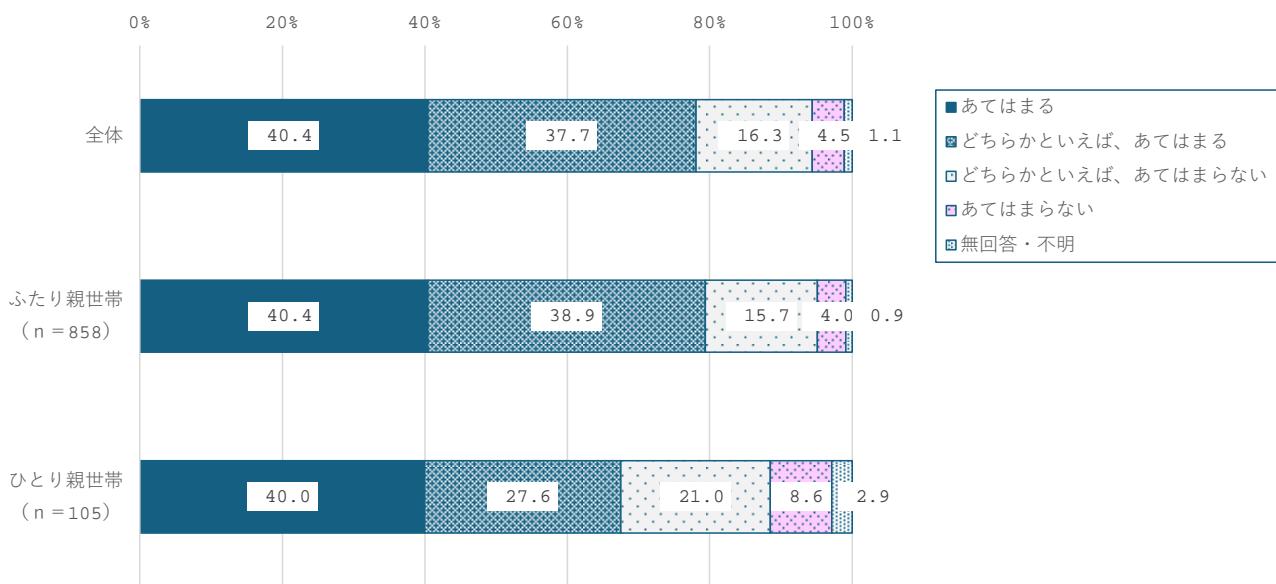
【等価世帯収入別】

お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた (n = 872)



【世帯の状況別】

お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた (n = 963)



(4) 勉強や成績の話について

問12 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a~d それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

d) お子さんから、勉強や成績のことについて話してくれる

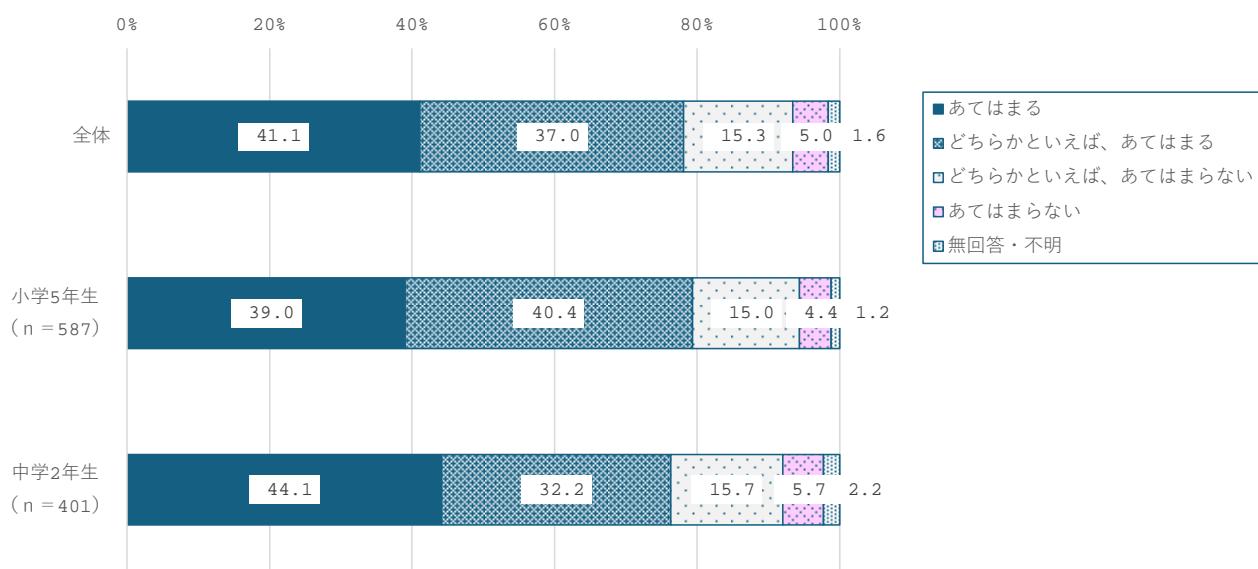
- 子どもからの勉強や成績についての話がけについては、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が、小学5年生で79.4%、中学2年生で76.3%と、小学5年生が若干多い割合となった。

等価世帯収入別では、(1) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が「中央値の1/2未満」で66.3%、「中央値の1/2以上」で81.1%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

世帯の状況別でも、(1) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」で80.1%、「ひとり親世帯」で67.6%と、「ふたり親世帯」が「ひとり親世帯」に比べ多い結果となった。

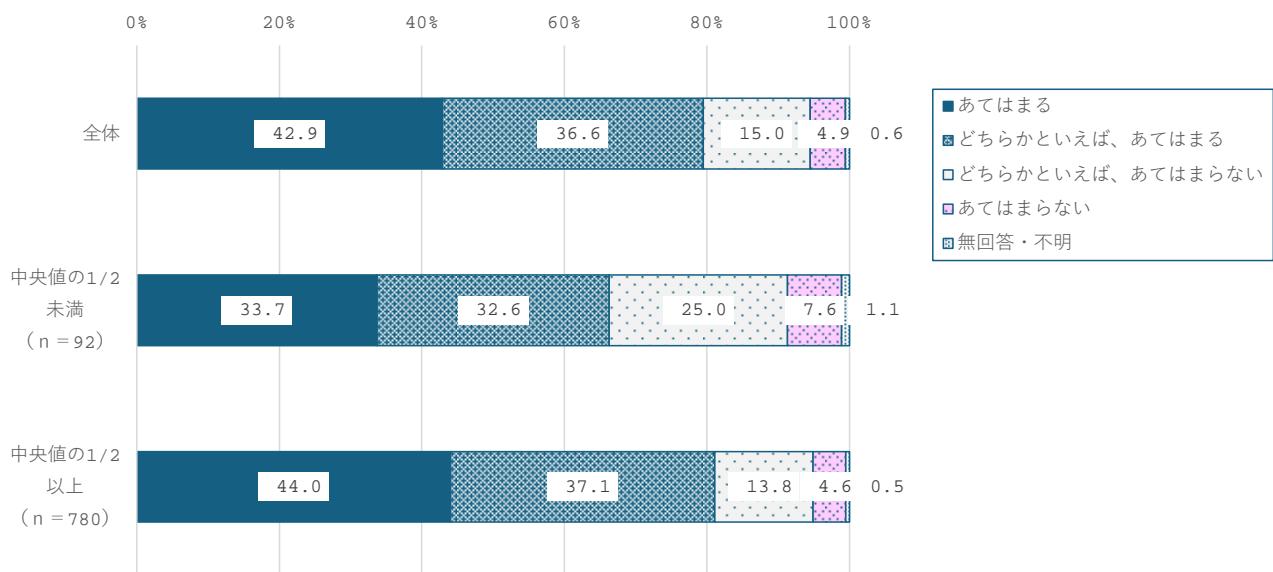
【全体（学年別）】

お子さんから、勉強や成績のことについて話してくれる (n = 988)



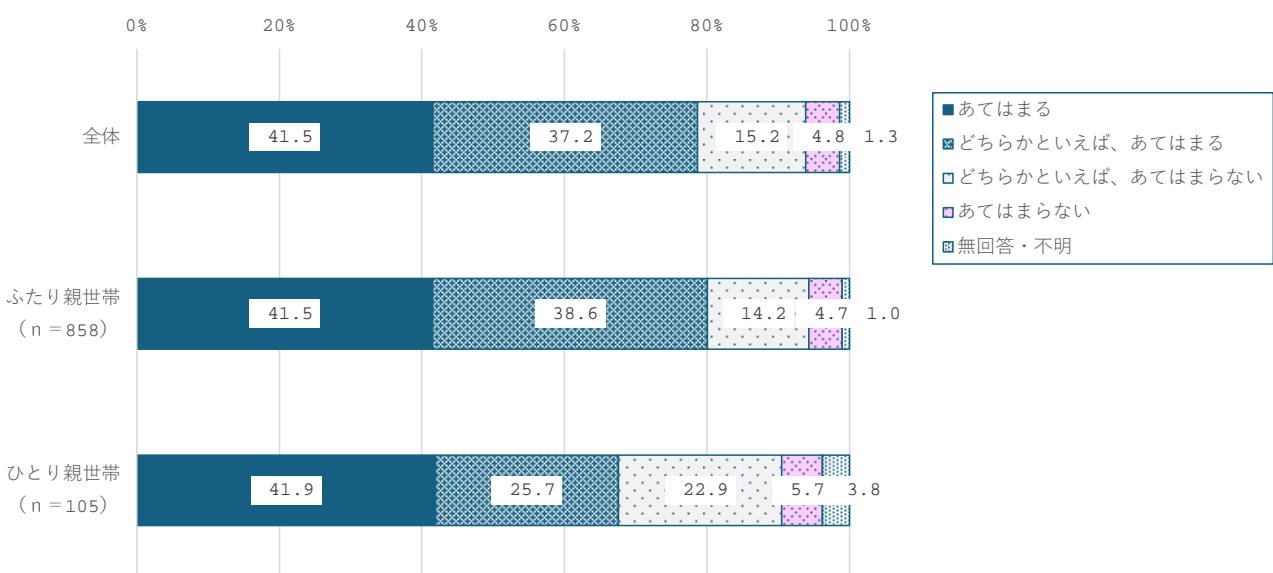
【等価世帯収入別】

お子さんから、勉強や成績のことについて話してくれる (n = 872)



【世帯の状況別】

お子さんから、勉強や成績のことについて話してくれる (n = 963)



5. 学校との関わり・参加

（1）学校行事への参加

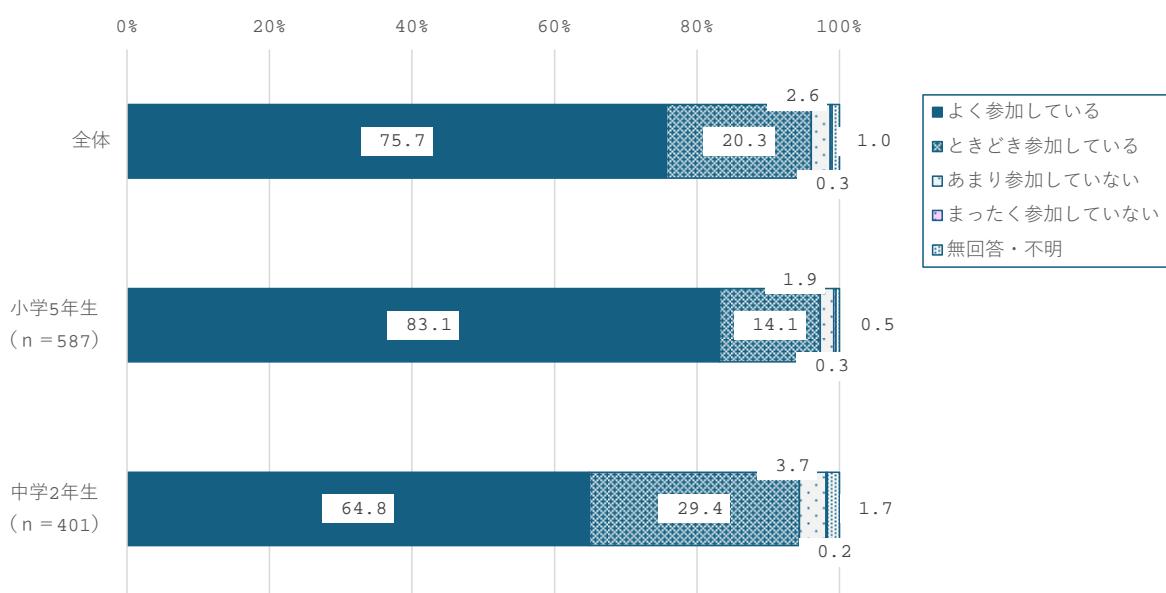
問13 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。（a、b それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加

- 学校行事への参加については、全体、等価世帯収入別および世帯の状況別では、どの層も「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた割合が90%以上と、多い結果になっていた。

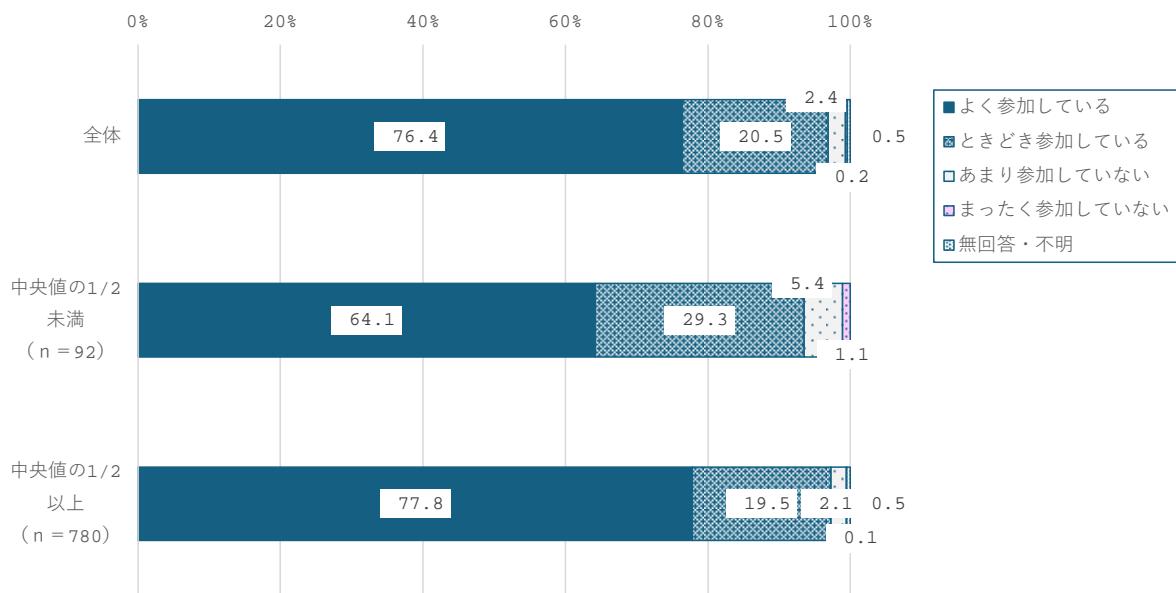
【全体（学年別）】

授業参観や運動会などの学校行事への参加（n = 988）



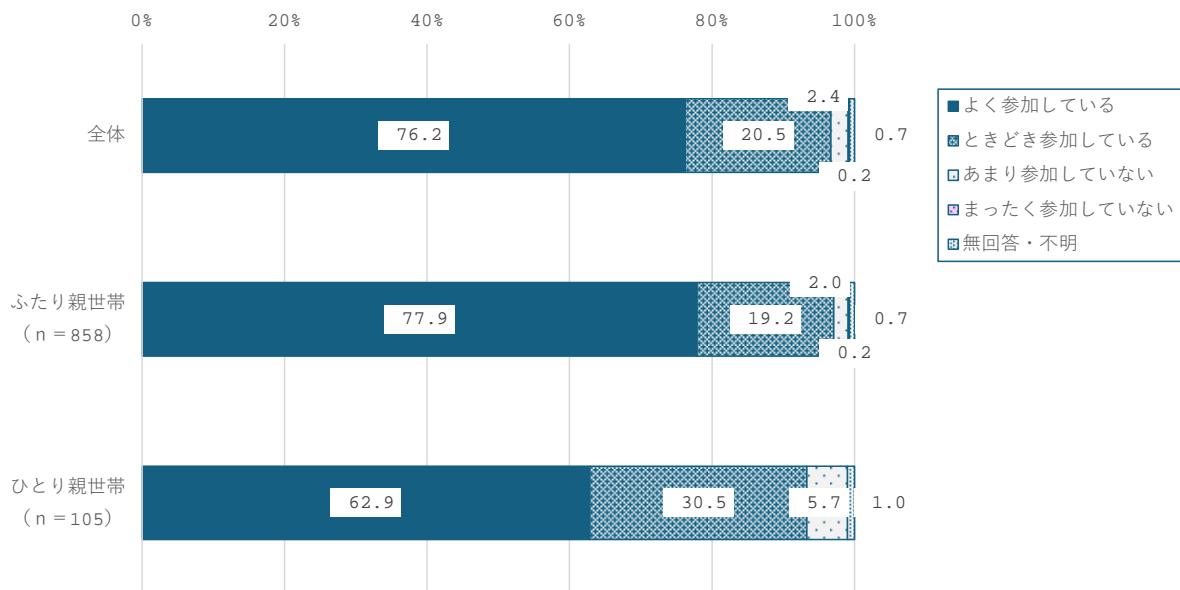
【等価世帯収入別】

授業参観や運動会などの学校行事への参加 (n = 872)



【世帯の状況別】

授業参観や運動会などの学校行事への参加 (n = 963)



(2) P T A活動への参加

問13 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(a、b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

b) P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

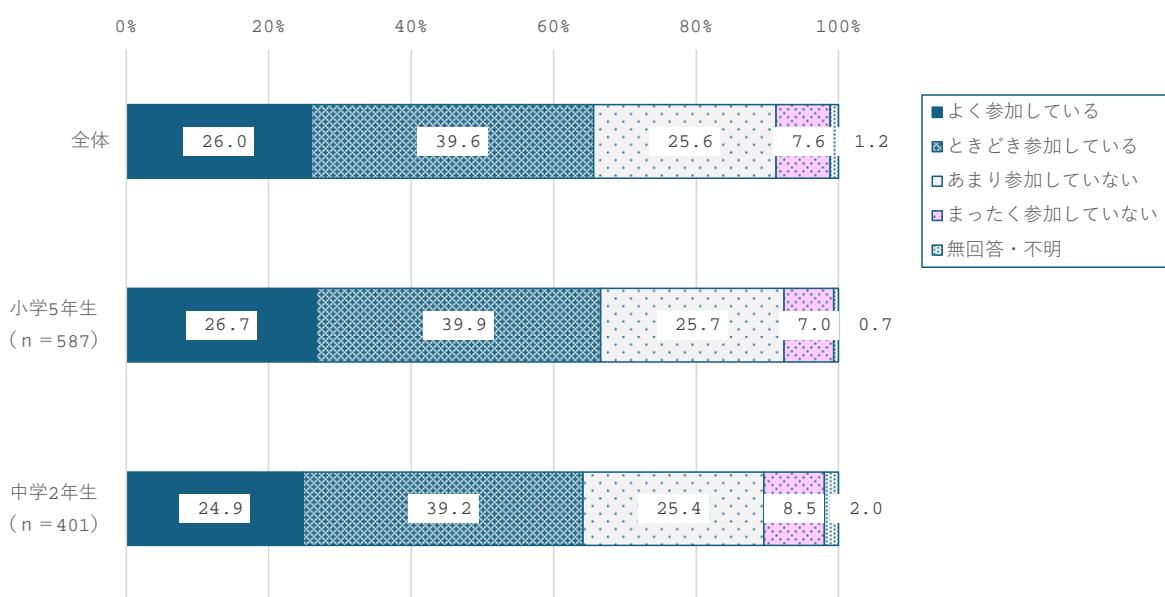
- P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加については、全体では「よく参加している」が 26.0%、「ときどき参加している」が 39.6%となっており、合わせた割合は 65.6%となっていた。

等価世帯収入別では、「中央値の 1/2 未満」では「よく参加している」が 20.7%、「ときどき参加している」が 30.4%で、「中央値の 1/2 以上」では、「よく参加している」が 26.5%。「ときどき参加している」が 41.5%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

世帯の状況別では、「ひとり親世帯」で「よく参加している」は 26.7%、「ときどき参加している」は 41.6%となっており、合わせた割合は 68.3%だった。

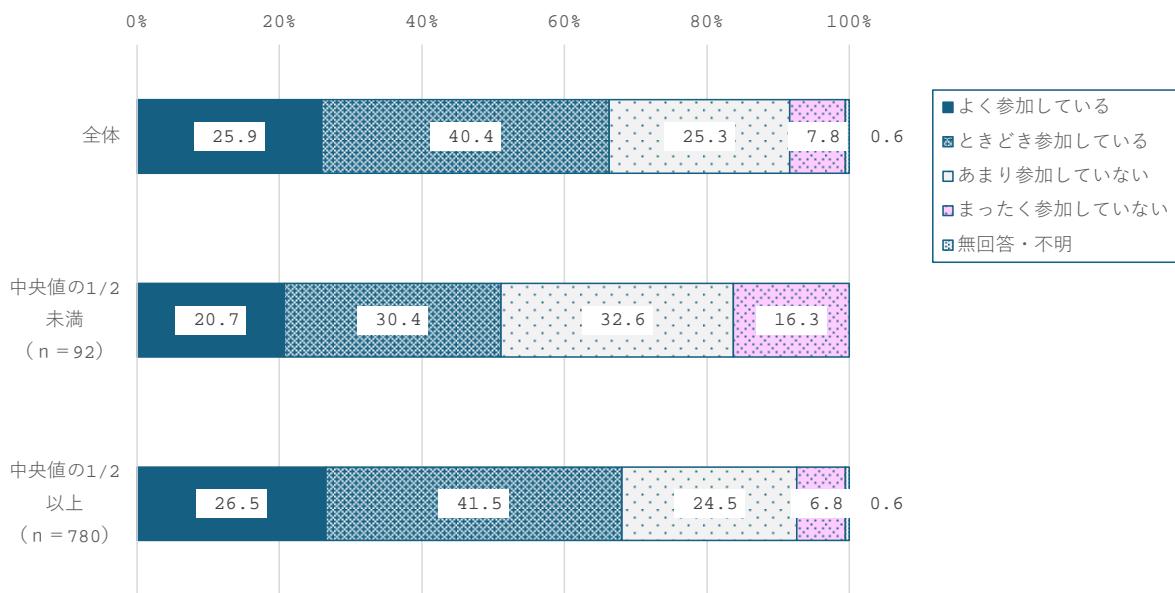
【全体（学年別）】

P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加 (n = 988)



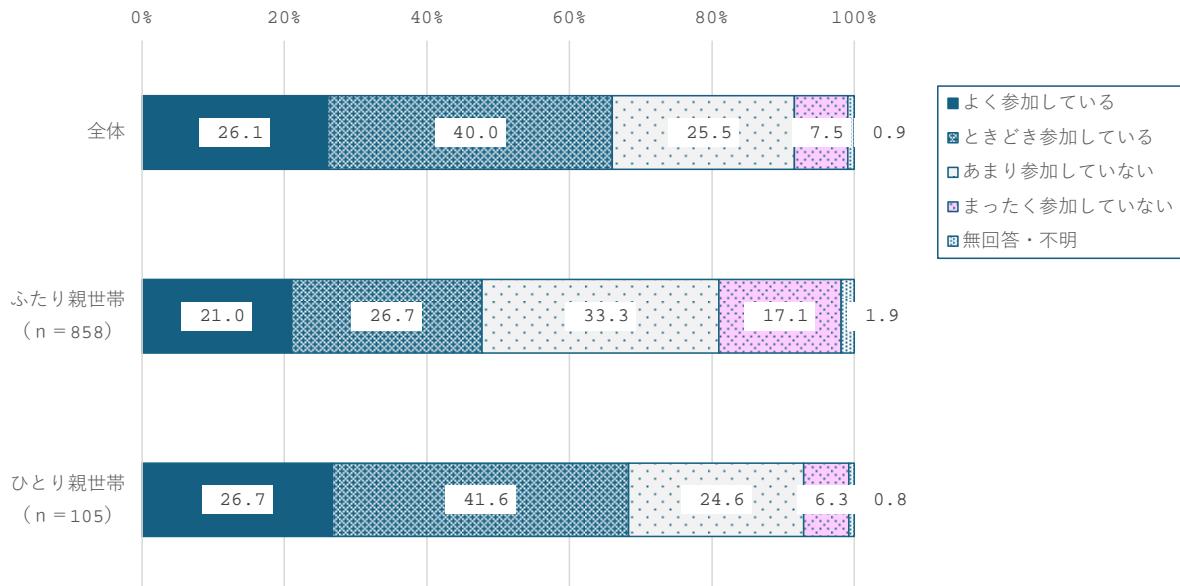
【等価世帯収入別】

PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加 (n = 872)



【世帯の状況別】

PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加 (n = 963)



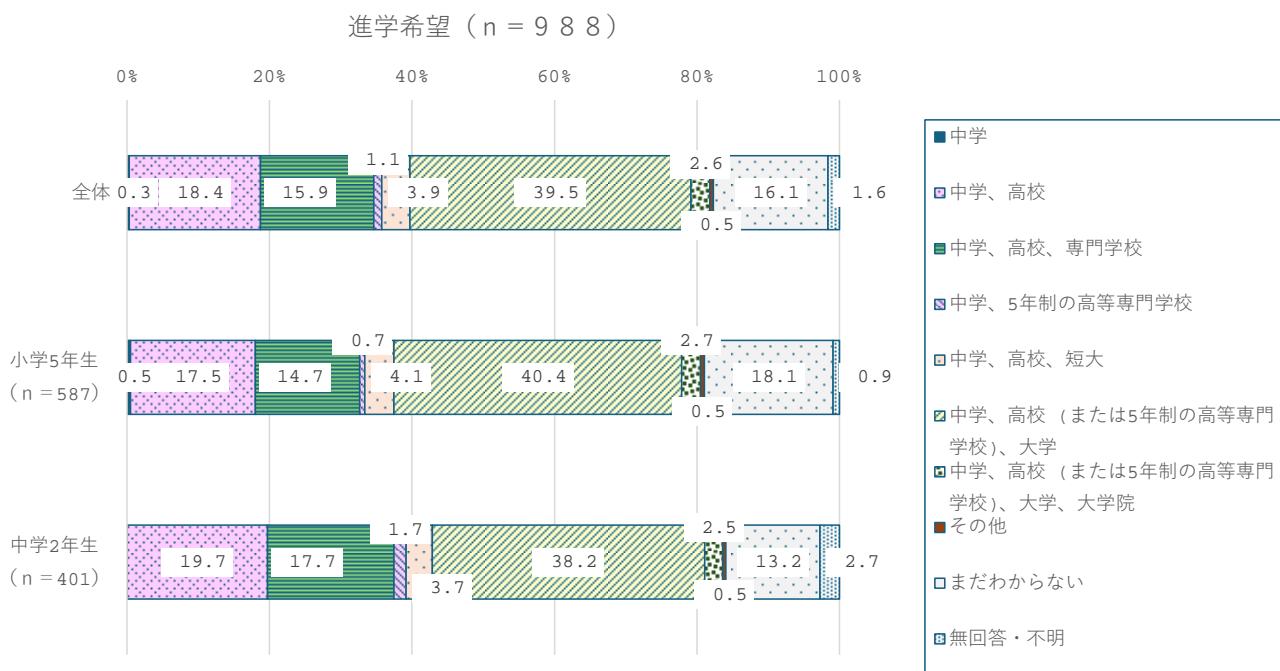
6. 子どもに対する進学期待・展望

(1) 子どもの進学段階に関する希望・展望

問14 お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。（あてはまるものひとつに○）

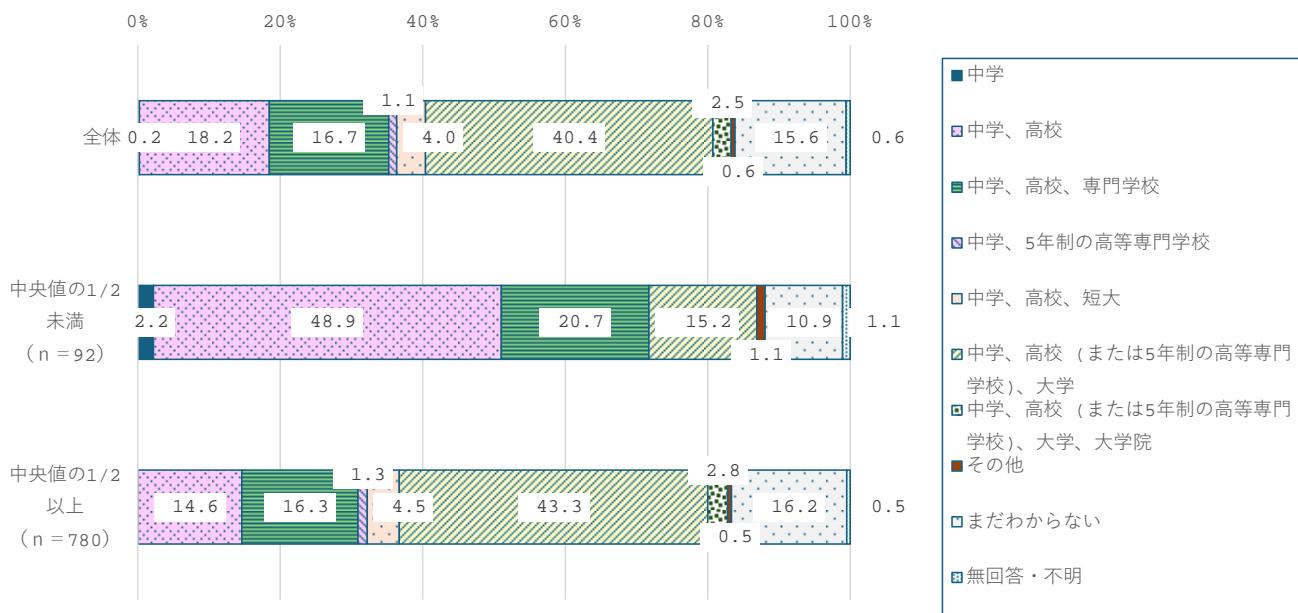
- 子どもの進学への期待、展望については、全体では、「大学まで」が39.5%と最も多く、続いて「高校まで」(18.4%)、「専門学校まで」(15.9%)となった。
- 等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」は「高校まで」が48.9%と最も多く、「中央値の1/2以上」は「大学まで」が43.3%と最も多い結果となっていた。
- 世帯の状況別では、「ひとり親世帯」では「高校まで」が40.0%、「大学まで」が21.0%、「専門学校まで」が18.1%となった。また、「ふたり親世帯」では「大学まで」が42.5%、「高校まで」および「専門学校まで」が15.7%だった。

【全体（学年別）】



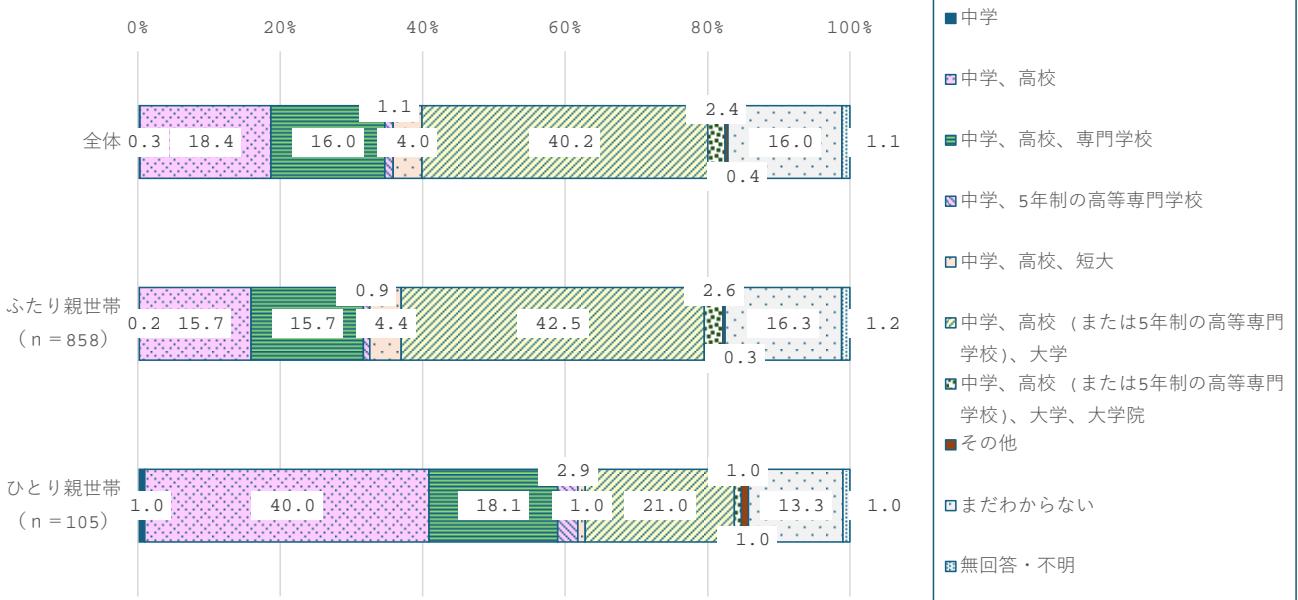
【等価世帯収入別】

進学希望 (n = 872)



【世帯の状況別】

進学希望 (n = 963)



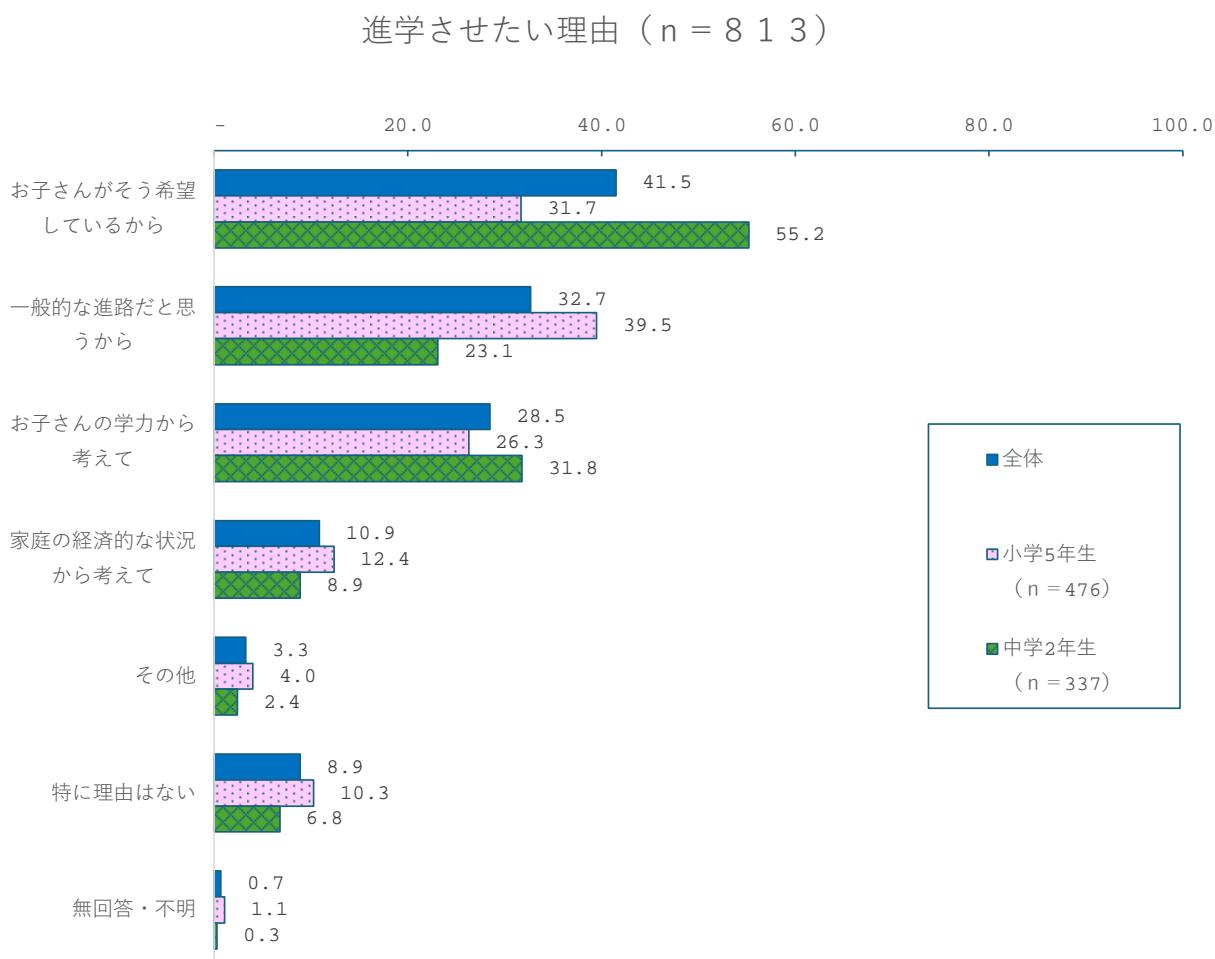
(2) 進学段階に関する希望・展望についてそう考える理由

問15 前問で1～8と答えた場合、その理由は何ですか。（1～5については、あてはまるものすべてに○）

- 進学の段階への希望・展望の理由については、全体では、「お子さんがそう希望しているから」が41.5%と最も多く、続いて「一般的な進路だと思うから」(32.7%)、「お子さんの学力から考えて」(28.5%)となった。

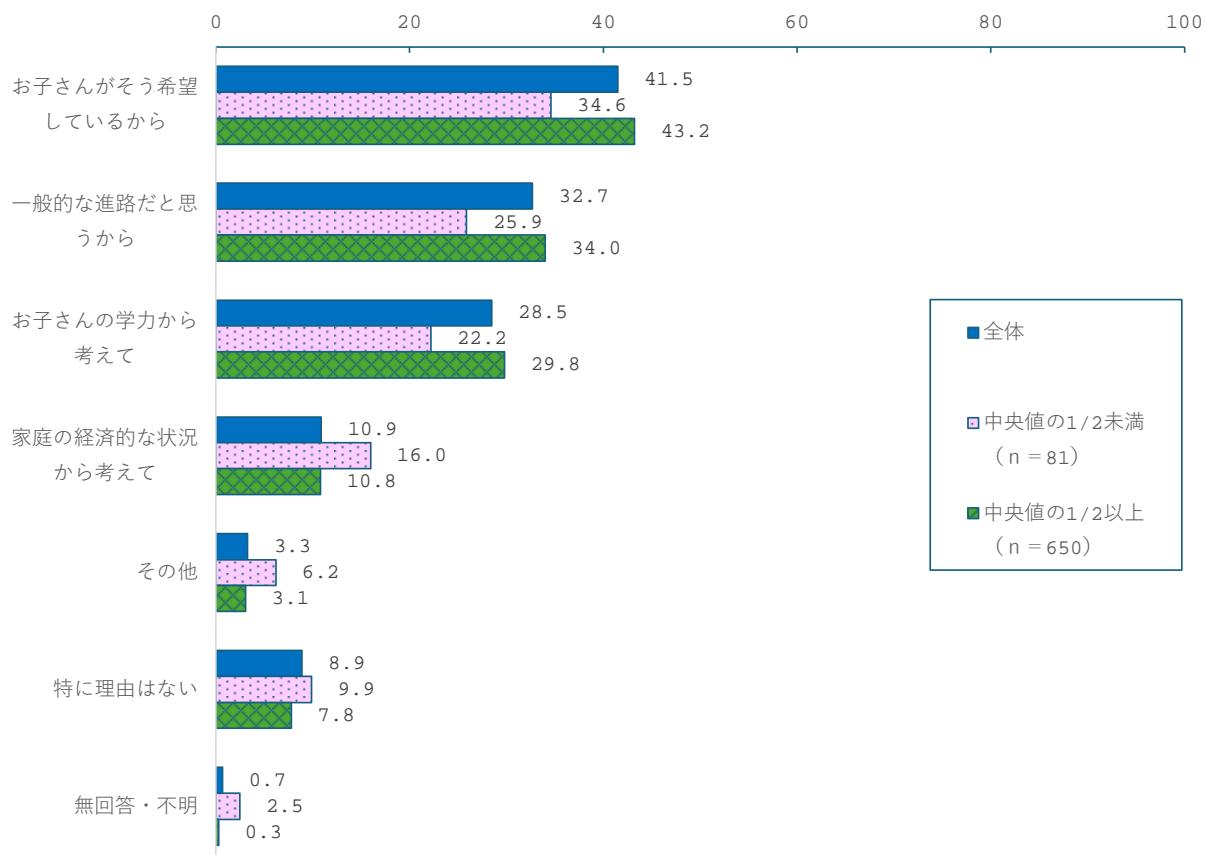
等価世帯収入別の「中央値の1/2未満」、世帯状況別の「ひとり親世帯」においては、理由として、「家庭の経済的な状況を考えて」が15%以上となった。

【全体（学年別）】



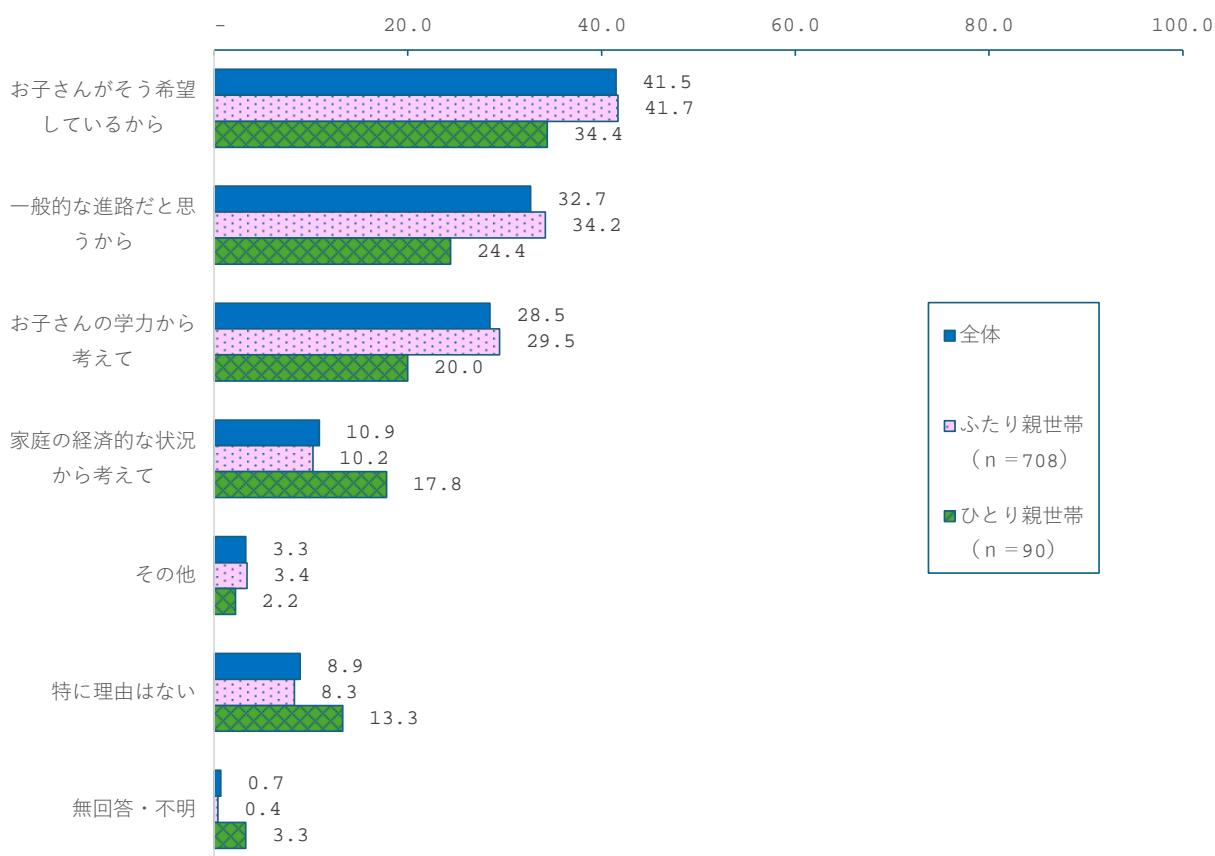
【等価世帯収入別】

進学させたい理由 (n = 731)



【世帯の状況別】

進学させたい理由 (n = 326)



7. 頼れる人の有無・相手

（1）子育てに関する相談

問 16 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。（a～c それについて、1～3のあてはまるもの1つに○）

また、「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。（①～⑦のあてはまるものすべてに○）

a) 子育てに関する相談

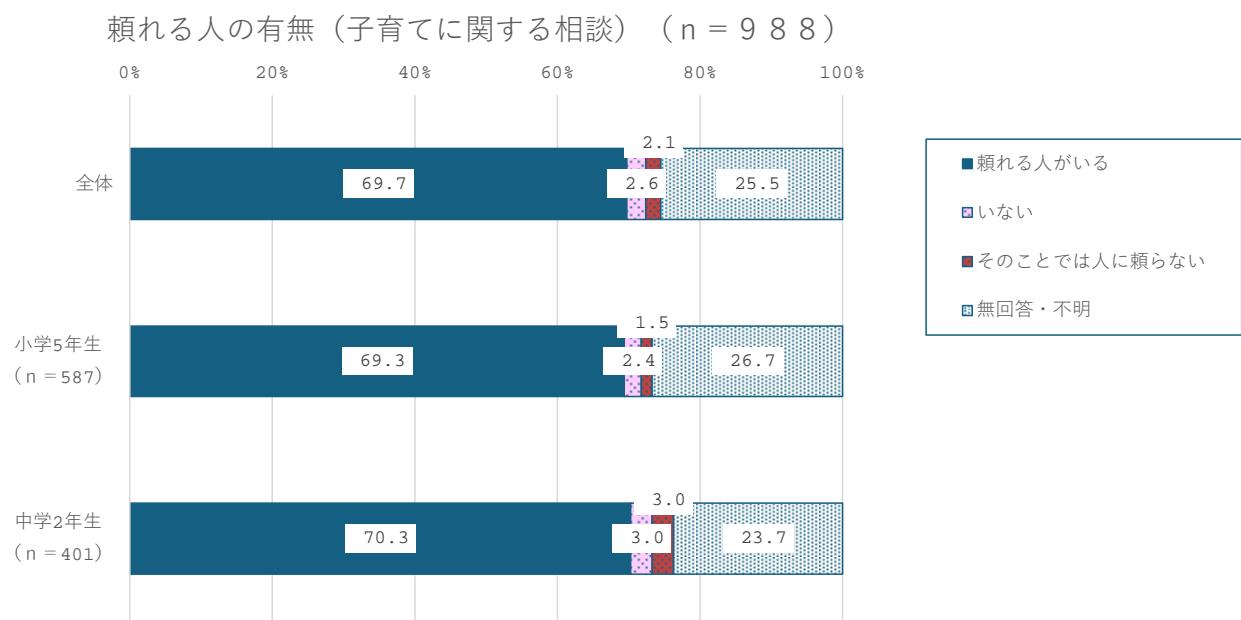
【相手の有無】

- 子育てに関する相談の頼れる相手の有無について、全体では「頼れる人がいる」は約70%だった。

等価世帯収入別では、「頼れる人はいる」の割合は世帯収入が高い方が割合も高くなった。

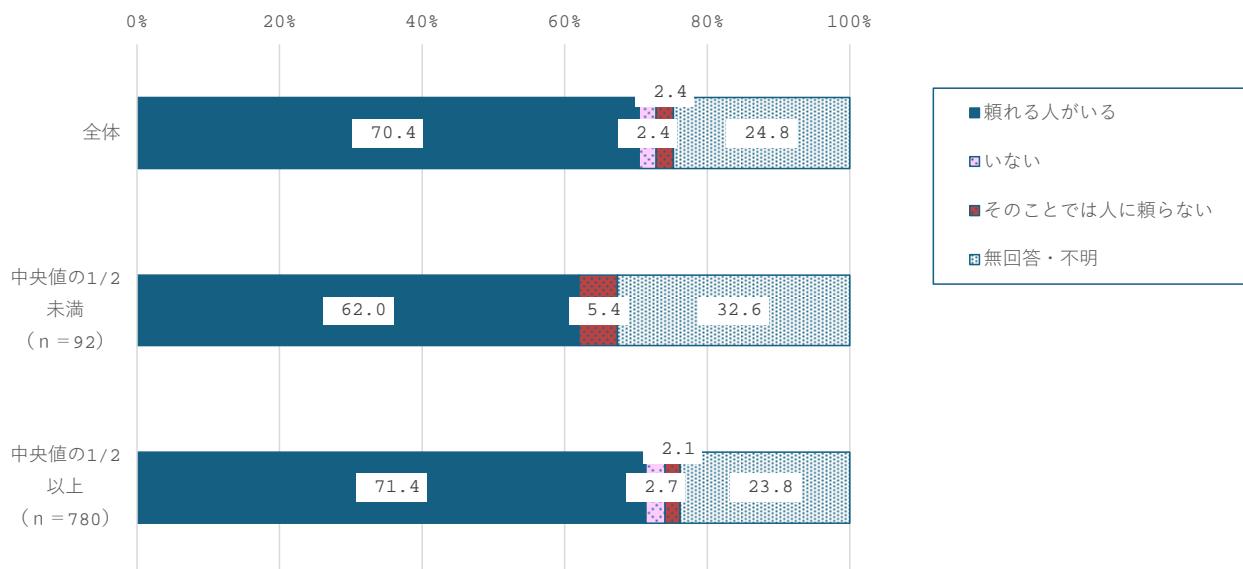
また、世帯の状況別では、「頼れる人はいる」の割合は「ふたり親世帯」で71.4%、「ひとり親世帯」で58.1%と大きな差がみられた。

【全体（学年別）】



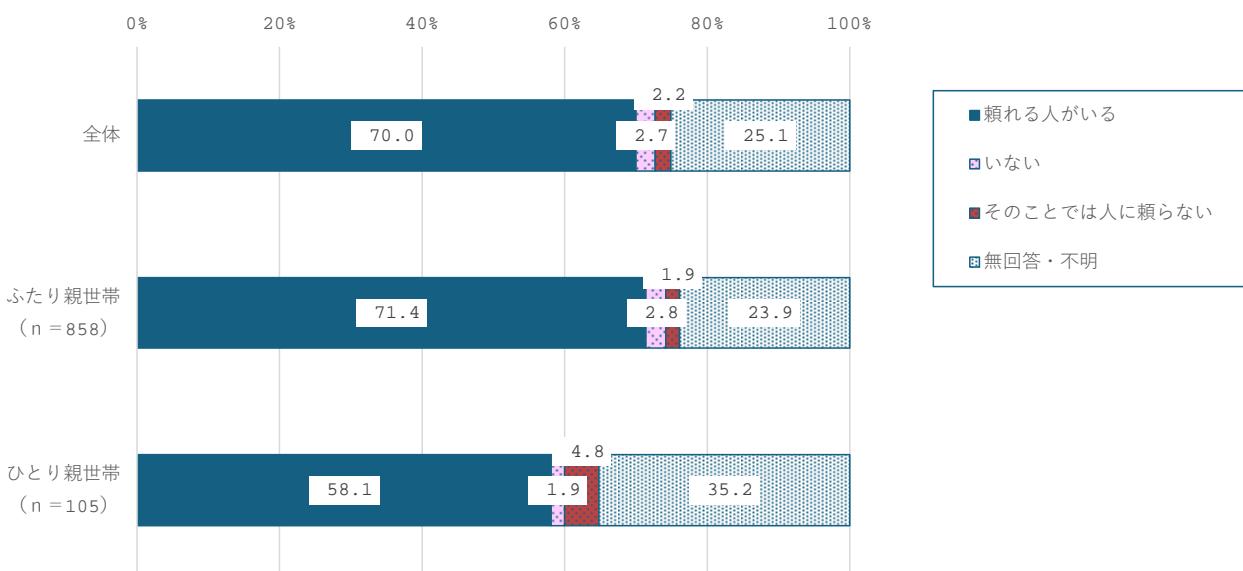
【等価世帯収入別】

頼れる人の有無（子育てに関する相談）（n = 872）



【世帯の状況別】

頼れる人の有無（子育てに関する相談）（n = 963）

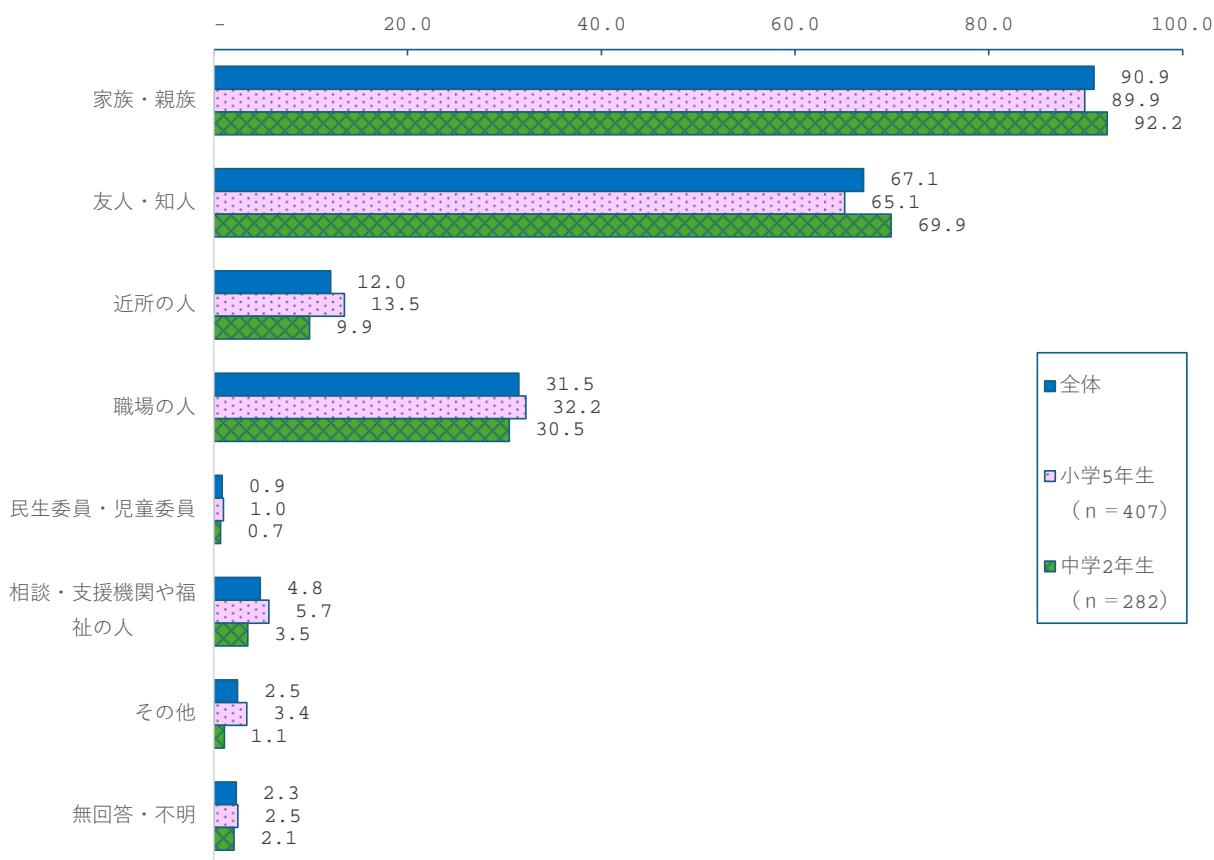


【相手】

- 賴れる人については、全体では「家族・親族」が90.9%と最も多く、続いて「友人・知人」が67.1%、「職場の人」が31.5%となった。
等価世帯収入別では、「家族・親族」、「友人・知人」、「近所の人」、「職場の人」において、収入が高い方が割合も高い結果となった。
世帯の状況別では、「家族・親族」、「友人・知人」、「近所の人」において、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」の割合が高い結果となった。

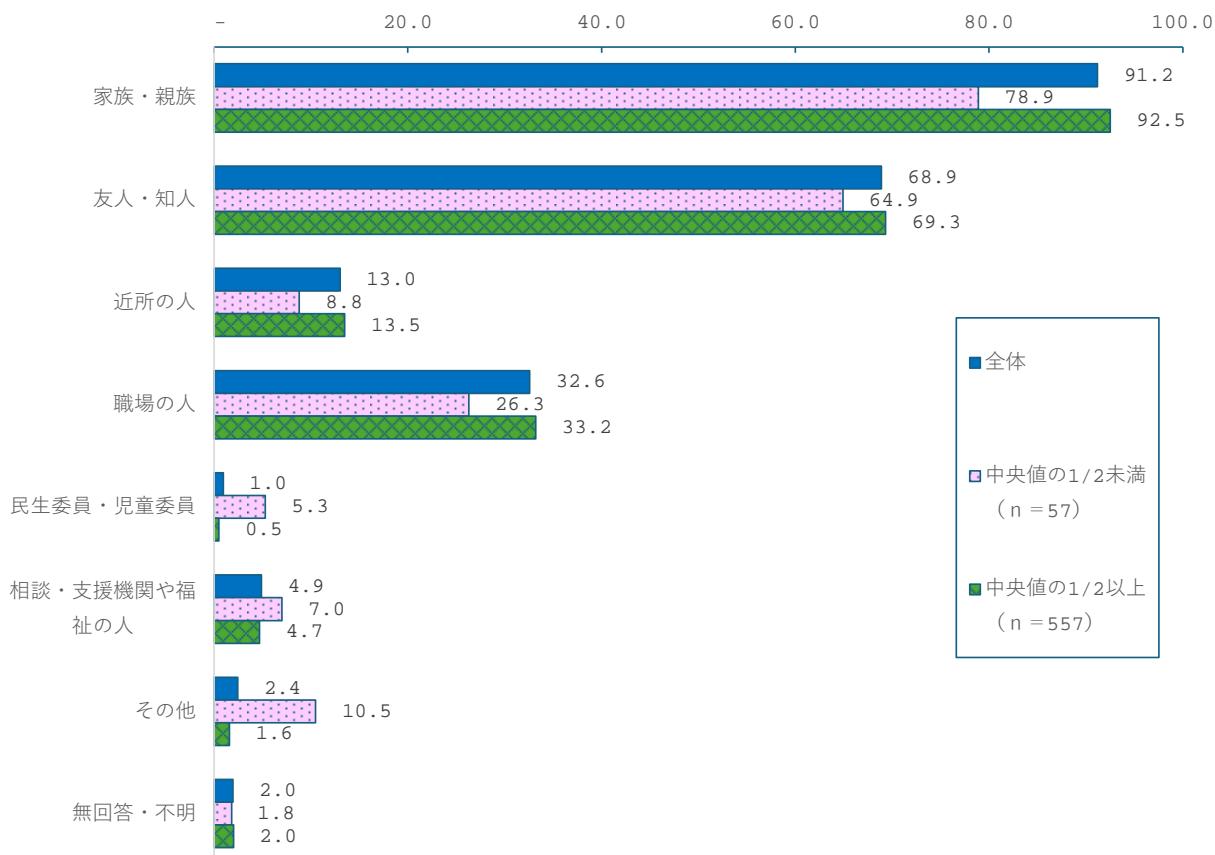
【全体（学年別）】

頼れる人（子育てに関する相談）（n = 689）



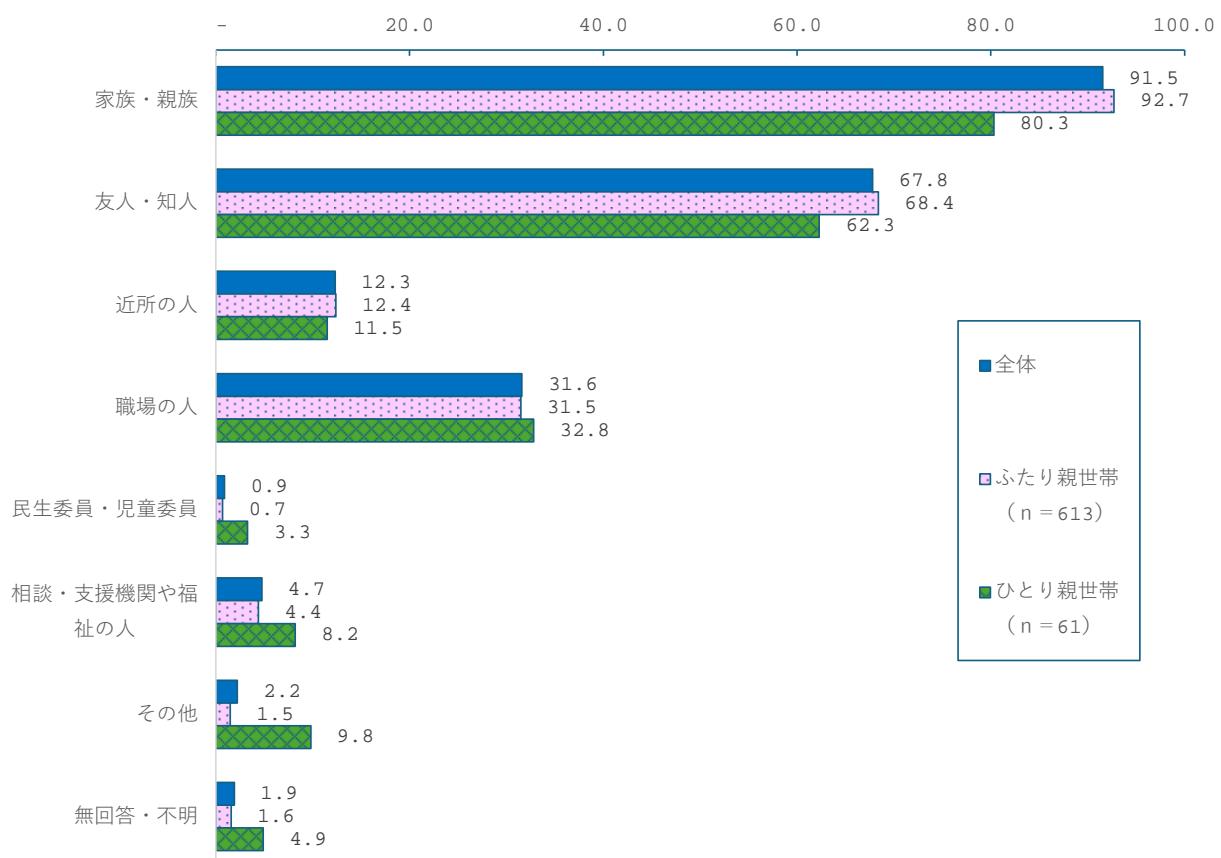
【等価世帯収入別】

頼れる人（子育てに関する相談）（n = 614）



【世帯の状況別】

頼れる人（子育てに関する相談）（n = 674）



(2) 重要な事柄の相談

問16 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(a～cそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

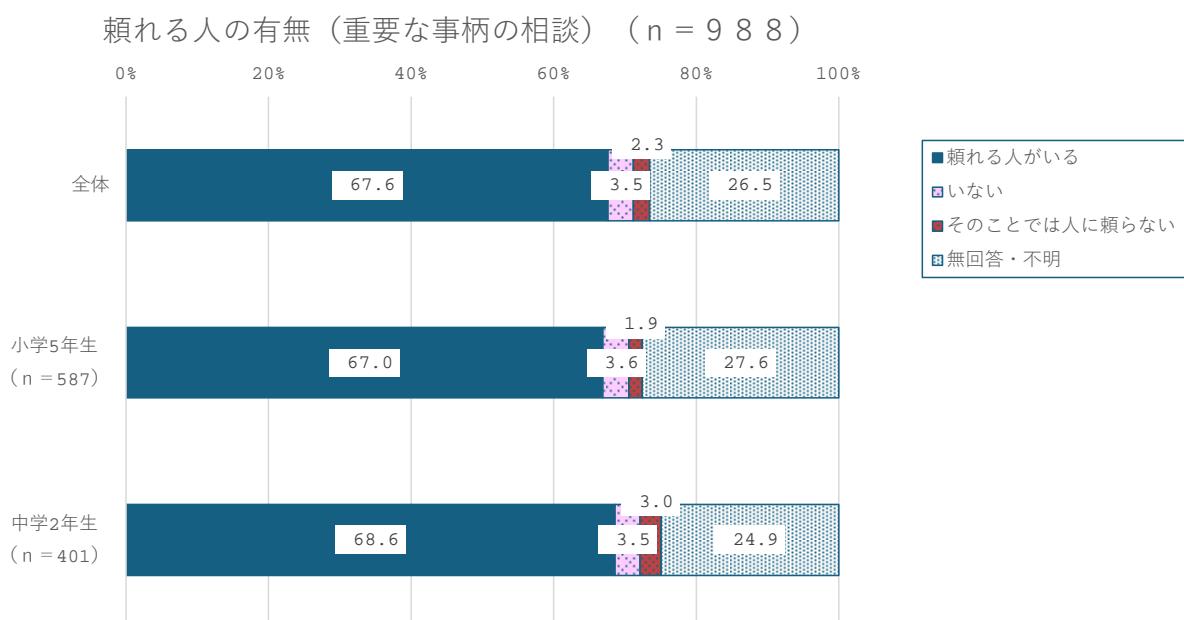
また、「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(①～⑦のあてはまるものすべてに○)

b) 重要な事柄の相談

【相手の有無】

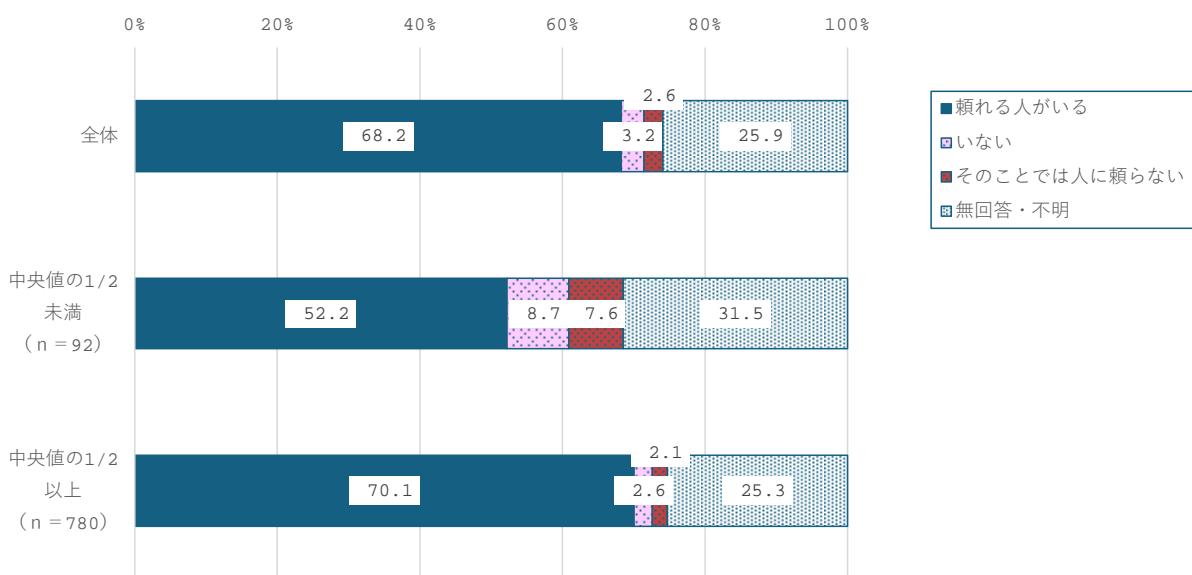
- 重要な事柄の相談に関しては、全体では「頼れる人がいる」は65%以上となった。等価世帯収入別では、「頼れる人はいる」の割合は世帯収入が高い方が割合も高くなかった。また、世帯の状況別では、「頼れる人はいる」の割合は「ふたり親世帯」で70.3%、「ひとり親世帯」で49.5%と大きな差がみられた。

【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】

頼れる人の有無（重要な事柄の相談）(n = 872)



【世帯の状況別】

頼れる人の有無（重要な事柄の相談）(n = 963)

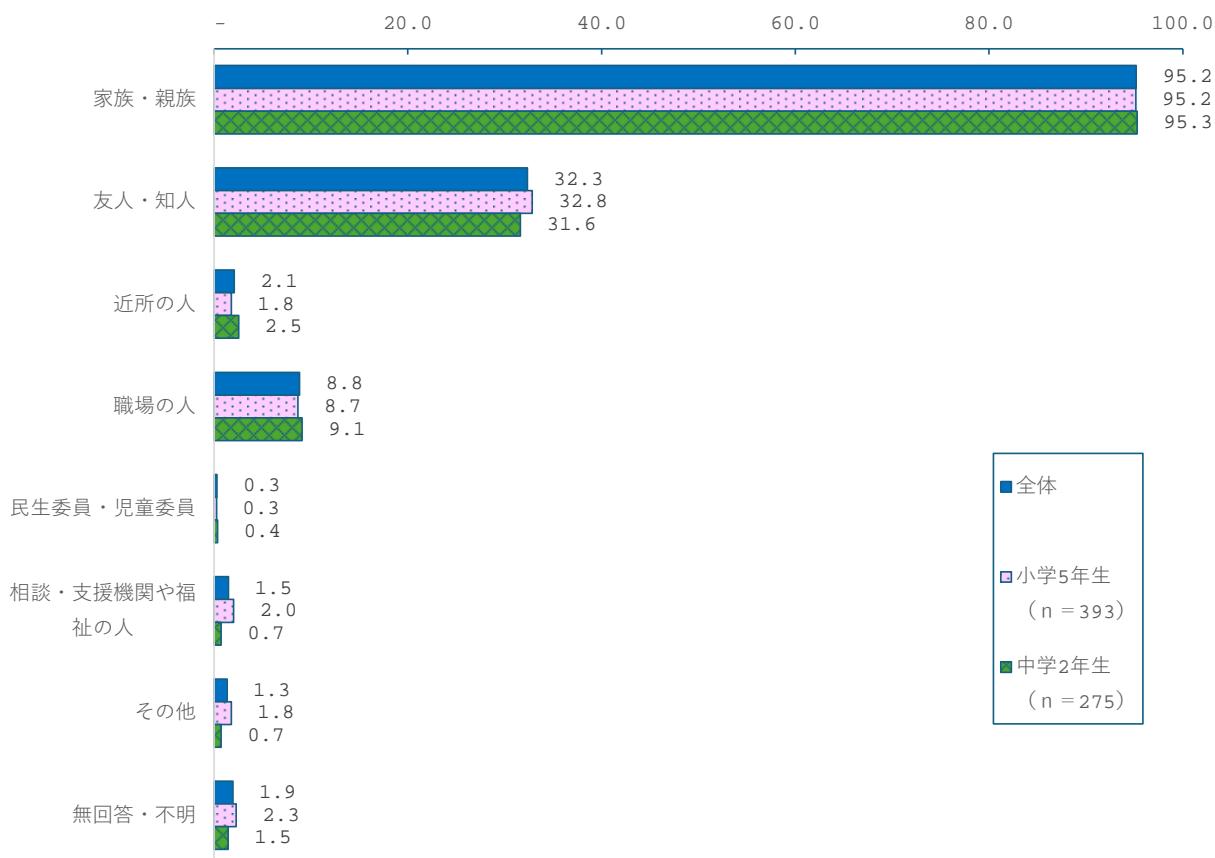


【相手】

- 頼れる人については、全体では「家族・親族」が95.2%と最も多く、続いて「友人・知人」が32.3%だった。
等価世帯収入別では、「家族・親族」、「友人・知人」、「近所の人」、「職場の人」において、収入が高い方が割合も高い結果となった。
世帯の状況別では、「家族・親族」において、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」の割合が高い結果となった。

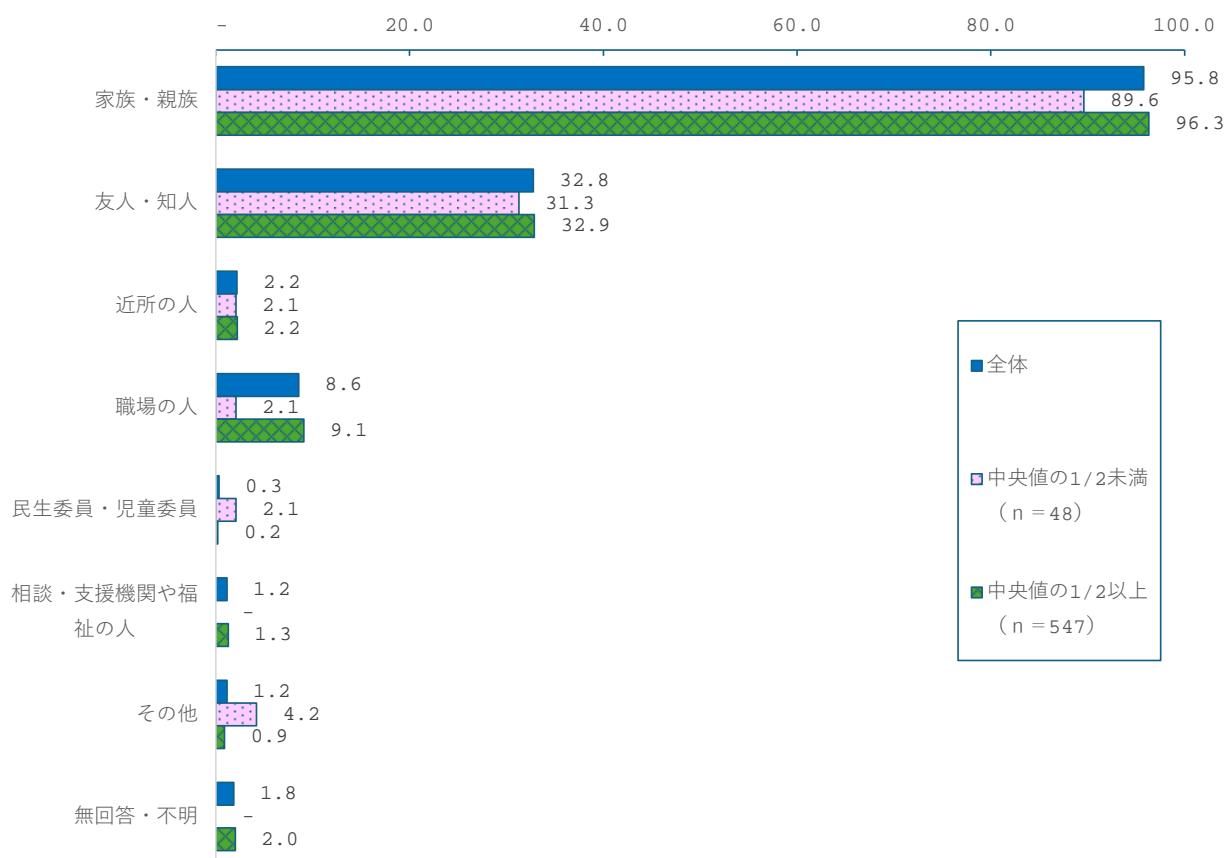
【全体（学年別）】

頼れる人（重要な事柄の相談）（n = 689）



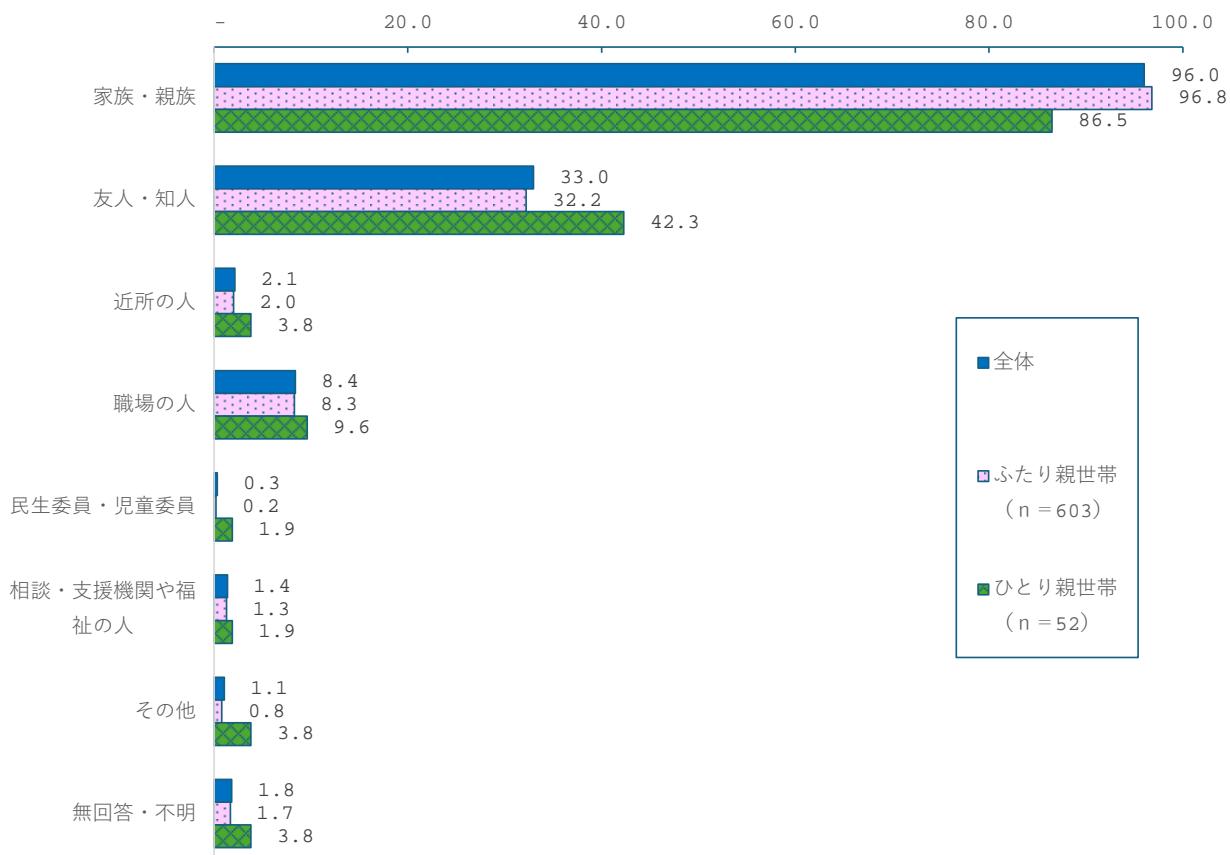
【等価世帯収入別】

頼れる人（重要な事柄の相談）（n = 595）



【世帯の状況別】

頼れる人（重要な事柄の相談）(n = 655)



(3) いざというときのお金の援助

問16 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。（a～cそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○）

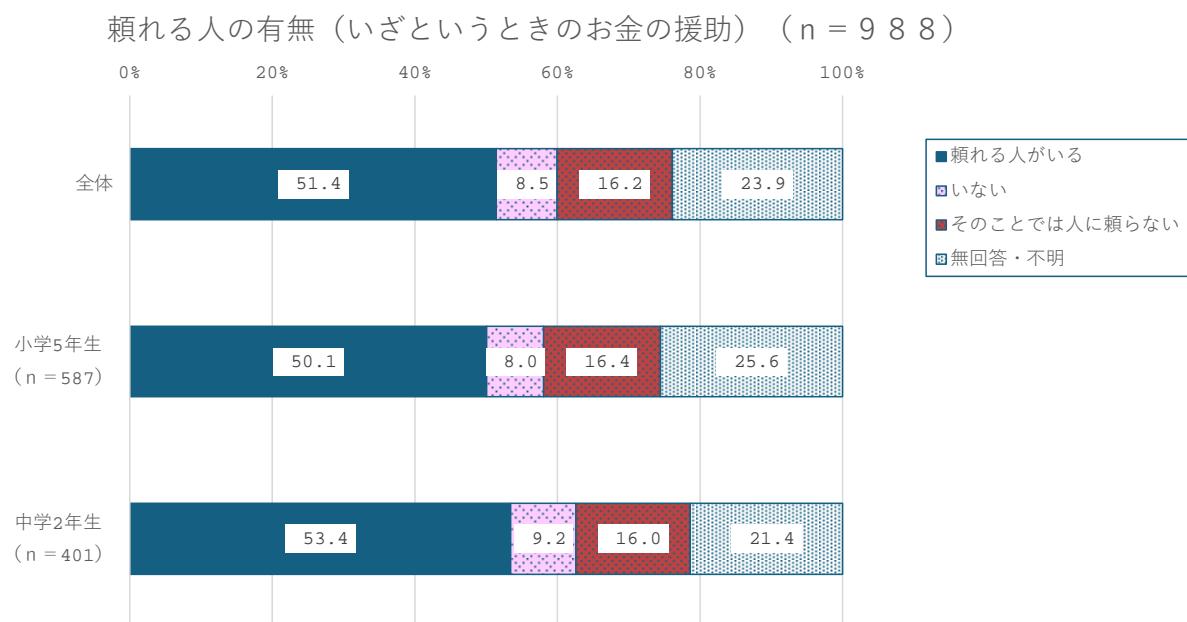
また、「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。（①～⑦のあてはまるものすべてに○）

c) いざというときのお金の援助

【相手の有無】

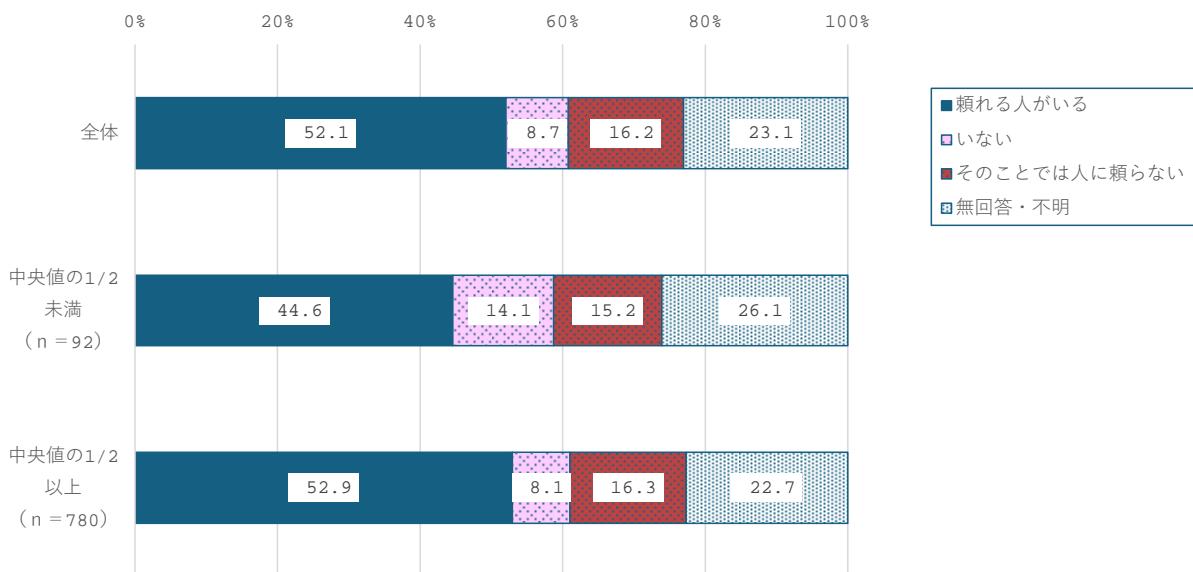
- いざという時のお金の援助については、全体では「頼れる人がいる」は51.4%となった。等価世帯収入別では、「頼れる人はいる」の割合は世帯収入が高い方が割合も高くなかった。また、世帯の状況別では、「頼れる人はいる」の割合は「ふたり親世帯」で53.7%、「ひとり親世帯」で37.1%と大きな差がみられた。

【全体（学年別）】



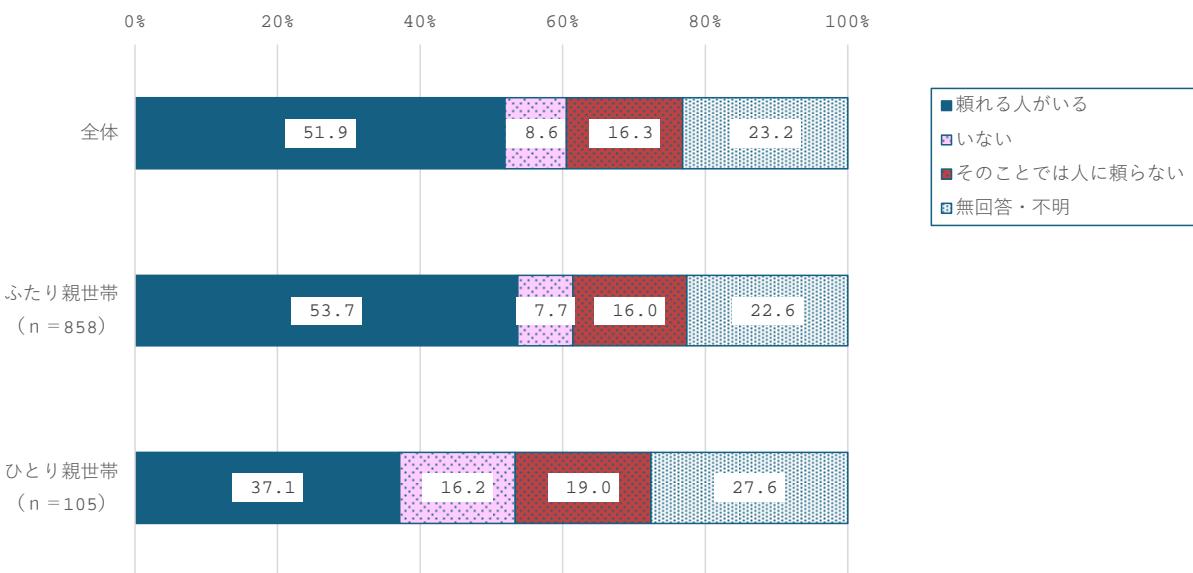
【等価世帯収入別】

頼れる人の有無（いざという時のお金の援助）（n = 872）



【世帯の状況別】

頼れる人の有無（いざという時のお金の援助）（n = 963）

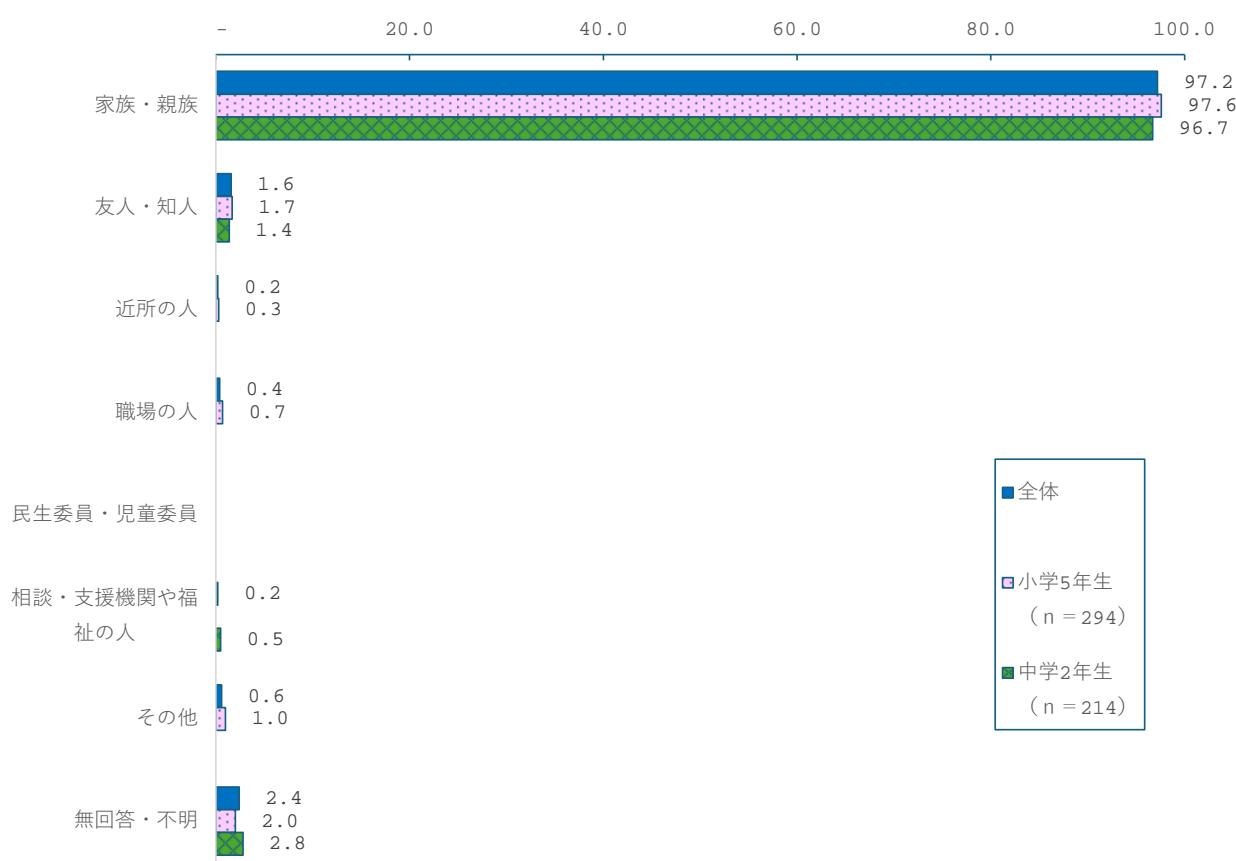


【相手】

- いざというときのお金の援助については、全体では「家族・親族」の割合が他の頼れる人の項目よりもかなり大きい結果(97.2%)となった。
等価世帯収入別では、「友人・知人」、「近所の人」、「職場の人」において、収入が高い方が割合も高い結果となった。
世帯の状況別では、「家族・親族」において、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」の割合が高い結果となった。

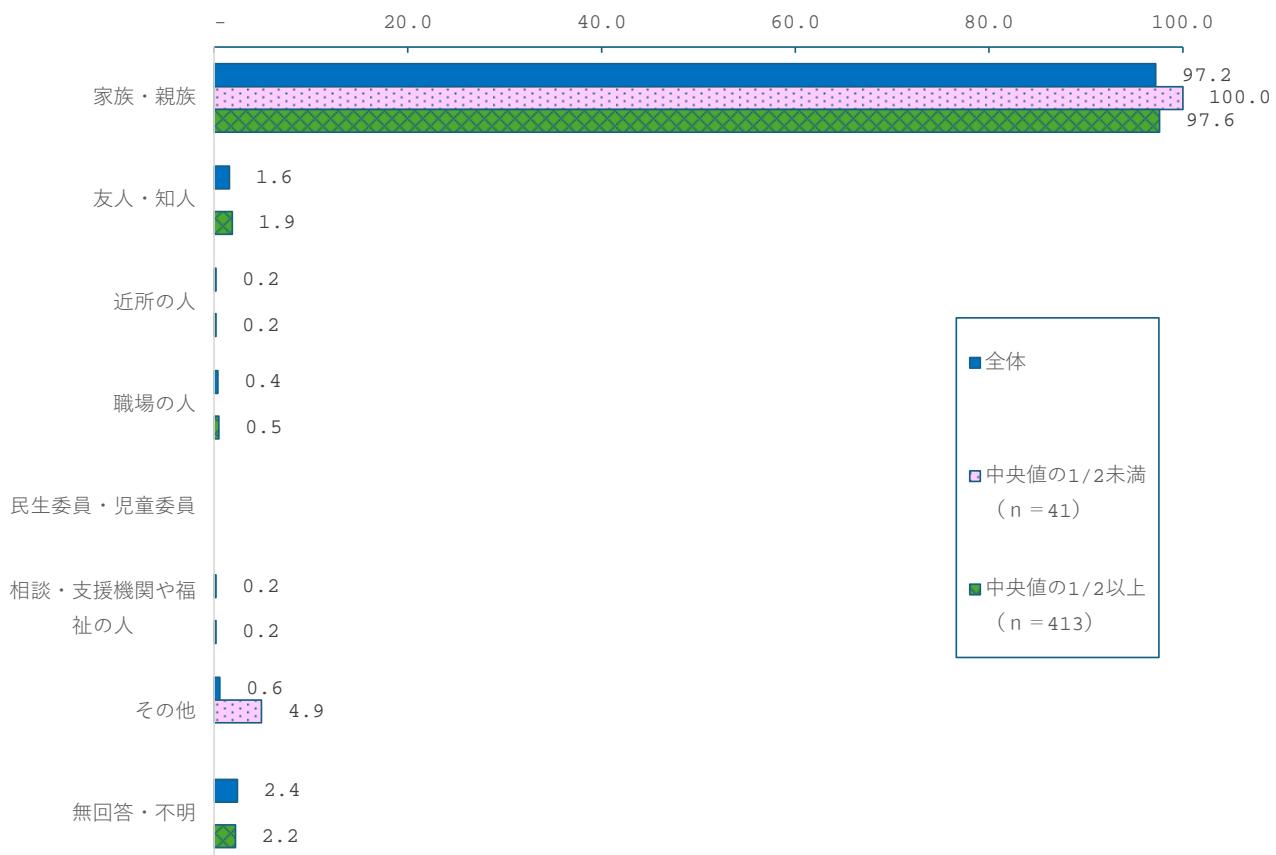
【全体（学年別）】

頼れる人（いざという時のお金の援助）（n = 508）



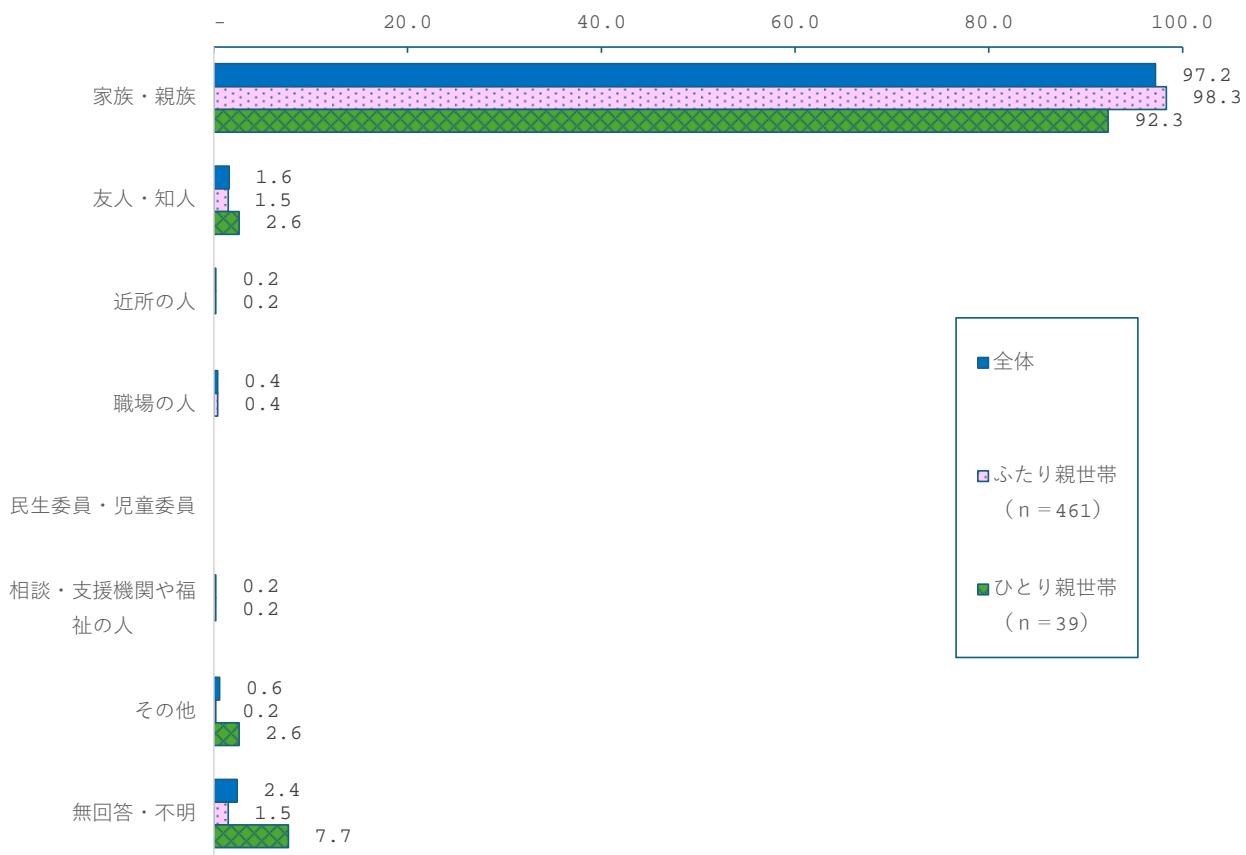
【等価世帯収入別】

頼れる人（いざという時のお金の援助）（n = 454）



【世帯の状況別】

頼れる人（いざという時のお金の援助）（n = 500）



8. 保護者の心理的な状態

問22 次のa)～f)の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようにでしたか。

(a～f それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

- a) 神経過敏に感じた
- b) 絶望的だと感じた
- c) そわそわ、落ち着かなく感じた
- d) 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた
- e) 何をするのも面倒だと感じた
- f) 自分は価値のない人間だと感じた

● 「保護者の心理的な状態」に関して、内閣府の「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」を参考に、本調査においても「K6」※1と呼ばれる指標を把握するための6つの項目を設定し、調査を行った。

6つの調査項目の結果を足し合わせて、K6のスコアの算出を行った(0～24点)。

その結果、「うつ・不安障害相当」とされている「13点以上」の割合は全体で7.4%だった。

等価世帯収入別では、K6のスコアが「13点以上」※2の割合は、「中央値の1/2以上」の世帯では6.0%、「中央値の1/2未満」では、16.3%となった。

世帯の状況別では、「ひとり親世帯」で「13点以上」が20.0%となった。

※1 K6は米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。

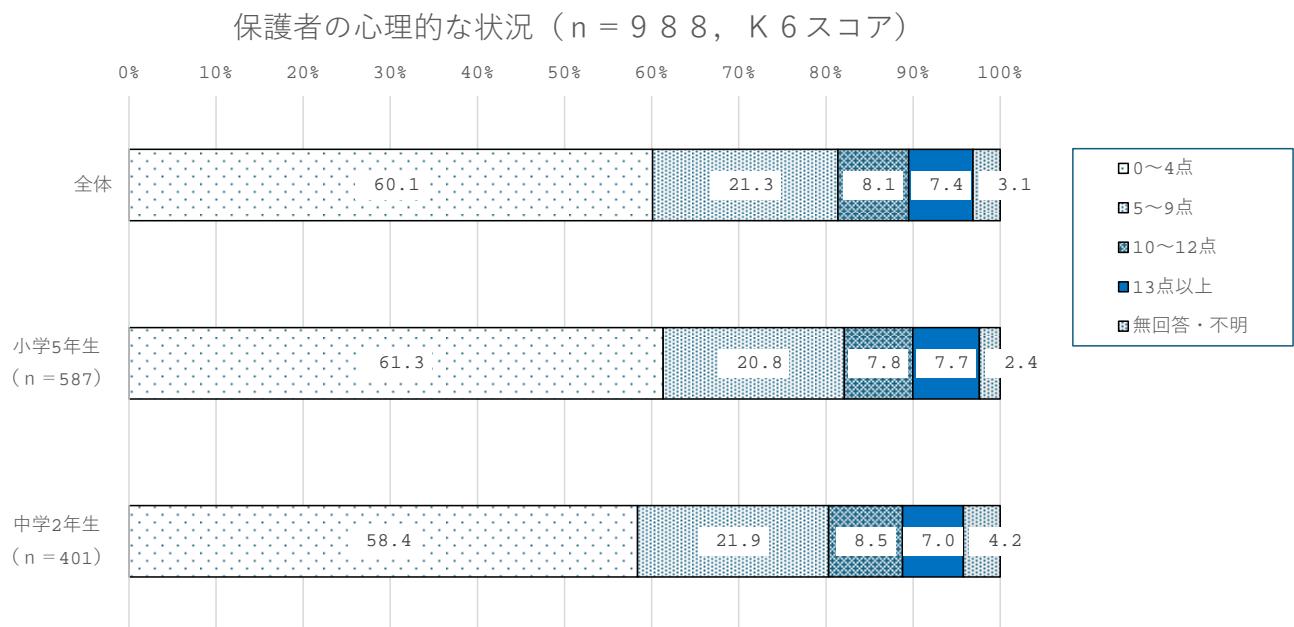
採点方法は、ひとつの質問ごとに0点(5.まったくない)から4点(1.いつも)を振り、0点から24点で合計を計算した。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。

厚生労働省による解説・紹介ページ

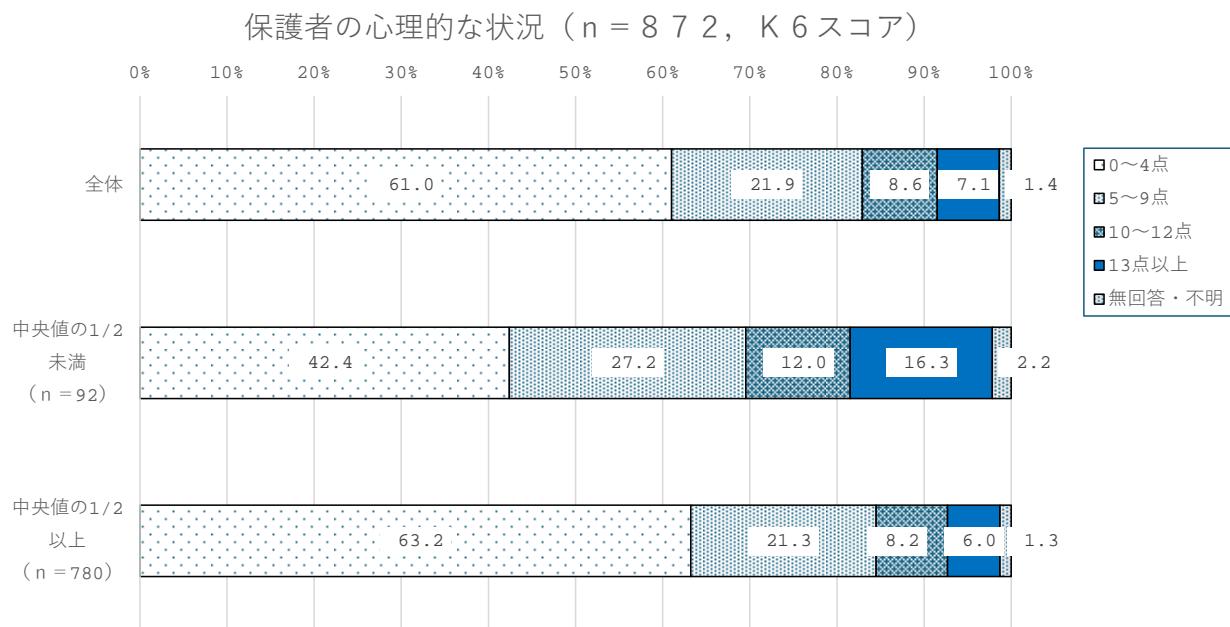
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ktyosa/k-tyosa10/yougo.html>)

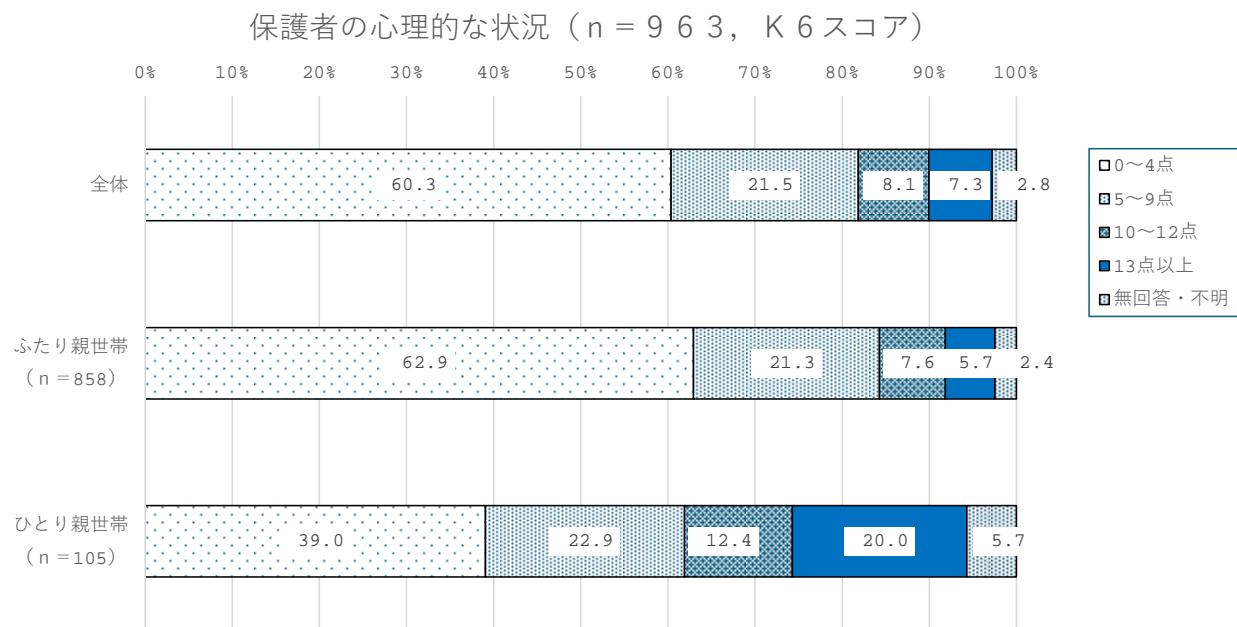
※2 国立精神・神経医療研究センター「うつ・不安に対するスクリーニングと支援マニュアル」

【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



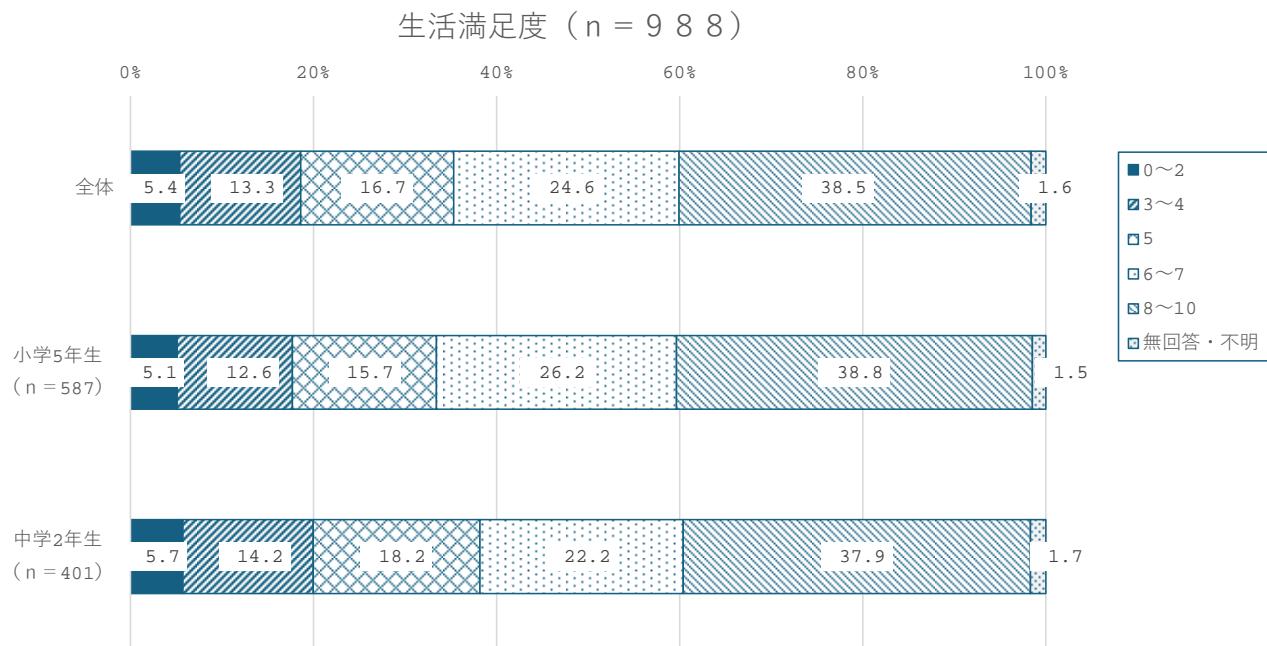
【世帯の状況別】

9. 保護者の生活満足度

問23 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していないから「10」（十分に満足している）の数字で答えてください。（あてはまるもの1つに○）

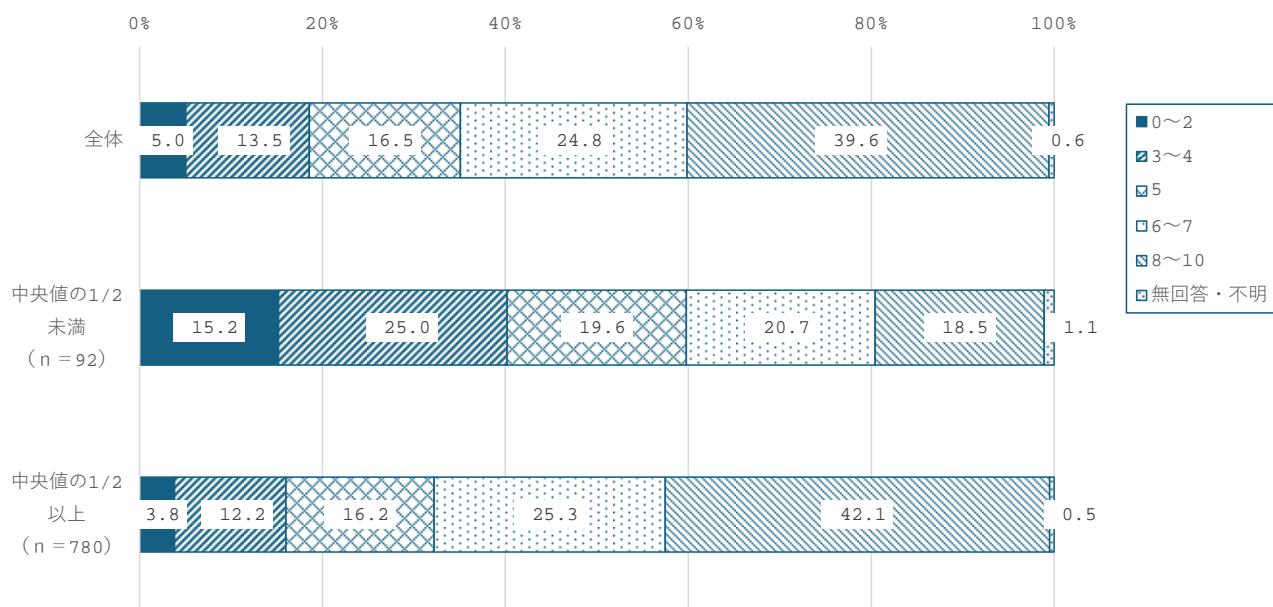
- 生活の満足度については、全体ではどの学年でも60%程度が6点以上の満足となっていた。等価世帯収入別では、収入が高い方が満足度も上がる結果となった。世帯の状況別では、「ふたり親世帯」で「4点以下」は16.2%となっており、「ひとり親世帯」では38.1%と大きな差がみられた。

【全体（学年別）】



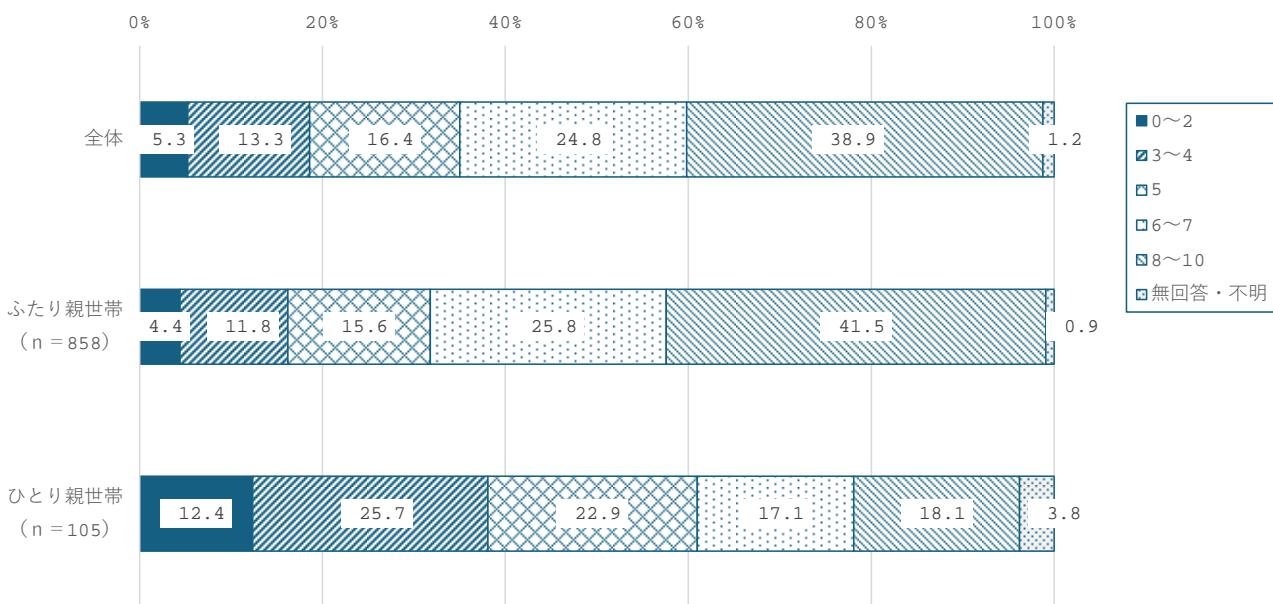
【等価世帯収入別】

生活満足度 (n = 872)



【世帯の状況別】

生活満足度 (n = 963)



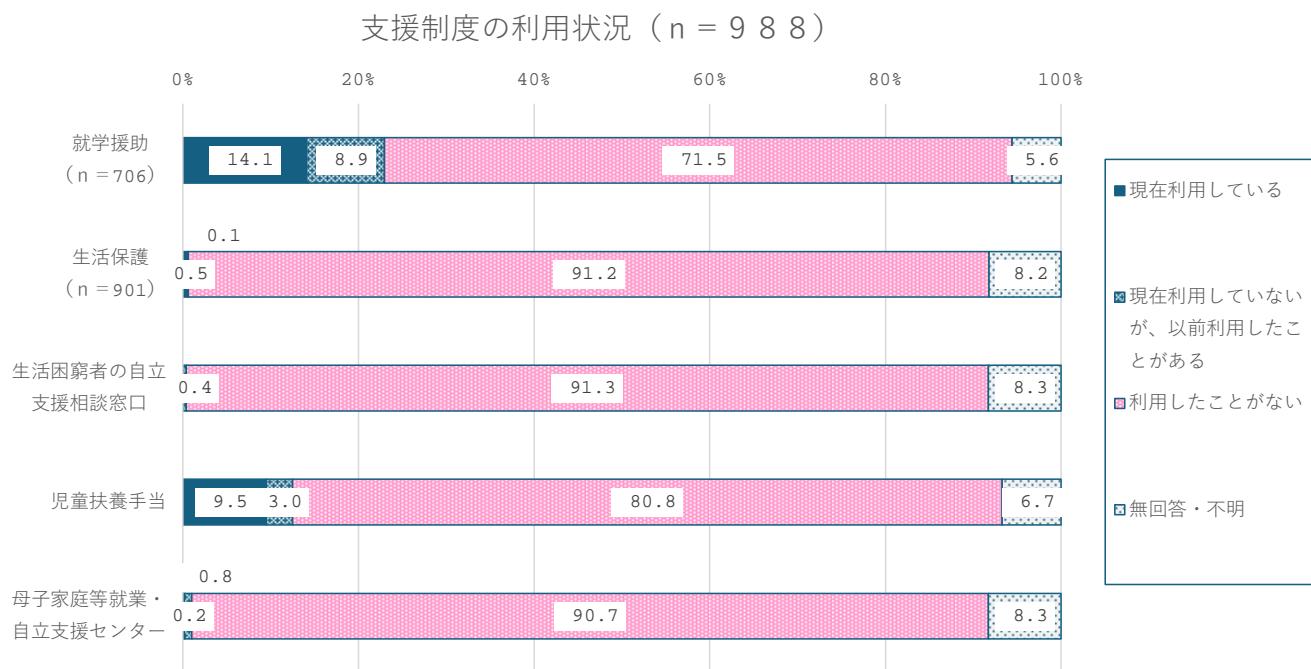
10. 支援制度の利用状況

(1) 保護者の支援制度の利用状況

問24 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことありますか。（a～e それについて、1～3のあてはまるもの1つに○）

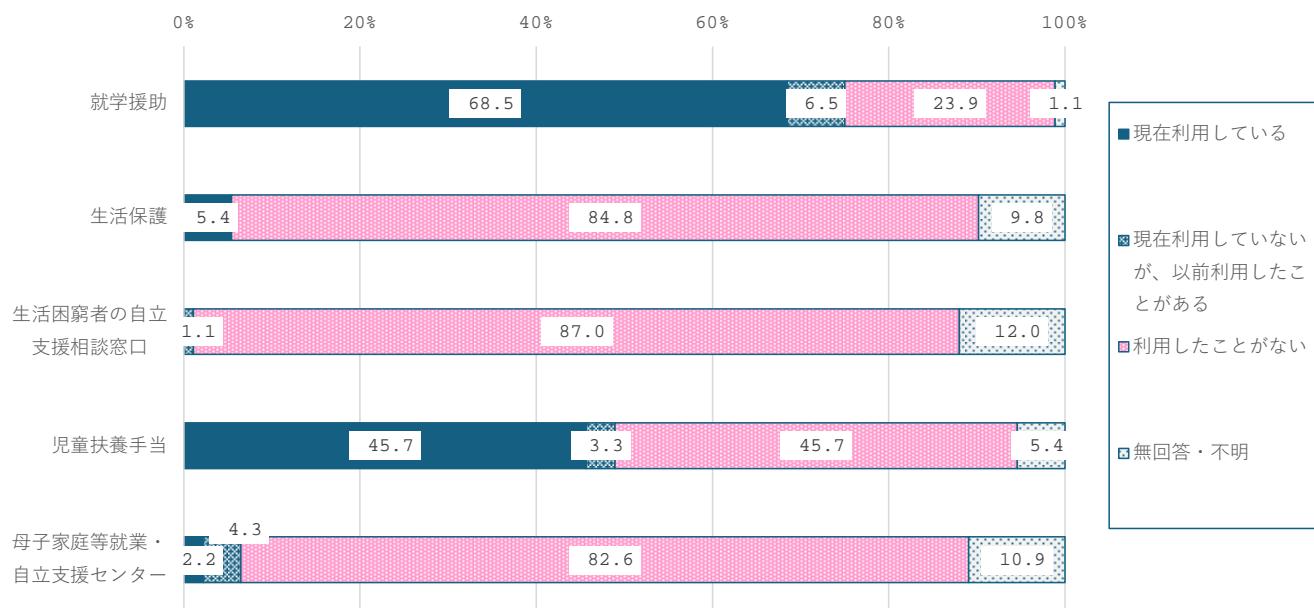
- 保護者の支援制度の利用状況については、「就学援助」が 14.1%、次いで「児童扶養手当」が 9.5% であった。「生活困窮者の自立支援相談窓口」は、「現在利用している」との回答はなかった。

【全体】



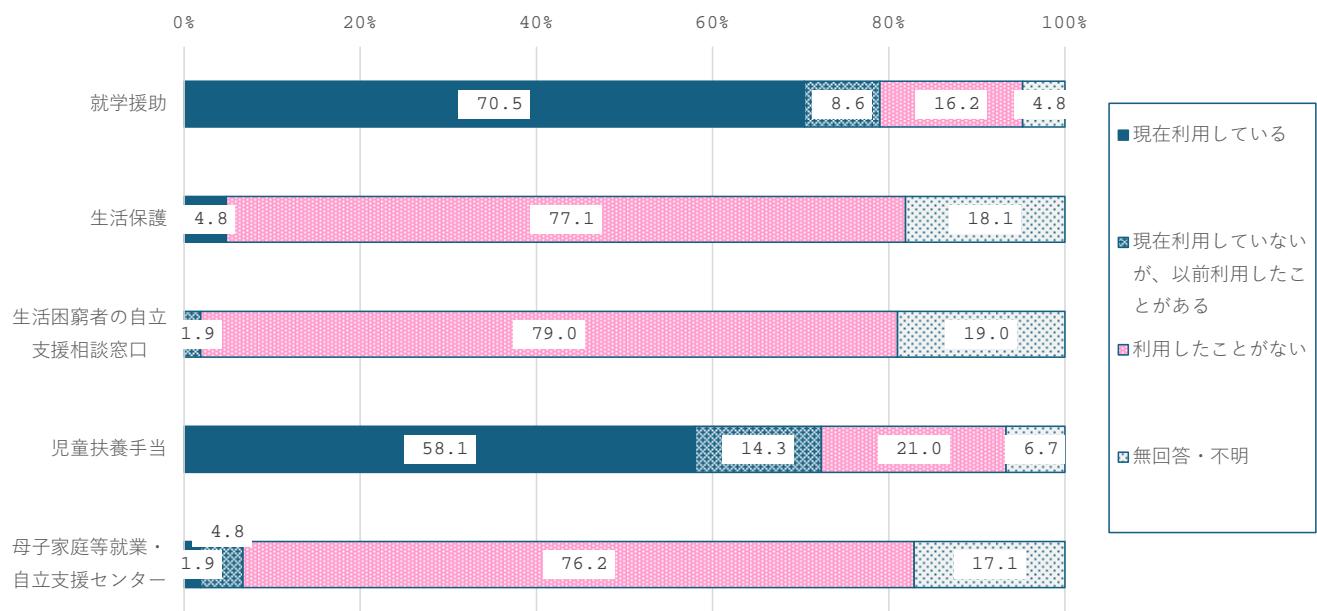
**【等価世帯収入別】
(中央値の1/2未満)**

支援制度の利用状況（中央値の1／2未満, n = 92）



**【世帯の状況別】
(ひとり親世帯)**

支援制度の利用状況（ひとり親世帯, n = 105）



(2) 支援制度を利用していない理由

問24 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことありますか。(a～e それについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまるもの1つに○)

- 制度を利用していない理由については、全体では「制度の対象外だと思うから」が、どの支援制度でも割合が約70%となった。

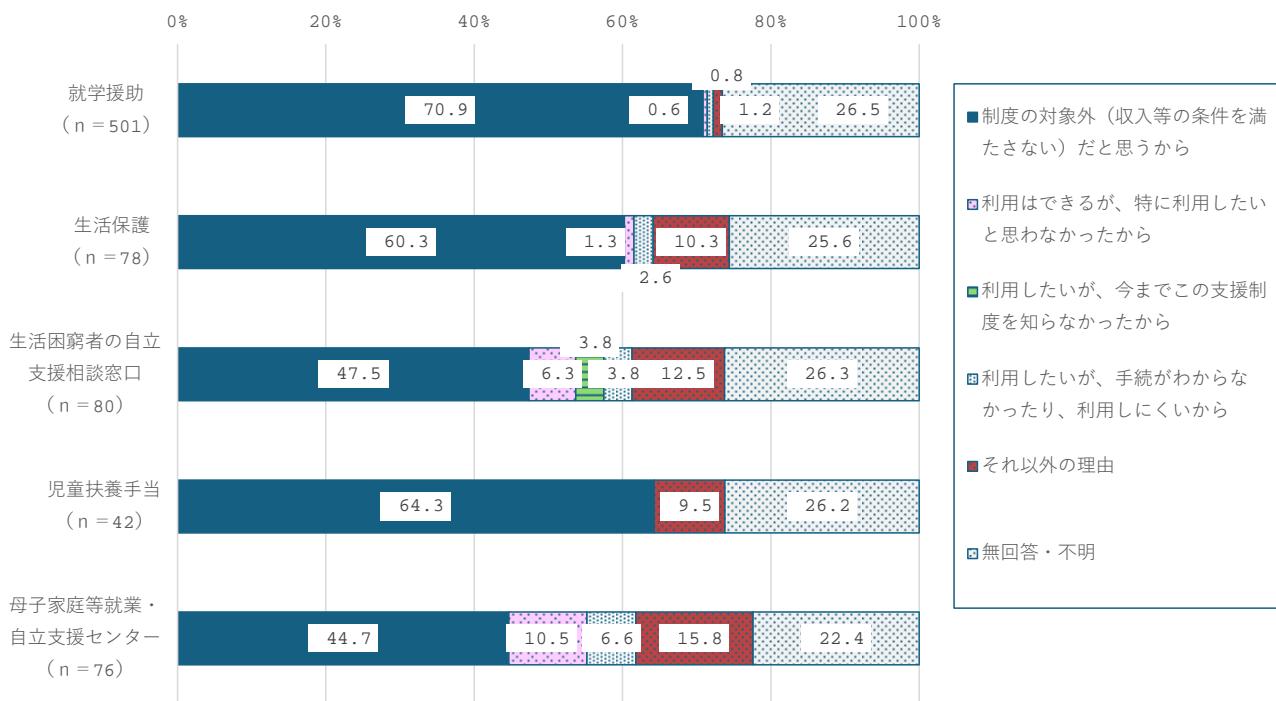
【全体】

支援制度を利用していない理由（全体）



【等価世帯収入別】
(中央値の1/2未満)

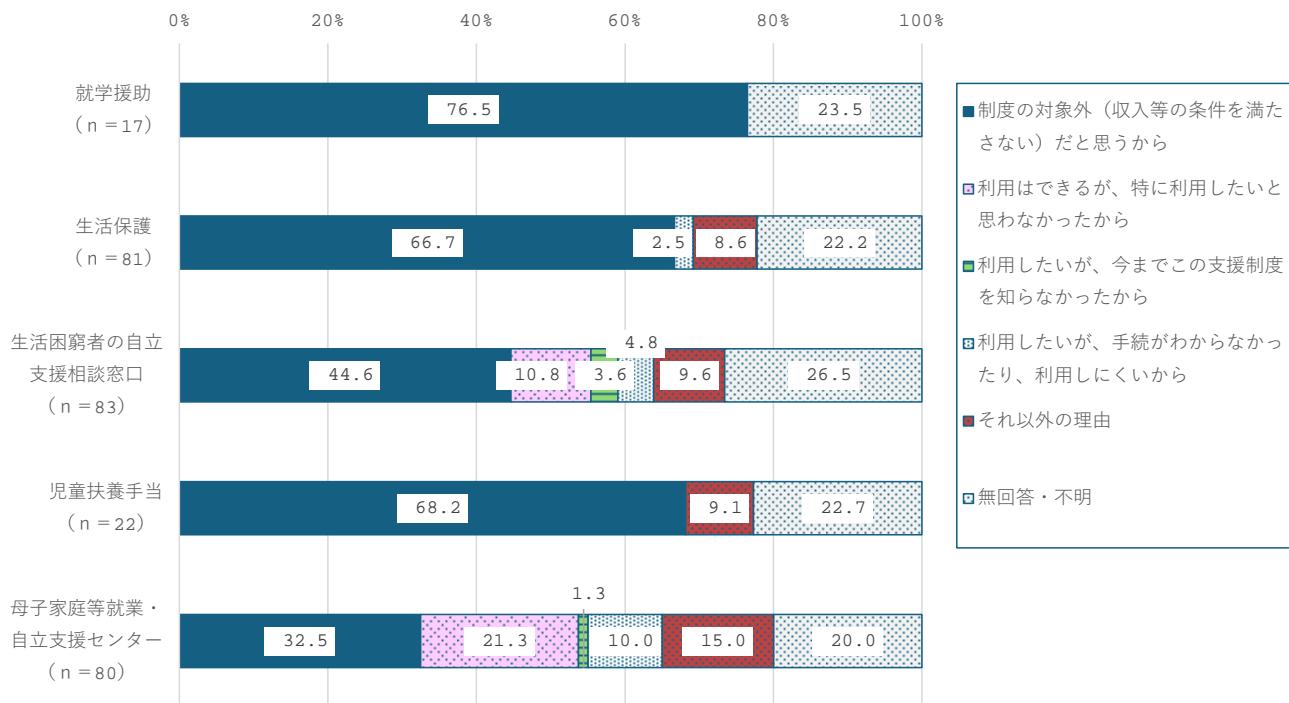
支援制度を利用していない理由（中央値の1/2未満）



【世帯の状況別】

(ひとり親世帯)

支援制度を利用していない理由（ひとり親世帯）



第3章 子ども票の調査結果

1. 子どもの生活状況

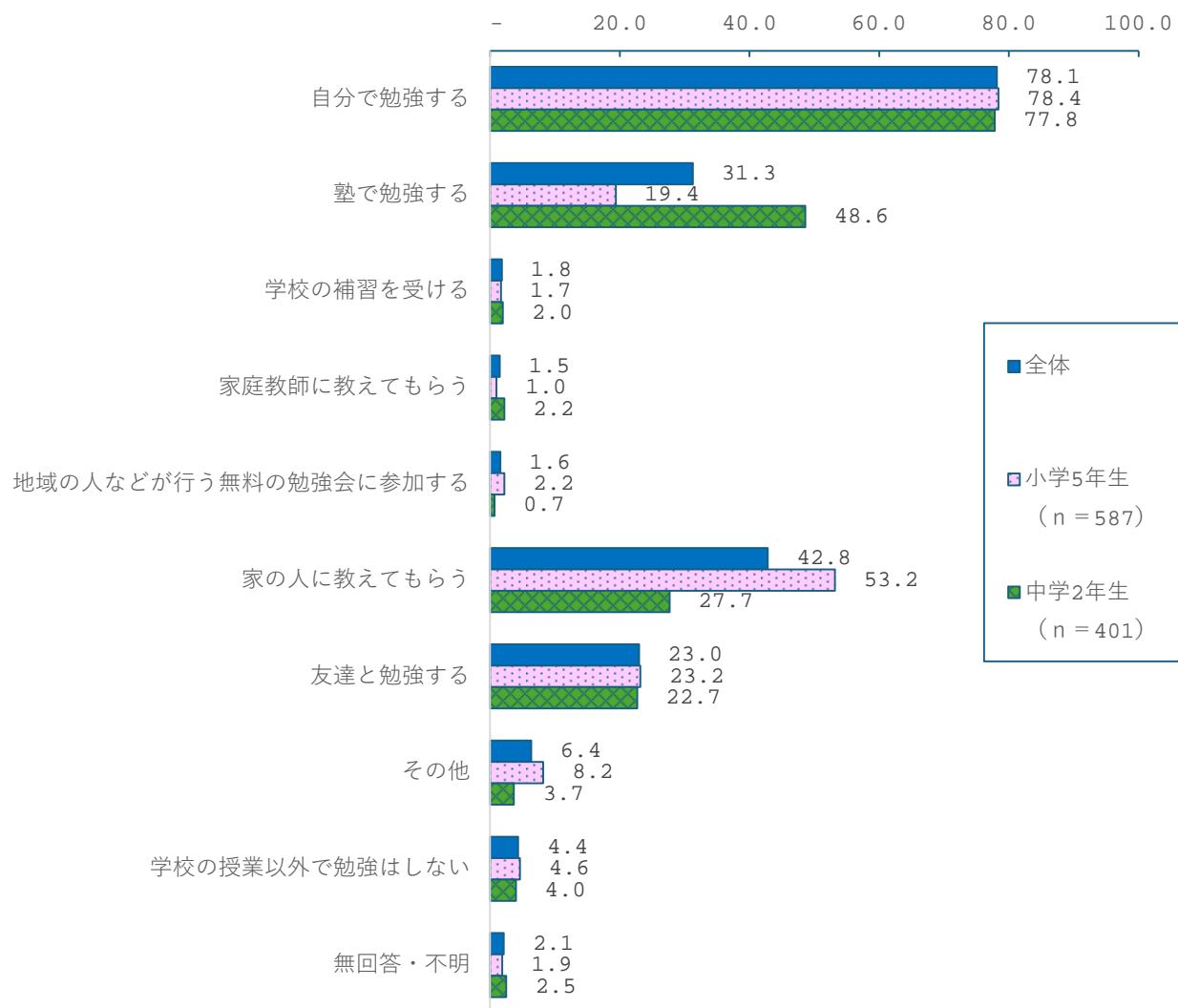
(1) ふだんの勉強の仕方

問1 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。※勉強には学校の宿題もふくみます。（1～8については、あてはまるものすべてに○）

- ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしているかについて、全体では、「自分で勉強する」が78.1%で最も多く、「家の人に教えてもらう」(42.8%)、「塾で勉強する」(31.3%)となった。小学5年生は「家の人に教えてもらう」(53.2%)、「塾で勉強する」(19.4%)であるが、中学2年生では「家の人に教えてもらう」(27.7%)、「塾で勉強する」(48.6%)となっており、小学生から中学生に成長するに当たり、勉強の場が家から塾へ変化している事が予想される。等価世帯収入別の「中央値の1/2未満」では、「塾で勉強する」、「家の人に教えてもらう」、「友達と勉強する」が「中央値の1/2以上」に比べ割合が少ないのでに対して、「学校の補習を受ける」(6.5%)、「家庭教師に教えてもらう」(2.2%)、「学校の授業以外で勉強しない」(10.9%)は割合が多い結果となった。世帯の状況別では、「ひとり親世帯」において、「学校の授業以外では勉強しない」(10.5%)の割合が「ふたり親世帯」に比べ多くなっている。

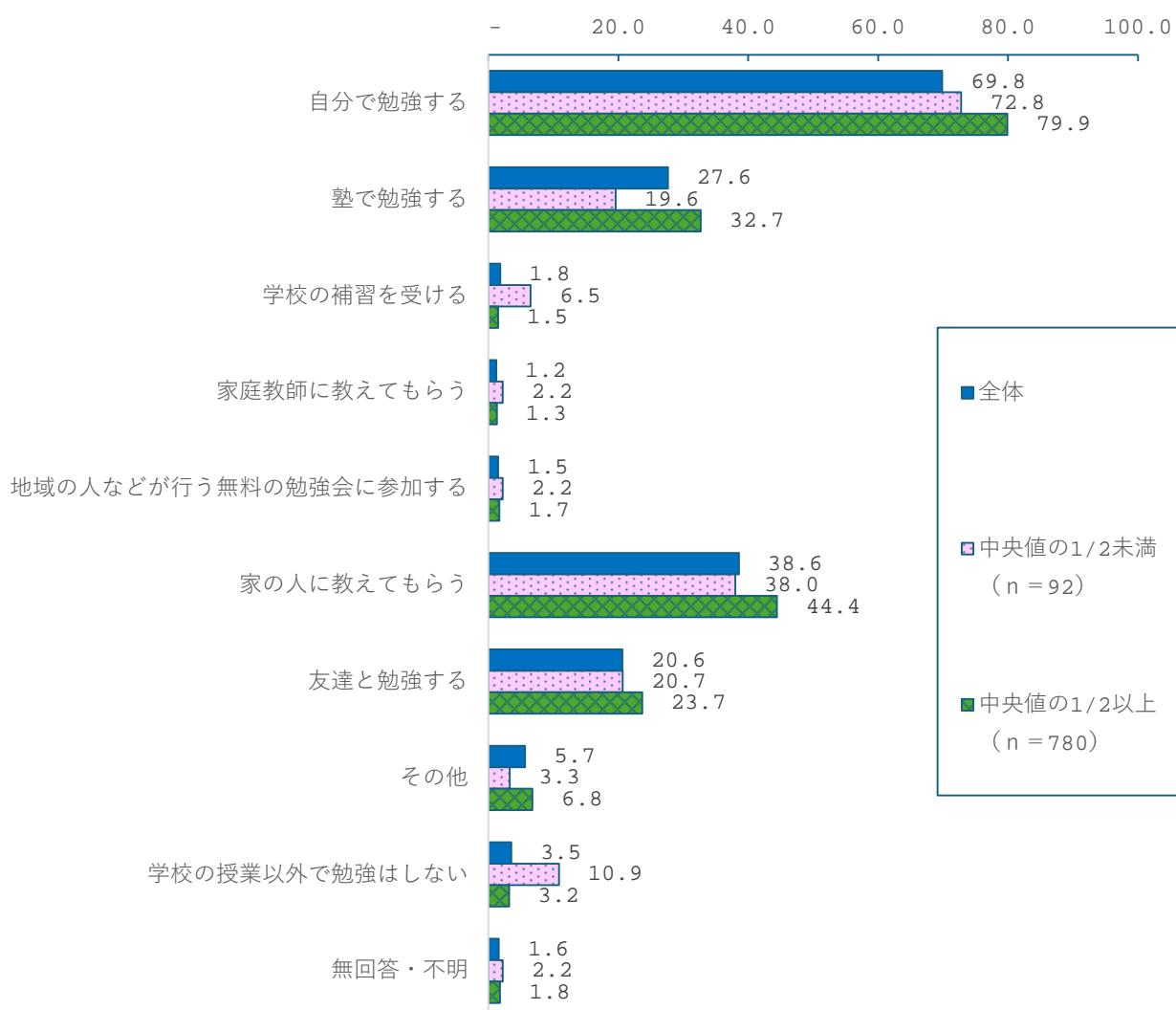
【全体(学年別)】

授業以外の勉強 (n = 988)



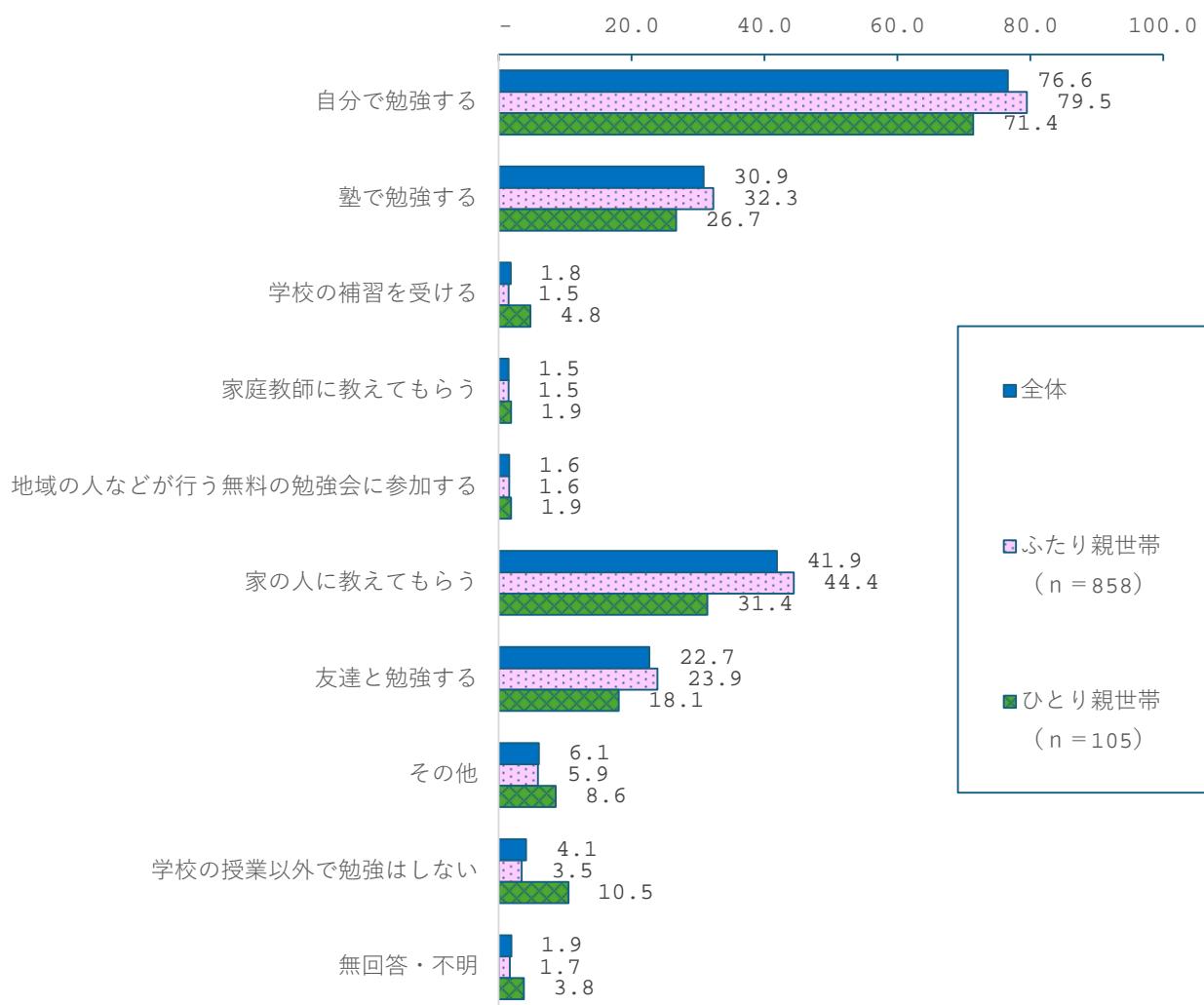
【等価世帯収入別】

授業以外の勉強 (n = 872)



【世帯の状況別】

授業以外の勉強 (n = 963)



(2) 1日あたりの勉強時間

問2 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。(a,bそれについて、あてはまるもの1つに○)

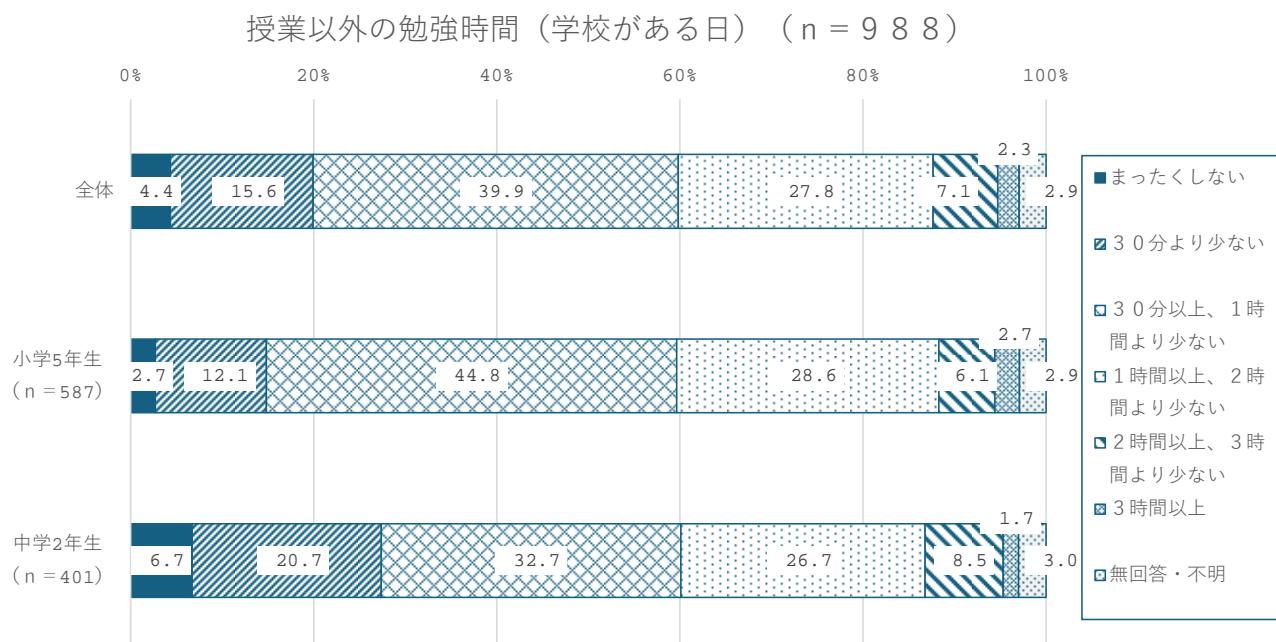
a) 学校がある日（月～金曜日）

- ふだん学校の授業以外の1日あたりの勉強時間について、全体では「まったくしない」が4.4%、「30分より少ない」が15.6%、「30分～1時間」が39.9%、「1時間～2時間未満」が27.8%、「2時間以上」は9.4%だった。

等価世帯収入別では、世帯収入が高い方が「1時間以上」の割合が増加した。

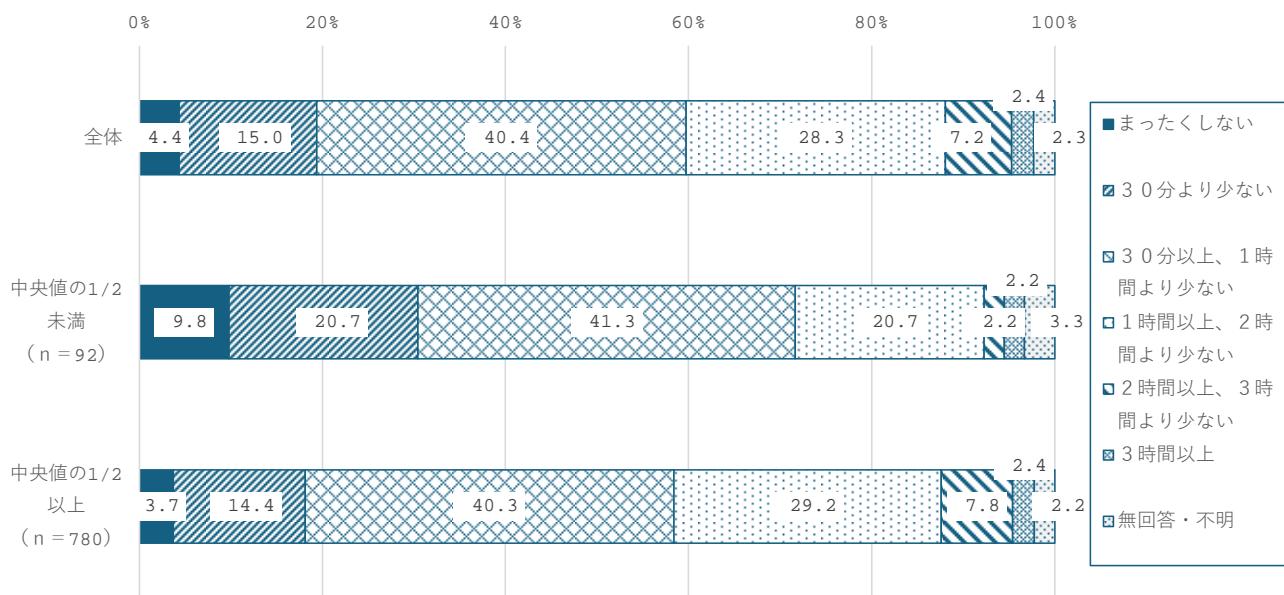
世帯の状況別では、「ふたり親世帯」に比べ、「ひとり親世帯」では「全くしない」「30分より少ない」の割合が多い傾向になっている。

【全体（学年別）】



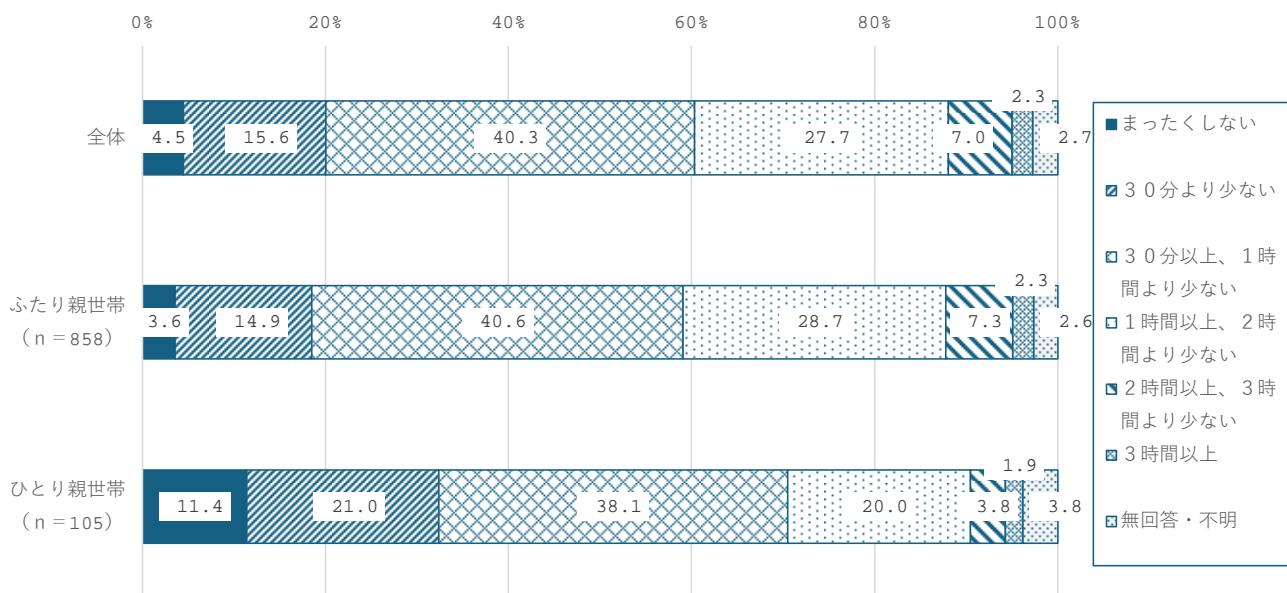
【等価世帯収入別】

授業以外の勉強時間（学校がある日）（n = 872）



【世帯の状況別】

授業以外の勉強時間（学校がある日）（n = 963）



問2 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

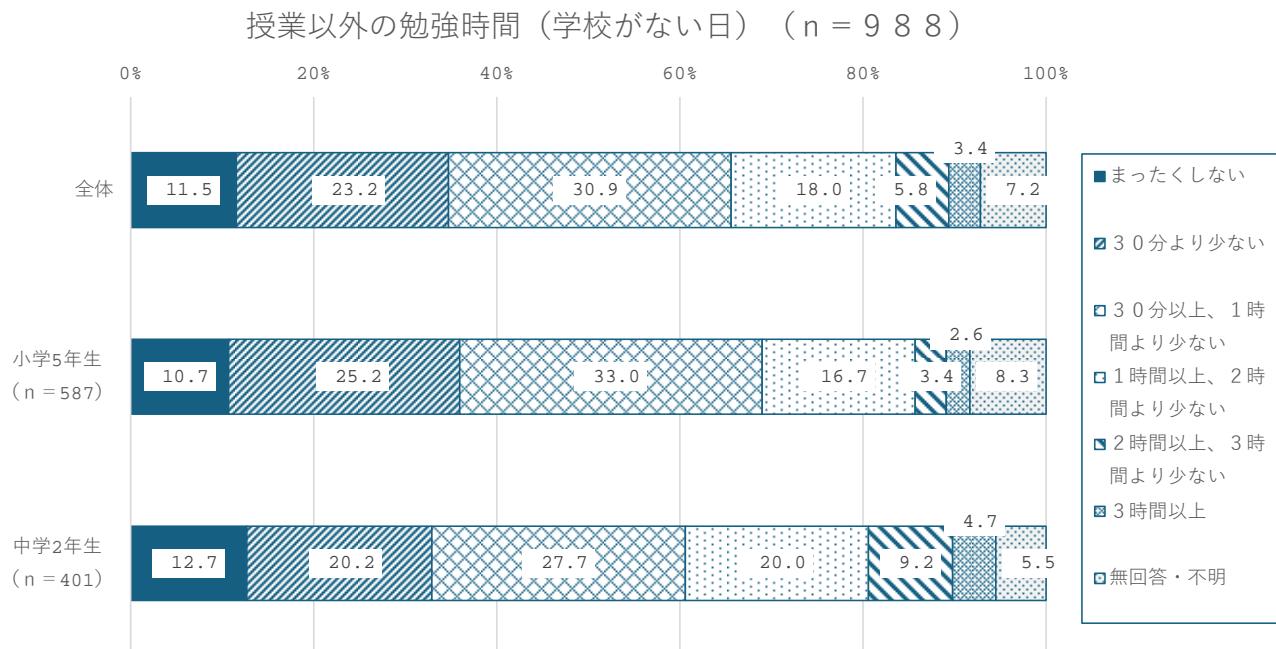
※ 学校の宿題をする時間や、塾などの勉強時間もふくみます。(a,b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

b) 学校がない日（土・日曜日・祝日）

- 学校がない日の勉強時間について、全体では「まったくしない」が11.5%、「30分より少ない」が23.2%、「30分～1時間」が30.9%、「1時間～2時間未満」が18.0%、「2時間以上」は9.2%だった。

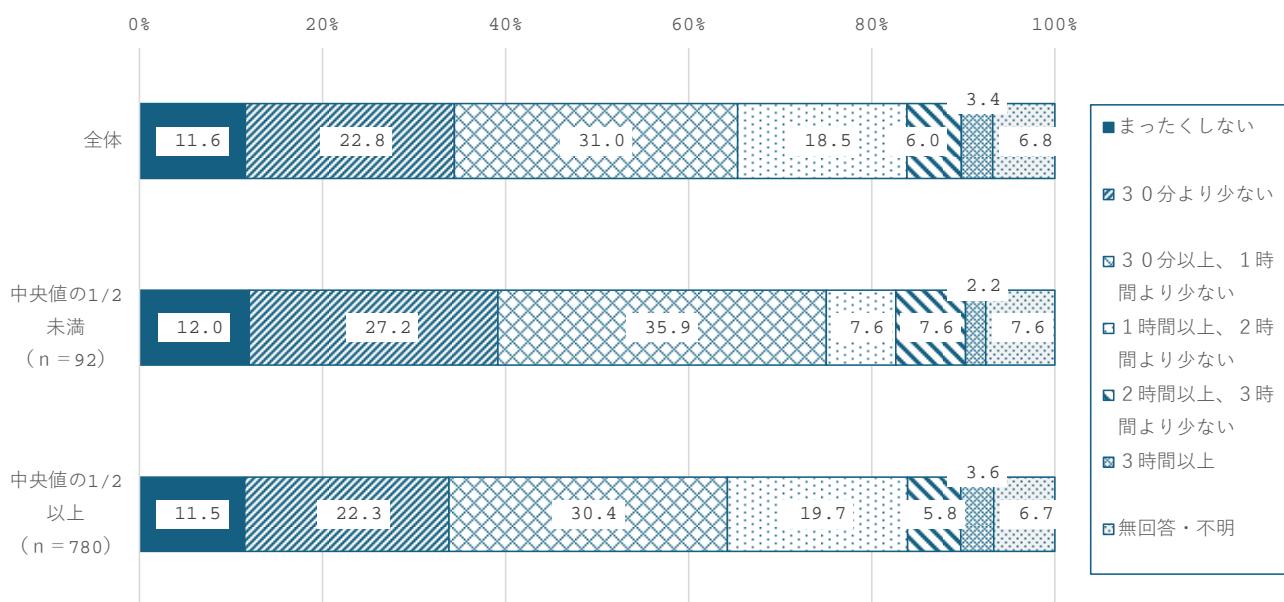
等価世帯収入別では、平日と比べ、「全くしない」「30分より少ない」の割合が多くなっている。世帯の状況別では、「ふたり親世帯」に比べ、「ひとり親世帯」では「全くしない」「30分より少ない」の割合が多い傾向になっている。

【全体（学年別）】



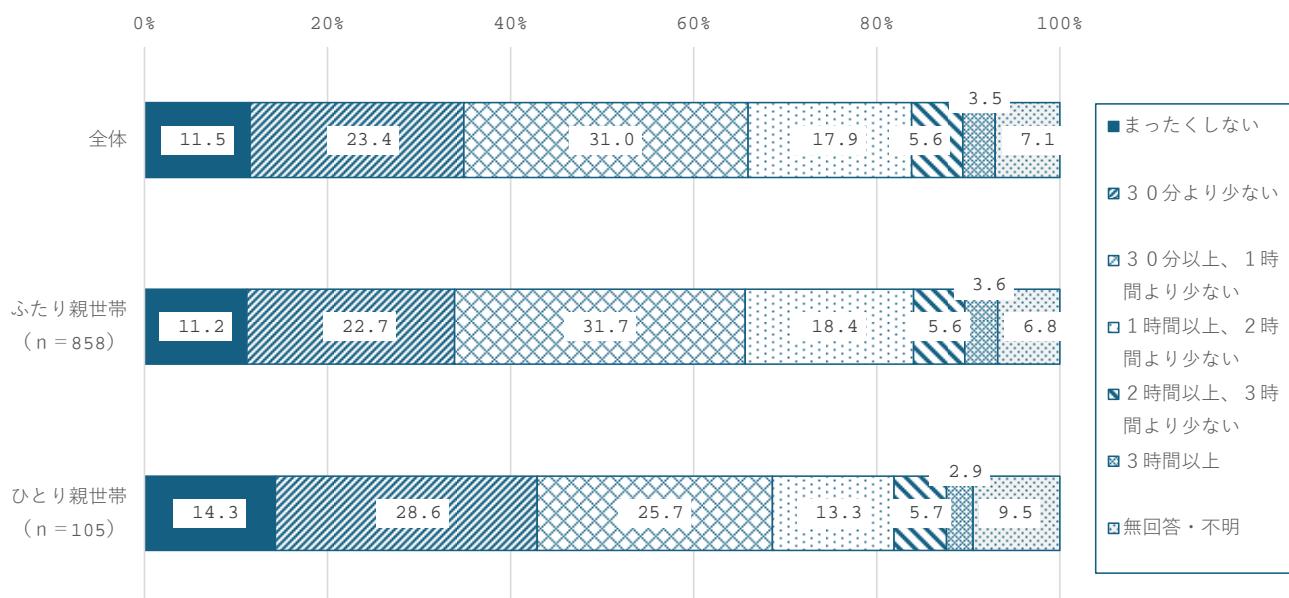
【等価世帯収入別】

授業以外の勉強時間（学校がない日）（n = 872）



【世帯の状況別】

授業以外の勉強時間（学校がない日）（n = 963）

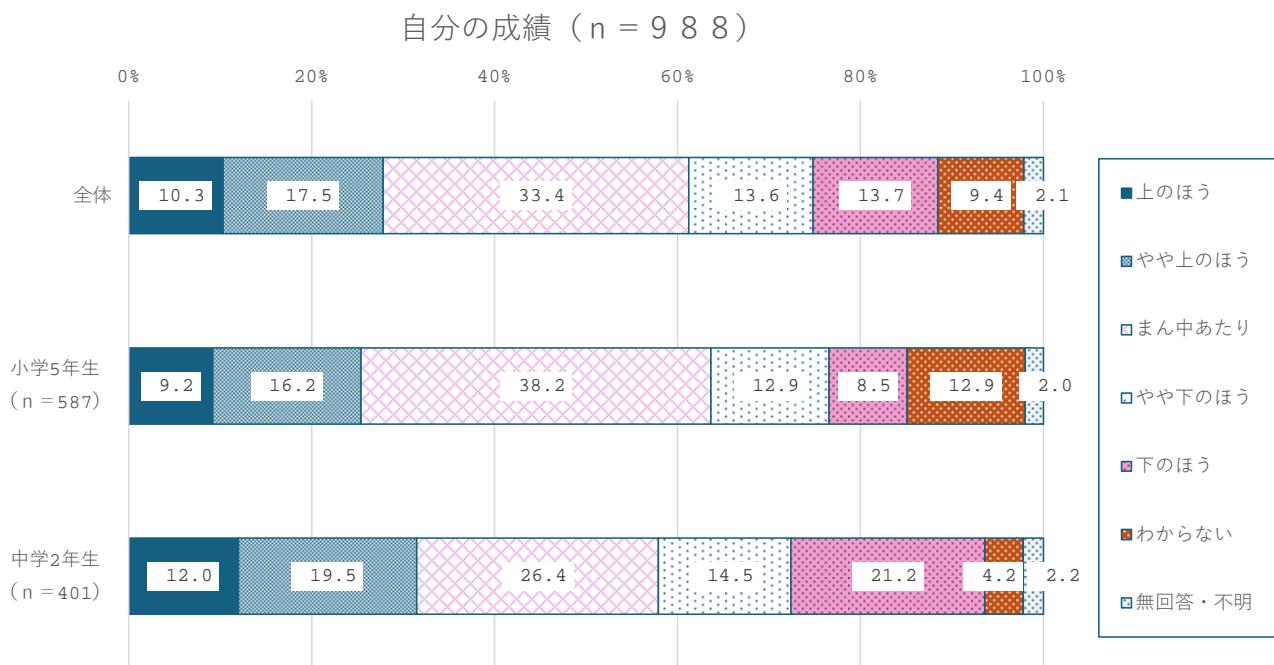


(3) クラスの中での成績

問3 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

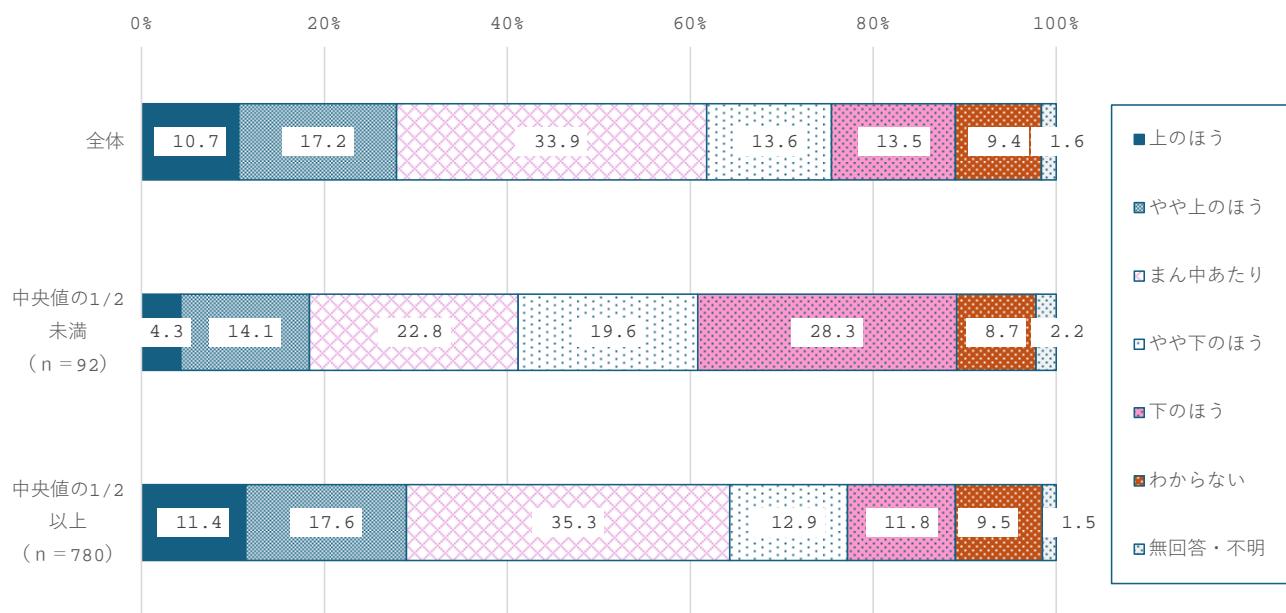
- クラスの中の成績については、全体では「まん中あたり」が33.4%と最も多い結果となった。等価世帯収入別では、「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は世帯収入が少ない方が増加する傾向となった。世帯の状況別では、「ふたり親世帯」よりも「ひとり親世帯」の方が「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合が多くなる結果となった。

【全体（学年別）】



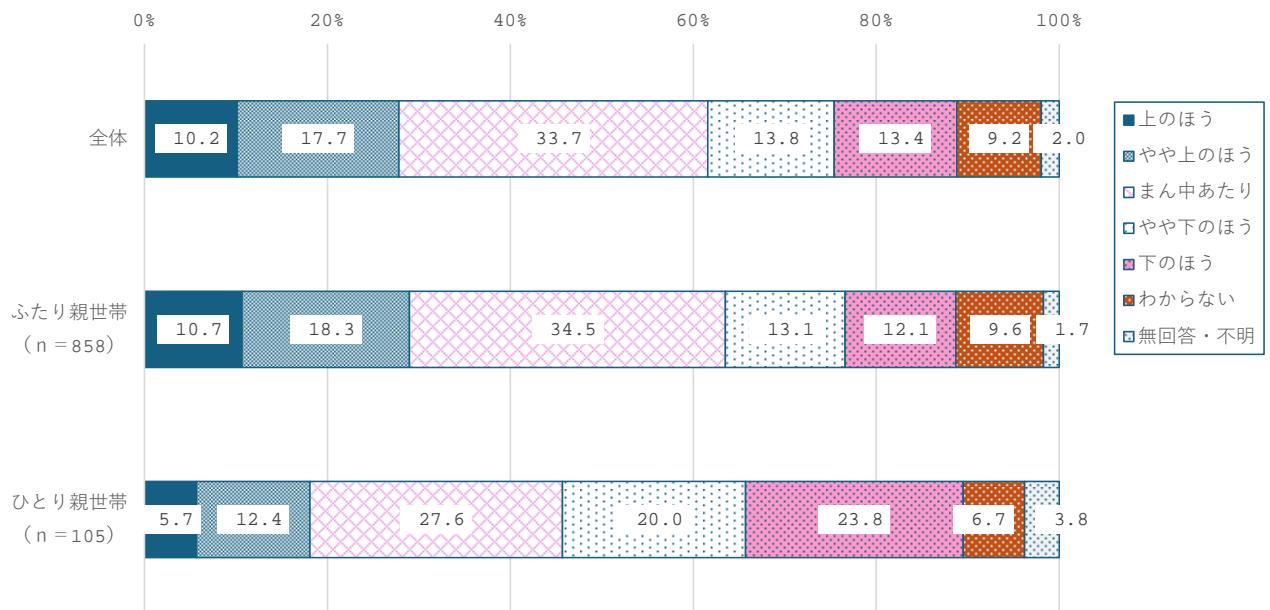
【等価世帯収入別】

自分の成績 (n = 872)



【世帯の状況別】

自分の成績 (n = 963)



(4) 授業の理解度

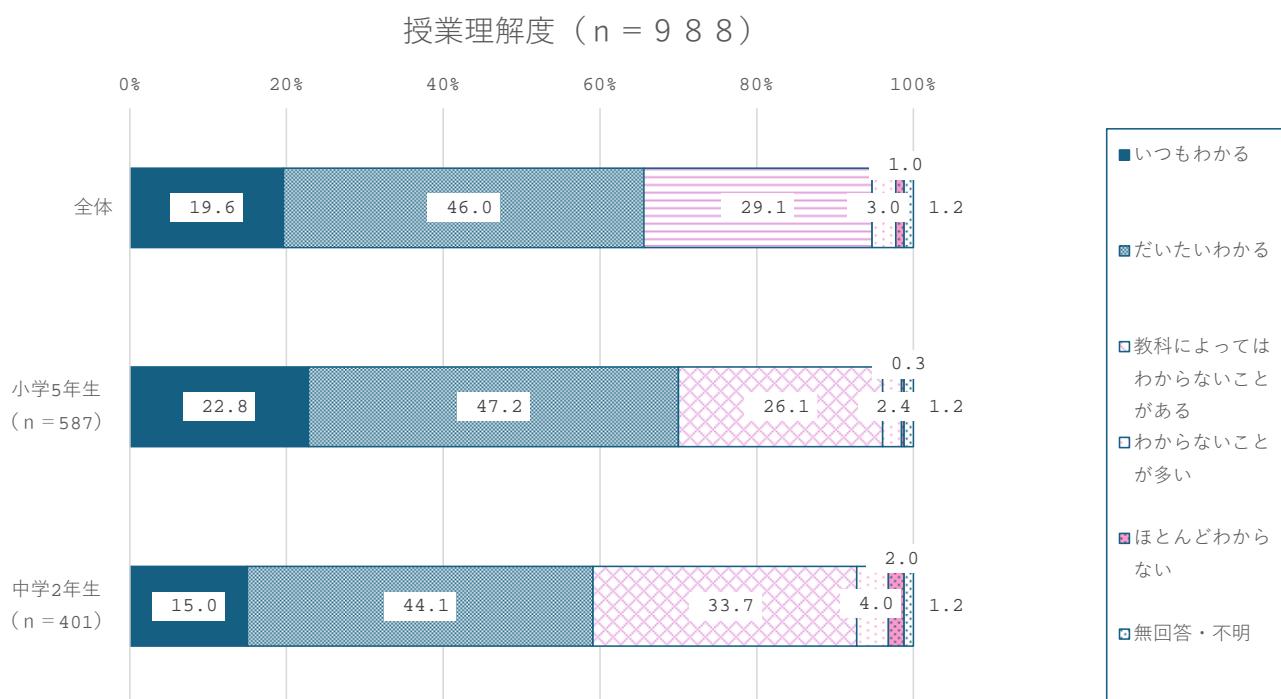
問4 あなたは、学校の授業がわかりますか。（あてはまるもの1つに○）

- 授業の理解状況では、「いつもわかる」と「だいたいわかる」を合わせた割合は小学5年生で70.0%、中学2年生で59.1%と、10.9%下がっており、学年が上がるに従い、わからない児童生徒の割合が増加していると思われる。

等価世帯収入別では、収入が少ない方が「いつもわかる」「だいたいわかる」を合わせた割合も減少していた。

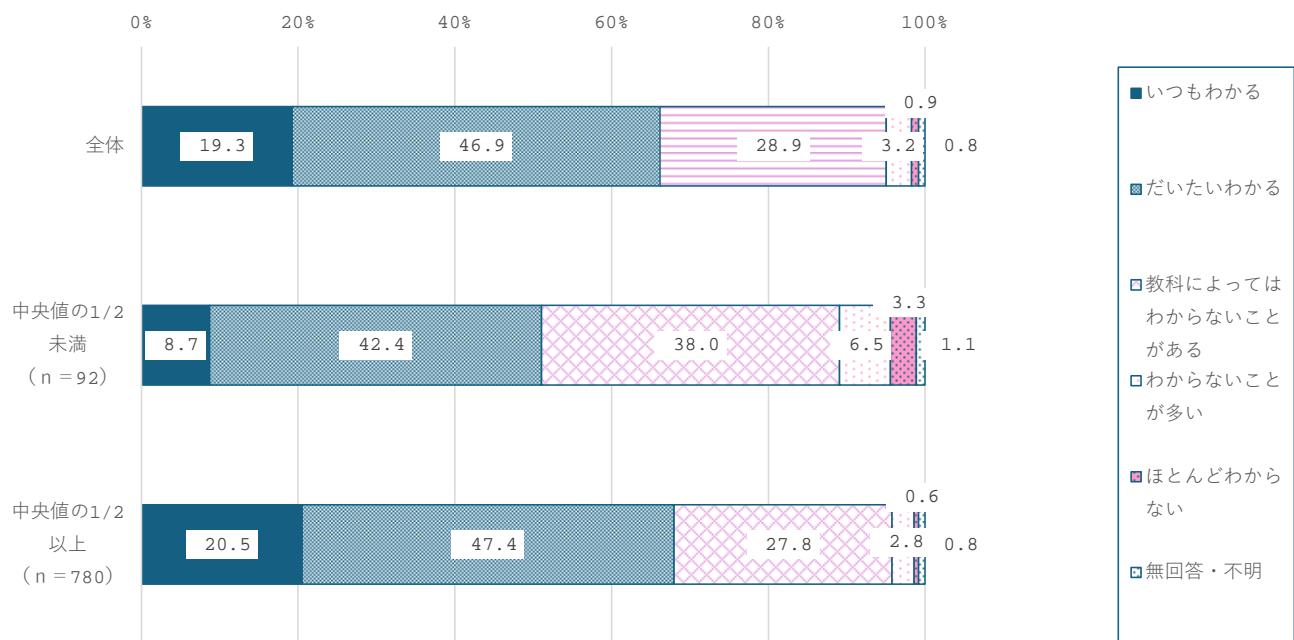
世帯の状況別では、「ひとり親世帯」において、「いつもわかる」と「だいたいわかる」を合わせた割合が「ふたり親世帯」よりも少ない結果となった。

【全体（学年別）】



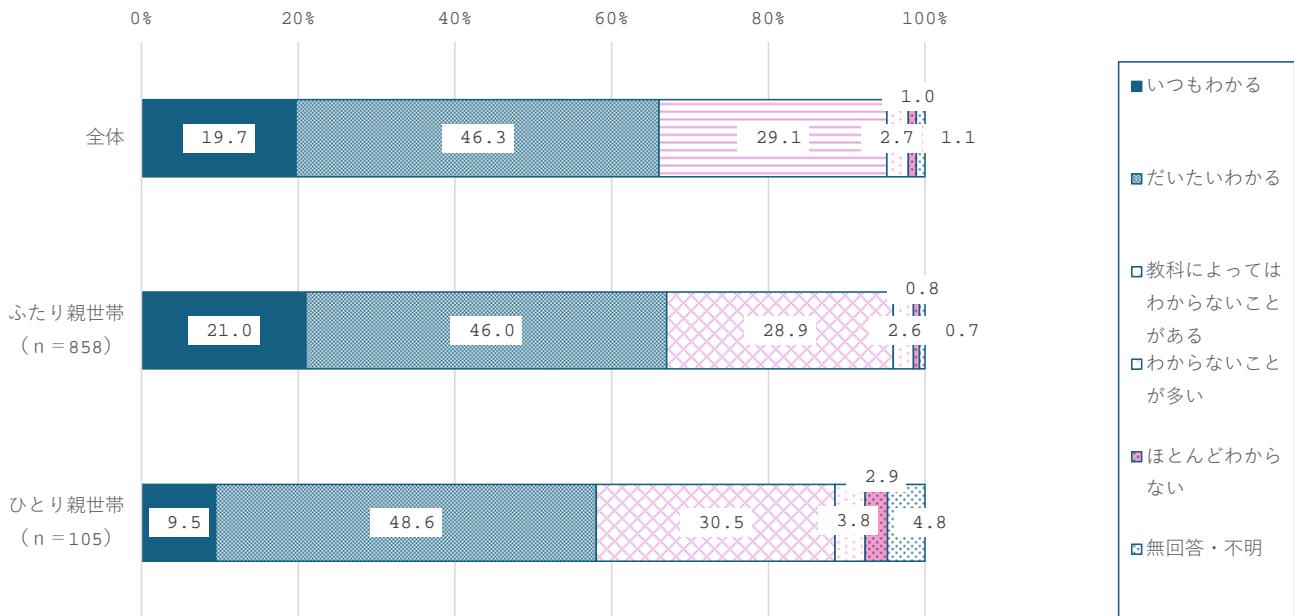
【等価世帯収入別】

授業理解度 (n = 872)



【世帯の状況別】

授業理解度 (n = 963)

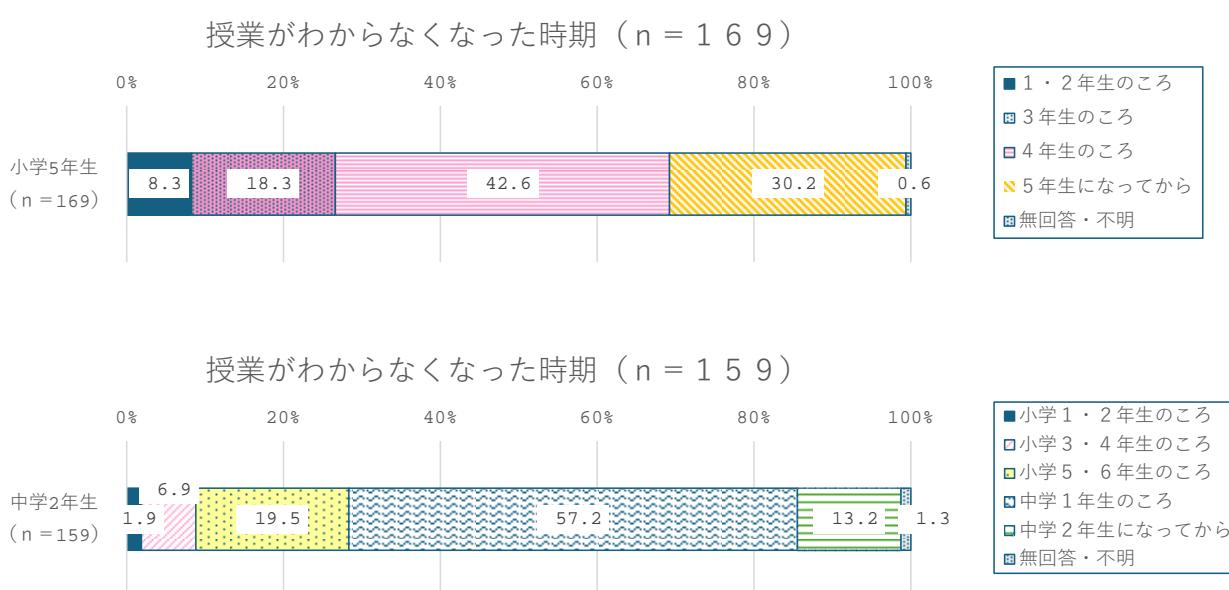


(5) 授業が分からなくなつた時期

問5 前の質問で「3 教科によつてはわからぬことがある」「4 わからぬことが多い」「5 ほとんどわからぬ」と答えた人にお聞きします。いつごろから、授業がわからぬことがあるようになりましたか。(あてはまるもの1つに○)

- 授業がわからなくなつた時期については、小学5年生では「4年生のころ」が最も多く、42.6%となつた。中学2年生では、「中学1年生のころ」が57.2%で最も多くなつた。
等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」を全体と比べると、小学5年生においては、「4年生のころ」の割合が多く、中学2年生においては、「小学5・6年生のころ」の割合が多くなつた。
世帯収入別では、「ひとり親世帯」を全体と比べると、小学5年生においては、「1・2年生のころ」の割合が多く、中学2年生においては、「小学5・6年生のころ」の割合が多くなつた。

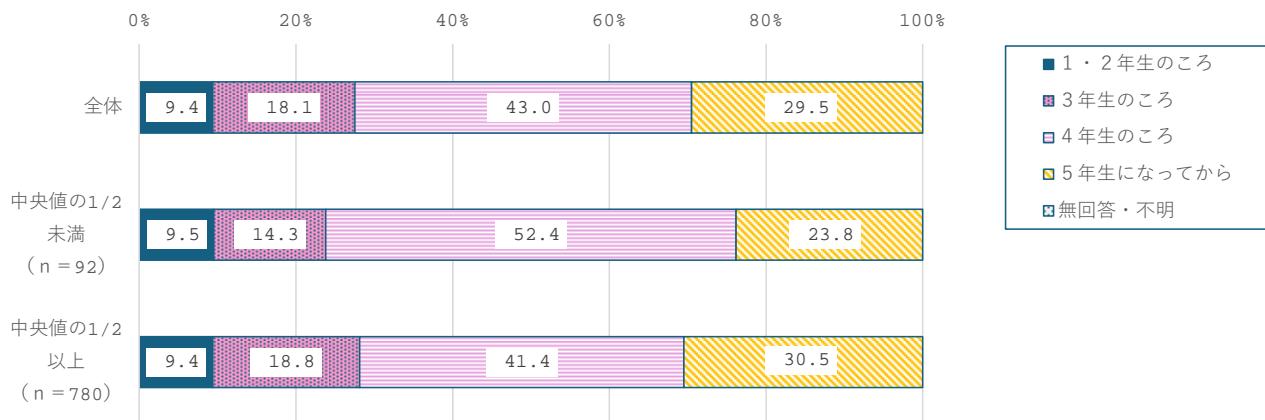
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】

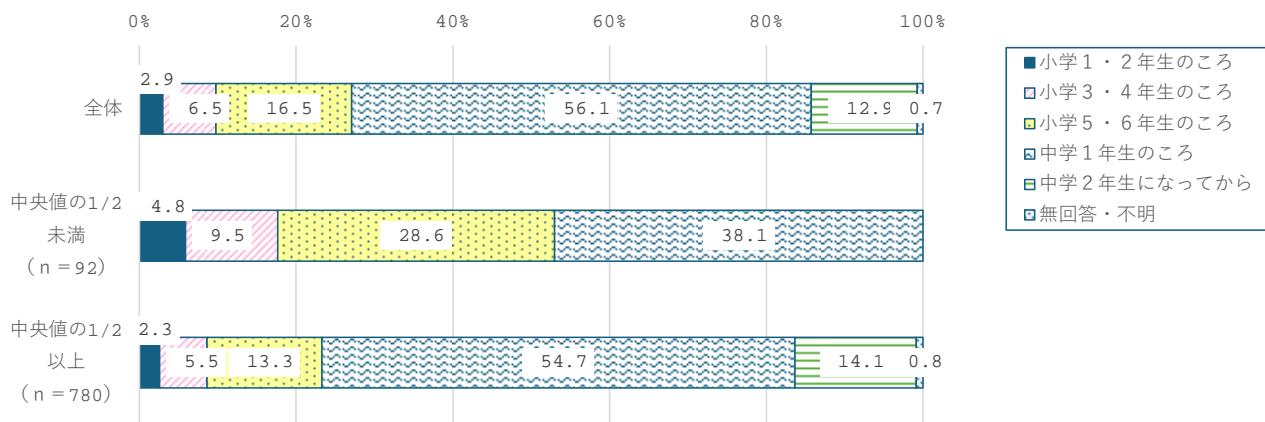
(小学5年生)

授業がわからなくなかった時期 (n = 149)



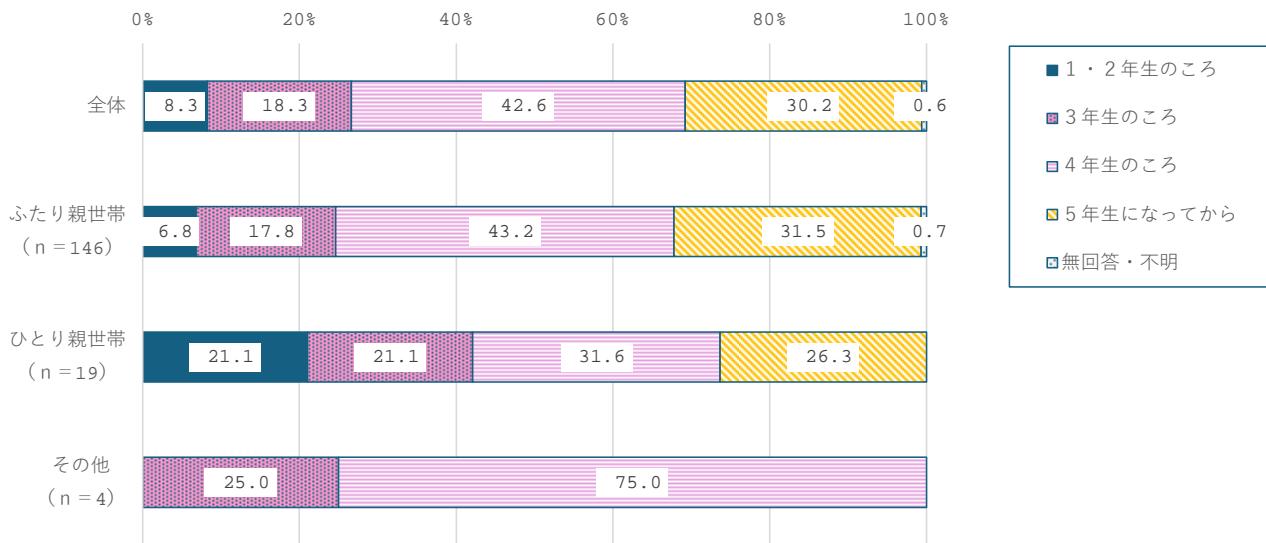
(中学2年生)

授業がわからなくなかった時期 (n = 139)



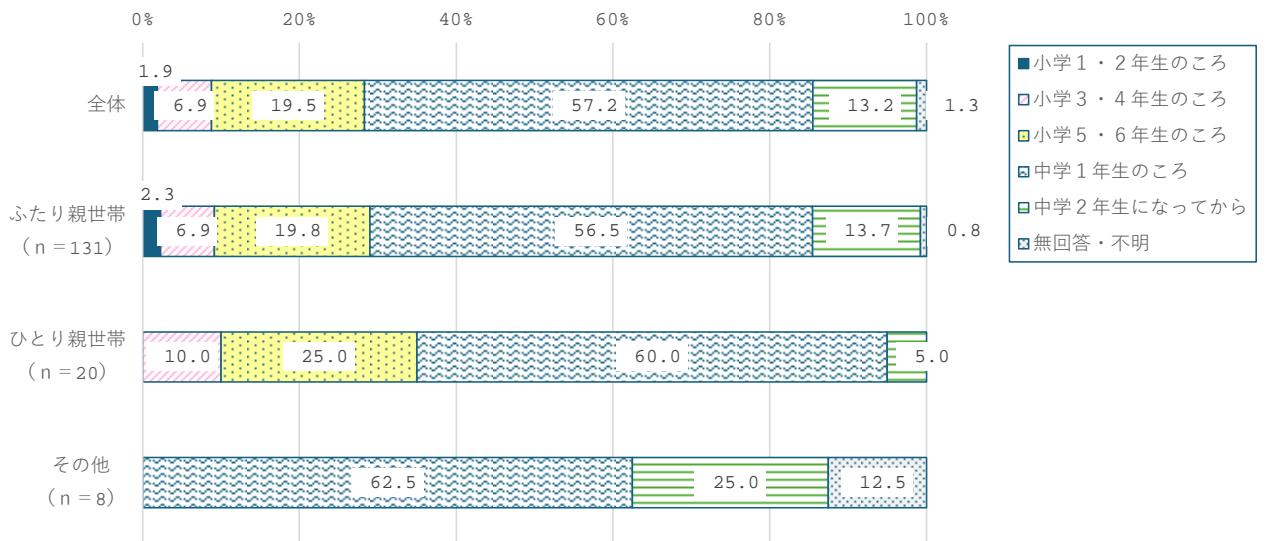
【世帯の状況別】
(小学5年生)

授業がわからなくなかった時期 (n = 169)



(中学2年生)

授業がわからなくなかった時期 (n = 159)



2. 進学の希望

(1) 進学したいと思う教育段階

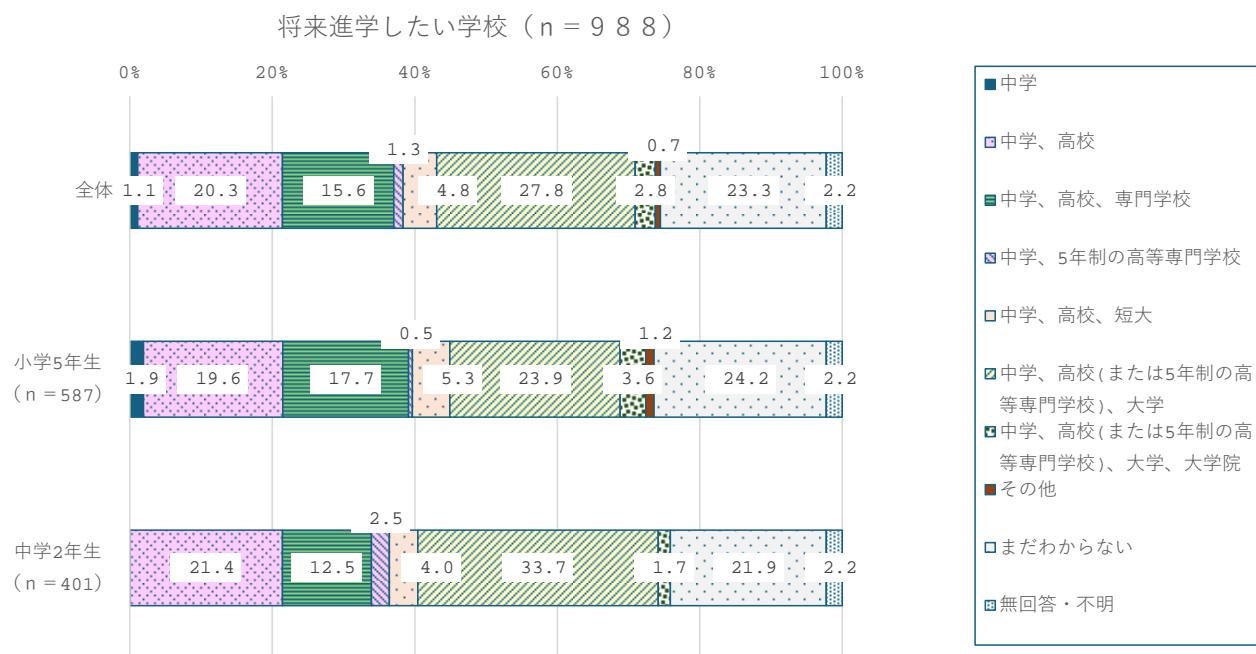
問6 あなたは、将来、どの学校に進学したいですか。(あてはまるもの1つに○)

- 将来どの段階まで進学をしたいかについては、全体では、「大学またはそれ以上」が30.6%、「短大まで」が4.8%、「高等専門学校」が1.3%、「専門学校まで」が15.6%、「高校まで」が20.3%となった。

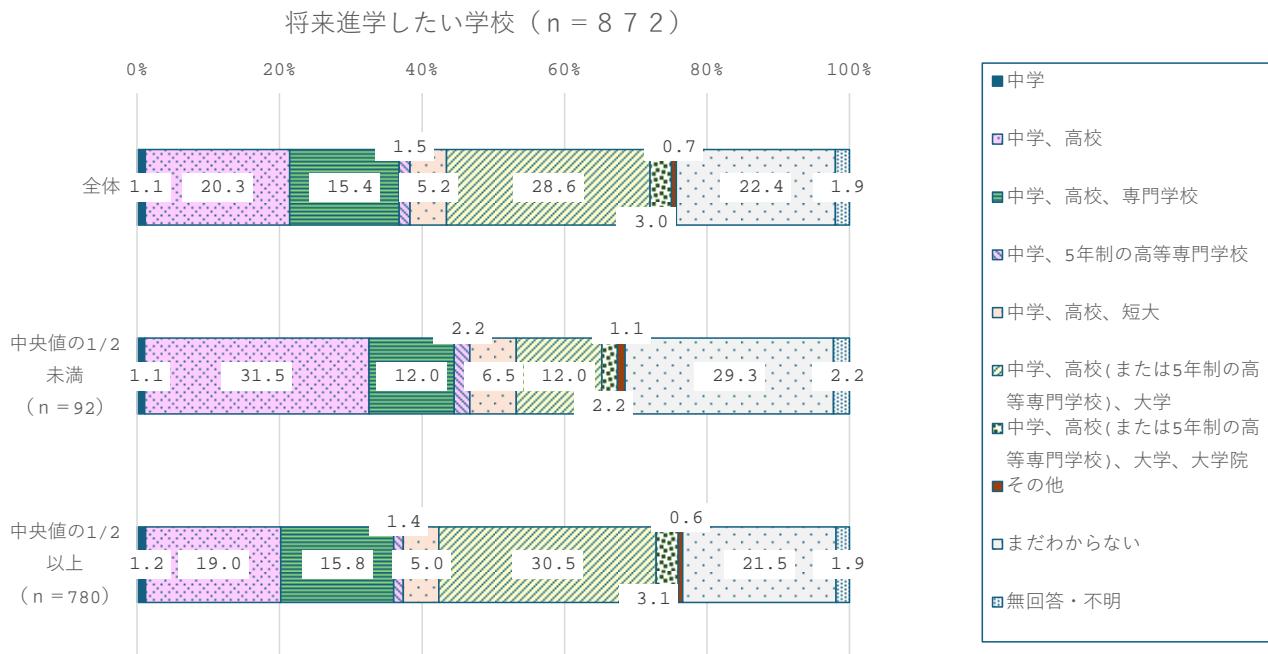
等価世帯収入別では、収入が高い方が、「大学まで」が増え、「高校まで」が減少していた。これは保護者の進学段階の希望・展望と一致した動きとなっている。

世帯の状況別では、「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」を比較すると、「高校、専門学校」までの割合（「中学」「中学、高校」、「中学、高校、専門学校」を合わせた割合）に大きな差がみられた。

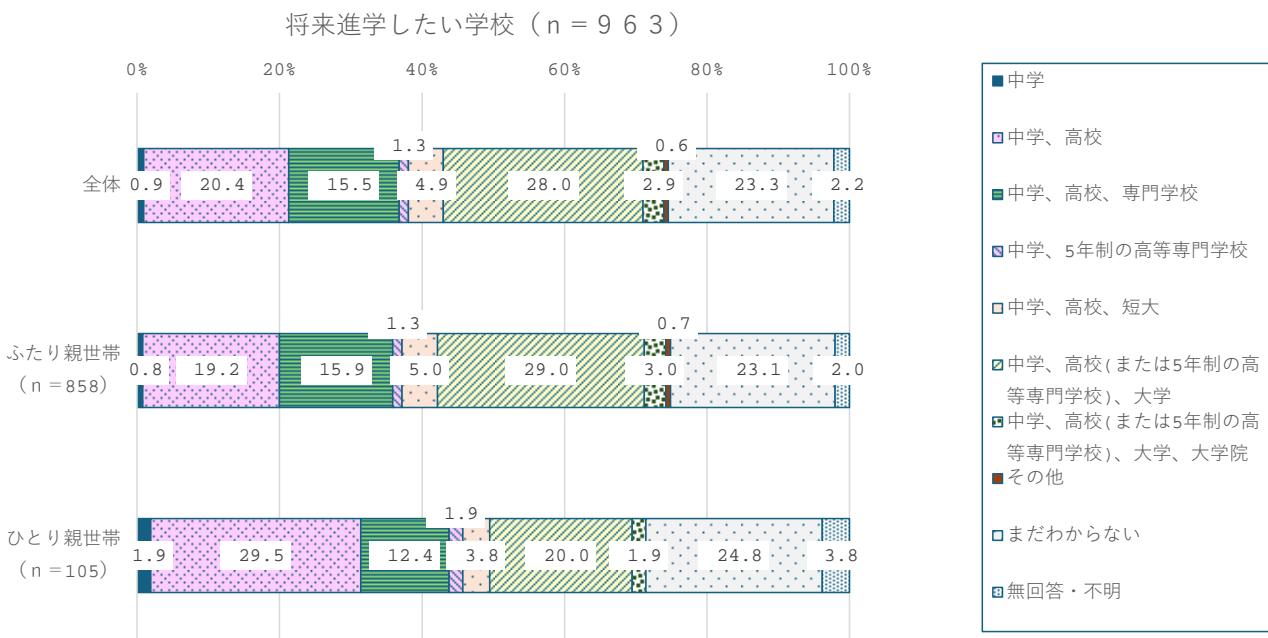
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



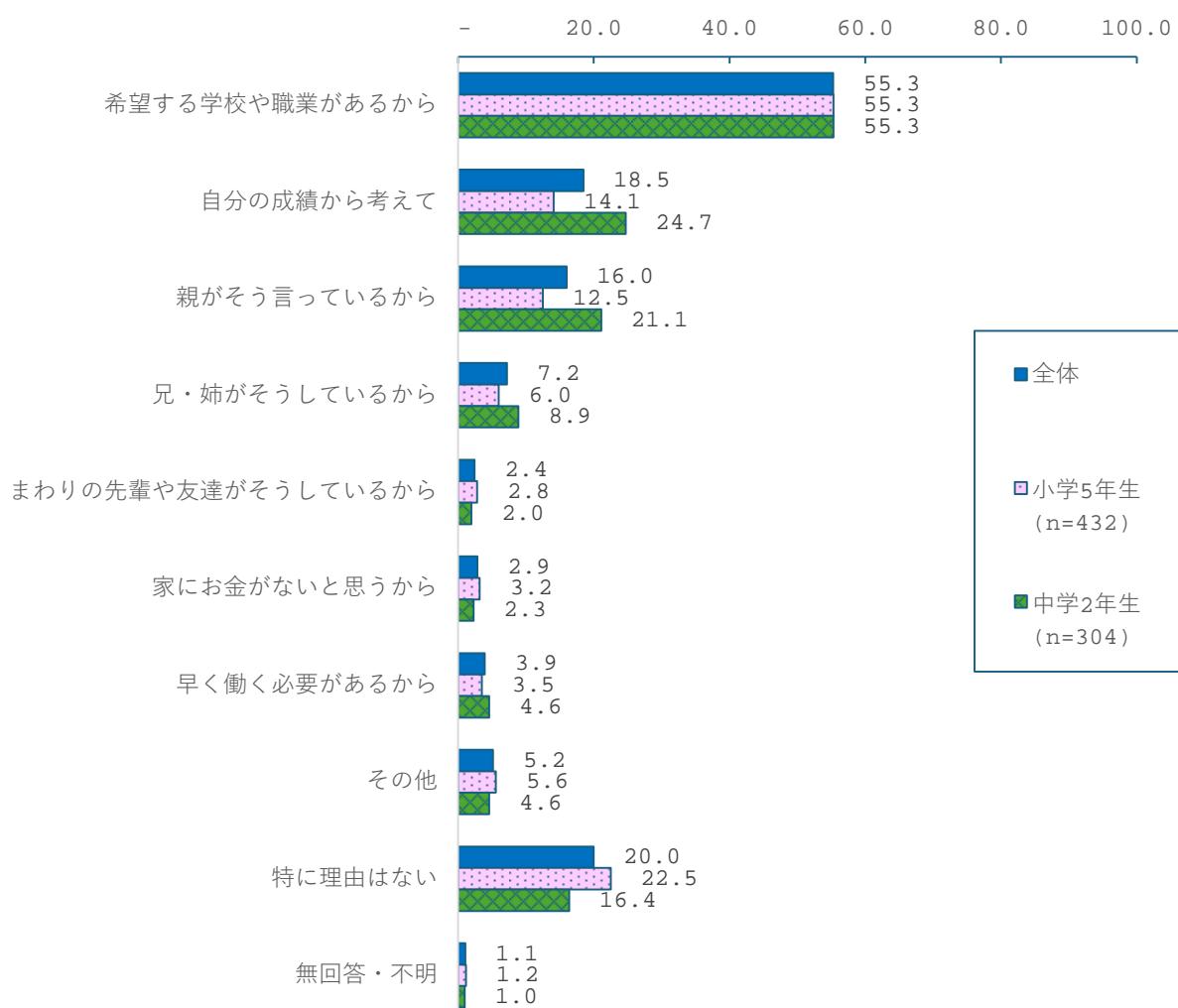
(2) 進学希望の教育段階についてそう考える理由

問7 前の質問で1～8と答えた場合、その理由を教えてください。(1～8については、あてはまるものすべてに○)

- 進学希望の理由については、「希望する学校や職業があるから」が最も多く、55.3%だった。等価世帯収入別では、「自分の成績から考えて」、「兄・姉がそうしているから」、「家にお金がないと思うから」、「早く働く必要があるから」の項目で「中央値の1/2未満」の割合が多い結果となった。世帯の状況別では、「希望する学校や職業があるから」、「兄・姉がそうしているから」、「家にお金がないと思うから」、「早く働く必要があるから」の項目で「ひとり親世帯」の割合が「ふたり親世帯」よりも多い結果となった。

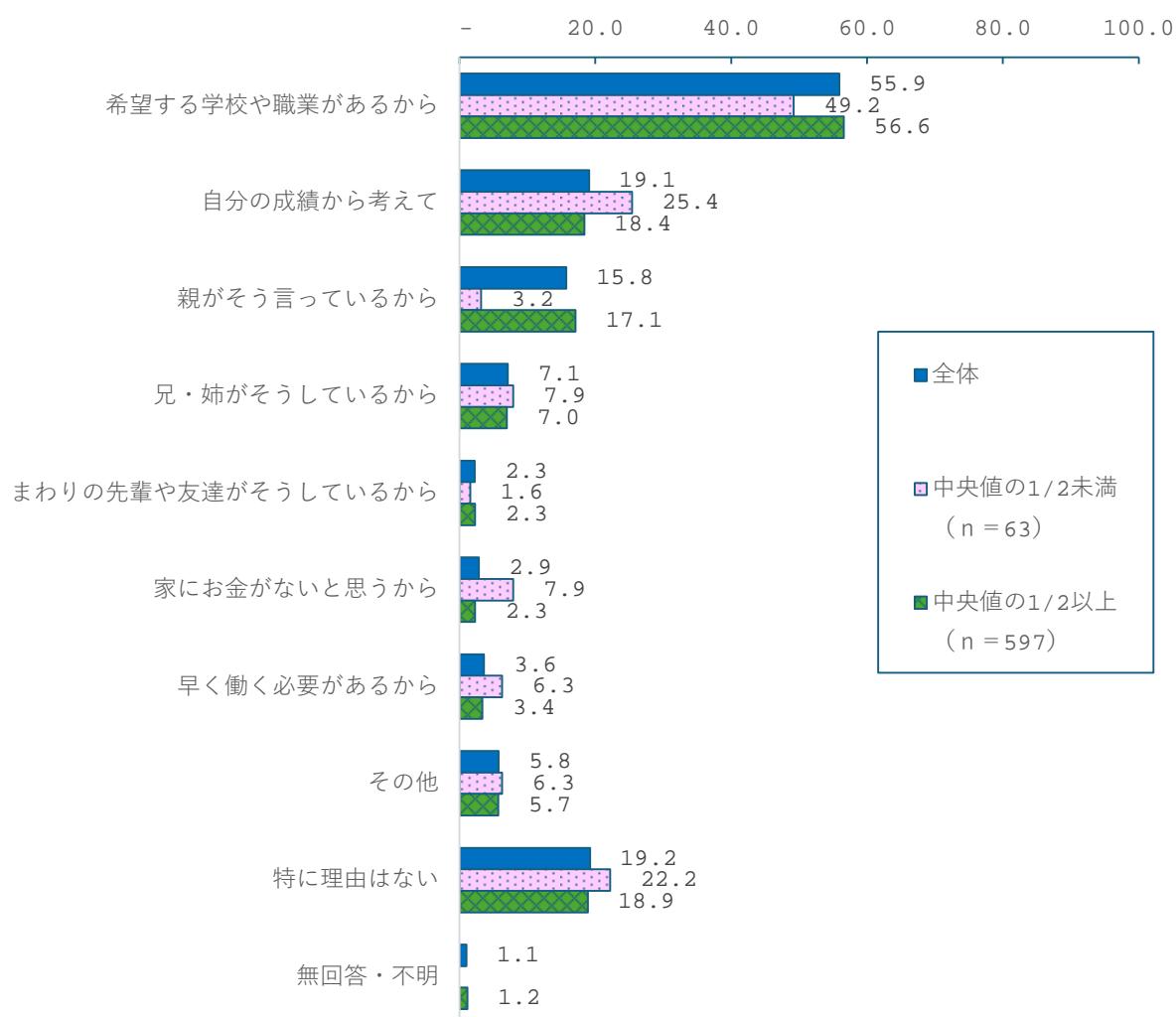
【全体（学年別）】

進学したい理由 (n = 736)



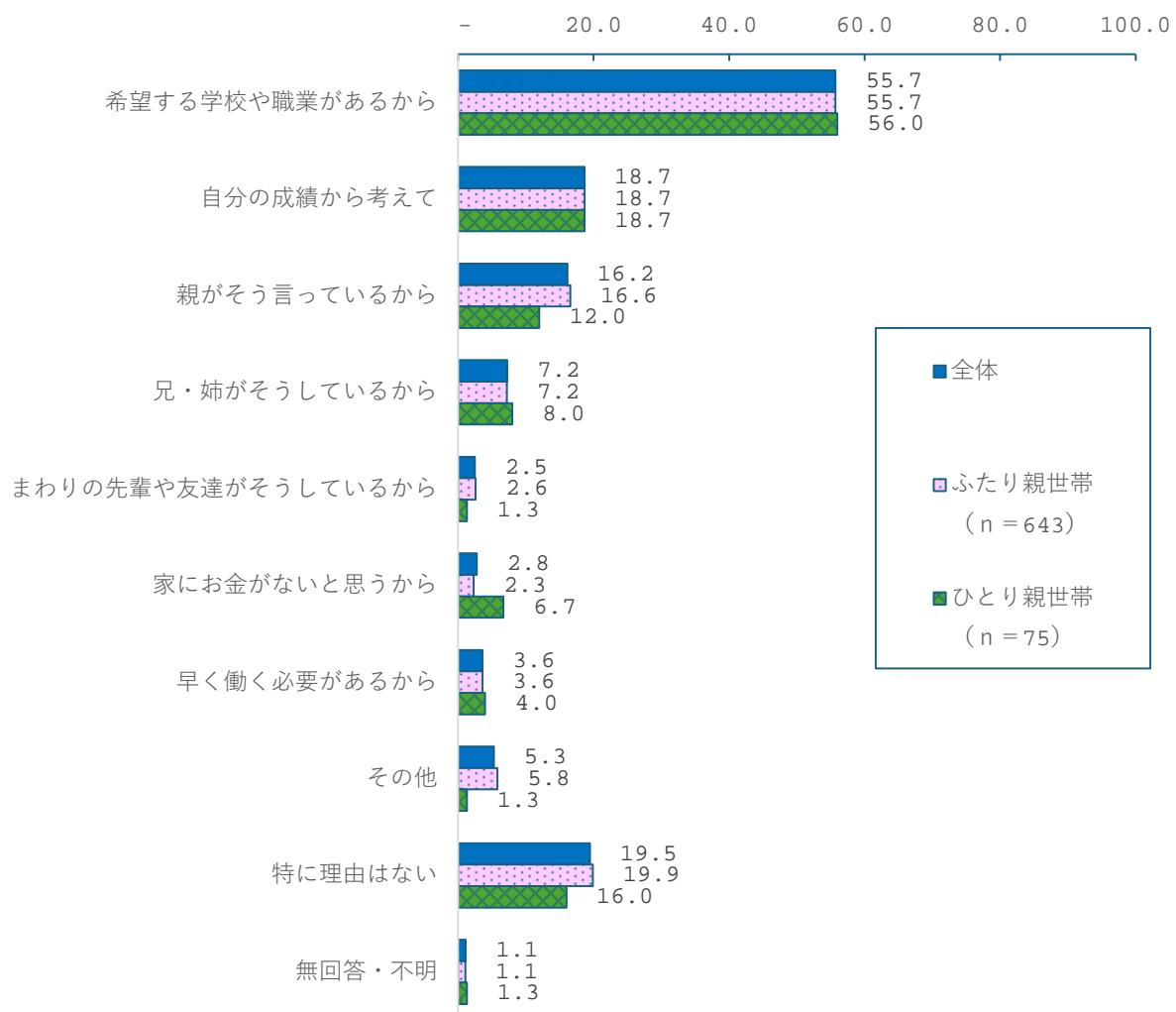
【等価世帯収入別】

進学したい理由 (n = 660)



【世帯の状況別】

進学したい理由 (n = 718)



3. 部活動等への参加

(1) 部活動等への参加状況

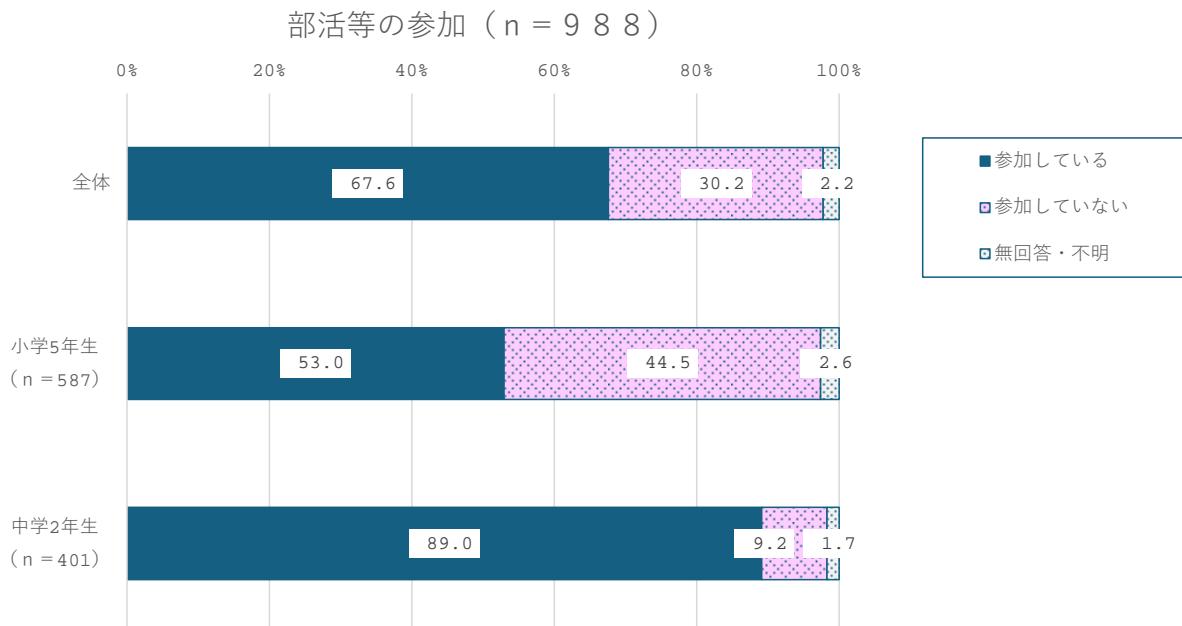
問8 あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。
(あてはまるもの1つに○)

- 部活動等に参加しているかの確認を行った所、「参加している」は小学5年生で53.0%、中学2年生で89.0%という結果になった。

等価世帯収入別では、世帯年収が低い方が、「参加している」の割合も減少していた。

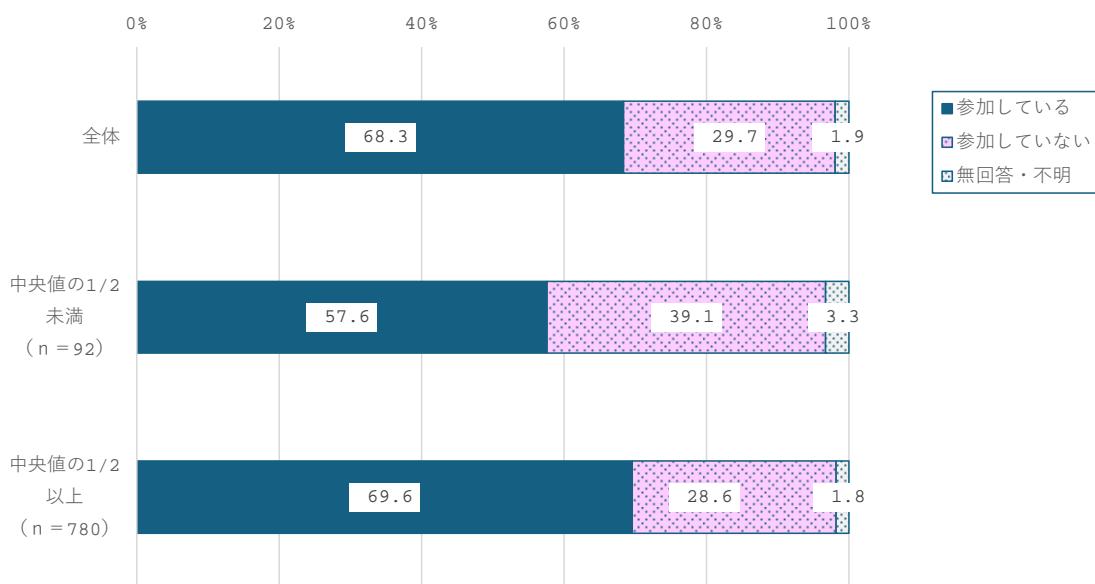
世帯の状況別では、「ふたり親世帯」の「参加している」の割合が68.5%であるのに対して、「ひとり親世帯」は「参加している」が61.9%となった。

【全体（学年別）】



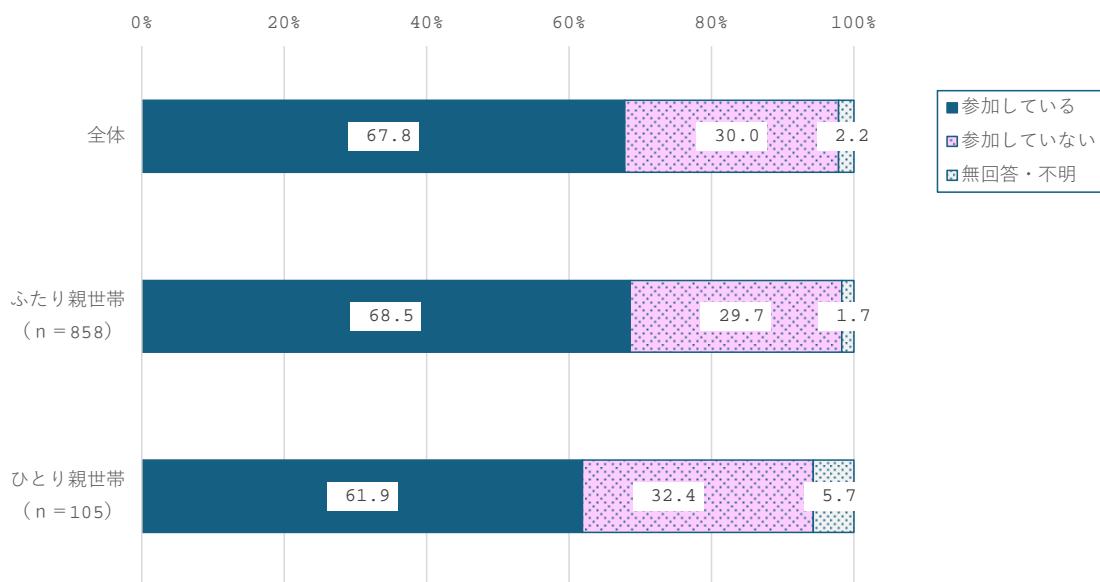
【等価世帯収入別】

部活等の参加 (n = 872)



【世帯の状況別】

部活等の参加 (n = 963)



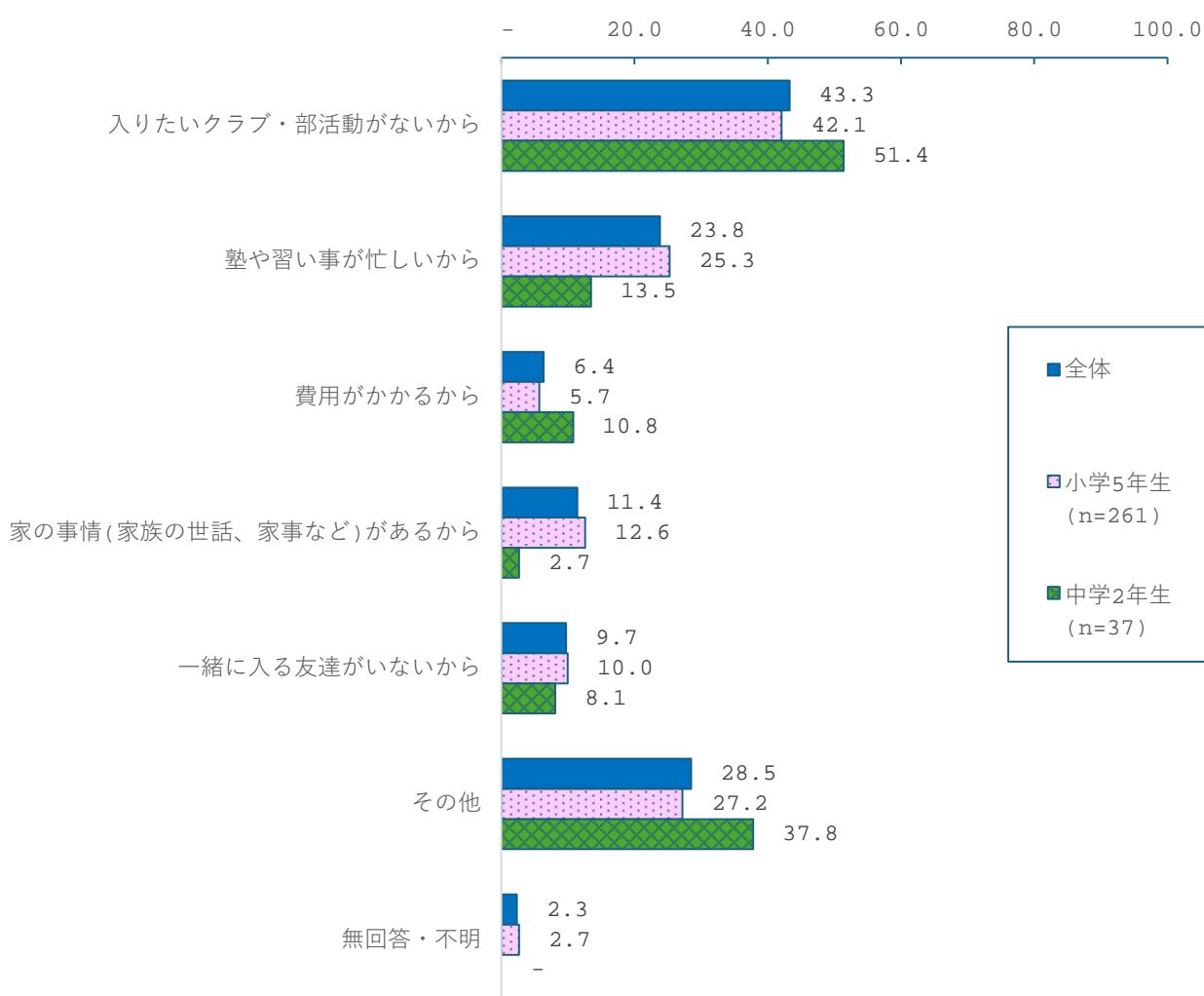
(2) 部活動等に参加していない理由

問9 前の質問で「2 参加していない」と答えた人にお聞きします。参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 部活動等に参加していない理由（その他を除いた全体）では、「入りたいクラブ・部活動がないから」が最も多く43.3%だった。
等価世帯収入別の「中央値の1/2未満」では、「費用がかかるから」(11.1%)、「家の事情があるから」(25.0%)が「中央値の1/2以上」よりも多い割合となっていた。
世帯の状況別では、「塾や習い事が忙しいから」が「ふたり親世帯」では27.8%であるのに対して、「ひとり親世帯」では13.9%と差がみられた。

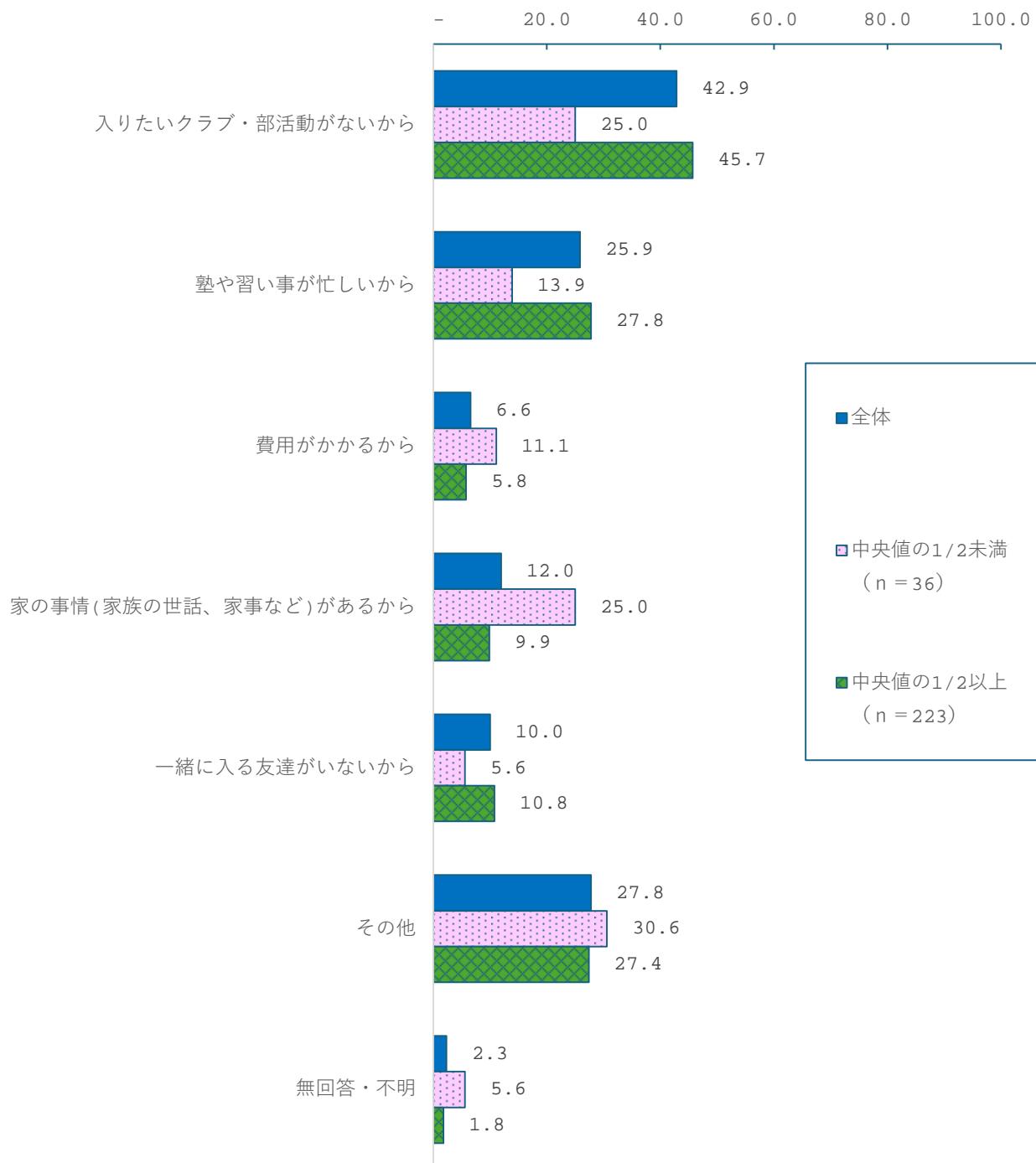
【全体（学年別）】

部活動等の不参加理由（n = 298）



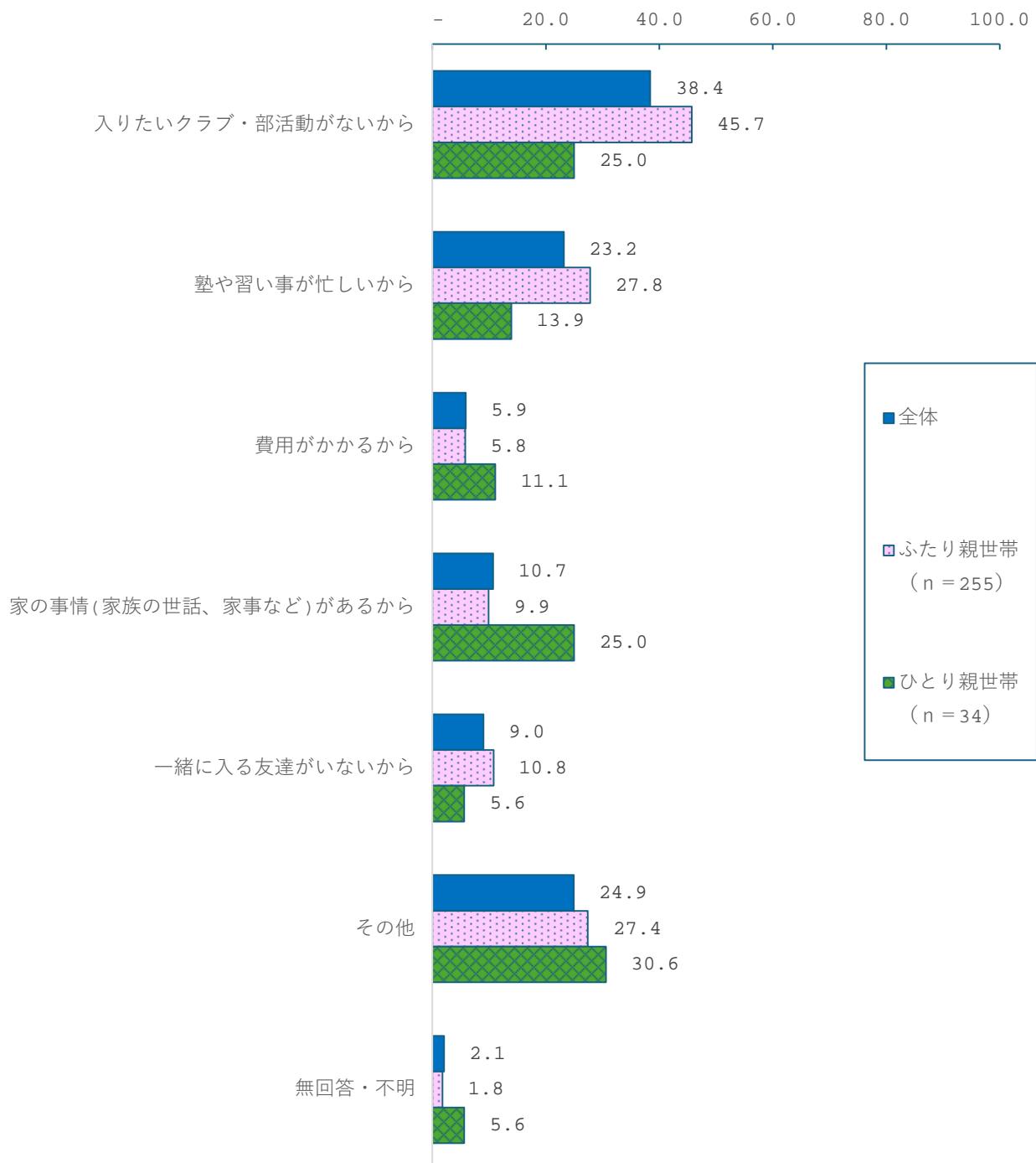
【等価世帯収入別】

部活動等の不参加理由 (n = 259)



【世帯の状況別】

部活動等の不参加理由 (n = 289)



4. 子どもの日常的な生活状況

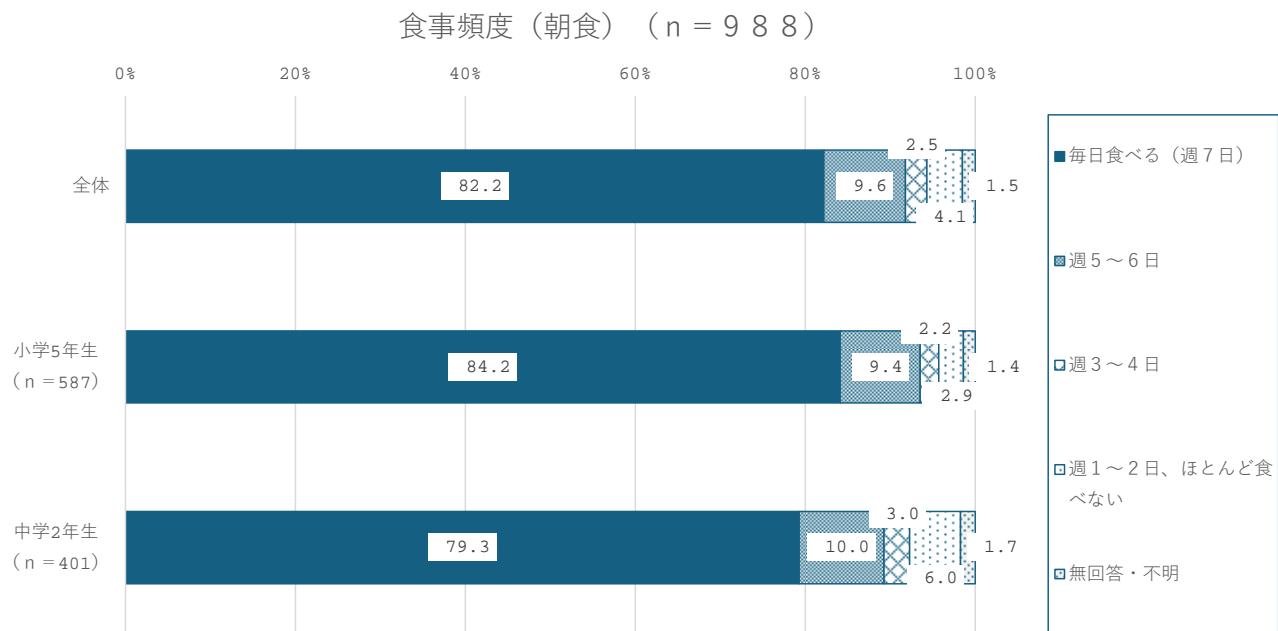
（1）食事の状況（朝食）

問 10 あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。（a～c それについて、あてはまるもの1つに○）

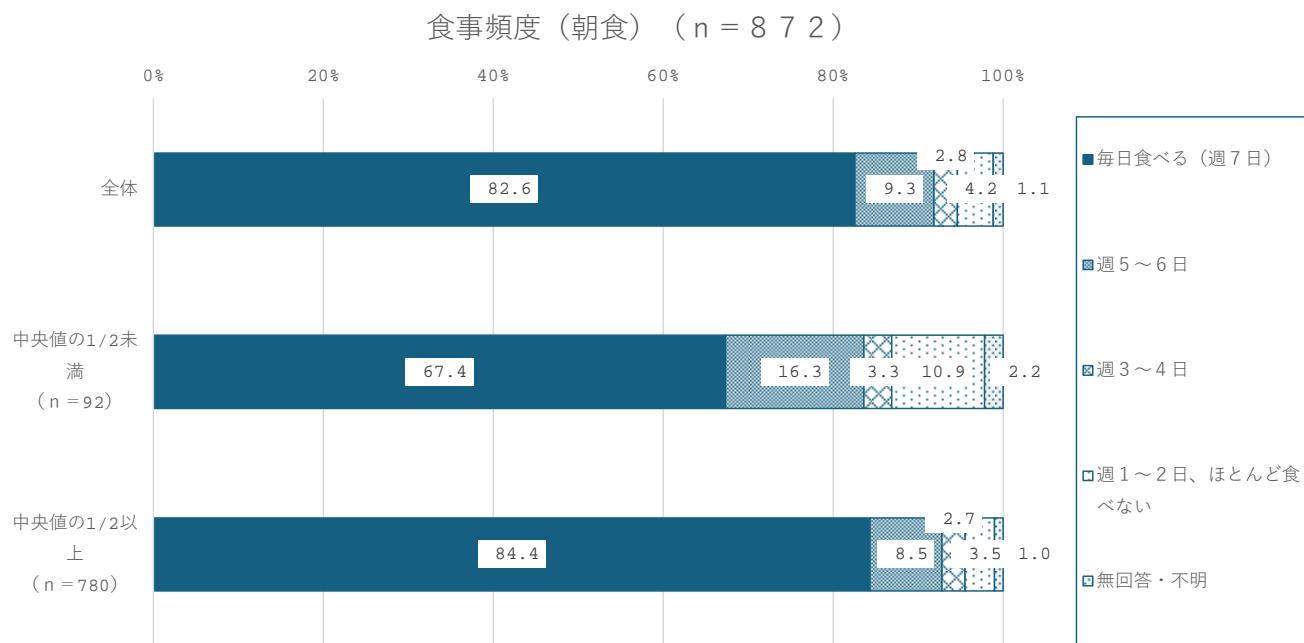
a) 朝食

- 朝食の食事の頻度については、全体では「毎日食べる」が82.2%だった。
等価世帯収入別では、世帯収入が少ない方が、食事の頻度も減少していた。
世帯の状況別では、「ふたり親世帯」で「毎日食べる」の割合は84.0%であり、「ひとり親世帯」では66.7%だった。

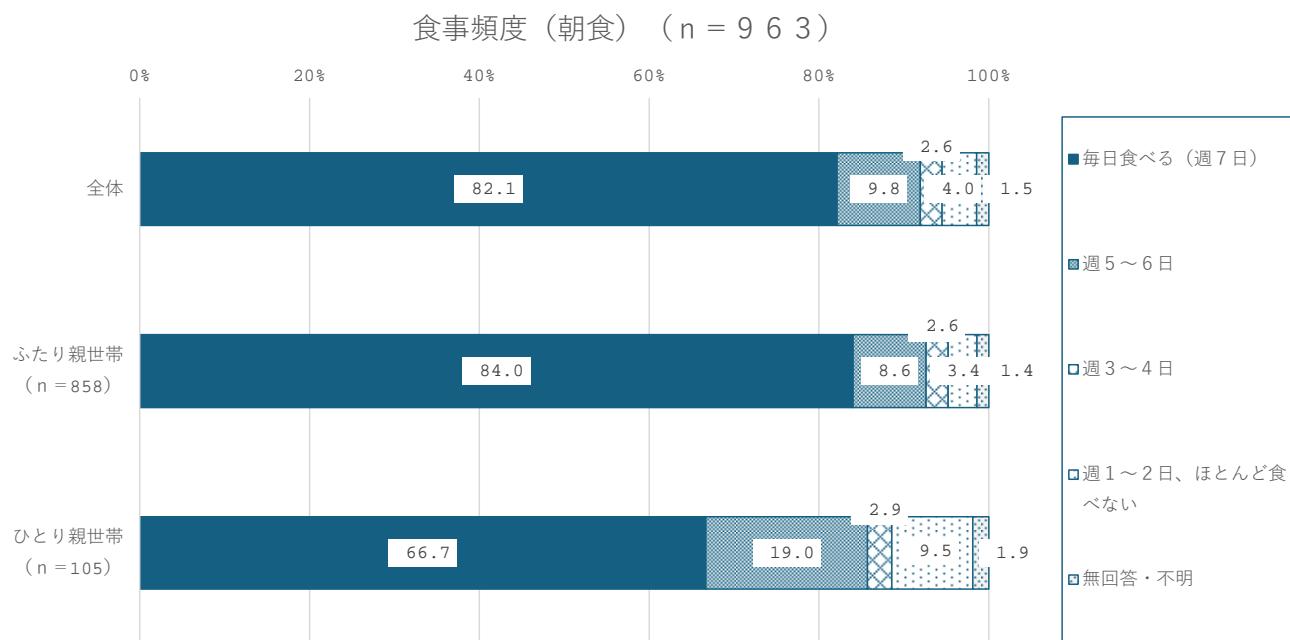
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



(2) 食事の状況(夕食)

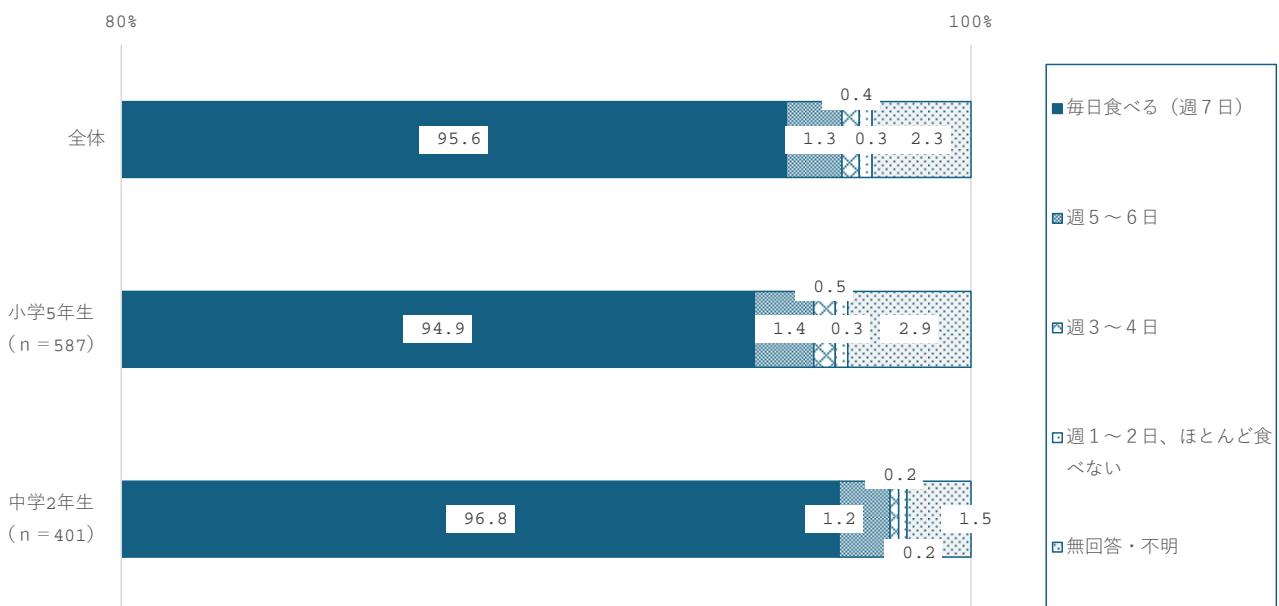
問 10 あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(a~c それについて、あてはまるもの1つに○)

b) 夕食

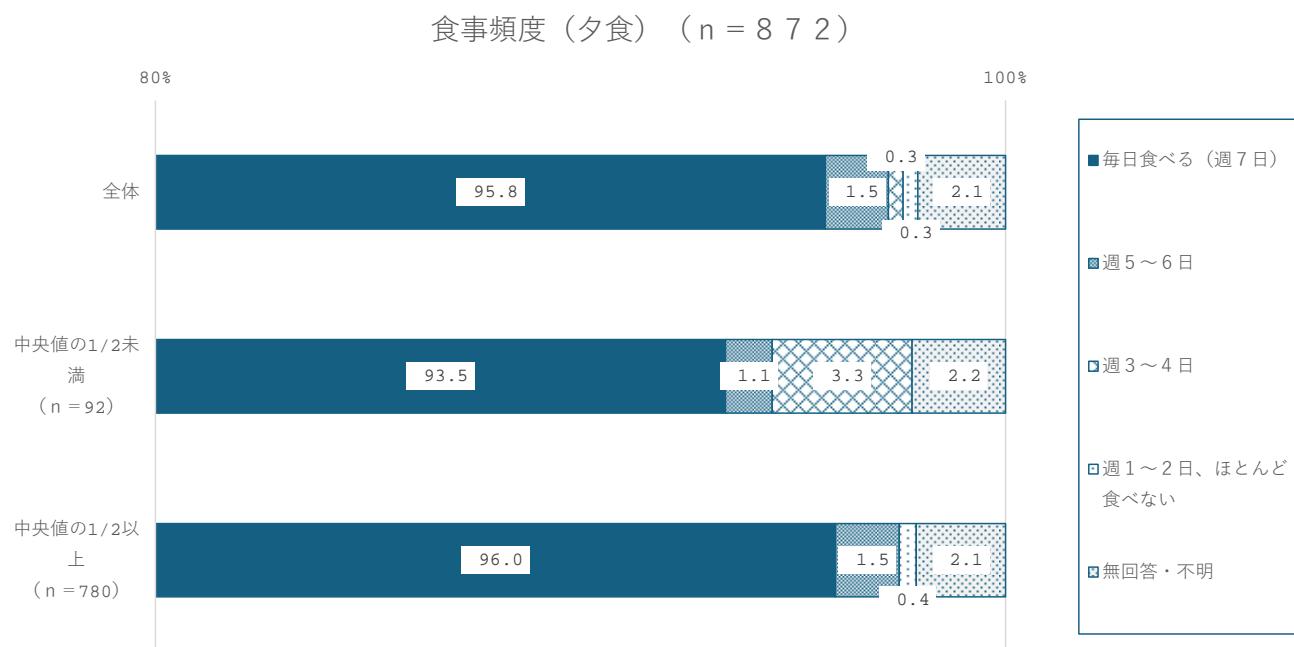
- 夕食の食事の頻度については、全体では「毎日食べる」が95.6%と高い結果となった。等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」においても「毎日食べる」が90%以上となっていた。世帯の状況別では、どの世帯においても「毎日食べる」が90%以上と高い割合になった。

【全体(学年別)】

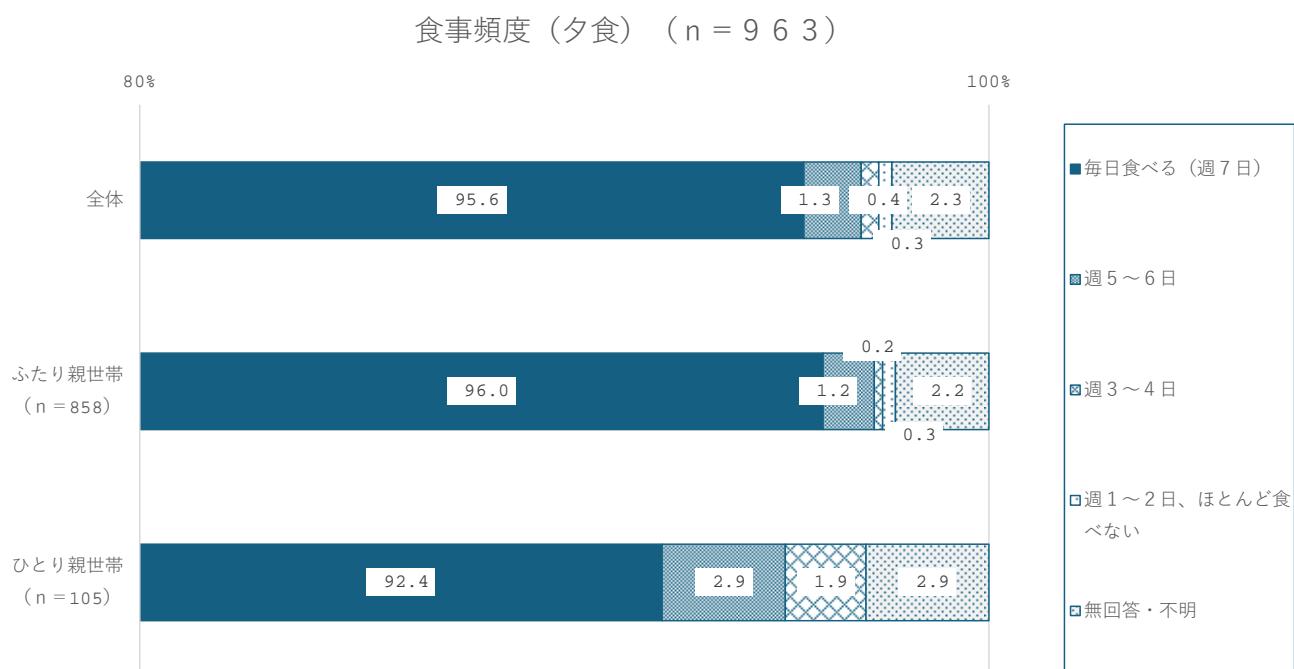
食事頻度(夕食) (n = 988)



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



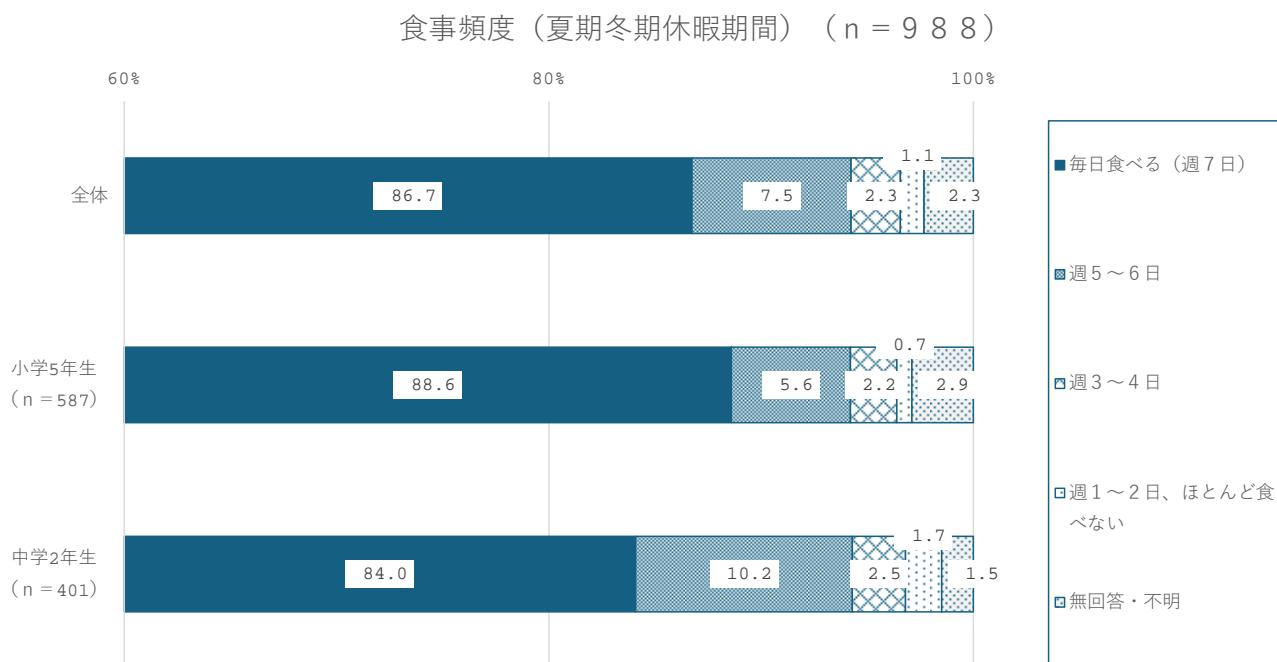
(3) 食事の状況（夏期冬期休暇期間）

問 10 あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。（a～c それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

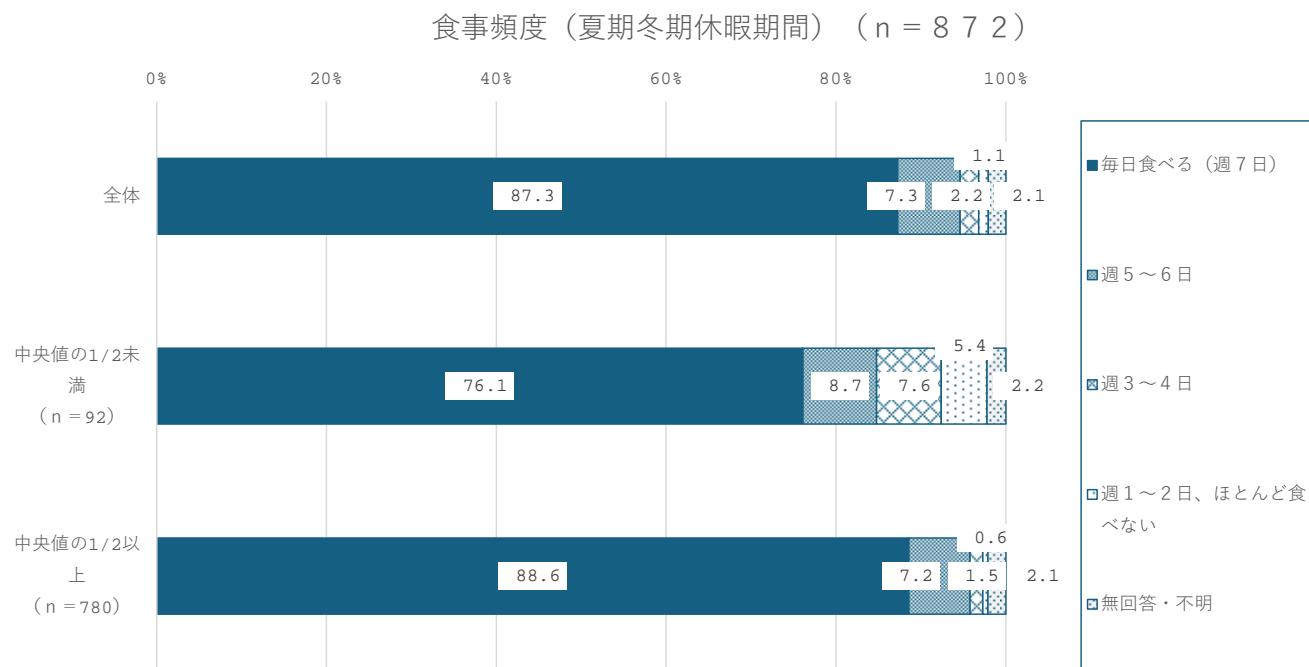
c) 夏期冬期休暇期間

- 夏期や冬期の休暇期間の食事については、全体では「毎日食べる」が86.7%だった。等価世帯収入別では、「毎日食べる」の割合が「中央値の1/2以上」で88.6%、「中央値の1/2未満」では、76.1%と差がみられた。世帯の状況別では、「毎日食べる」の割合は、「ひとり親世帯」では78.1%、「ふたり親世帯」で87.9%と差がみられた。

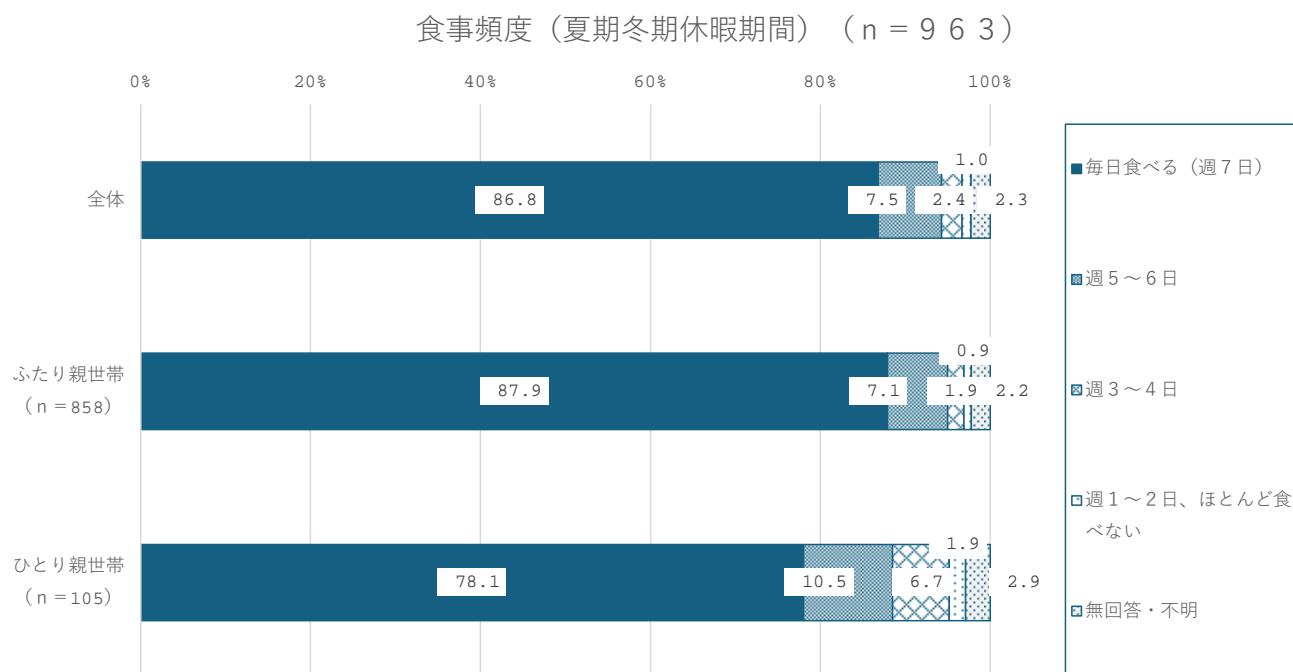
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



(4) 就寝時間

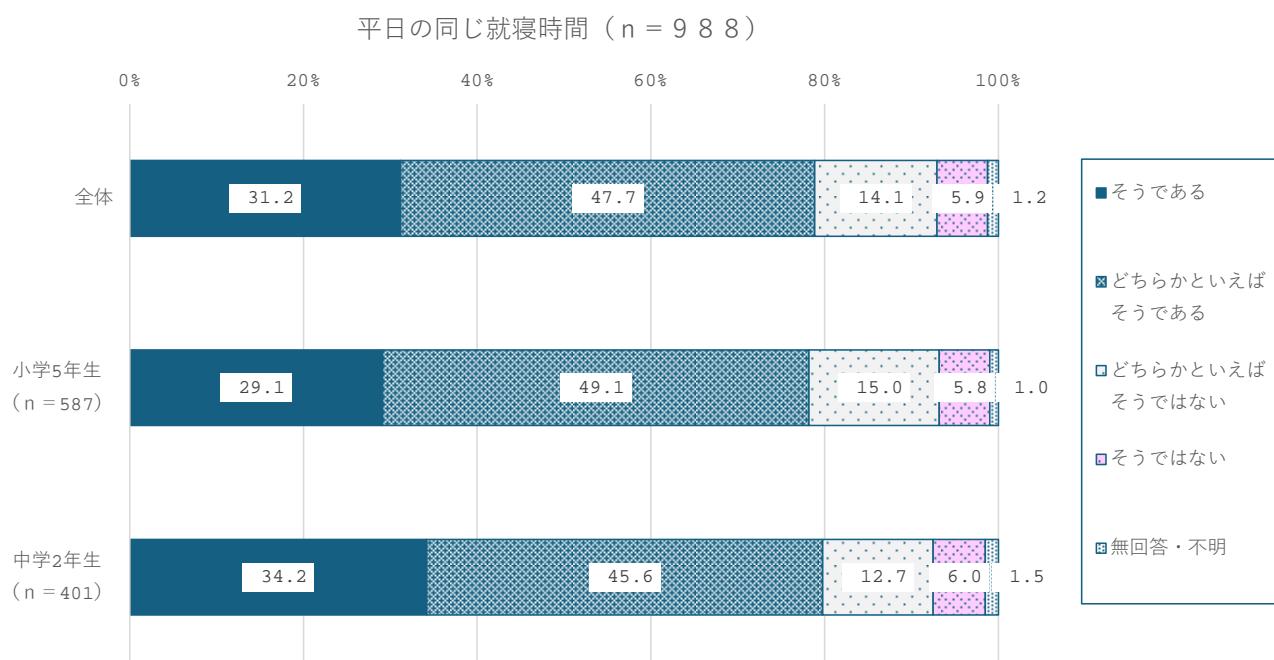
問 11 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 就寝時間については、全体では「そうである」と「どちらかといえばそうである」を合わせた割合は78.9%だった。

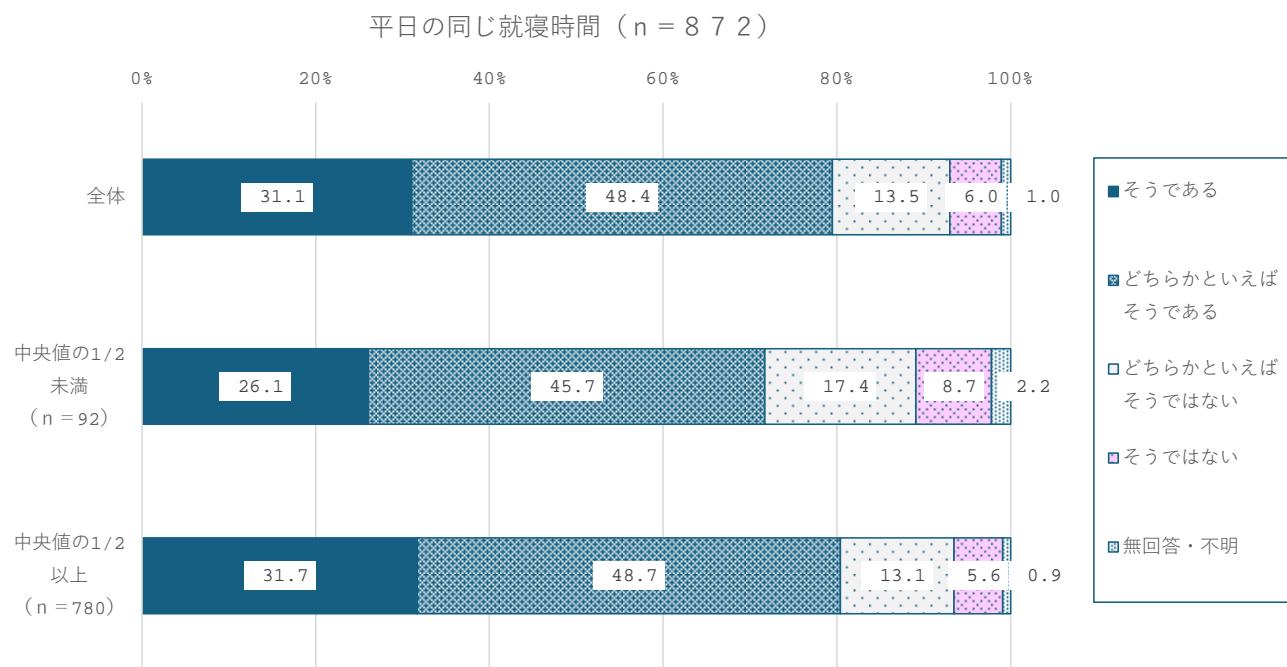
等価世帯収入別では、「そうである」と「どちらかといえばそうである」をあわせた割合は「中央値の1/2以上」で71.8%、「中央値の1/2未満」では、80.4%と差がみられた。

世帯の状況別では、「そうである」と「どちらかといえばそうである」を合わせた割合は、「ひとり親世帯」で75.3%だった。

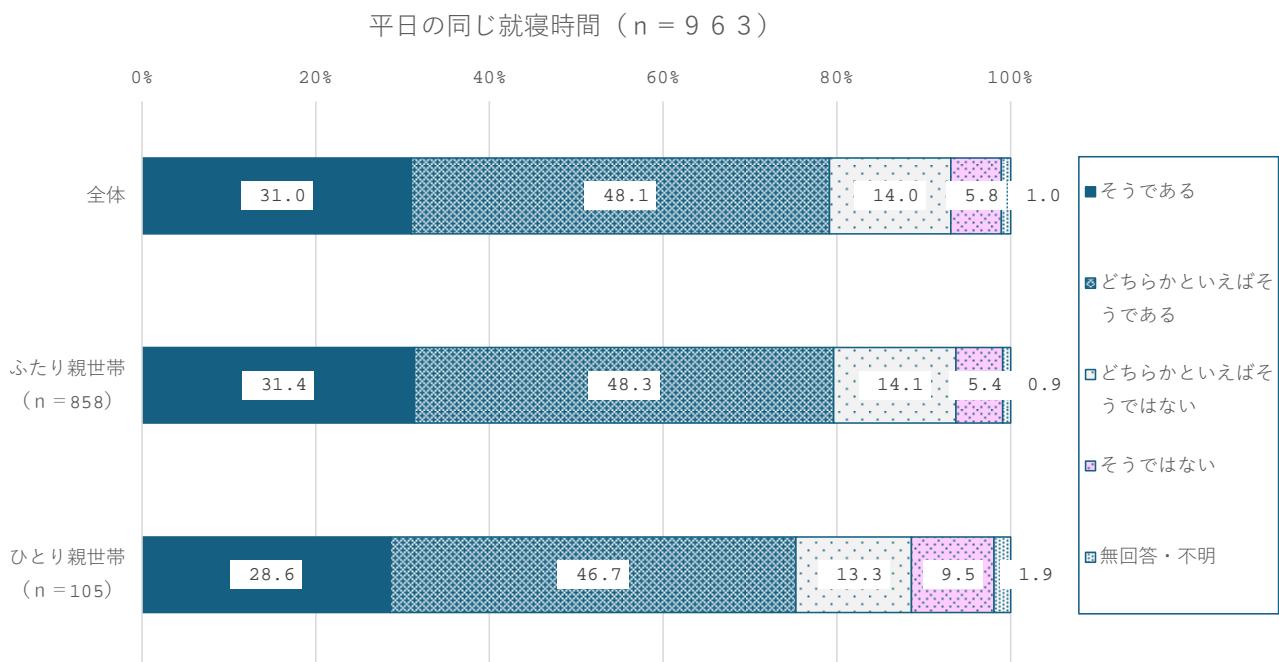
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



(5) 相談できると思う相手

問12 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(1~9については、あてはまるものすべてに○)

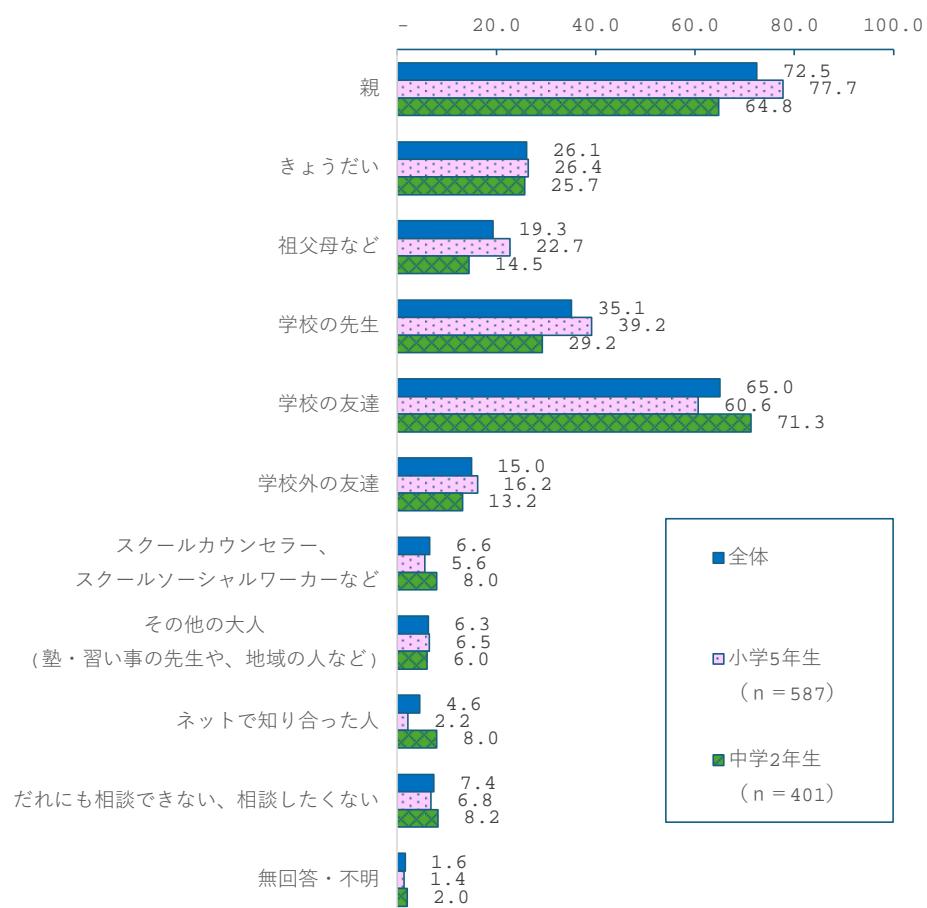
- 困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う相手について、全体では「親」が72.5%で最も高く、続いて「学校の友達」(65.0%)だった。小学5年生では「親」が77.7%と最も多く、続いて「学校の友達」(60.6%)だった。中学2年生では「学校の友達」が71.3%で最も高く、続いて「親」(64.8%)だった。小学生から中学生に成長する中で、相談相手が親から友達へと変化をしていると推定される。

等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」で「学校の先生」「学校外の友達」「その他の大人」「ネットで知り合った人」「だれにも相談できない、相談したくない」が「中央値の1/2以上」と比べ、多くなっていた。

世帯の状況別の「ひとり親世帯」では、「祖父母など」「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど」「その他の大人」「ネットで知り合った人」「誰にも相談できない、相談したくない」が「ふたり親世帯」よりも多い値となっている。

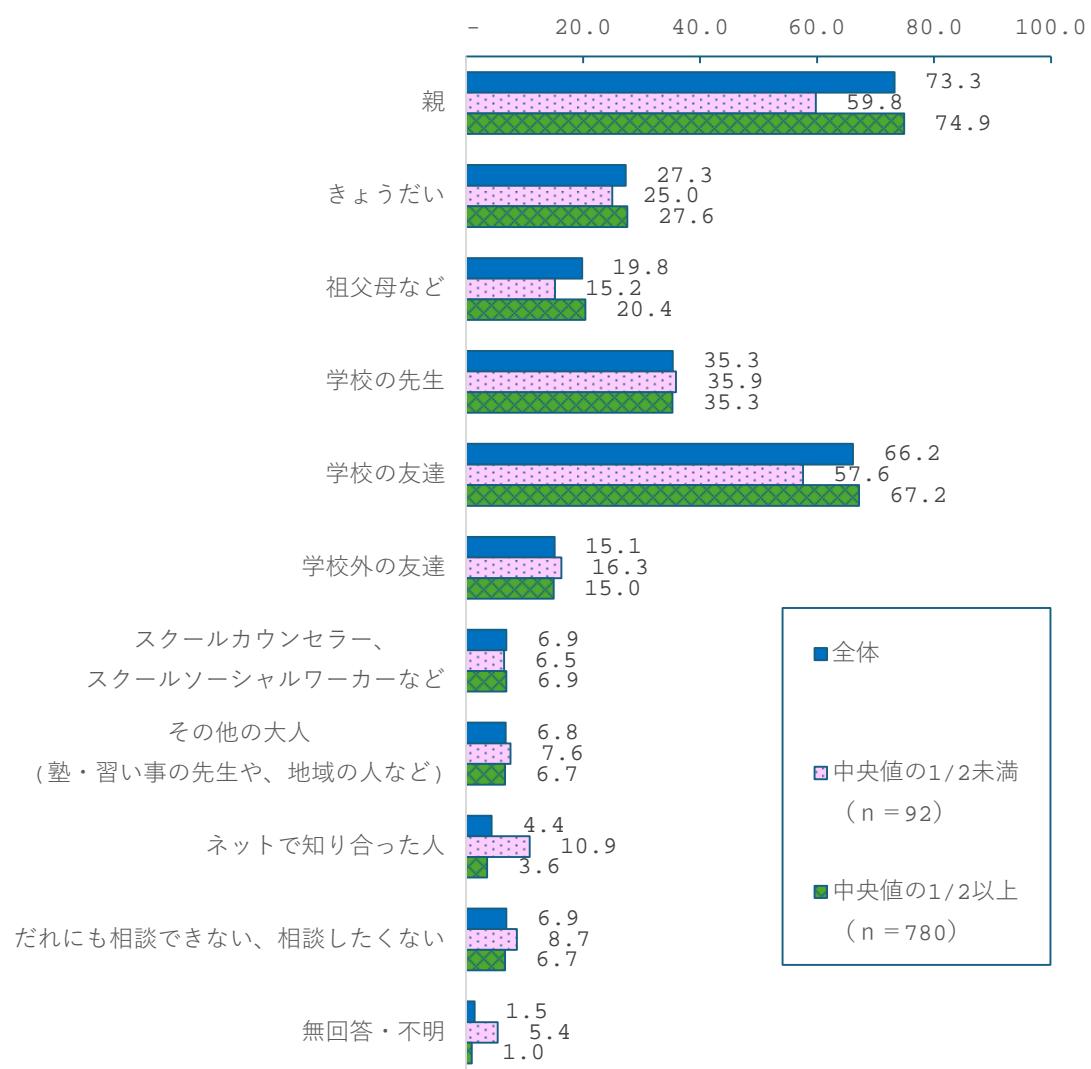
【全体（学年別）】

悩み事の相談先 (n = 988)



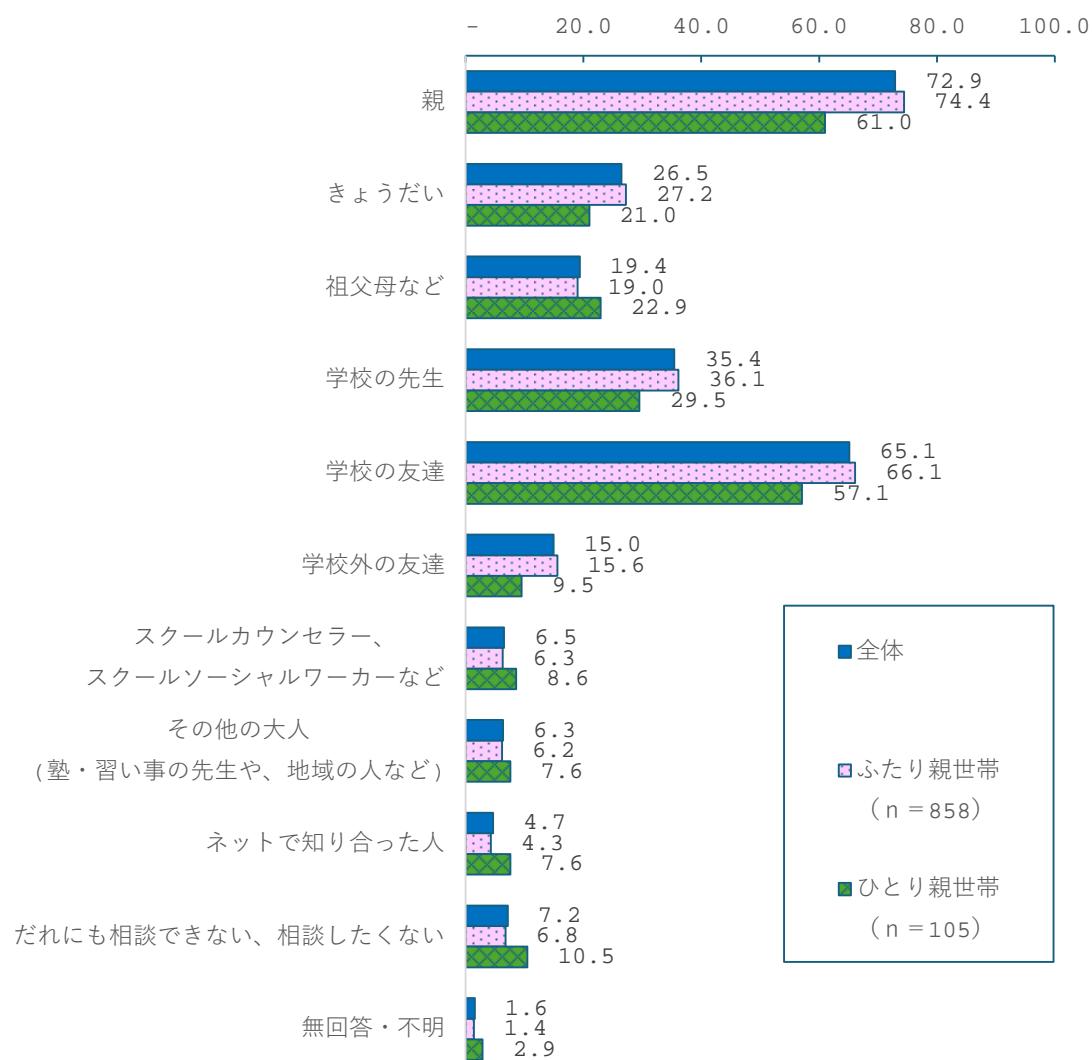
【等価世帯収入別】

悩み事の相談先 (n = 872)



【世帯の状況別】

悩み事の相談先 (n = 963)



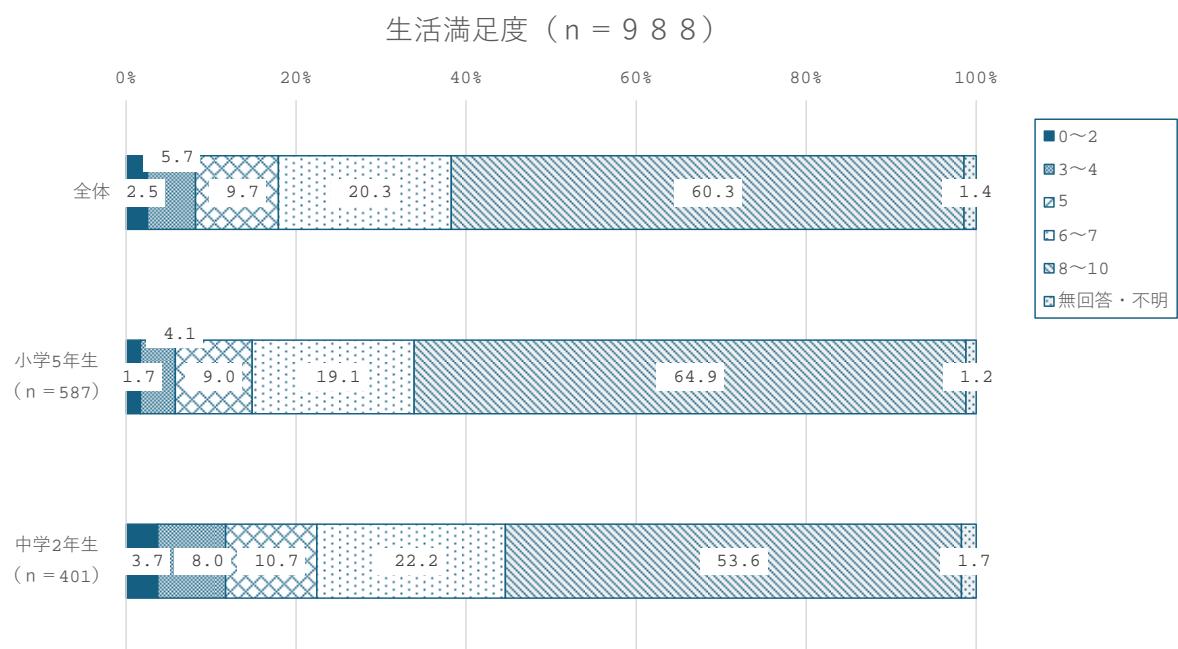
(6) 生活満足度

問13 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で答えてください。（あてはまるもの1つに○）

- 生活の満足度は全体で「8～10点」が60.3%と60%を超えて、最も多い割合となっていた。

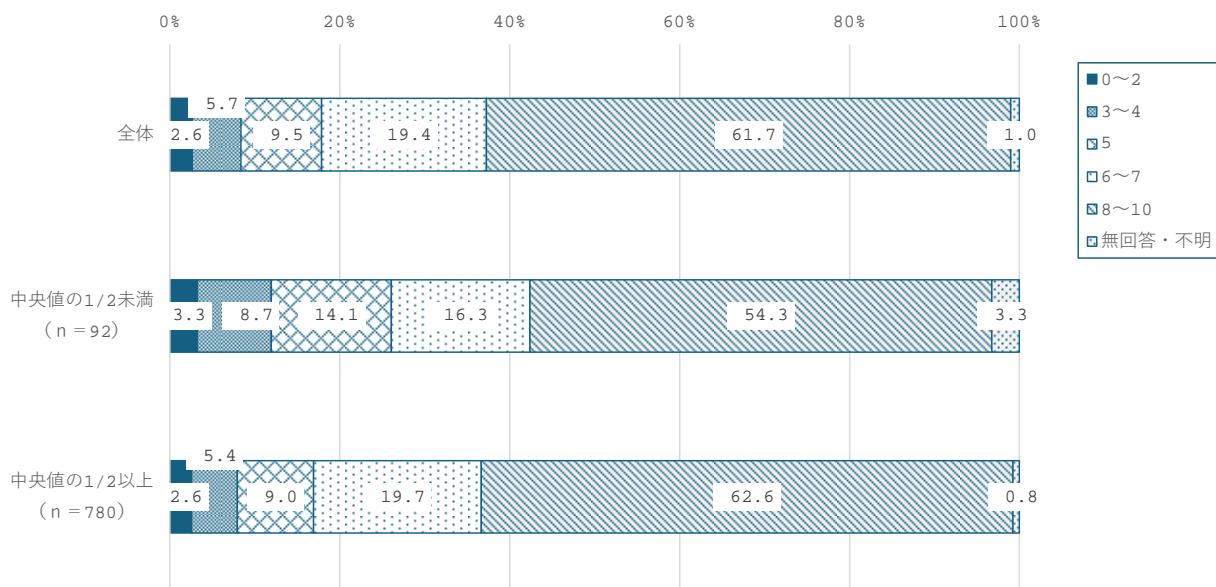
等価世帯収入別では、保護者の回答と同様に世帯収入が高い方が満足度も上がる結果となった。世帯の状況別では、「ふたり親世帯」で「8～10点」は61.2%となっており、「ひとり親世帯」では54.3%と「ふたり親世帯」の方が、割合が多い結果となった。

【全体（学年別）】



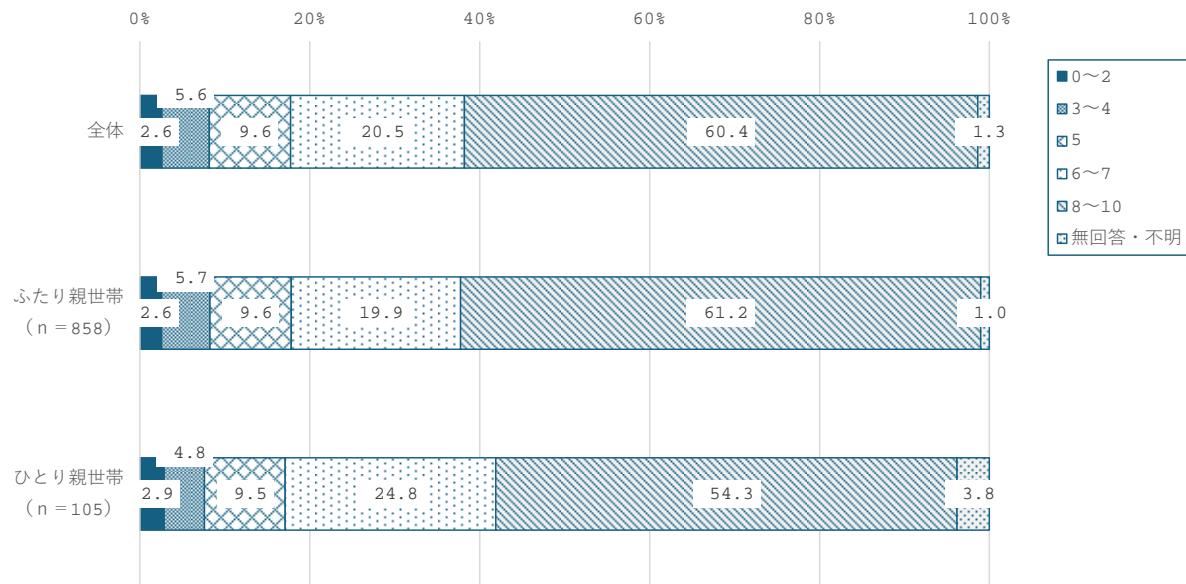
【等価世帯収入別】

生活満足度 (n = 872)



【世帯の状況別】

生活満足度 (n = 963)

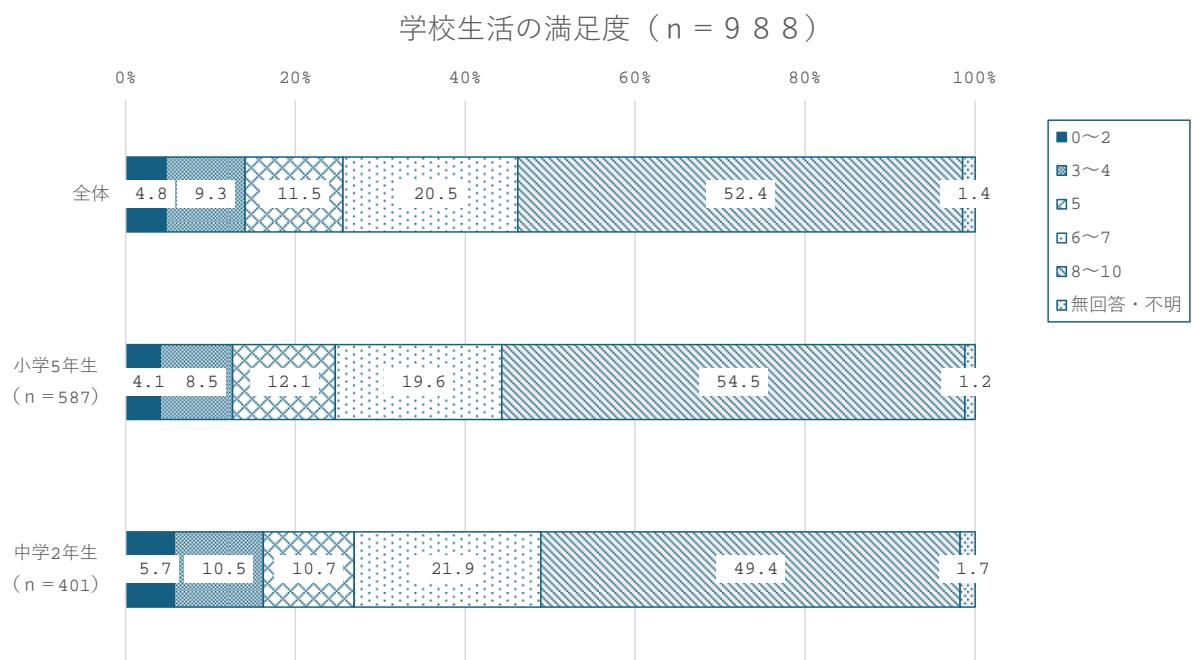


(7) 学校生活の満足度

問1 3-1 あなたは最近の学校での生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない)から「10」(十分)に満足している)の数字で答えてください。(あてはまるもの1つに○)

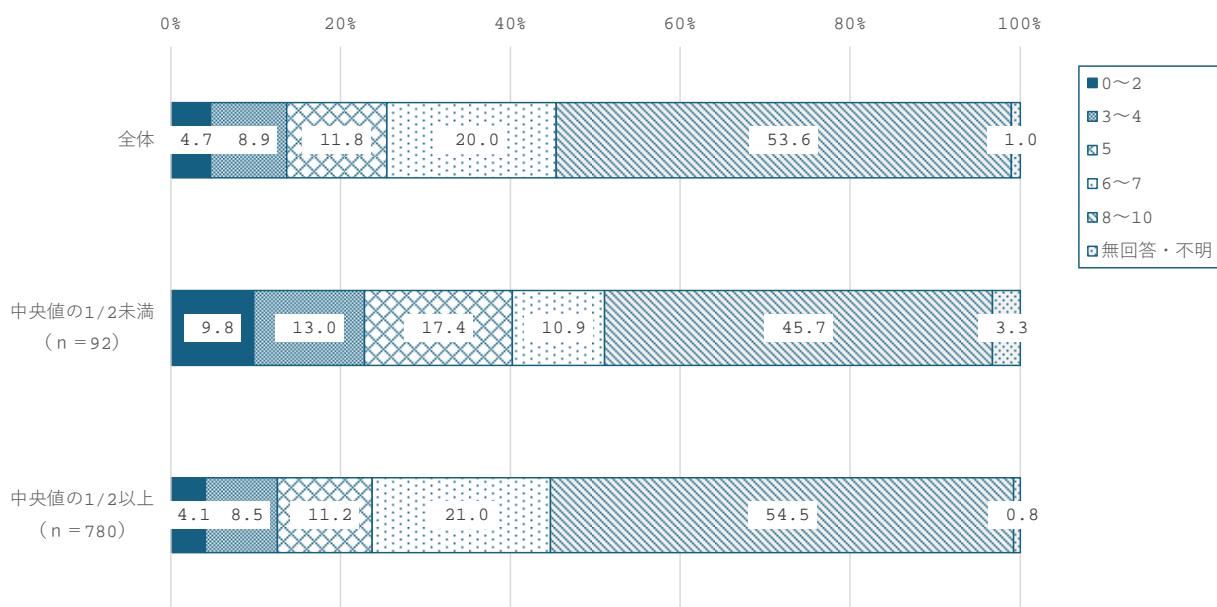
- 学校生活の満足度は全体で「8～10点」が52.4%と50%を超えて、最も多い割合となっていた。等価世帯収入別では、生活の満足度と同様に世帯収入が高い方が満足度も上がる結果となった。世帯の状況別では、「ふたり親世帯」で「8～10点」は54.2%となっており、「ひとり親世帯」では41.0%と「ひとり親世帯」の方が、低い結果となった。

【全体（学年別）】



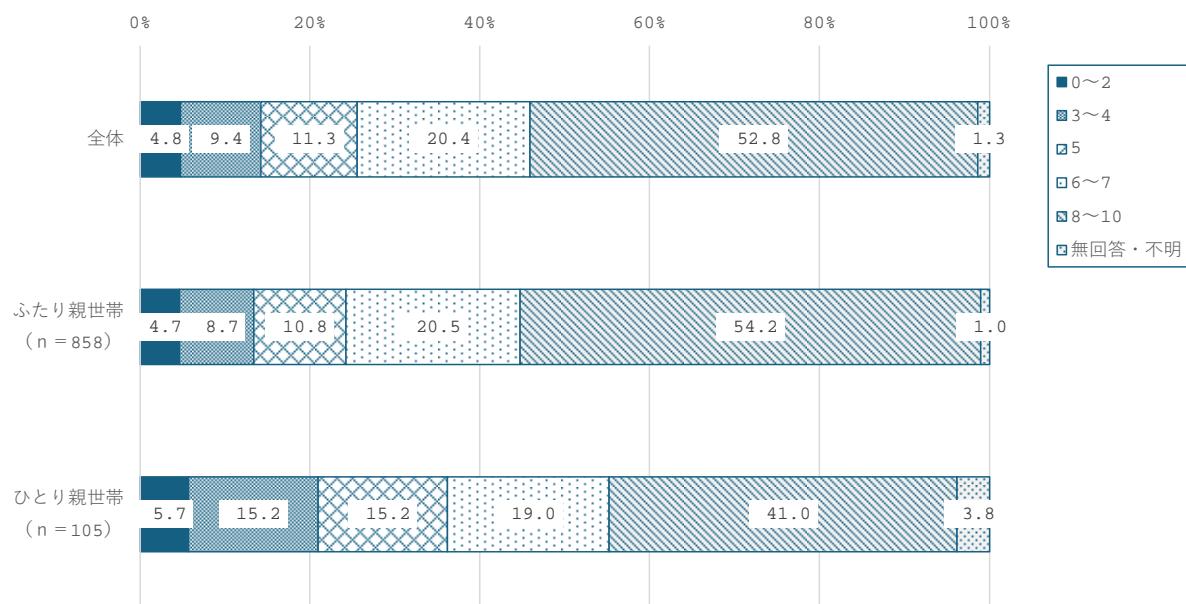
【等価世帯収入別】

学校生活の満足度 (n = 872)



【世帯の状況別】

学校生活の満足度 (n = 963)



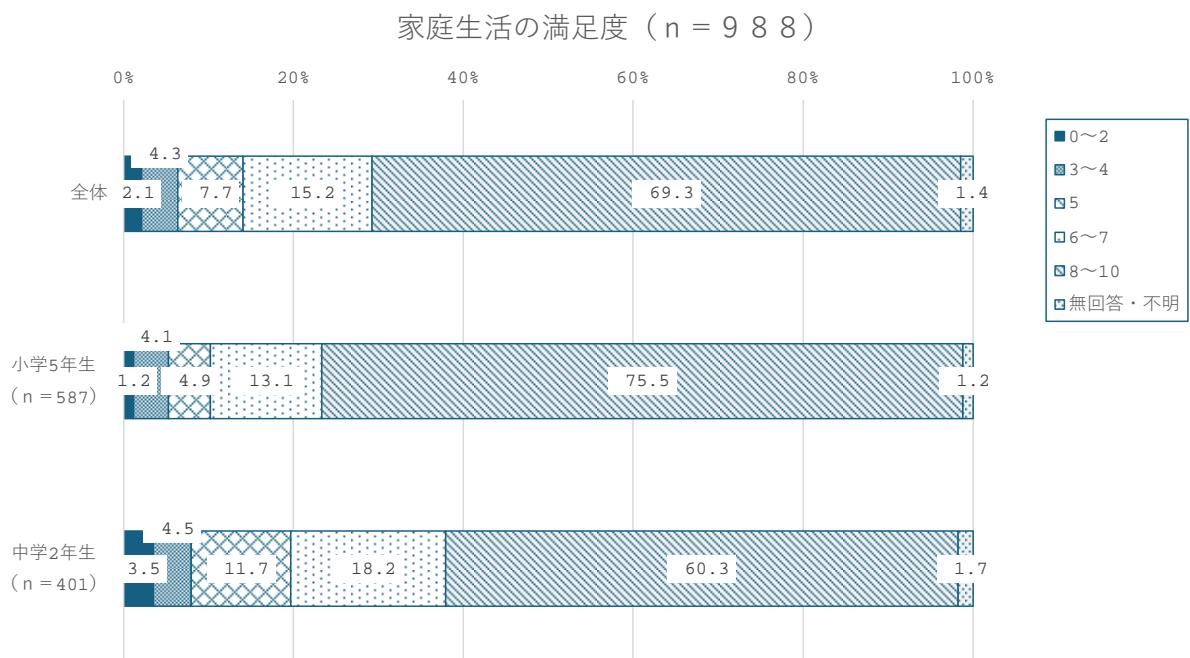
(8) 家庭生活の満足度

問13-2 あなたは最近の家庭での生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で答えてください。（あてはまるもの1つに○）

- 家庭生活の満足度においては、全体で「8～10点」が69.3%であり、小学5年生では、「8～10点」が75.5%と、とても多い結果となった。

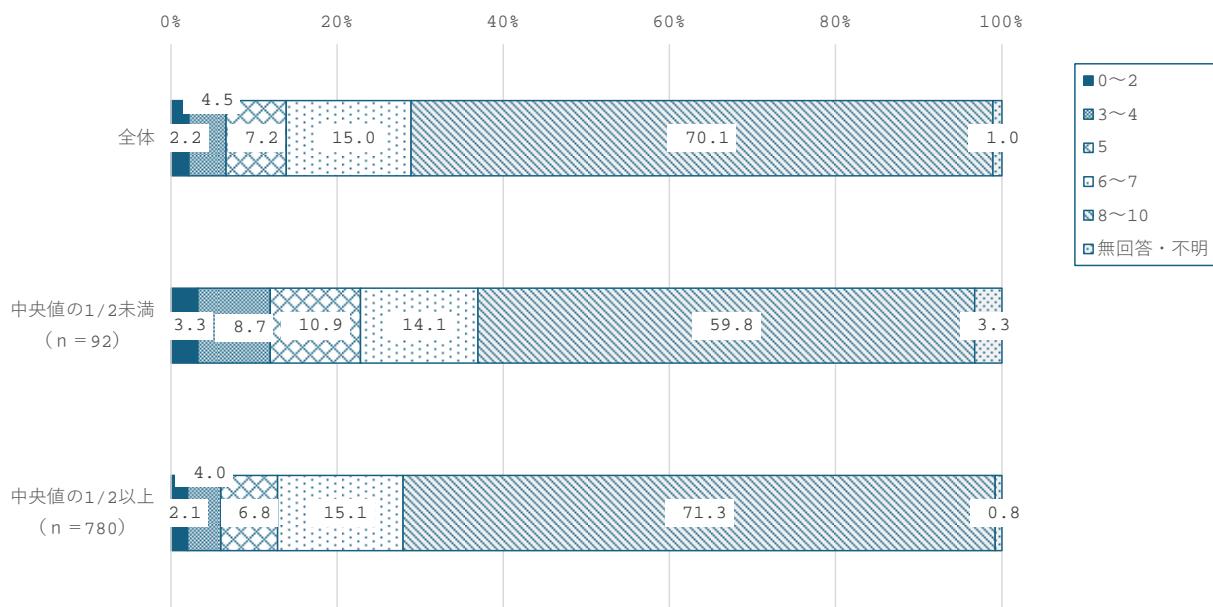
等価世帯収入別では、生活の満足度と同様に世帯収入が高い方が満足度も上がる結果となった。世帯の状況別の「ふたり親世帯」と「ひとり親世帯」のどちらにおいても、「6点以上」は80%以上と高い評価になった。

【全体（学年別）】



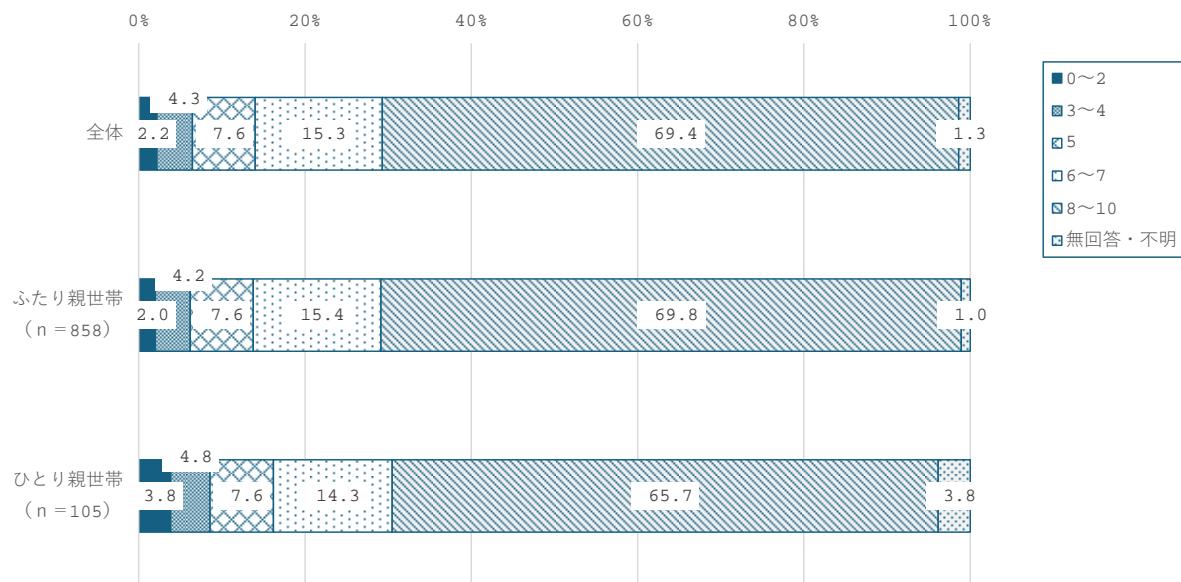
【等価世帯収入別】

家庭生活の満足度 (n = 872)



【世帯の状況別】

家庭生活の満足度 (n = 963)



(9) 家族のことでの困りごとや悩みごと

問15 あなたは家族のことで困っていることや悩みごとがありますか。

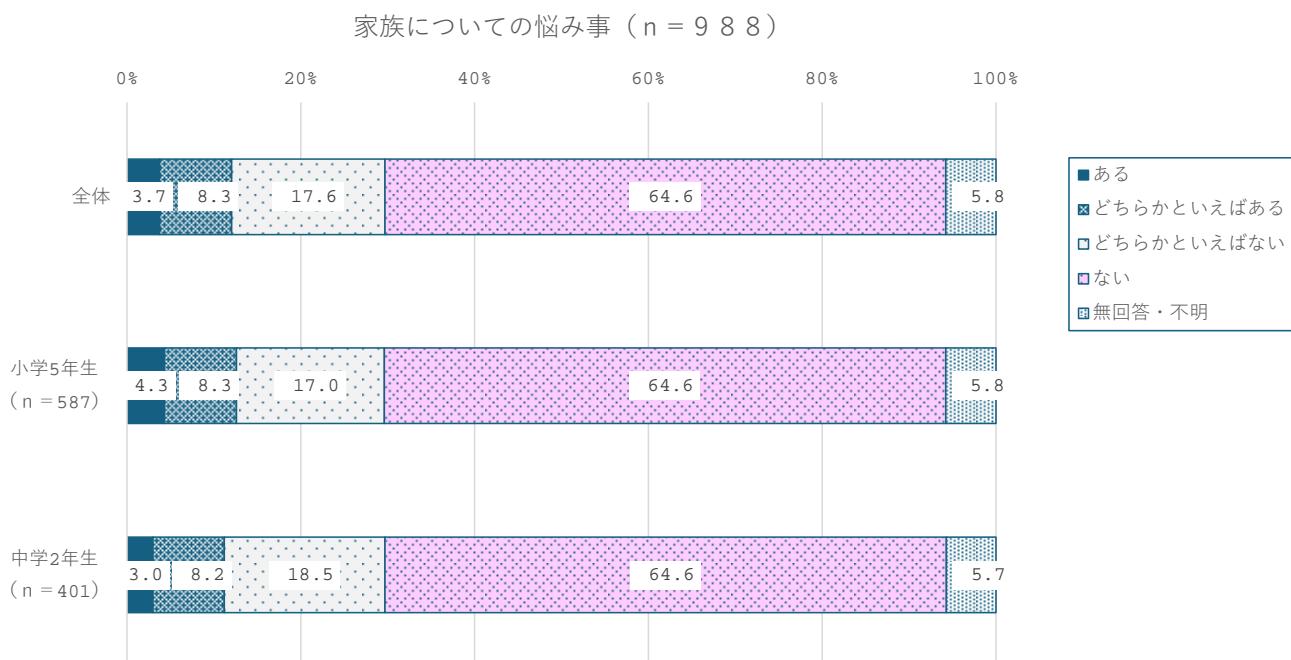
(あてはまるもの1つに○)

- 家族のことでの困りごとや悩みごとは、全体では、「ある」と「どちらかといえばある」を合わせて、12.0%だった。

等価世帯収入別では、「ある」と「どちらかといえばある」を合わせた割合は「中央値の1/2未満」で14.1%、「中央値の1/2以上」で11.8%となった。

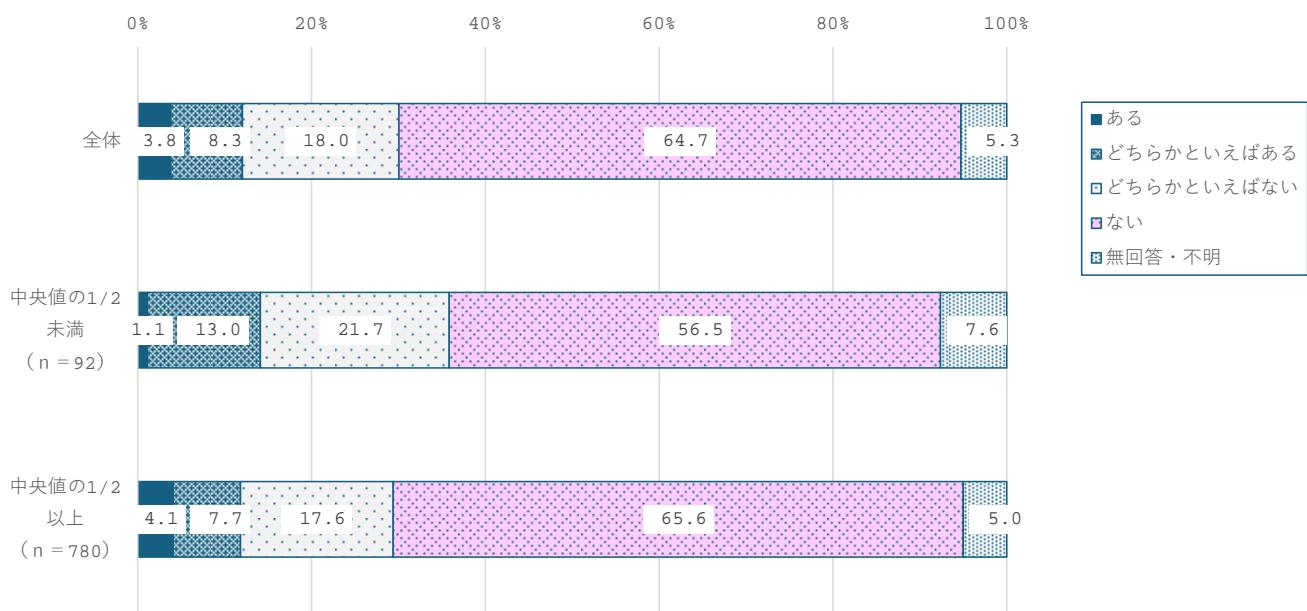
世帯の状況別では、「ある」と「どちらかといえばある」を合わせた割合は「ひとり親世帯」で13.4%、「ふたり親世帯」で12.0%と「ひとり親世帯」が若干多い結果となった。

【全体（学年別）】



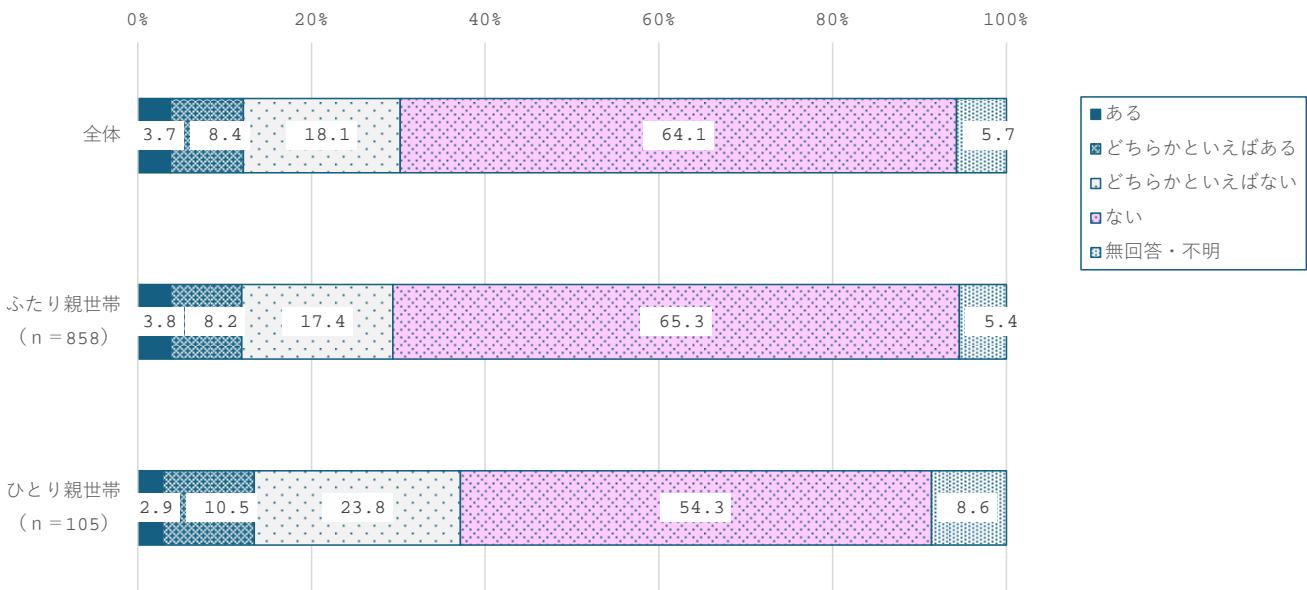
【等価世帯収入別】

家族についての悩み事 (n = 872)



【世帯の状況別】

家族についての悩み事 (n = 963)



5. 子どもの心理的な状況

「子供の心理的な状態」に関しては、内閣府の「令和3年 子供の生活状況調査の分析報告書」で行われた「強さと困難さアンケート (SDQ : Strengths and Difficulties Questionnaire)」の調査項目同様に、「情緒（不安や抑うつなど）」の問題、「仲間関係」の問題、「向社会性」を把握するための調査項目を設定し、調査を行っている。

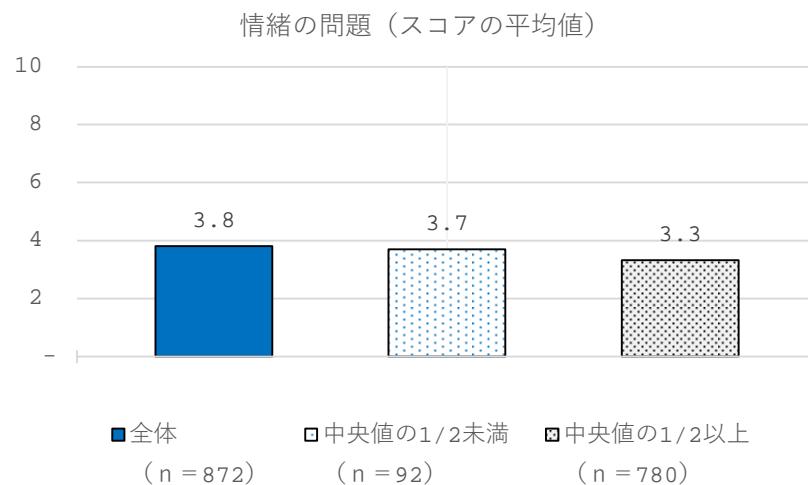
（1）情緒の問題

問14 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。（a～o それについて、あてはまるもの1つに○）

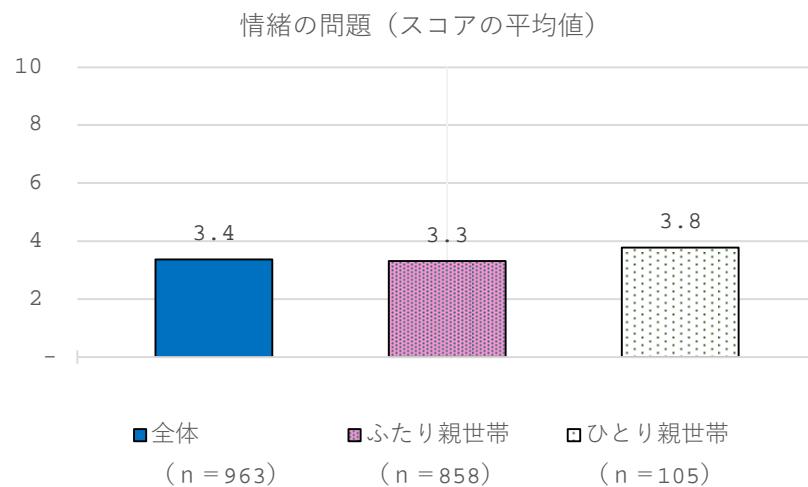
- b) 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。
- e) 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
- h) 私は、落ち込んでしづんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。
- j) 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
- o) 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

- 「情緒の問題」に関しては、5つの調査項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した。（「あてはまらない」を0点、「まああてはまる」を1点、「あてはまる」を2点とした計10点満点。得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。
- 等価世帯収入別でみると、「情緒の問題」の平均値は、全体で3.8、「中央値の1/2未満」では3.7、「中央値の1/2以上」では3.3となっている。
世帯の状況別にみると、全体では3.4、「ふたり親世帯」で3.3、「ひとり親世帯」で3.8となっている。

【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



（2）仲間関係の問題

問14 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。（a～o それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

- d) 私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。
- g) 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。
- i) 私は、同じぐらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている。
- l) 私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。
- n) 私は、他の子どもたちより、大人といふ方がうまくいく。

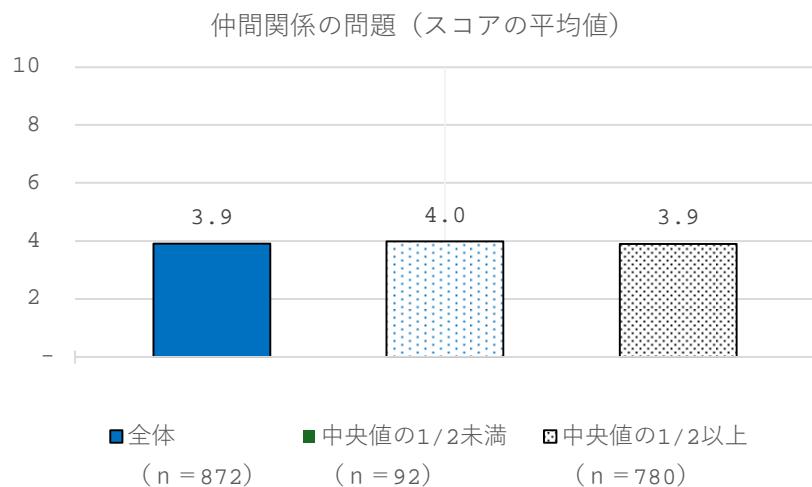
● 「仲間関係の問題」に関して、5つの調査項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した。（「あてはまらない」を0点、「まああてはまる」を1点、「あてはまる」を2点とした計10点満点。得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。

※「g. 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。」と「i. 私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている。」の項目は、逆転項目として点数を設定している。（「あてはまらない」を2点、「まああてはまる」を1点、「あてはまる」を0点としている。）

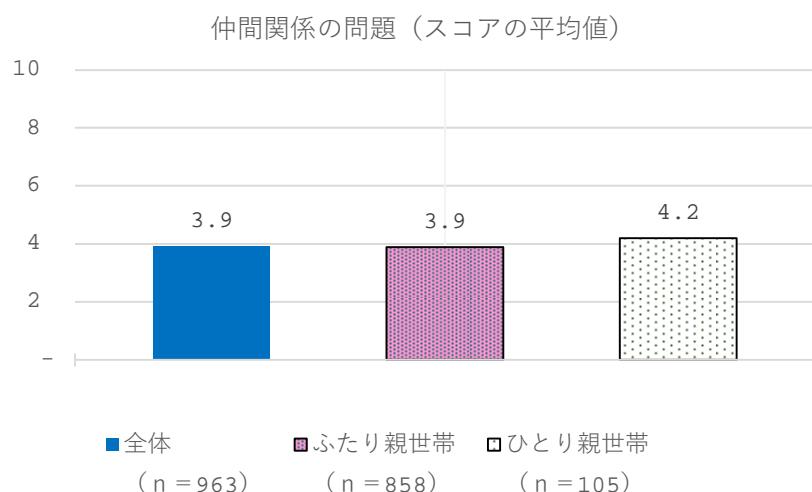
● 等価世帯収入別において、「仲間関係の問題」の平均値は、全体で3.9、「中央値の1/2未満」では4.0、「中央値の1/2以上」では3.9となっている。

世帯の状況別にみると、全体では3.9、「ふたり親世帯」で3.9、「ひとり親世帯」で4.2となっている。

【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



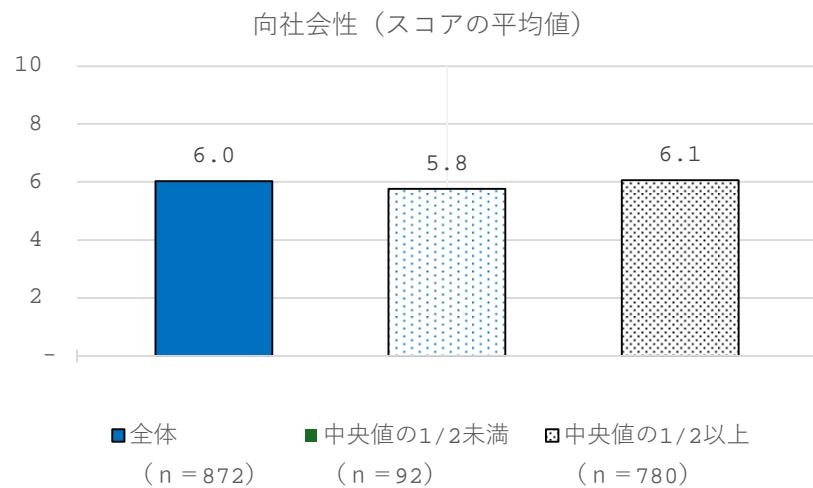
（3）向社会性

問14 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。（a～o それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

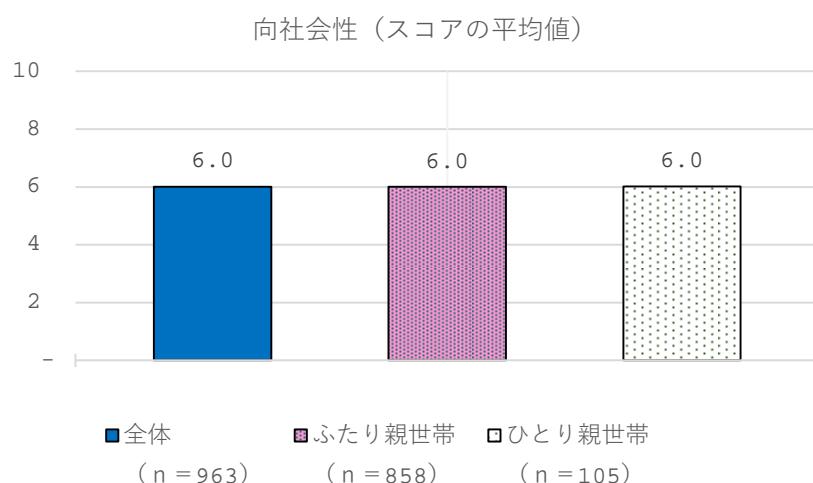
- a) 私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。
- c) 私は、他の子どもたちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）。
- f) 私は、誰かが心を痛めたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。
- k) 私は、年下の子どもに対してやさしくしている。
- m) 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・他の子どもたちなど）。

- 「向社会性」に関する調査項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した。（「あてはまらない」を0点、「まああてはまる」を1点、「あてはまる」を2点とした計10点満点。得点が高いほど、社会性が高いと考えられる）。
- 等価世帯収入別では、「向社会性」の平均値は、全体で6.0、「中央値の1/2未満」では5.8、「中央値の1/2以上」では6.1となっている。
世帯の状況別にみると、全体では6.0、「ふたり親世帯」で6.0、「ひとり親世帯」でも6.0となっている。

【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



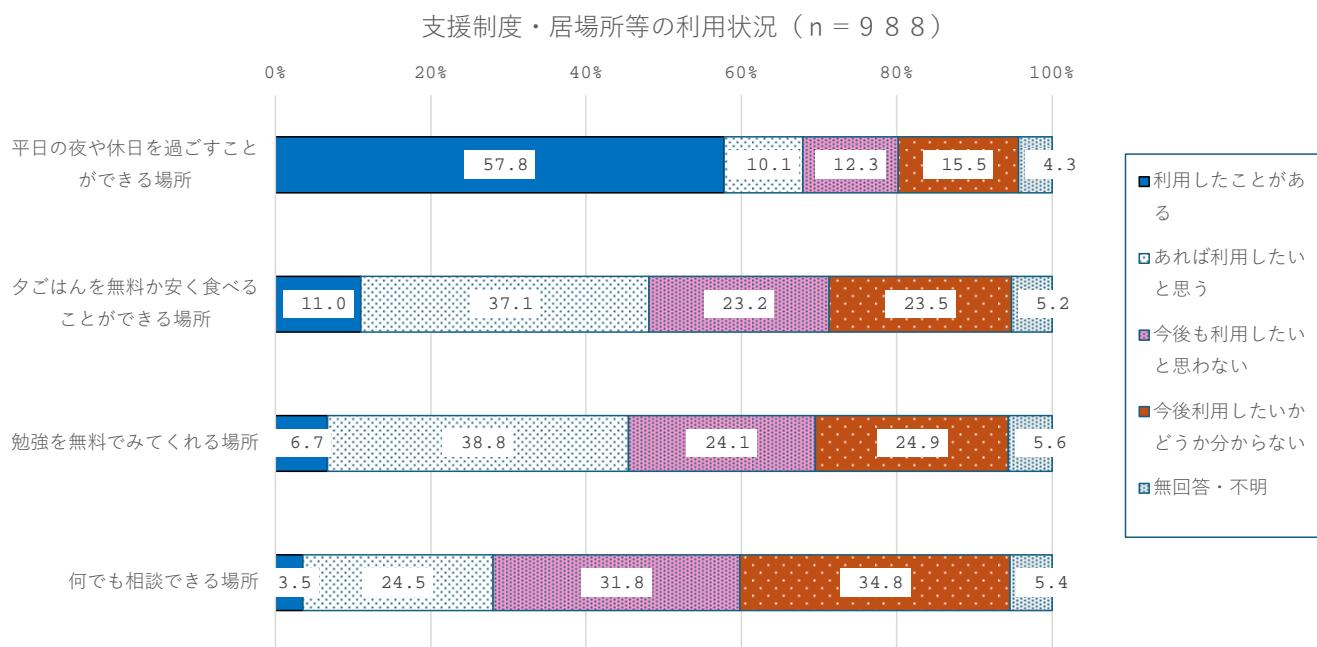
6. 支援制度の利用状況

(1) 子どもの支援制度・居場所の利用状況

問16 あなたは、次のa～dのような場所を利用したことがありますか。

また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

- 子どもの支援制度や居場所の利用状況について、「利用したことがある」の割合は「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」が57.8%、「夕ごはんを無料で安く食べることができる場所」が11.0%、「勉強を無料でみてくれる場所」が6.7%、「何でも相談できる場所」が3.5%だった。また、「あれば利用したいと思う」を加えると、25%以上（4人に1人が利用したい）という結果となった。



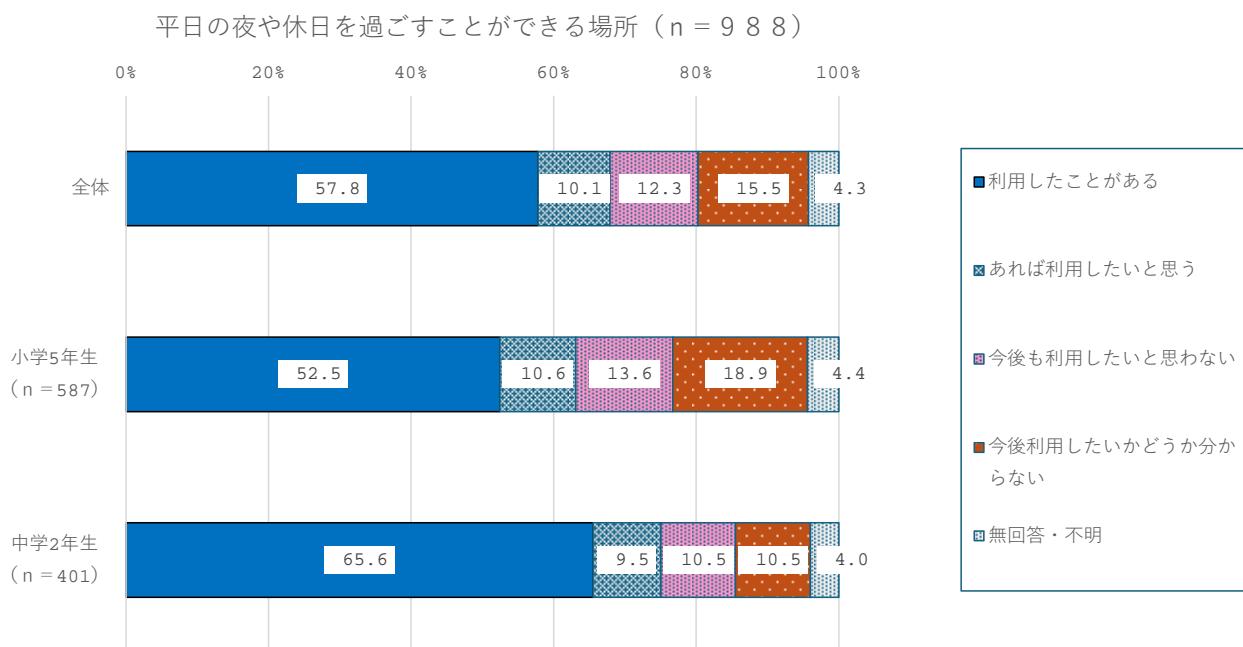
問16 あなたは、次のa～dのような場所を利用したことがありますか。

また、利用したことではない場合、今後利用したいと思いますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

- a) (自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所（塾・習い事、地域のスポーツクラブや文化クラブ、放課後児童クラブ（学童保育）や放課後等デイサービス、放課後子ども教室、児童館など）

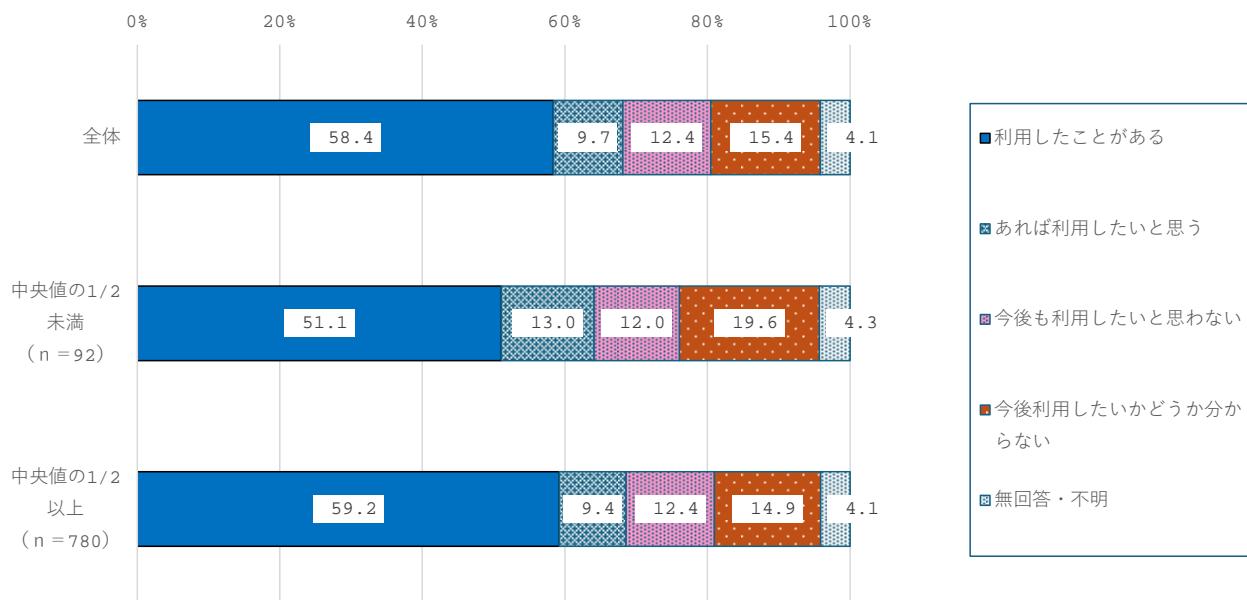
- 平日の夜や休日を過ごすことができる場所については、全体で「利用したことがある」が57.8%と半数以上が利用したことがあるという結果となった。
等価世帯収入別では、世帯収入が高い方が「利用したことがある」の割合が多い結果となった。
世帯の状況別では、「ふたり親世帯」が58.2%と、「ひとり親世帯」(54.3%)よりも多い割合となった。

【全体（学年別）】



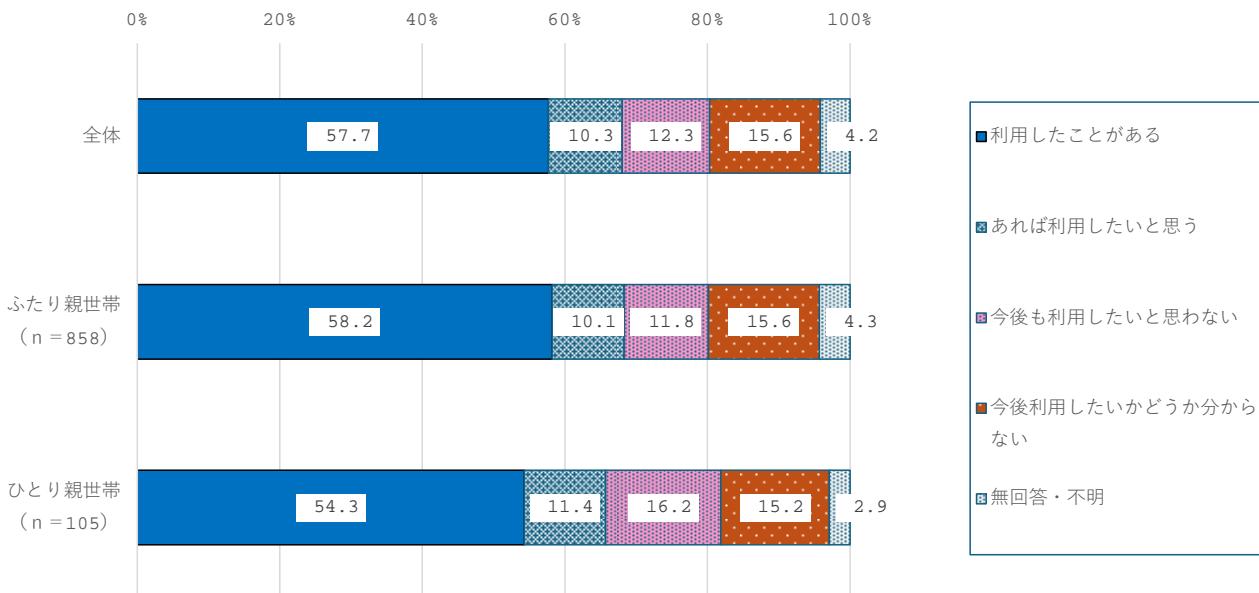
【等価世帯収入別】

平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (n = 872)



【世帯の状況別】

平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (n = 963)



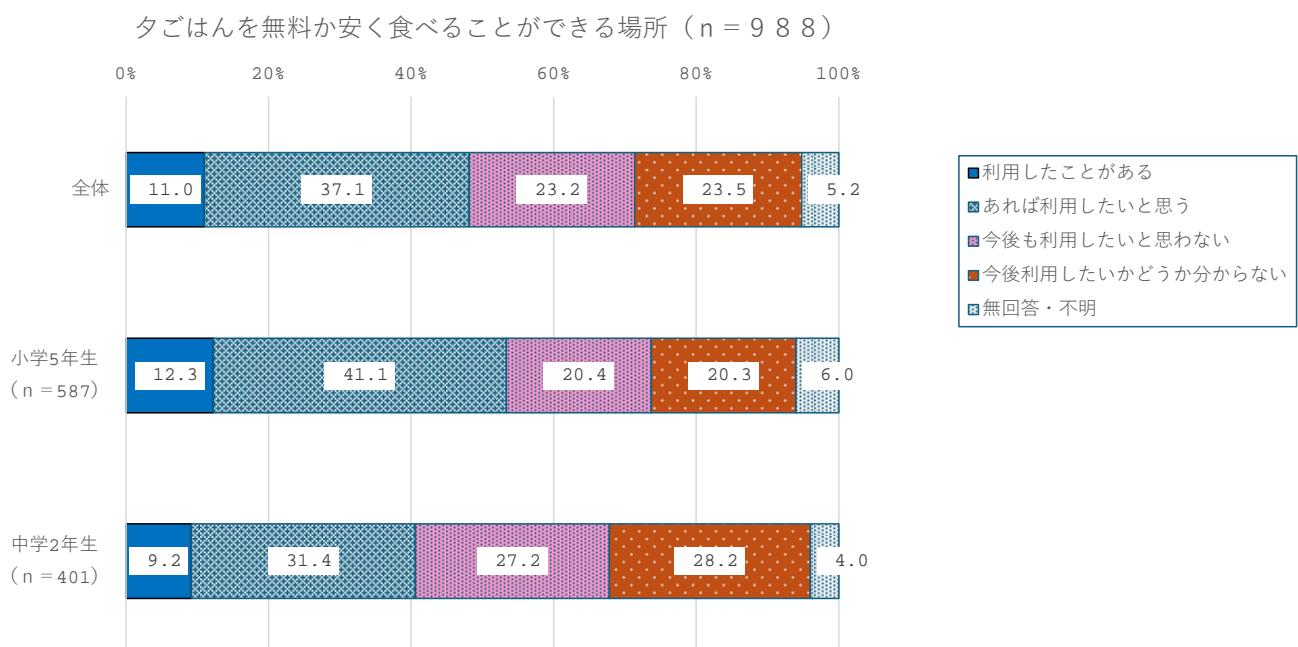
問16 あなたは、次のa～dのような場所を利用したことがありますか。

また、利用したことではない場合、今後利用したいと思いますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

b) (自分や友人の家以外で) タゴはんを無料か安く食べることができる場所（こども食堂など）

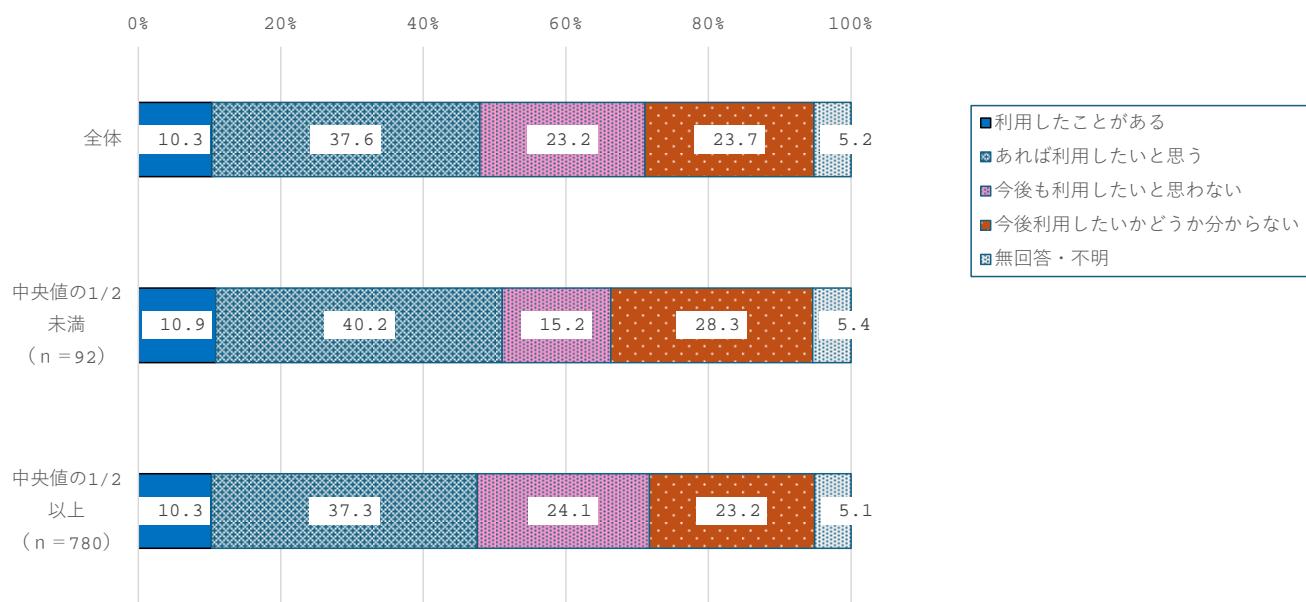
- タゴはんを無料か安く食べができる場所については、全体で「利用したことがある」が11.0%という結果となった。
等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」と「中央値の1/2以上」で「利用したことがある」はほぼ同じ割合だった。
世帯の状況別では、「ふたり親世帯」と「ひとり親世帯」で「利用したことがある」はほぼ同じ割合となった。

【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】

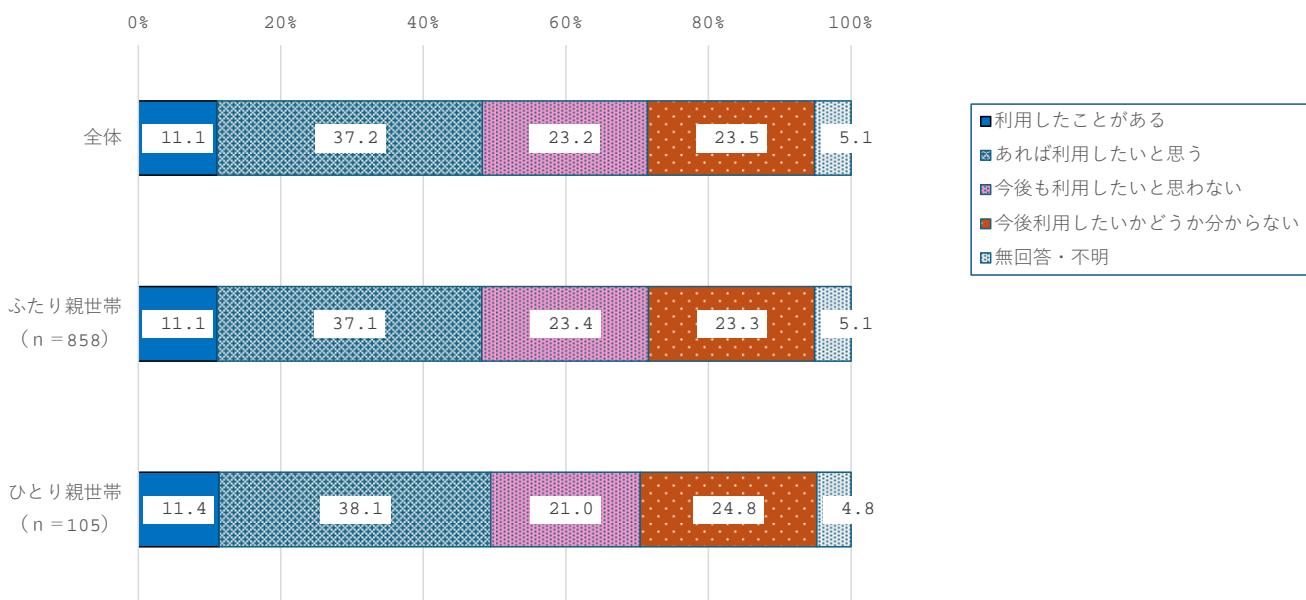
夕ごはんを無料か安く食べることができる場所 (n = 872)



- 利用したことがある
- ▢ あれば利用したいと思う
- ▨ 今後も利用したいと思わない
- ▣ 今後利用したいかどうか分からぬ
- ▢ 無回答・不明

【世帯の状況別】

夕ごはんを無料か安く食べることができる場所 (n = 963)



- 利用したことがある
- ▢ あれば利用したいと思う
- ▨ 今後も利用したいと思わない
- ▣ 今後利用したいかどうか分からぬ
- ▢ 無回答・不明

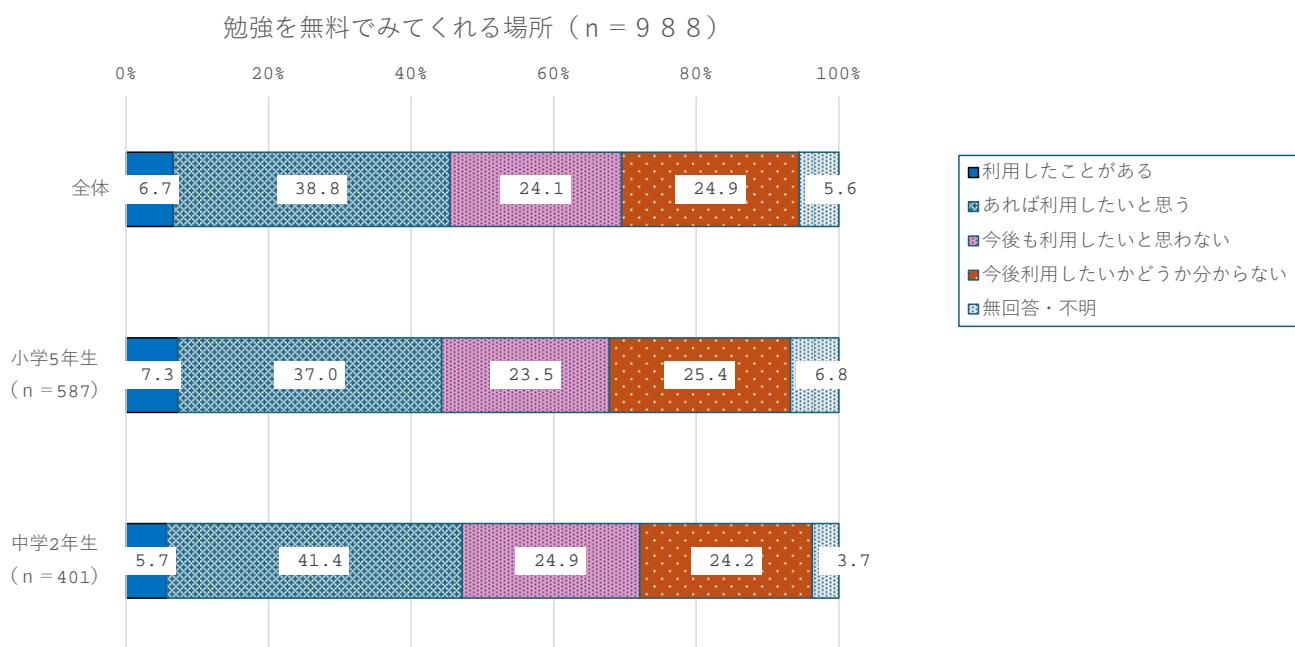
問16 あなたは、次のa～dのような場所を利用したことがありますか。

また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

c) 勉強を無料でみてくれる場所

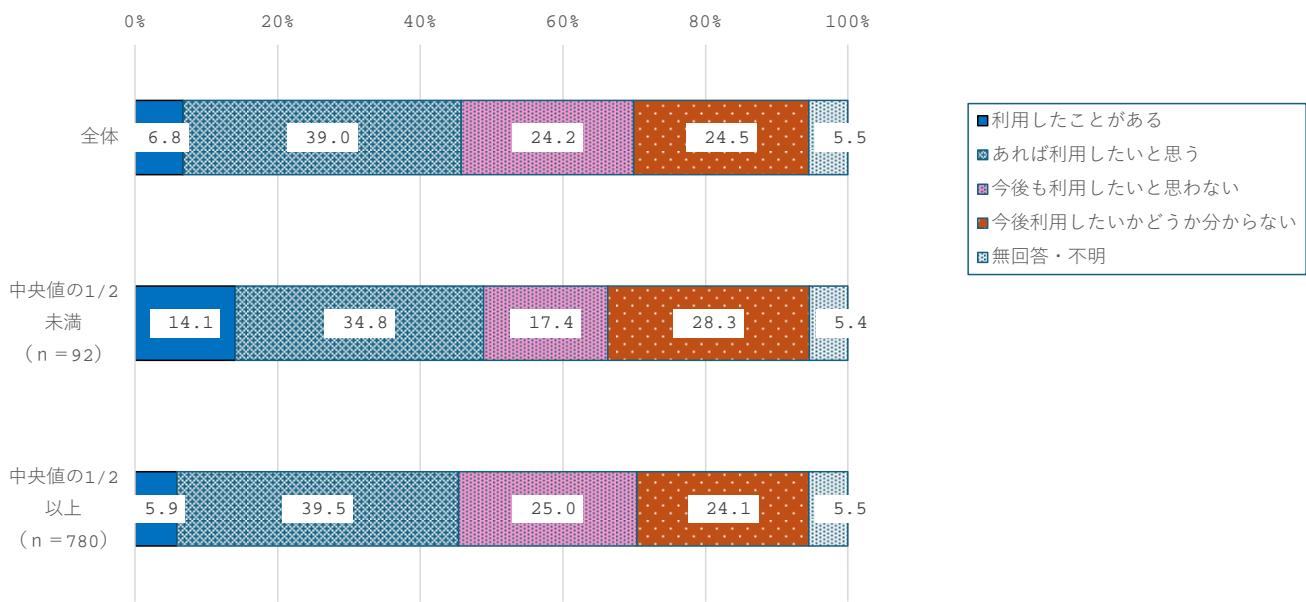
- 勉強を無料でみてくれる場所については、全体で「利用したことがある」は 6.7% となった。「あれば利用したいと思う」に関しては、38.8%と多い結果となった。

【全体（学年別）】



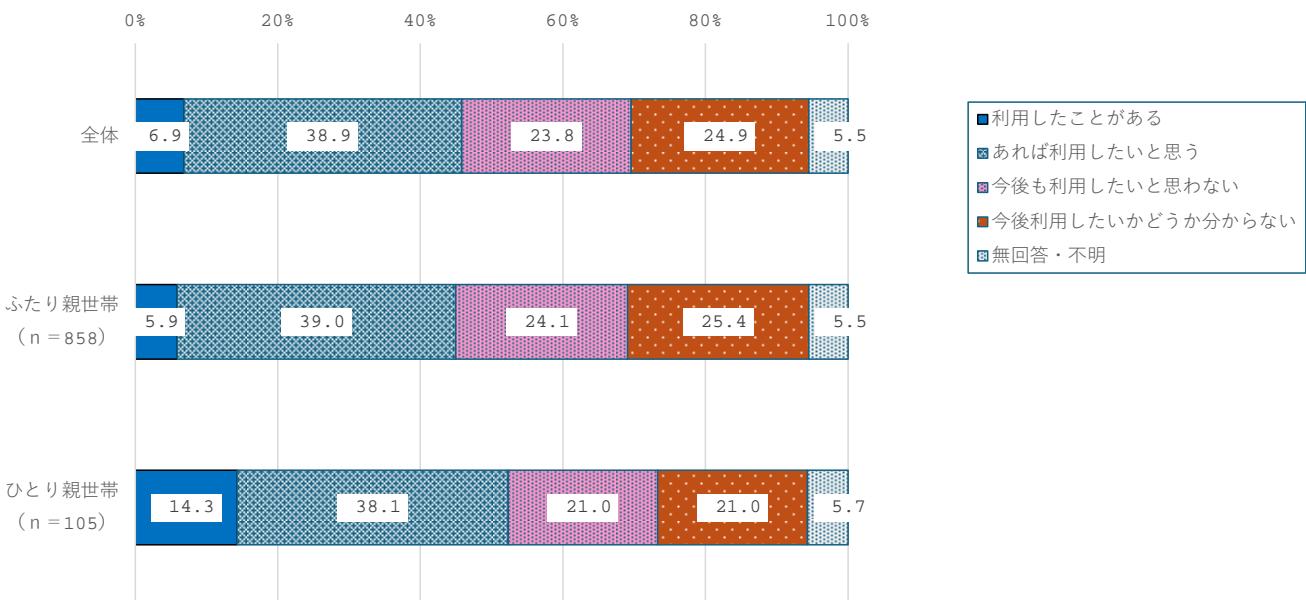
【等価世帯収入別】

勉強を無料でみてくれる場所 (n = 872)



【世帯の状況別】

勉強を無料でみてくれる場所 (n = 963)



問16 あなたは、次のa～dのような場所を利用したことがありますか。

また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

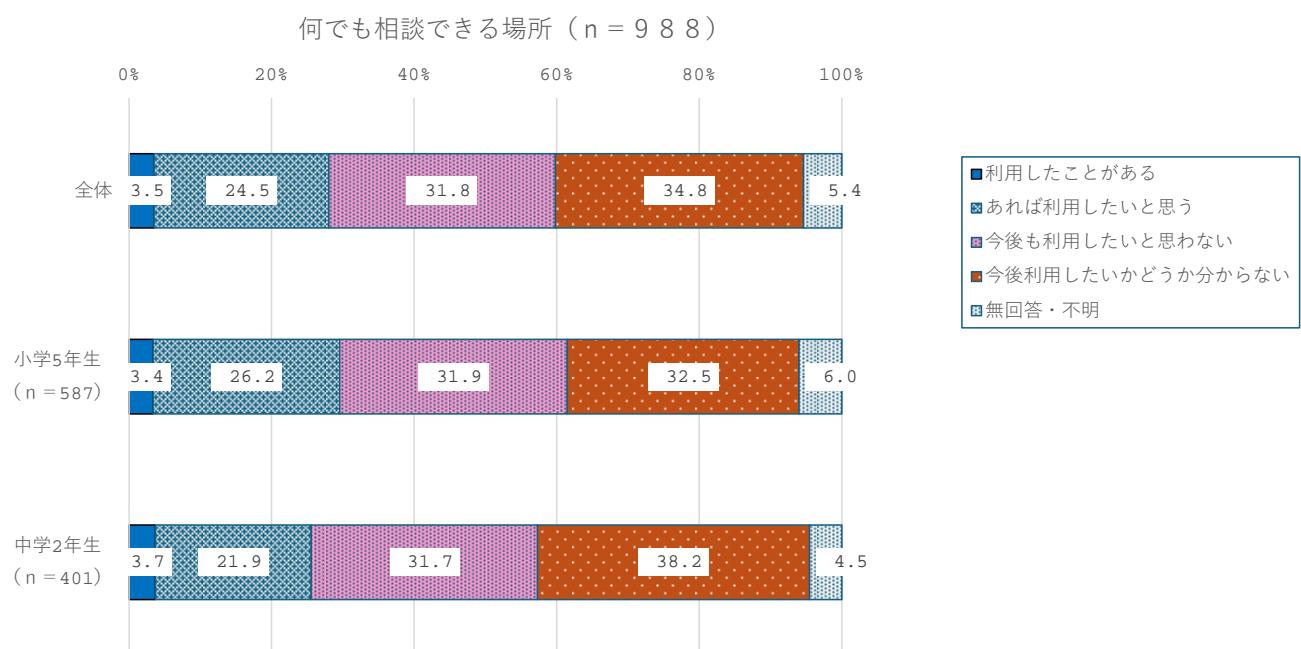
d) (家や学校以外で) なんでも相談できる場所（電話やネットの相談も含む）

● 何でも相談できる場所は、全体では、「利用したことがある」は3.5%で、「あれば利用したいと思う」が24.5%だった。

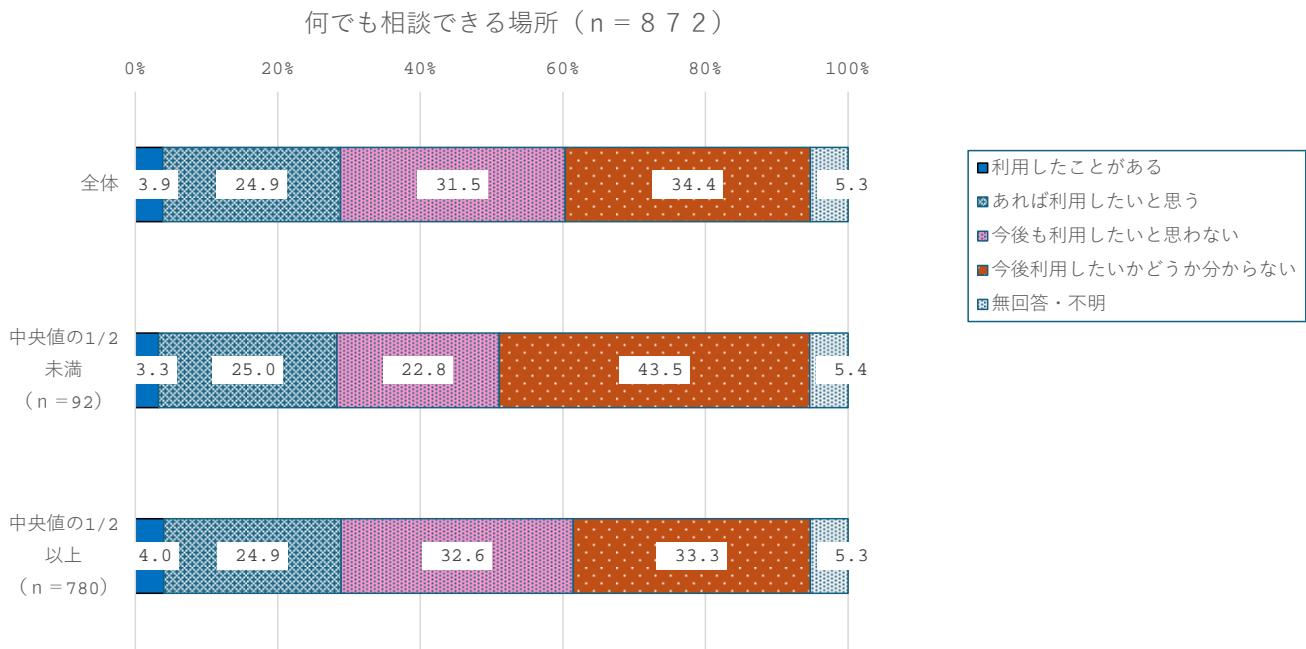
等価世帯収入別では、「利用したことがある」の割合は「中央値の1/2未満」で3.3%、「中央値の1/2以上」で4.0%だった。

世帯の状況別では、「ふたり親世帯」で3.3%、「ひとり親世帯」で6.7%となった。

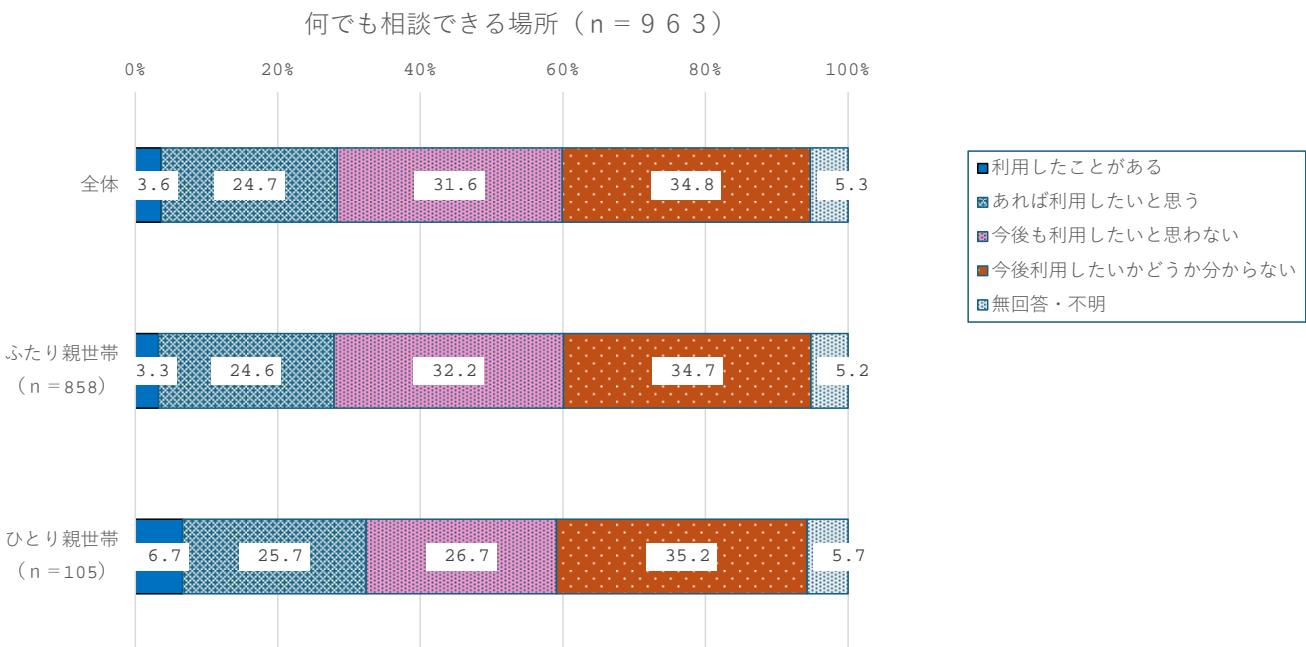
【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



（2）子どもの支援制度・居場所を利用したことによる変化

問17 前の質問で、1つでも「1 利用したことがある」を答えた方にお聞きします。そこで利用したことで、以下のような変化がありましたか。（1～8については、あてはまるものすべてに○）

- 支援制度や居場所を利用したことによる変化は、「友だちが増えた」が47.9%で最も多く、続いて「生活の中で楽しみなことが増えた」(35.5%)、「勉強する時間が増えた」(29.4%)、「気軽に話せる大人が増えた」(28.4%)、「勉強がわかるようになった」(24.3%)の順となっていた。

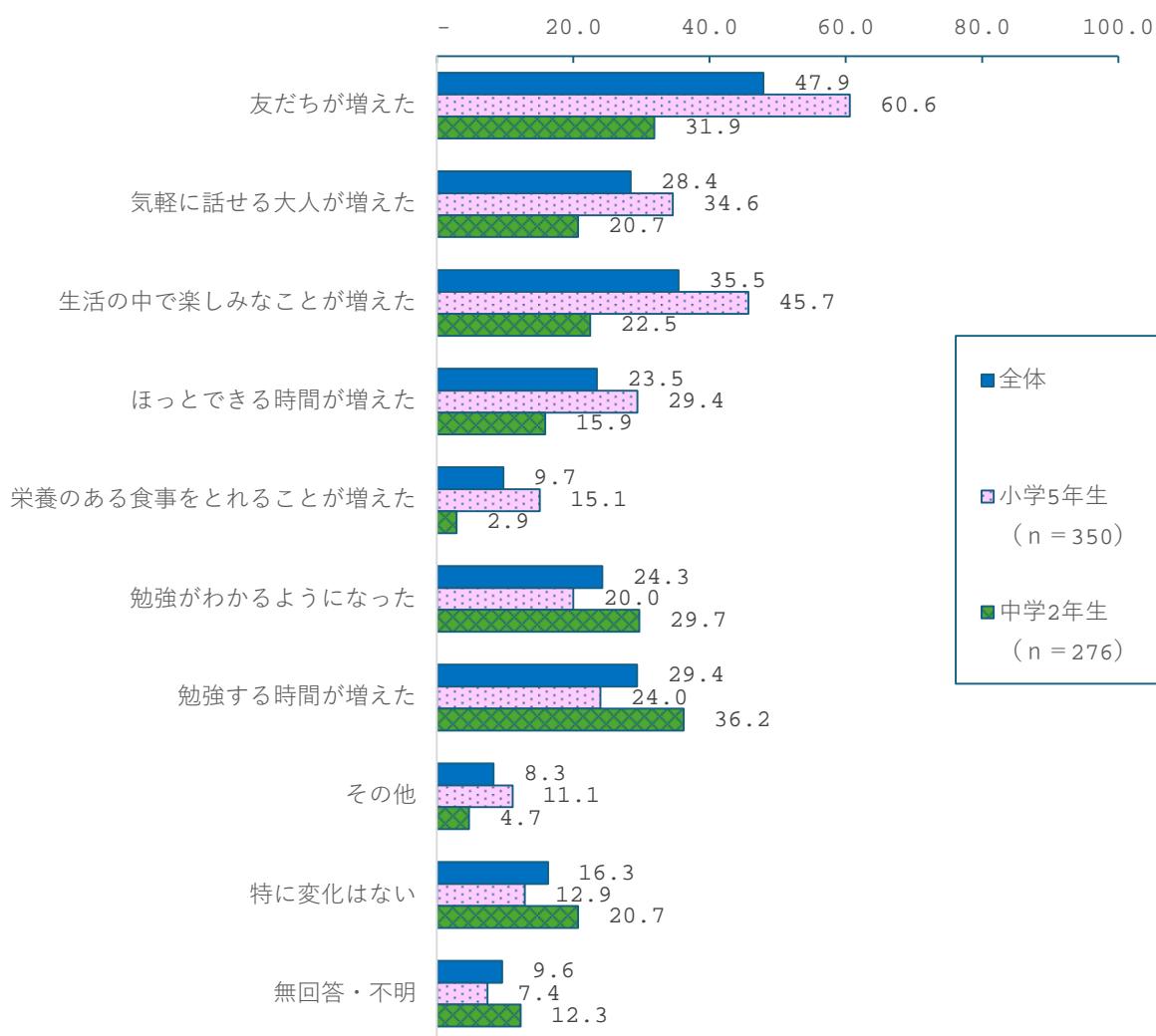
「勉強する時間が増えた」、「気軽に話せる大人が増えた」、「勉強がわかるようになった」の効果が見受けられることから、支援制度や居場所を活用することで、勉強時間の増加や勉強の理解を深める場の提供に繋げができる可能性があると考えられる。

等価世帯収入別では、「気軽に話せる大人が増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」、「勉強がわかるようになった」の項目で「中央値の1/2未満」の割合が「中央値の1/2以上」よりも多い結果となった。

世帯の状況別では、「友達が増えた」、「気軽に話せる大人が増えた」、「勉強がわかるようになった」、「勉強する時間が増えた」の項目で「ひとり親世帯」の割合が「ふたり親世帯」よりも多い結果となった。

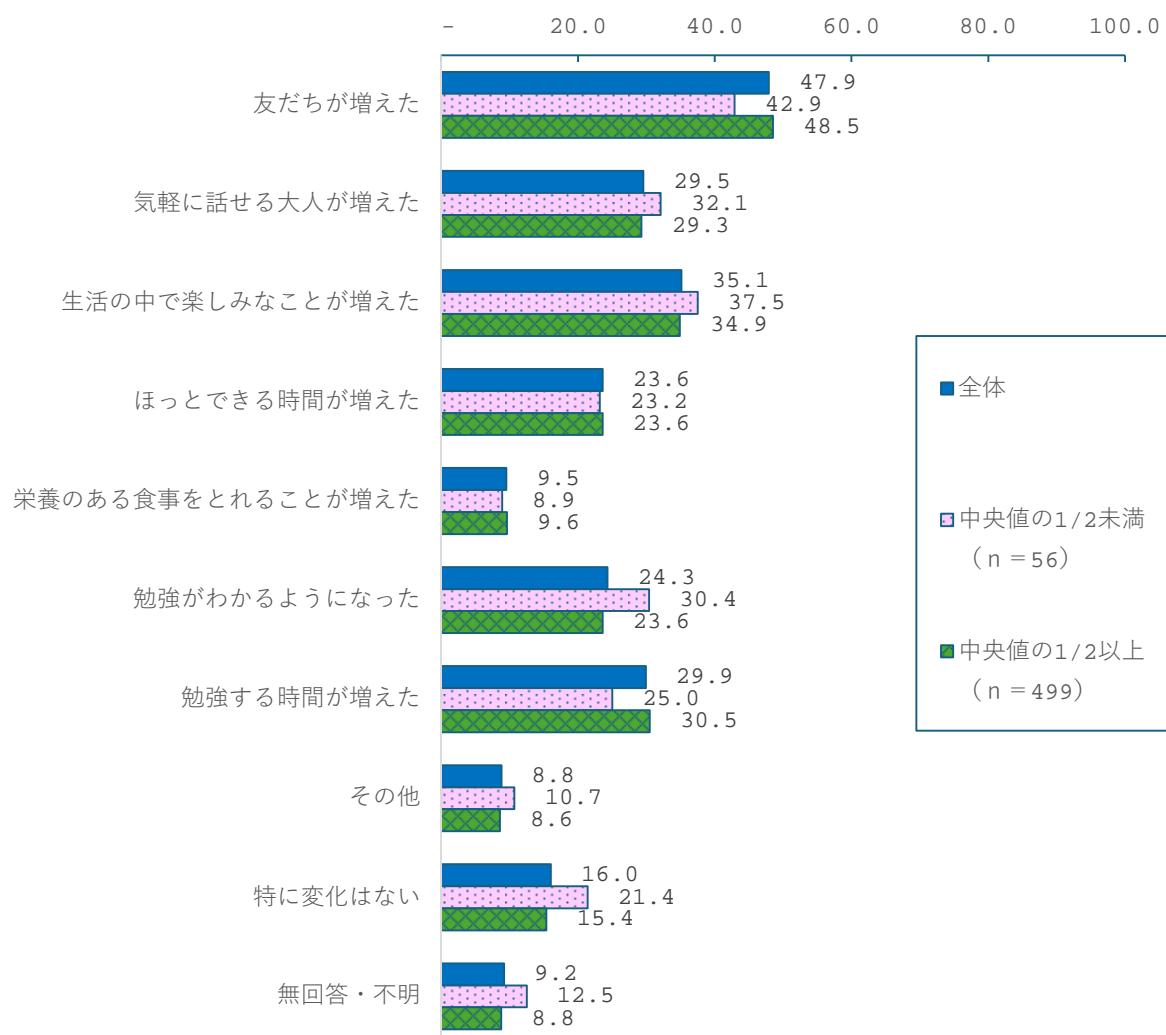
【全体（学年別）】

支援制度・居場所を利用しての変化（n = 626）



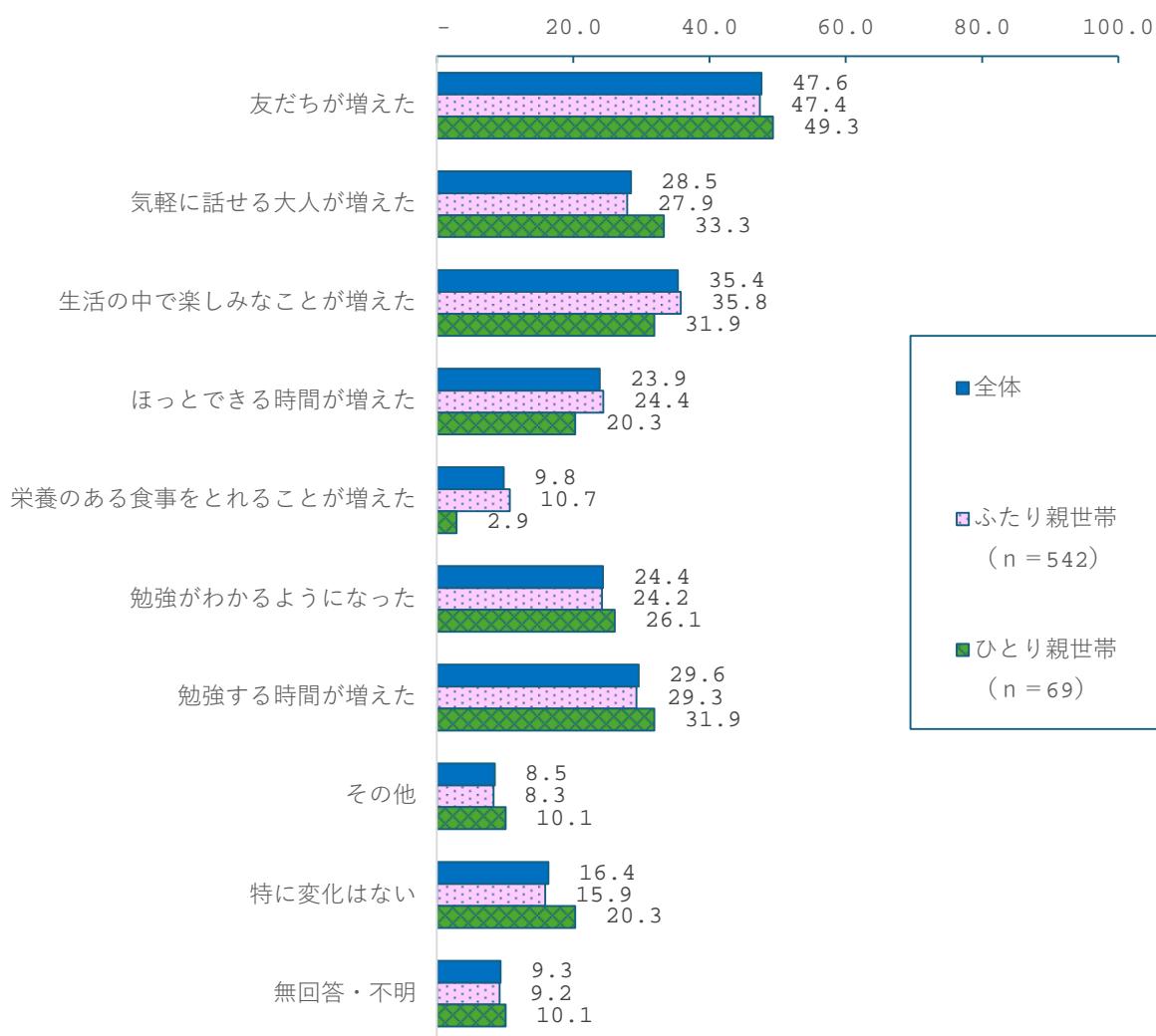
【等価世帯収入別】

支援制度・居場所を利用しての変化 (n = 555)



【世帯の状況別】

支援制度・居場所を利用しての変化（n = 611）



山口市子ども・子育てに関するアンケート調査結果報告書

令和6年3月

発 行 山口市

企画・編集 山口市こども未来課

〒753-8650 山口県山口市亀山町2番1号

TEL (083) 934-4138・(083) 934-2756

FAX (083) 934-4147
